

高浜日輪遺跡
後疋間元屋敷遺跡
上大類北田遺跡
富岡下蔵遺跡 2

— 学校施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2 0 1 6

高崎市教育委員会

序

高崎市では、これまで史跡公園として整備を進めてまいりました史跡「日高遺跡」が一部オープンとなり、本市の歴史を学ぶ場として、また、市民の憩いの場としていただけるようになりました。また、本年度は多胡碑、山上碑、金井沢碑からなる上野三碑の歴史的価値が認められて世界記憶遺産の国内候補となったことで注目を集めました。これらの史跡を端緒に、本市が持つ埋蔵文化財の価値が広く認知されることを期待します。

本書は、高崎市内学校関連施設の改修工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。上大類北田遺跡は高崎市域、高浜日輪遺跡は榛名地域、後疋間元屋敷遺跡は群馬地域、富岡下蔵遺跡は箕郷地域と市内各所での調査となりました。周辺環境や立地などが各遺跡で大きく異なり、各々の調査で地域の特色ある遺構・遺物を確認することができました。

最後に、これら遺跡の発掘調査ならびに報告書作成に多大なるご協力をいただいた地元の皆様、関係機関や各氏の方々に厚くお礼を申し上げます。本書が高崎市の多様な歴史を知る一助となれば幸いと存じます。

平成28年 3 月

高崎市教育委員会
教育長 飯野真幸

例言

- 本書は学校関連施設の整備事業等に伴い実施した「高浜日輪遺跡」「後疋間元屋敷遺跡」「上大類北田遺跡」「富岡下蔵遺跡2」の発掘調査報告書である。
- 各遺跡の遺跡番号、所在地、ならびに事業内容・事業主体者は以下のとおりである。

遺跡番号／遺跡名	所在地	事業内容	事業主体者
568 高浜日輪遺跡	群馬県高崎市高浜町日輪2321-1 (高崎市立久留馬小学校)	児童館建設	高崎市 (こども家庭課)
573 後疋間元屋敷遺跡	群馬県高崎市後疋間町184-1 (高崎市立国府小学校)	プール建設	高崎市 (教育総務課)
575 上大類北田遺跡	群馬県高崎市上大類町1372 (高崎市立東部小学校)	体育館建設	
576 富岡下蔵遺跡2	群馬県高崎市箕郷町富岡281 (高崎市立箕郷第三保育園)	園舎建設	高崎市 (保育課)

- 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。調査組織は以下のとおりである。

職名／年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
教育長	飯野 眞幸	飯野 眞幸	飯野 眞幸
教育部長	上原 正男	上原 正男	上原 正男
文化財保護課長	松本 伸	富加津 豊	若狭 徹
文化財保護課課長補佐 兼埋蔵文化財担当係長	田口 一郎	田口 一郎	
埋蔵文化財担当係長			角田 真也
庶務担当	神澤 久幸 山田いづみ	針井 修 加藤 志津代	針井 修 加藤 志津代
調査・整理担当			
高浜日輪遺跡	角田 真也・原田 直人 神戸 聖語	神戸 聖語	神戸 聖語
後疋間元屋敷遺跡	山本 ジェームズ	山本 ジェームズ	山本 ジェームズ
上大類北田遺跡	角田 真也・原田 直人 神戸 聖語	神戸 聖語	神戸 聖語
富岡下蔵遺跡2	清水 豊	飯塚 光生	飯塚 光生

- 発掘調査期間は以下のとおりである。

遺跡名	発掘調査期間	整理期間
高浜日輪遺跡	平成25年 7月22日 ～ 平成25年 8月29日	平成26年10月 1日 ～ 平成27年 3月25日
後疋間元屋敷遺跡	平成25年 9月12日 ～ 平成25年10月 4日	平成26年 4月 1日 ～ 平成27年 3月31日
上大類北田遺跡	平成25年10月 1日 ～ 平成25年11月27日	平成26年11月 4日 ～ 平成27年 3月25日
富岡下蔵遺跡2	平成25年10月 8日 ～ 平成25年12月20日	平成26年 4月 1日 ～ 平成27年 3月31日

- 本書の執筆は神戸聖語、飯塚光生、山本ジェームズが行い、編集は山本が行った。
- 遺構・遺物出土状況の写真撮影は各調査担当者が行った。
- 図版等の作成、遺物図版掲載用写真撮影は各担当者および担当者の指示の下、補助員が実施した。
- 発掘調査において、表土掘削および埋め戻し作業は(株)井ノ上が実施した。
- 高浜日輪遺跡、後疋間元屋敷遺跡、上大類北田遺跡については、遺構平断面図、遺物実測図・拓本・写真撮影等の作業は各調査担当者および担当者の指示の下、補助員が実施した。富岡下蔵遺跡2では、遺構平断面図、遺物実測図・トレース・観察表の作成および写真撮影を(株)測研に、遺跡の空中写真撮影は(株)シン技術コンサルにそれぞれ委託して実施した。
- 各調査の出土遺物や記録図面、写真類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 発掘調査にあたり、地元関係者および関係機関、所管部署にご協力をいただいた。
- 発掘調査および整理作業には多くの補助員にご尽力いただいた。記して感謝する。

凡例

1. 本書に使用した地図は、国土地理院発行1/50,000地形図（高崎、下室田、前橋、富岡）および1/10,000高崎市都市計画図である。
2. 本書中の座標値は平面直角座標第IX系国家座標（世界測地系）を原則としており、方位は同座標北（G.N.）である。
3. 本書中の図版縮尺は、各図に表示している。
4. 断面図に付した標高はT.P.を基準とした。
5. 土層・遺物の色調および土壌の注記は、農水省農林水産技術会事務局および（財）日本色彩研究所監修『新版標準土色帖（1990年版）』を使用した。
6. 遺構には次の略号を使用した。
SD＝溝状遺構 SE＝井戸跡 SI＝竪穴住居跡 SK＝土坑 SP＝ピット
7. テフラ等火山噴出物には次の略号を使用した。
浅間A軽石：As-A 1783（天明3）年 浅間B軽石：As-B 1108（嘉承3・天仁元）年
浅間C軽石：As-C 3世紀末～4世紀初頭
榛名F P : Hr-FP 6世紀中頃 榛名F A : Hr-FA 6世紀初頭
8. 遺構名称および遺構番号は、原則として調査時に付したものをを使用した。
9. 本書中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。
高浜日輪遺跡  焼土  施釉
富岡下蔵遺跡2  焼土  施釉  黄色系粘土
  漆  灰  硬化面
10. 遺物観察表中の数値は、以下のとおり表記した。
数値のみ：完存値 （ ）：欠損状態の残存値 【 】：復元による推定値
11. 遺物番号は、本書に掲載した遺物に対して遺跡ごとに連続した番号を付し、本文・遺物観察表・写真図版と一致させた。
12. 各種遺構内および包含層に図示している●印は、遺物の出土位置を示している（高浜日輪遺跡、上大類北田遺跡）。
13. 土器実測図内に図示した●印は、繊維を含むことを表している（高浜日輪遺跡）。
14. 土器底部の拓本は、鮮明に残存している箇所のみ掲載している（高浜日輪遺跡）。

目次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

高浜日輪遺跡

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2章 調査の方法	
第1節 試掘調査	1
第2節 本調査	1
第3節 日誌抄	2
第3章 遺跡の概要	
第1節 遺跡の位置と 周辺の歴史的環境	3
第2節 遺跡の概要	3
第3節 基本土層	4
第4章 発見された遺構と遺物	
第1節 縄文時代	7
第2節 古墳～平安時代	24

後疋間元屋敷遺跡

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	37
第2節 日誌抄	37
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	37
第2節 歴史的環境	37
第3節 基本土層	38
第3章 検出した遺構・遺物	
第1節 調査の方法および 調査成果の概要	41
第2節 A区の遺構・遺物	41

上大類北田遺跡

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	55
第2章 調査の方法	
第1節 試掘調査	55
第2節 本調査	55
第3節 日誌抄	56

第3章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と 周辺の歴史的環境	57
第2節 遺跡の概要	57
第3節 基本土層	57
第4章 古代の遺構と遺物	
第1節 水田跡	63
第2節 遺物包含区	65
第5章 近世以降の遺構と遺物	
第1節 畠状の遺構	71
第2節 1号溝	72

富岡下蔵遺跡2

第1章 調査と遺跡の概要	
第1節 調査に至る経緯	77
第2節 調査の方法	77
第2章 遺跡の立地と環境	
第1節 遺跡の立地と環境	77
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	78
第3節 基本土層	81
第4節 遺跡の概要	81
第3章 検出した遺構・遺物	
第1節 検出した遺構・遺物	89
第4章 成果と問題点	
第1節 縄文時代	164
第2節 弥生時代	164
第3節 古墳時代	164
第4節 古代	164
第5節 中世	164
第6節 本遺跡における鍛冶遺構について	164

挿 図 目 次

高浜日輪遺跡

第1図	基本土層図	4
第2図	高浜日輪遺跡周辺遺跡分布図	5
第3図	高浜日輪遺跡全体図	6
第4図	縄文時代1号住居跡	7
第5図	縄文時代1号住居跡出土遺物(1)	8
第6図	縄文時代1号住居跡出土遺物(2)	9
第7図	縄文時代1号住居跡出土遺物(3)	10
第8図	縄文時代1号土坑	13
第9図	縄文時代2号土坑	13
第10図	縄文時代3号土坑	13
第11図	縄文時代3号土坑出土遺物	13
第12図	縄文時代4号土坑	14
第13図	縄文時代4号土坑出土遺物(1)	14
第14図	縄文時代4号土坑出土遺物(2)	15
第15図	縄文時代4号土坑出土遺物(3)	16
第16図	縄文時代5号土坑	16
第17図	縄文時代5号土坑出土遺物	16
第18図	縄文時代遺構外出土遺物(1)	18
第19図	縄文時代遺構外出土遺物(2)	19
第20図	縄文時代遺構外出土遺物(3)	20
第21図	1号住居跡(1)	24
第22図	1号住居跡(2)	25
第23図	1号住居跡出土遺物	25
第24図	2号住居跡	26
第25図	2号住居跡出土遺物(1)	26
第26図	2号住居跡出土遺物(2)	27
第27図	3号住居跡	28
第28図	3号住居跡出土遺物(1)	28
第29図	3号住居跡出土遺物(2)	29
第30図	4号住居跡(1)	29
第31図	4号住居跡(2)	30
第32図	4号住居跡出土遺物(1)	30
第33図	4号住居跡出土遺物(2)	31
第34図	5号住居跡	31
第35図	5号住居跡出土遺物	31
第36図	古墳～平安時代遺構外出土遺物	31

後疋間元屋敷遺跡

第1図	周辺遺跡位置図	38
第2図	後疋間遺跡・後疋間元屋敷遺跡位置図	38
第3図	基本土層柱状図	39
第4図	後疋間元屋敷遺跡調査区全体図	39
第5図	A区全体図	40
第6図	1号住居跡平面図・断面図	42
第7図	1号住居跡出土遺物図	43
第8図	2号住居跡平面図・断面図(1)	44
第9図	2号住居跡平面図・断面図(2)	45
第10図	2号住居跡出土遺物図(1)	45
第11図	2号住居跡出土遺物図(2)	46
第12図	3号住居跡平面図・断面図	47

第13図	3号住居跡出土遺物図	48
第14図	4号住居跡出土遺物図	48
第15図	4号住居跡平面図・断面図	49
第16図	土坑・ピット平面図・断面図	50
第17図	遺構外出土遺物図	51

上大類北田遺跡

第1図	基本土層図	57
第2図	上大類北田遺跡周辺遺跡分布図	58
第3図	上大類北田遺跡全体図	59
第4図	水田面全体図	61
第5図	水田面畦・及び水口	64
第6図	水田面足跡	64
第7図	水路状遺構	65
第8図	遺物包含区検出状況図	65
第9図	遺物包含区出土遺物(1)	66
第10図	遺物包含区出土遺物(2)	67
第11図	畠面	71
第12図	1号溝(遺構確認平面図・断面図)	72
第13図	1号溝出土遺物	72

富岡下蔵遺跡2

第1図	富岡下蔵遺跡2位置図	77
第2図	周辺遺跡図	79
第3図	基本土層図	81
第4図	富岡下蔵遺跡2 割り図Ⅰ	82
第5図	富岡下蔵遺跡2 割り図Ⅱ	83
第6図	富岡下蔵遺跡2 割り図Ⅲ	84
第7図	富岡下蔵遺跡2 割り図Ⅳ	85
第8図	富岡下蔵遺跡2 全体図	87
第9図	1号竪穴住居跡 平面図・断面図	89
第10図	2号竪穴住居跡 平面図・断面図	89
第11図	3号竪穴住居跡 平面図・断面図	90
第12図	3号竪穴住居跡掘り方 平面図	90
第13図	3号竪穴住居跡貯蔵穴・ピット 平面図・断面図	90
第14図	3号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図	91
第15図	3号竪穴住居跡 出土遺物図(1)	91
第16図	3号竪穴住居跡 出土遺物図(2)	92
第17図	3号竪穴住居跡 出土遺物図(3)	93
第18図	4号竪穴住居跡 平面図・断面図	95
第19図	4号竪穴住居跡掘り方 平面図・断面図	95
第20図	4号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図	96
第21図	4号竪穴住居跡ピット 平面図・断面図	96
第22図	4号竪穴住居跡 出土遺物図(1)	97
第23図	4号竪穴住居跡 出土遺物図(2)	98
第24図	5号竪穴住居跡 平面図・断面図	99
第25図	5号竪穴住居跡掘り方 平面図・断面図	100
第26図	5号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図	100
第27図	5号竪穴住居跡貯蔵穴・ピット 平面図・断面図	100

第28図	5号竪穴住居跡	出土遺物図	101
第29図	6号竪穴住居跡	平面図・断面図	102
第30図	6号竪穴住居跡掘り方	平面図	103
第31図	6号竪穴住居跡ピット	平面図・断面図	103
第32図	6号竪穴住居跡	出土遺物図(1)	103
第33図	6号竪穴住居跡	出土遺物図(2)	104
第34図	7号竪穴住居跡	平面図・断面図	105
第35図	7号竪穴住居跡掘り方	平面図・断面図	105
第36図	7号竪穴住居跡カマド	平面図・断面図	106
第37図	7号竪穴住居跡	出土遺物図(1)	106
第38図	7号竪穴住居跡	出土遺物図(2)	107
第39図	8号竪穴住居跡	平面図・断面図	108
第40図	8号竪穴住居跡	炭化物出土状況	108
第41図	8号竪穴住居跡	出土遺物図	108
第42図	8号竪穴住居跡カマド	平面図・断面図	108
第43図	9号竪穴住居跡	平面図・断面図	109
第44図	9号竪穴住居跡カマド	平面図・断面図	110
第45図	9号竪穴住居跡	出土遺物図	110
第46図	10号竪穴住居跡	平面図・断面図	111
第47図	10号竪穴住居跡	出土遺物図	112
第48図	11号竪穴住居跡	平面図・断面図	112
第49図	11号竪穴住居跡掘り方	平面図・断面図	113
第50図	11号竪穴住居跡カマド	平面図・断面図	113
第51図	11号竪穴住居跡カマド	遺物出土状況図	114
第52図	11号竪穴住居跡	出土遺物図(1)	114
第53図	11号竪穴住居跡	出土遺物図(2)	115
第54図	12号竪穴住居跡	平面図・断面図	116
第55図	12号竪穴住居跡	遺物出土状況図	117
第56図	12号竪穴住居跡貯蔵穴・ピット・床下土坑	平面図・断面図	117
第57図	12号竪穴住居跡鍛冶遺構	平面図・断面図	118
第58図	12号竪穴住居跡	出土遺物図(1)	118
第59図	12号竪穴住居跡	出土遺物図(2)	119
第60図	12号竪穴住居跡	出土遺物図(3)	120
第61図	13号竪穴住居跡	平面図・断面図	121
第62図	13号竪穴住居跡	遺物出土状況図	122
第63図	13号竪穴住居跡貯蔵穴・ピット	平面図・断面図	122
第64図	13号竪穴住居跡	出土遺物図(1)	122
第65図	13号竪穴住居跡	出土遺物図(2)	123
第66図	14号竪穴住居跡	平面図・断面図	124
第67図	14号竪穴住居跡ピット	平面図・断面図	124
第68図	14号竪穴住居跡	出土遺物図	124
第69図	15号竪穴住居跡	平面図・断面図	125
第70図	15号竪穴住居跡掘り方	平面図・断面図	125
第71図	15号竪穴住居跡貯蔵穴	平面図・断面図	125
第72図	15号竪穴住居跡1面	平面図	126
第73図	15号竪穴住居跡2面	平面図・断面図	126
第74図	15号竪穴住居跡3面	平面図	126
第75図	15号竪穴住居跡4面	平面図	126

第76図	15号竪穴住居跡	出土遺物図(1)	126
第77図	15号竪穴住居跡	出土遺物図(2)	127
第78図	16号竪穴住居跡	平面図・断面図	128
第79図	16号竪穴住居跡	平面図	128
第80図	16号竪穴住居跡カマド	平面図・断面図	128
第81図	16号竪穴住居	出土遺物図	128
第82図	17号竪穴住居跡	平面図・断面図	129
第83図	17号竪穴住居跡炉	平面図・断面図	129
第84図	17号竪穴住居跡埋甕	平面図・断面図	129
第85図	17号竪穴住居跡	出土遺物図	130
第86図	18号竪穴住居跡	平面図・断面図	131
第87図	18号竪穴住居跡	出土遺物図	132
第88図	19号竪穴住居跡	平面図・断面図	132
第89図	19号竪穴住居跡ピット	平面図・断面図	132
第90図	1～6号土坑跡	平面図・断面図	134
第91図	7・9～14号土坑跡	平面図・断面図	135
第92図	17～23・25・32号土坑跡	平面図・断面図	136
第93図	26～31・34～36号土坑跡	平面図・断面図	137
第94図	3・4・13・20号土坑跡	出土遺物図	138
第95図	1～6・8・10・11号ピット	平面図・断面図	143
第96図	12～19・22～31号ピット	平面図・断面図	144
第97図	32～47・108・109号ピット	平面図・断面図	145
第98図	48～64・66～70・73～80号ピット	平面図・断面図	146
第99図	81～103号ピット	平面図・断面図	147
第100図	104～107・110～123・125～129・131～133号ピット	平面図・断面図	148
第101図	134～160号ピット	平面図・断面図	149
第102図	161～181号ピット	平面図・断面図	150
第103図	182～200・202・203～208号ピット	平面図・断面図	151
第104図	209～235号ピット	平面図・断面図	152
第105図	236～248号ピット	平面図・断面図	153
第106図	157・189号ピット	出土遺物図	153
第107図	2号井戸	平面図・断面図	154
第108図	2号井戸	出土遺物図	155
第109図	1号溝跡	出土遺物図(1)	157
第110図	1号溝跡	出土遺物図(2)	158
第111図	2号溝跡	出土遺物図	158
第112図	1～3号溝跡	平面図・断面図	160
第113図	1・2号溝跡	平面図・断面図	161
第114図	A-1グリッド	出土遺物図	163
第115図	B-2グリッド	出土遺物図	163
第116図	遺構外	出土遺物図	163
第117図	鍛冶炉	平面図	165
第118図	鍛冶炉	出土遺物図	165

目 次

高浜日輪遺跡

第1表	高浜日輪遺跡周辺遺跡一覧表	5
第2表	縄文時代1号住居跡出土遺物観察表(1)	11
第3表	縄文時代1号住居跡出土遺物観察表(2)	12
第4表	縄文時代3号土坑出土遺物観察表	17
第5表	縄文時代4号土坑出土遺物観察表(1)	17
第6表	縄文時代4号土坑出土遺物観察表(2)	18
第7表	縄文時代5号土坑出土遺物観察表	18
第8表	縄文時代遺構外出土遺物観察表(1)	21
第9表	縄文時代遺構外出土遺物観察表(2)	22
第10表	縄文時代遺構外出土遺物観察表(3)	23
第11表	1号住居跡出土遺物観察表	32
第12表	2号住居跡出土遺物観察表	32
第13表	3号住居跡出土遺物観察表	33
第14表	4号住居跡出土遺物観察表(1)	33
第15表	4号住居跡出土遺物観察表(2)	34
第16表	5号住居跡出土遺物観察表	34
第17表	古墳～平安時代遺構外出土遺物観察表	34

後疋間元屋敷遺跡

第1表	1号住居跡出土遺物観察表	44
第2表	2号住居跡出土遺物観察表	46
第3表	3号住居跡出土遺物観察表	48
第4表	4号住居跡出土遺物観察表	50
第5表	遺構外出土遺物観察表	52

上大類北田遺跡

第1表	上大類北田遺跡周辺遺跡一覧表	58
第2表	遺物包含区出土遺物観察表(1)	68
第3表	遺物包含区出土遺物観察表(2)	69
第4表	遺物包含区出土遺物観察表(3)	70
第5表	1号溝出土遺物観察表	73

富岡下蔵遺跡2

第1表	周辺遺跡一覧表	80
第2表	3号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)	93
第3表	3号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)	94
第4表	4号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)	98
第5表	4号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)	99
第6表	5号竪穴住居跡 出土遺物観察表	101

第7表	6号竪穴住居跡 出土遺物観察表	104
第8表	7号竪穴住居跡 出土遺物観察表	107
第9表	8号竪穴住居跡 出土遺物観察表	109
第10表	9号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)	110
第11表	9号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)	111
第12表	10号竪穴住居跡 出土遺物観察表	112
第13表	11号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)	115
第14表	11号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)	116
第15表	12号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)	120
第16表	12号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)	121
第17表	13号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)	123
第18表	13号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)	124
第19表	14号竪穴住居跡 出土遺物観察表	124
第20表	15号竪穴住居跡 出土遺物観察表	127
第21表	16号竪穴住居跡 出土遺物観察表	128
第22表	17号竪穴住居跡 出土遺物観察表	131
第23表	18号竪穴住居跡 出土遺物観察表	132
第24表	土坑跡計測一覧表(1)	133
第25表	土坑跡計測一覧表(2)	134
第26表	3号土坑跡 出土遺物観察表	138
第27表	4号土坑跡 出土遺物観察表	138
第28表	13号土坑跡 出土遺物観察表	138
第29表	20号土坑跡 出土遺物観察表	138
第30表	ピット跡計測一覧表(1)	139
第31表	ピット跡計測一覧表(2)	140
第32表	ピット跡計測一覧表(3)	141
第33表	ピット跡計測一覧表(4)	142
第34表	ピット跡計測一覧表(5)	143
第35表	157号ピット跡 出土遺物観察表	153
第36表	189号ピット跡 出土遺物観察表	153
第37表	2号井戸跡 出土遺物観察表(1)	155
第38表	2号井戸跡 出土遺物観察表(2)	156
第39表	1号溝跡 出土遺物観察表(1)	158
第40表	1号溝跡 出土遺物観察表(2)	159
第41表	2号溝跡 出土遺物観察表	159
第42表	A-1グリッド 出土遺物観察表	163
第43表	B-2グリッド 出土遺物観察表	163
第44表	遺構外 出土遺物観察表	163
第45表	富岡下蔵遺跡2 鉄製品・鉄滓 出土一覧表	166

写 真 図 版 目 次

高浜日輪遺跡	PL. 1～12
後疋間元屋敷遺跡	PL. 13～16

上大類北田遺跡	PL. 17～23
富岡下蔵遺跡2	PL. 24～39

たかはまにつば

高浜日輪遺跡

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

平成25年3月、高崎市福祉部こども家庭課から、高崎市教育委員会教育部文化財保護課に高崎市立久留馬小学校校庭の南西隅部に児童館建設事業が計画され、事業予定地に埋蔵文化財についての問い合わせがあった。文化財保護課では、事業予定地周辺部は広範囲にわたり、周知の埋蔵文化財包蔵地となっている旨を伝え、試掘調査の必要性を伝えた。これによりこども家庭課から依頼を受けた文化財保護課は、試掘調査を実施した。その結果、建設予定地の東部分は旧建物跡地で大きく破壊を受けていたが中央部から西部にかけては残存状況がよく、縄文土器・土師器・須恵器片が数多く検出されるとともに、遺構の存在も確認された。このため再度こども家庭課と文化財保護課で保存にむけての協議を行ったが、事業計画の変更は困難であるとのことから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

第2章 調査の方法

第1節 試掘調査

平成25年3月28日、対象地450㎡の中に東西方向3本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。調査により、対象地の東部と西北部に旧建造物の基礎や排水施設のために大きく攪乱を受けている場所が多かったが、中央部から南西部にかけては残存状況が良好で、縄文土器片や古墳時代から平安時代と考えられる土器片が相当量出土するとともに、住居跡と考えられる切込み面も確認され、古代の遺構が残されていることが確認された。

第2節 本調査

高浜日輪遺跡の本調査は、小学校の校庭内での発掘調査ということから、児童の夏休みの時期に実施することを前提に準備を進めた。また、調査面積が狭いことや短期間に終了するという事で、土置き場の確保やバリケードの設置および仮設事務所の設置位置等学校側と入念に打ち合わせをし、夏休みに入った7月25日より調査を始めた。調査は試掘調査の結果を受けて、建物建設位置を確定し、建築面積である約200㎡を対象に掘削を始めた。測量については業者に委託し、国家座標（世界測地系2011）による基準杭2点と標高1点設置して、その杭をもとに調査地内に10mのグリッドを設定して調査を進めた。遺構番号は遺構ごとに確認順に付した。遺構実測図は平板を使用し1/20縮尺を基本とし、遺物集中場所や竈については1/10縮尺で手取りとした。また、遺構図はグリッドに沿った割付を基本とし、重複する遺構が認められた場合は遺構ごとに作成し、グリッドに合わせた。遺構・遺物の写真については白黒35mmとカラーリバーサル35mmを利用し、補助的にデジタルカメラも使用した。

第3節 日誌抄

発掘調査

平成25年度

- 平成25年 7月22日 調査準備。
- 7月25日 表土掘削開始・仮設事務所・安全対策フェンス設置。
- 7月30日 1・2号住居跡調査進める。
- 8月5日 住居跡および周辺の調査続ける。
- 8月7日 縄文時代住居跡・土坑調査始める。
- 8月12日 縄文時代・平安時代住居跡調査進める。
- 8月20日 全景写真撮影。児童・教師・父兄等約80名見学。
- 8月26日 縄文時代土坑の調査終了。図面等も終了。
- 8月29日 埋め戻し作業終了。事務所撤去。作業終了。

整理作業

平成26年度

- 平成26年10月1日 足門事務所より遺物を棟高事務所まで運び確認作業。
- 10月3日 遺物復元作業始める。
- 10月17日 遺物復元作業・実測作業進める。
- 11月4日 遺物復元作業・実測作業進める。
- 11月11日 図面・レイアウト調整・原稿作成作業。
- 12月2日 遺物復元作業・実測作業進める。
- 平成27年1月6日 縄文時代遺物掲載の仕分け作業。
- 1月15日 掲載遺構図面より原稿準備作業・実測作業。
- 1月28日 掲載遺構図面トレース・実測作業・原稿作成。
- 2月10日 実測・拓本作業。
- 2月18日 実測・遺物デジタルトレース・レイアウト調整作業。
- 3月16日 遺構図・レイアウト調整・原稿作成。
- 3月25日 報告書作成の為の作業ほぼ終了。

- 平成27年9月14日 印刷に向けて原稿、図面最終調整始める。
- 9月30日 本日を持ってすべての作業終了。

第3章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と周辺の歴史的環境

高浜日輪遺跡は、高崎市高浜町日輪に所在する。約五万年前に榛名山が大噴火を起こしたといわれているが、その時の大規模な火砕流により形成されたと言われ、なだらかな傾斜が続く通称十文字台地の南端付近に存在する。高崎市立久留馬小学校の校庭の南西部に位置し、標高は184m前後である。遺跡地付近は旧榛名町の中では遺跡の多い地域であり、十文字台地の北方部の標高220m程では北陸新幹線工事に伴う発掘調査で、弥生時代を除く旧石器時代から古代にいたる各期の遺構・遺物が検出されている。また、西南部の台地末端部付近では弥生時代から平安時代に至る遺跡が数多く見られる。

本遺跡の南に隣接した場所に本郷日輪遺跡が存在し、縄文時代前期の住居跡1軒と古墳時代後半から奈良時代の住居跡16軒を検出している。さらに、主要地方道高崎・榛名線をへだてた南東方向の小堀川と烏川に挟まれた台地の末端部にかけての本郷地域は、弥生時代以降各期の遺跡が集中している地域である。とくに、道場Ⅱ遺跡・蔵屋敷遺跡・稻荷森遺跡等ほとんどの集落遺跡では弥生時代から平安期にかけての住居跡が確認されており、長い間この地域に集落が存続していたことを物語っている。なお、蔵屋敷遺跡からは東辺82m・西辺約110m・北辺88mの西南方に張り出した剣菱形の平面を有する古墳時代後期頃の方形環溝囲郭の可能性が高い遺構も検出されている。

古墳についても主要地方道高崎・榛名線から南東方向に向かい集中して存在する場所や散在的に存在するものを含めると非常に広い範囲に認められる。これらの中で、本地域の出現期の古墳として本郷大塚古墳がある。この古墳は、川原転石を用材とした竪穴式石室で、副葬品として内行花文鏡・ガラス製管玉・小玉が検出されている主軸全長73mの前期的性格を有する前方後円墳である。その後は6世紀前半から中葉期の古墳が点在するようになり、この点在した古墳を軸として7世紀前半代から8世紀前半代まで及ぶ、奥原古墳群・的場・七曲古墳群等が形成されている。なお、本郷奥原遺跡は奥原古墳群の東方に隣接している7世紀後半代と考えられる瓦・瓦塔片・土器片等が一定の区域で出土している寺院跡と考えられる遺跡で、古墳群とかかわりが考えられている。

その後中世になると、本遺跡の北側に遠北の陣城、南に高浜の砦、南東の烏川左岸直上部に七曲の砦、台地東隅部に御門城などが確認されており、各時代を通して人々の営みが感じられる地域である。

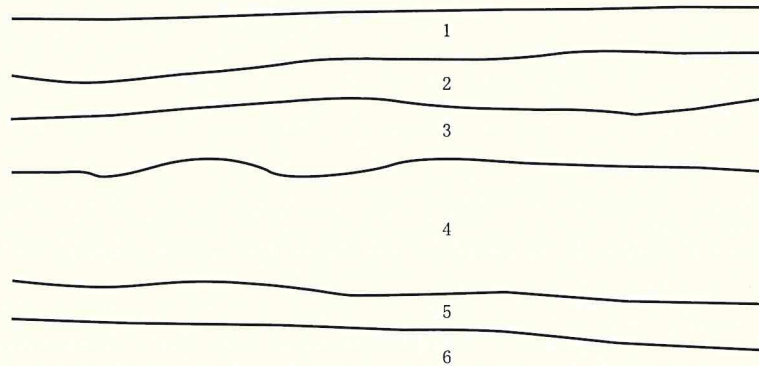
第2節 遺跡の概要

今回調査した高浜日輪遺跡は、高崎市立久留馬小学校校庭の南西隅部にあり、当初の調査予定面積は建設予定地の200㎡を対象として調査を進めたが、重機による掘削の段階で西部の約1/3と北東部分が攪乱を受けていることがわかり、実際に調査できた部分は中央部から西南部約160㎡とせまい範囲での調査となった。

このような中で、高浜日輪遺跡から発見された遺構・遺物は、縄文時代と古墳・奈良・平安時代のものが中心である。縄文時代の遺構は土坑5基と住居跡1軒であり、前期の土器を伴うと考えられるものであるが、遺構外出土遺物の中には中期の土器片も僅かに見られる。古墳時代の遺構は後期と考えられる時期の住居跡2軒を検出しているが1軒は住居跡北側半分、もう1軒は住居跡東側を部分的に調査したのみである。奈良時代の遺構も住居跡1軒の検出であるが、住居跡の南側のみ約半分の調査であった。平安時代の遺構についても、2軒の住居跡を検出しているが、切りあい関係と調査区との関係で部分的調査であった。今回の調査で検出された遺構は縄文時代住居跡1軒、土坑5基、古墳時代住居跡2軒、奈良・平安時代住居跡3軒等の他、近代の土坑等が確認された。

第3節 基本土層

現在校庭として利用されている表層は12cm程の盛土上にあり、その下の校庭築造以前の層位中には本遺跡地西方の群馬県と長野県境にそびえる浅間山の大噴火に伴う降下軽石(A・B・C)や最下層部には関東ローム層も厚く堆積しており時期確定の大きな指標となっている。



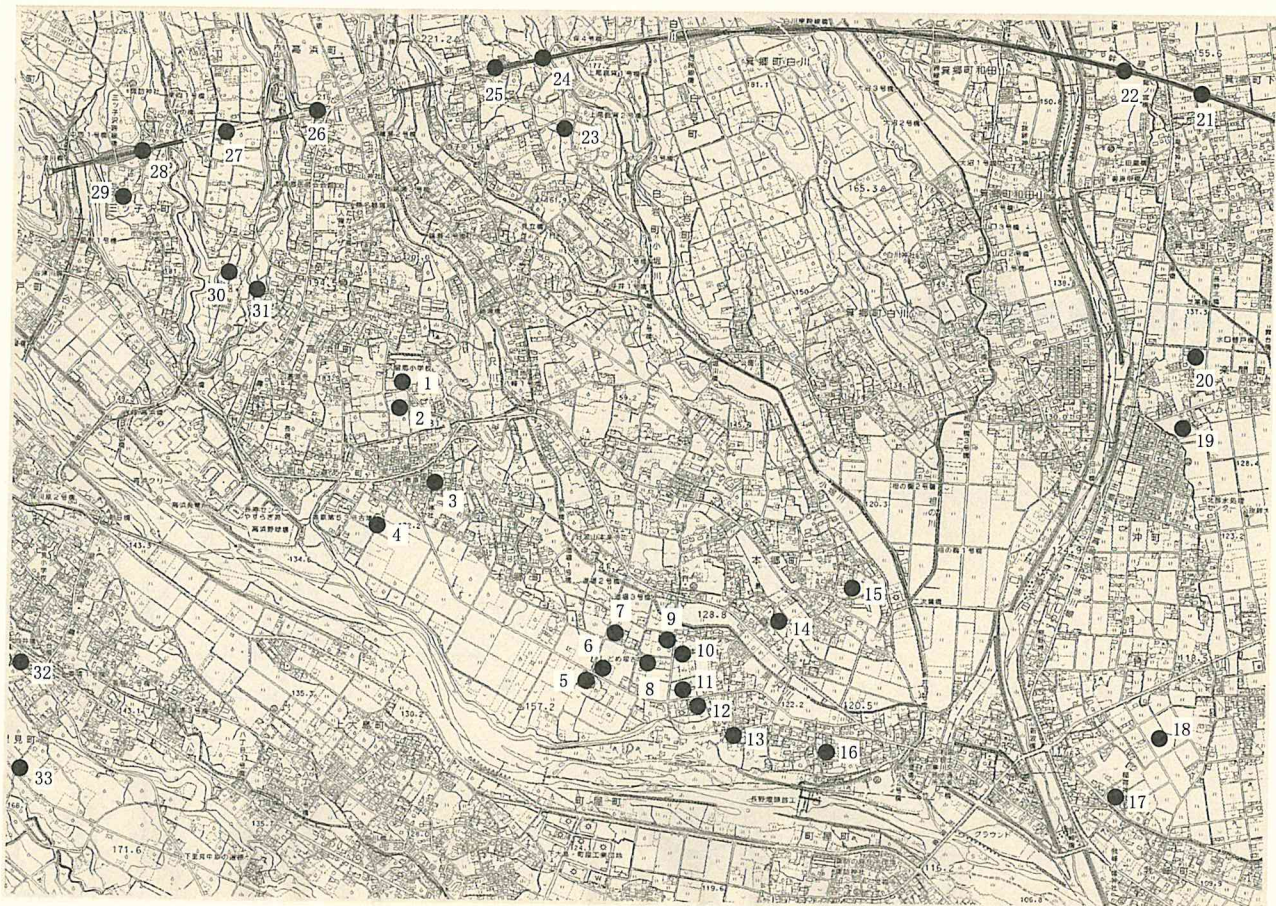
第1図 基本土層図

- | | |
|----------|--|
| 1 明灰色土。 | 校庭の埋土で、下部は細かい礫で上部に砂を主体とした締った土。 |
| 2 暗茶褐色土。 | 現耕作土で、浅間山噴火に伴うA軽石を多量に含む軟らかな土。 |
| 3 明黄灰色土。 | 旧耕作土で、浅間山噴火に伴うB軽石を多量に含む、ザラザラのやや締りのよい土。部分的に純層状にB軽石の堆積が最下部で認められる箇所もある。 |
| 4 黒色土。 | 浅間山噴火に伴うC軽石を上部に多く含む混土層で、ザラザラの土層だが、下部は細かな粒子の土でやや締りがよい。 |
| 5 暗茶褐色土。 | ロームと黒色土の混土層で、ローム漸位層。 |
| 6 黄茶褐色土。 | ローム層。 |

A……江戸時代。天明3年「1783」とされる降下軽石の略称。

B……平安時代後期。天仁元年「1108」とされる降下軽石の略称。

C……古墳時代初頭。3世紀後半～4世紀前半とされる降下軽石の略称。



第1表 高浜日輪遺跡周辺遺跡一覧表

第2図 高浜日輪遺跡周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	遺跡の概要	所在地	文献
1	高浜日輪遺跡	縄文：住居・土坑。古墳奈良平安：住居。	高崎市高浜町日輪	本報告。
2	本郷日輪遺跡	縄文：住居。古墳奈良：住居。	高崎市高浜町日輪	榛名町誌
3	本郷奥原遺跡	奈良：寺院跡。	高崎市本郷町道場	榛名町誌
4	本郷奥原古墳群	古墳。	高崎市本郷町道場	榛名町誌
5	本郷大塚古墳	古墳。	高崎市本郷町道場	榛名町誌
6	道場遺跡	平安：住居。	高崎市本郷町道場	榛名町誌
7	道場Ⅲ遺跡	古墳：住居。平安：住居。	高崎市本郷町道場	榛名町誌
8	しどめ塚古墳	古墳。	高崎市本郷町道場	榛名町誌
9	道場Ⅱ遺跡	弥生：住居。古墳平安：住居。	高崎市本郷町道場	榛名町誌
10	蔵屋敷遺跡	弥生：住居。古代：住居。	高崎市本郷町字蔵屋敷	榛名町誌
11	蔵屋敷Ⅱ遺跡	弥生古墳平安：住居・古墳。	高崎市本郷町字蔵屋敷	榛名町誌
12	供養塚遺跡	古墳平安：住居。	高崎市本郷町字供養塚	榛名町誌
13	寺内遺跡	弥生古墳平安：住居。	高崎市本郷町寺内	榛名町誌
14	権現陵古墳	古墳。	高崎市本郷町	榛名町誌
15	麻千原遺跡	古墳平安：住居。	高崎市本郷町麻千原	榛名町誌
16	稲荷森遺跡	古墳。弥生古墳平安：住居。	高崎市本郷町稲荷森	榛名町誌
17	栗原遺跡	古墳。	高崎市我峰町栗原	群馬県遺跡台帳(1972)
18	当貝戸栗原遺跡	平安：住居・水田・畠。	高崎市我峰町栗原	教育委員会第38集(1983)
19	上野前(Ⅱ)・大明神(Ⅱ)・五反田(Ⅰ)遺跡	平安：水田。	高崎市菊地町上ノ前	教育委員会第63集(1985)
20	石田遺跡	平安：水田。	高崎市楽間町	「長野北部遺跡群 水口替戸・石田遺跡」高崎市文化財調査報告書第77集 高崎市教育委員会
21	下芝天神遺跡	古墳：住居・畠・遺物集積遺構。奈良平安：住居・掘立柱建物・耕作痕・畠。	高崎市箕郷町下芝	「下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第231集
22	下芝上田屋遺跡	奈良平安：水田・畠。中世：工作具痕。	高崎市箕郷町下芝	「下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第231集
23	子安遺跡	縄文：住居。	高崎市高浜町子安	榛名町誌
24	白岩浦久保遺跡	縄文：土坑。古墳：住居。	高崎市白岩町浦久保	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団埋蔵文化財調査報告書
25	白岩民部遺跡	旧石器：石器製作跡。縄文：住居。古墳：溝。	高崎市白岩町民部	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団埋蔵文化財調査報告書
26	高浜広神遺跡	縄文：住居・土坑。古墳奈良平安：住居・掘立柱建物。平安：畠。	高崎市高浜町広神	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団埋蔵文化財調査報告書
27	高浜向原遺跡	縄文：住居。古墳～平安：水田。	高崎市高浜町向原	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団埋蔵文化財調査報告書
28	三ツ子沢中遺跡	旧石器：文化層。縄文～平安：住居。	高崎市三ツ子沢町中	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団埋蔵文化財調査報告書
29	三ツ子沢中遺跡	古墳。平安：住居。	高崎市三ツ子沢町中	榛名町誌
30	中尾根遺跡	溝。	高崎市高浜町中尾根	榛名町誌
31	欠ノ上遺跡	平安：遺物。	高崎市高浜町欠ノ上	榛名町誌
32	中通遺跡	縄文包含層。	高崎市下里見町中通	榛名町誌
33	下里見上ノ原・中原遺跡	縄文～平安：住居。	高崎市下里見町上ノ原・中原	榛名町誌



第3図 高浜日輪遺跡全体図

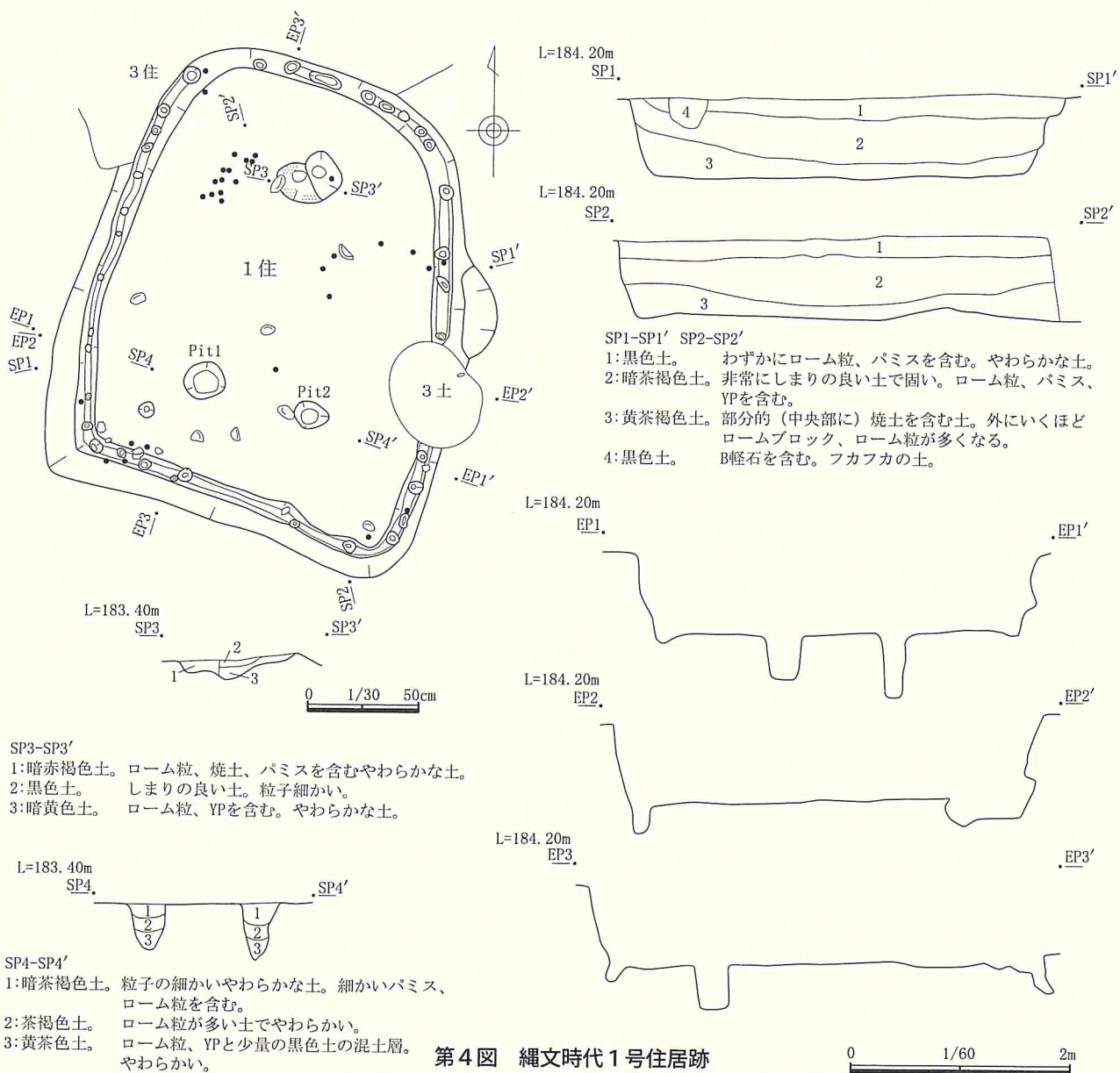
第4章 発見された遺構と遺物

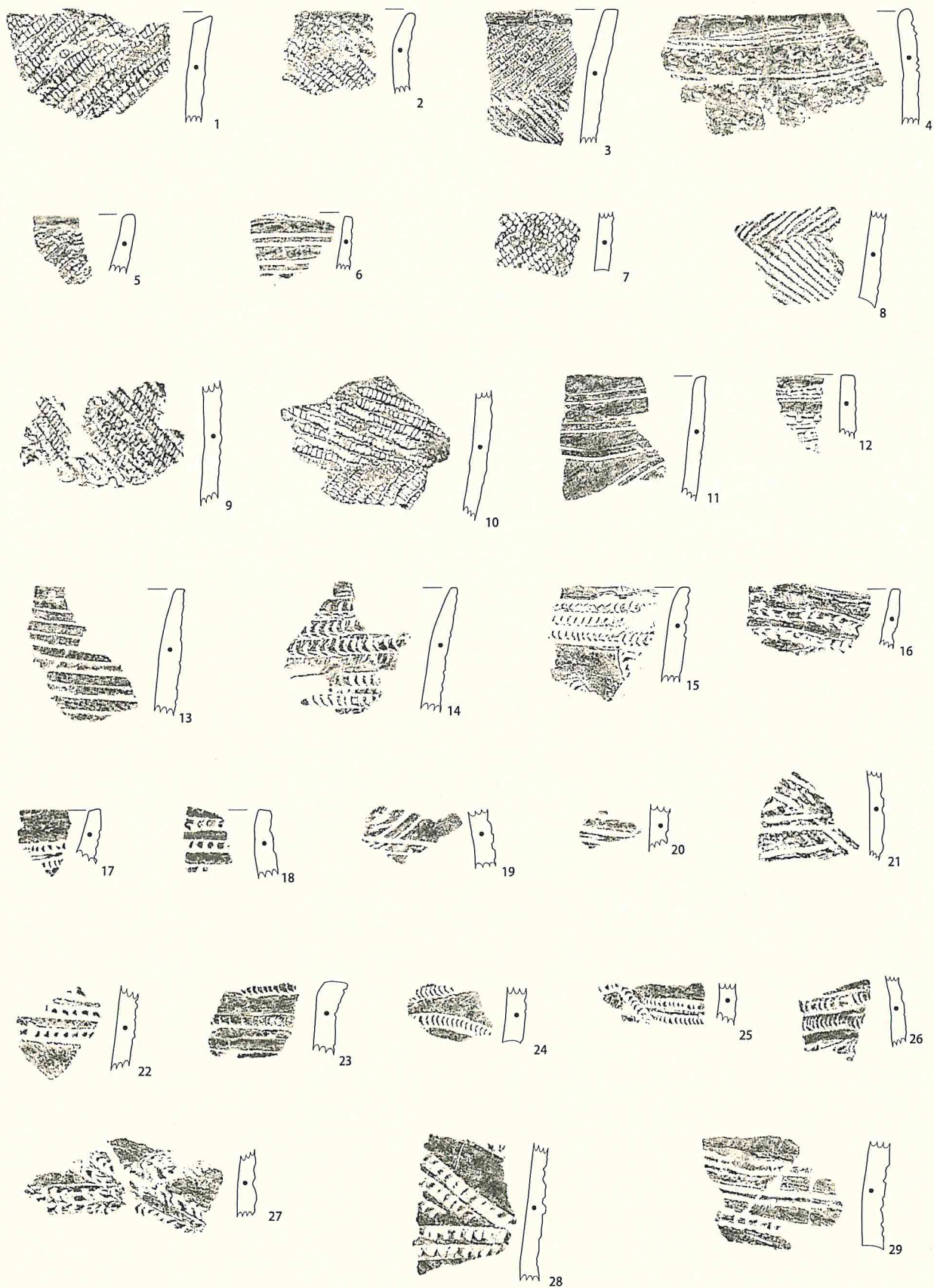
第1節 縄文時代

縄文時代1号住居跡

調査区のほぼ中央部で検出された住居跡。東壁の一部を縄文時代の3号土坑に切られ、北壁部分を奈良時代の3号住居跡に切られているが、遺構の残存状況は比較的良好であった。規模は東西3.65m・南北4.25mのやや変形の隅丸長方形の住居跡で、長軸方位をN-17°-Eとしている。遺構確認面から床面までの深さは70cm程であり、床面はほぼ全面が堅く締まっていた。柱穴は2基が南壁より80cm程内側に平行した形で検出されたが北側では確認できなかった。柱穴間の間隔は約70cmで、東西の壁から1.1m程に位置している。各壁直下には幅10~15cm、深さ5~10cm程の周溝が認められ、この周溝内に直径10~15cm、深さ10~20cm程の垂直や斜めに掘り込まれたピットが多数検出されている。

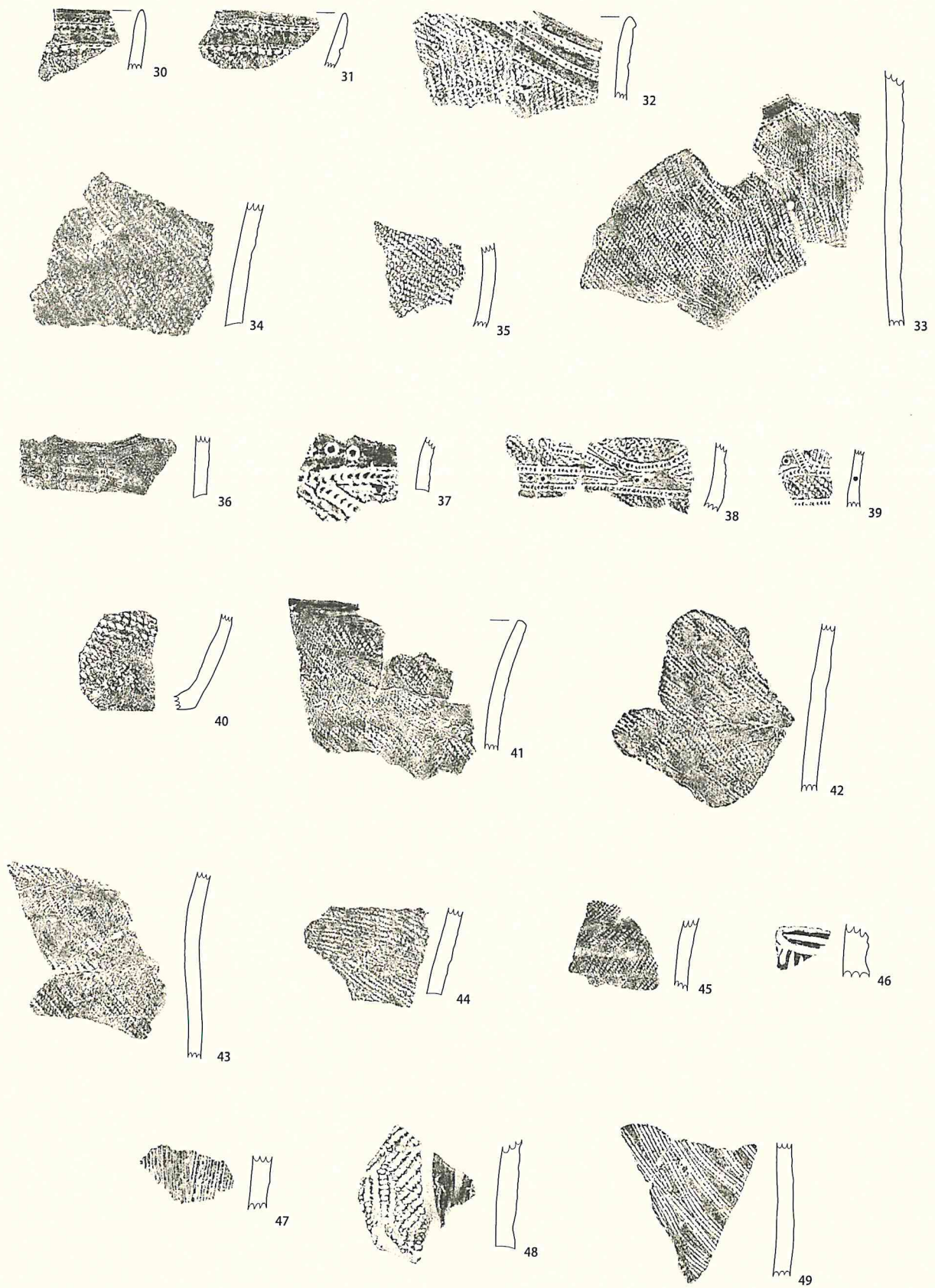
炉跡は住居跡の北側中央部で検出された。直径50cm程の不定円形の平面形で中央部が10cm程レンズ状に掘り込まれており、炉内とその周辺部で焼土が認められている。





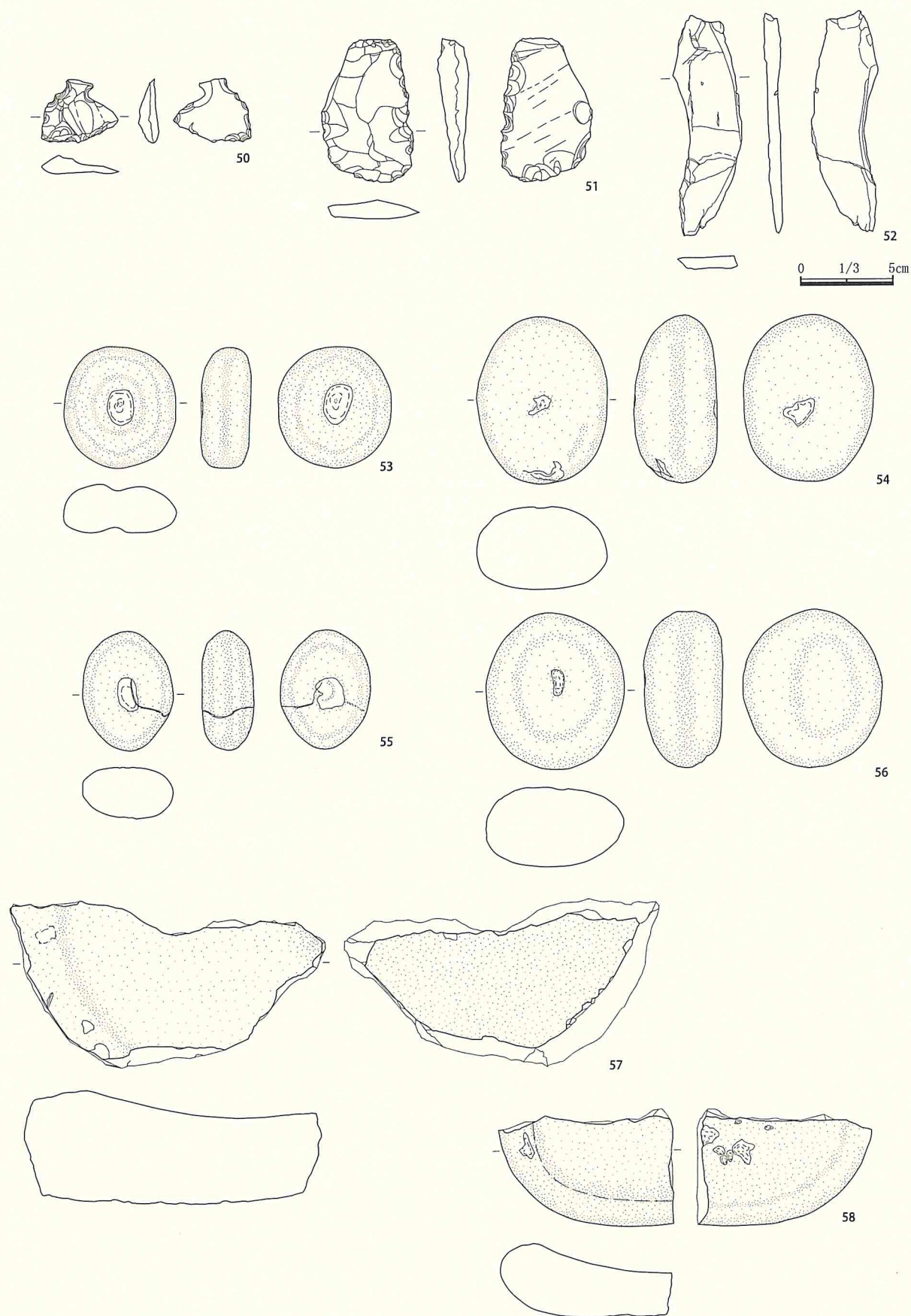
第5図 縄文時代1号住居跡出土遺物(1)

0 1/3 5cm



第6図 縄文時代1号住居跡出土遺物(2)

0 1/3 5cm



第7図 縄文時代1号住居跡出土遺物(3)

第2表 縄文時代1号住居跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	部位	文様	原体・施文具	時期	胎土 繊維 (●)	色調	備考
1	深鉢	口縁部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	粗。2~4mm小礫多く含む。 ●	5YR7/6 橙	
2	深鉢	口縁部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	やや密。 ●	7. 5YR4/2 灰褐	
3	深鉢	口縁部	羽状縄文。	単節LR。RL横。	前期中葉	粗。長石含む。2~4mm小礫 含む。 ●	7. 5YR5/2 灰褐	
4	深鉢	口縁部	横位沈線文。縄文。 連続刺突文。	半截竹管。	前期中葉	粗。砂粒多く含む。 ●	10YR6/3 にぶい黄橙	
5	深鉢	口縁部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	やや粗。 ●	7. 5YR6/4 にぶい橙	
6	深鉢	口縁部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや密。 ●	10YR8/4 浅黄橙	
7	深鉢	胴部	羽状縄文。	単節RL。LR横。	前期中葉	やや粗。砂粒含む。 ●	10YR4/1 褐灰	
8	深鉢	胴部	羽状縄文。	単節RL。LR横。 0段多条。	前期中葉	やや粗。2~3mm小礫含む。 ●	5YR5/6 明赤褐	
9	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	やや粗。砂粒多く含む。 ●	5YR7/4 にぶい橙	
10	深鉢	胴部	縄文。羽状縄文。	単節RL。 LR横。	前期中葉	粗。2~4mm小礫含む。 ●	5YR6/4 にぶい橙	
11	深鉢	口縁部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。長石、片岩含む。 ●	10YR7/6 明黄橙	
12	深鉢	口縁部	刺突文。平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。 ●	10YR7/6 明黄褐	
13	深鉢	口縁部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。砂粒多く含む。 ●	10YR6/4 にぶい黄橙	
14	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	粗。砂粒多く含む。 ●	5YR6/6 橙	
15	深鉢	口縁部	ミガキ。爪形刺突を持つ 平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。2~3mm小礫含む。 ●	5YR5/4 にぶい赤褐	
16	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。1~2mmの小礫含む。 ●	7. 5YR7/3 にぶい橙	
17	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。 ●	7. 5YR6/6 明褐	
18	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。長石含む。 ●	5YR5/2 灰褐	
19	深鉢	胴部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや密。 ●	7. 5YR7/4 にぶい橙	
20	深鉢	胴部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。 ●	10YR4/2 灰黄褐	
21	深鉢	胴部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	粗。2~5mm小礫含む。 ●	7. 5YR5/3 にぶい橙	
22	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。長石含む。 ●	7. 5YR6/3 にぶい褐色	
23	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。石英粒含む。 ●	7. 5YR7/6 橙	
24	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	粗。長石含む。砂粒多く含 む。 ●	5YR6/4 にぶい橙	
25	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。 ●	10YR5/4 にぶい黄褐	
26	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。 ●	10YR5/3 にぶい黄褐	
27	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	粗。 ●	10YR6/4 にぶい黄橙	
28	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	粗。長石含む。2~3mm小礫 含む。 ●	7. 5YR6/6 橙	
29	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。 ●	5YR6/6 橙	
30	深鉢	口縁部	連続刺突文。平行沈線。	半截竹管。 単節RL。	前期後半	やや粗。 ●	7. 5YR5/3 にぶい褐	

第3表 縄文時代1号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	部位	文様	原体・施文具	時期	胎土 繊維 (●)	色調	備考
31	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。 単節RL横。	前期後半	密。	2.5YR7/6 橙	
32	深鉢	口縁～ 胴部	口縁下爪形刺突を持つ平行沈線。	撚紐。 単節RL横。	前期後半	やや粗。砂粒含む。	7.5YR5/4 にぶい褐	33・34と同一個体。
33	深鉢	胴部	口縁下爪形刺突を持つ平行沈線。縦位刺突列。	半截竹管。 撚紐。 単節RL横。	前期後半	やや粗。砂粒含む。	7.5YR5/4 にぶい褐	32・34と同一個体。
34	深鉢	胴部	縄文。	撚紐。 単節RL横。	前期後半	やや粗。砂粒含む。	7.5YR5/4 にぶい褐	32・33と同一個体。
35	深鉢	胴部	縄文。	撚。単節RL横。	前期後半	やや密。長石含む。	5YR5/2 灰褐	
36	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。 縄文。刺突文。	半截竹管。 単節RL横。	前期後半	やや粗。	2.5YR4/1 黄灰	
37	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。 刺突文。	半截竹管。	前期後半	やや粗。砂粒含む。	7.5YR5/4 にぶい褐	
38	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。 刺突文。縄文。	半截竹管。 単節RL横。	前期後半	長石含む。	2.5YR5/2 明灰黄	
39	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。 刺突文。縄文。	半截竹管。	前期後半	やや粗。砂粒含む。 ●	2.5YR4/1 黄灰	
40	深鉢	胴部～ 底部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや密。長石含む。	7.5YR6/6 橙	
41	深鉢	口縁～ 胴部	結節浮線文。	撚紐。 単節RL横。	中期後半	やや粗。砂粒含む。	2.5YR5/3 にぶい赤褐	42・43・44・45と同一個体。
42	深鉢	胴部	結節浮線文。	撚紐。 単節RL横。	中期後半	やや粗。砂粒含む。	2.5YR5/3 にぶい赤褐	41・43・44・45と同一個体。
43	深鉢	胴部	結節浮線文。	撚紐。 単節RL横。	中期後半	やや粗。砂粒含む。	2.5YR5/3 にぶい赤褐	41・42・44・45と同一個体。
44	深鉢	胴部	結節浮線文。	撚紐。 単節RL横。	中期後半	やや粗。砂粒含む。	2.5YR5/3 にぶい赤褐	41・42・43・45と同一個体。
45	深鉢	胴部	結節浮線文。	撚紐。 単節RL横。	中期後半	やや粗。砂粒含む。	2.5YR5/3 にぶい赤褐	41・42・43・44と同一個体。
46	深鉢	胴部	沈線。	棒状工具。	中期後半	やや粗。長石含む。	5YR6/6 橙	
47	深鉢	胴部	縦条線。	櫛歯状工具。	中期後半	やや密。長石含む。	5YR6/6 橙	
48	深鉢	胴部	沈線。磨削縄文。	棒状工具。 単節RL縦。	中期後半	やや密。長石含む。	5YR6/4 にぶい橙	
49	深鉢	胴部	斜位条線。	櫛歯状工具。	後期	やや密。長石含む。	7.5YR6/6 橙	

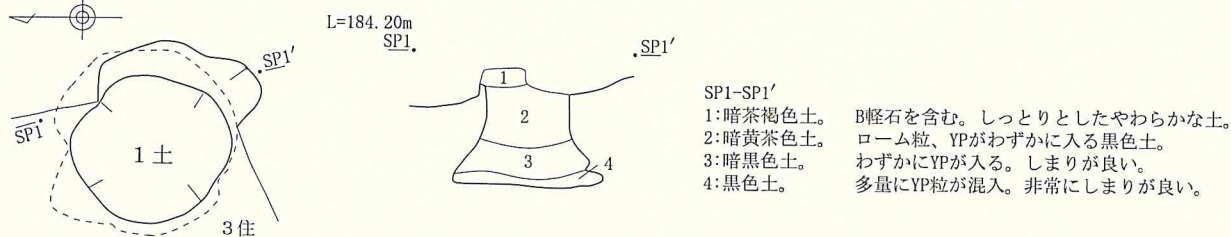
石製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	石材・石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
50	石匙	横形	完形	チャート	3.4	4.1	1.1	11.5	
51	打製石斧	撥形	完形	頁岩	7.7	4.9	1.7	62.6	
52	剥片			頁岩	11.9	3.3	1.0	40.8	
53	凹石	楕円形	完形	安山岩	8.6	8.0	3.5	250.0	
54	凹石	楕円形	完形	安山岩	11.9	9.2	5.8	950.0	
55	凹石	楕円形	完形	安山岩	8.5	6.4	3.6	300.0	
56	凹石	楕円形	完形	安山岩	11.2	9.8	5.6	800.0	
57	石皿	不定形	1/3	安山岩	12.0	22.4	8.2	2237.0	
58	石皿	楕円形	1/2	安山岩	8.4	12.3	5.3	510.0	

縄文時代1号土坑

調査区北側のほぼ中央部で検出された土坑。奈良時代の3号住居跡に東部の一部を除いて切られているが、下部は住居跡の床面よりも深かったため平面形を捉えることはできた。東西142cm、南北152cmのほぼ円形のもので、確認面から底面までの深さは82cm程で、断面形はフラスコ型を呈する。

遺物の出土はなかった。

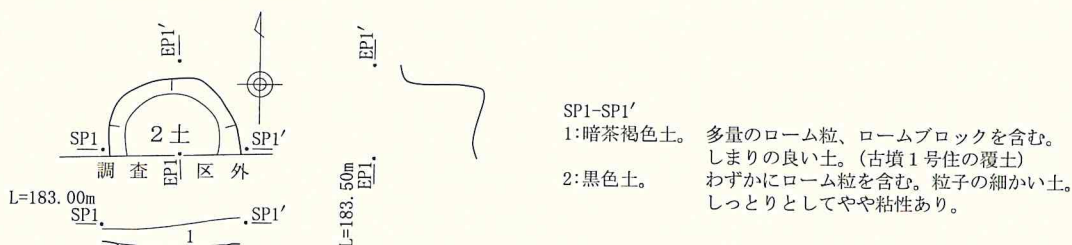


第8図 縄文時代1号土坑

縄文時代2号土坑

調査区南側のほぼ中央部で検出された土坑。南側約半分は調査区域外である。古墳時代の1号住居跡に上部をすべて切られているが、下部は住居跡の床面よりも深かったため北側半分の平面形を捉えることはできた。東西105cm、南北60cm以上のほぼ円形と考えられるもので、確認面から底面までの深さは19cm程で、底面中央部から外側にかけて僅かに低くなり壁の立ち上がりは直上である。

遺物の出土はなかった。

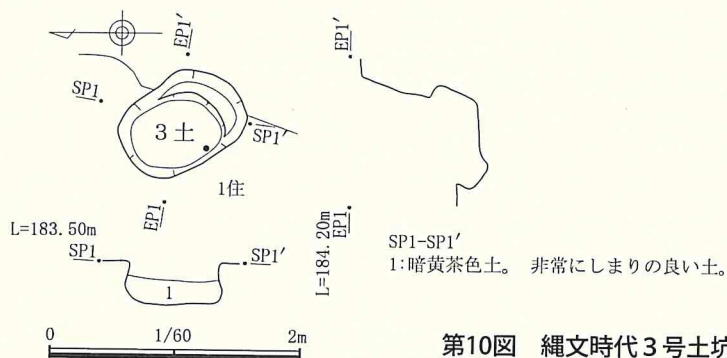


第9図 縄文時代2号土坑

縄文時代3号土坑

調査区中央部より僅かに西側で検出された土坑。縄文時代の1号住居跡に大部分を切られているが、下部は住居跡の床面よりも深かったため底部の平面形を捉えることはできた。長軸98cm、短軸72cmの楕円形状のもので、確認面から底面までの深さは93cm程で、底面中央部から外側にかけて僅かに低くなり壁の立ち上がりは内斜しており、本来の断面形はフラスコ型を呈していたものと考えられる。

遺物は1点のみで、半截竹管による沈線文の見られる前期中葉と考えられる小破片が出土している。



第10図 縄文時代3号土坑

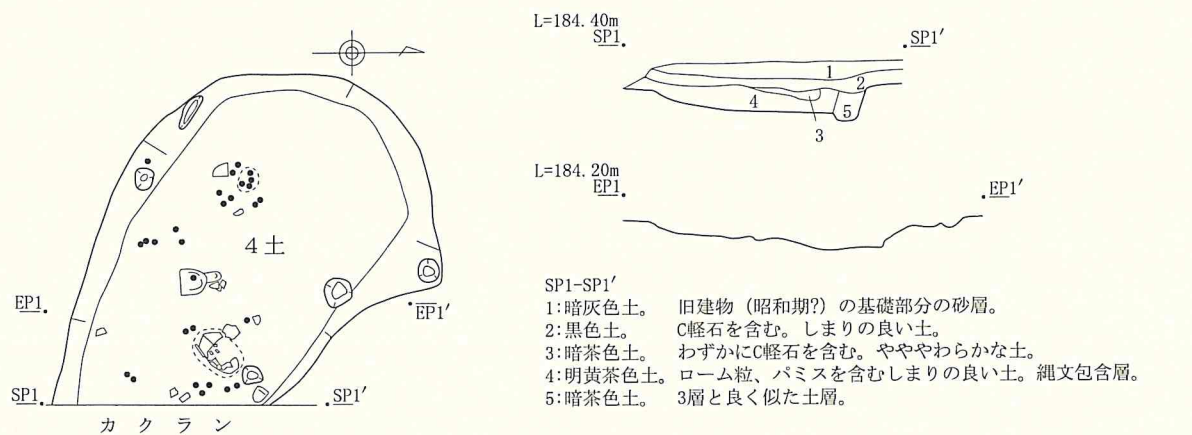


第11図 縄文時代3号土坑出土遺物

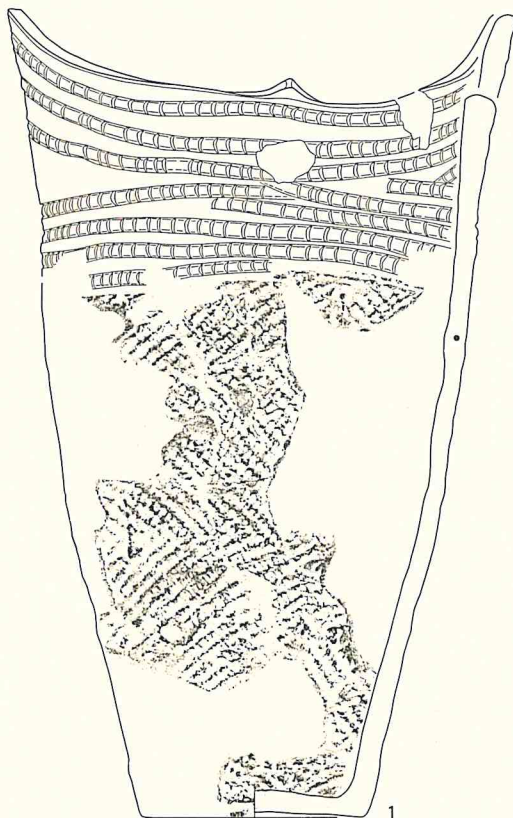
縄文時代4号土坑

調査区中央部東側で検出された土坑。東部は攪乱により壊されていた。他遺構との切りあい関係はなく単独で検出された遺構。攪乱により詳細は不明であるが、長軸307cm以上、短軸218cmの東西方向に長い楕円形状で、掘り込みは中央部で確認面から21cm程と浅く断面はレンズ状を呈する。

遺物としては遺構のほぼ中央部からほぼ完形の深鉢型土器が出土している他、ほぼ全面から縄文時代前期中頃の土器片が多数出土している。石器類についても削器・磨石・凹石が出土している。

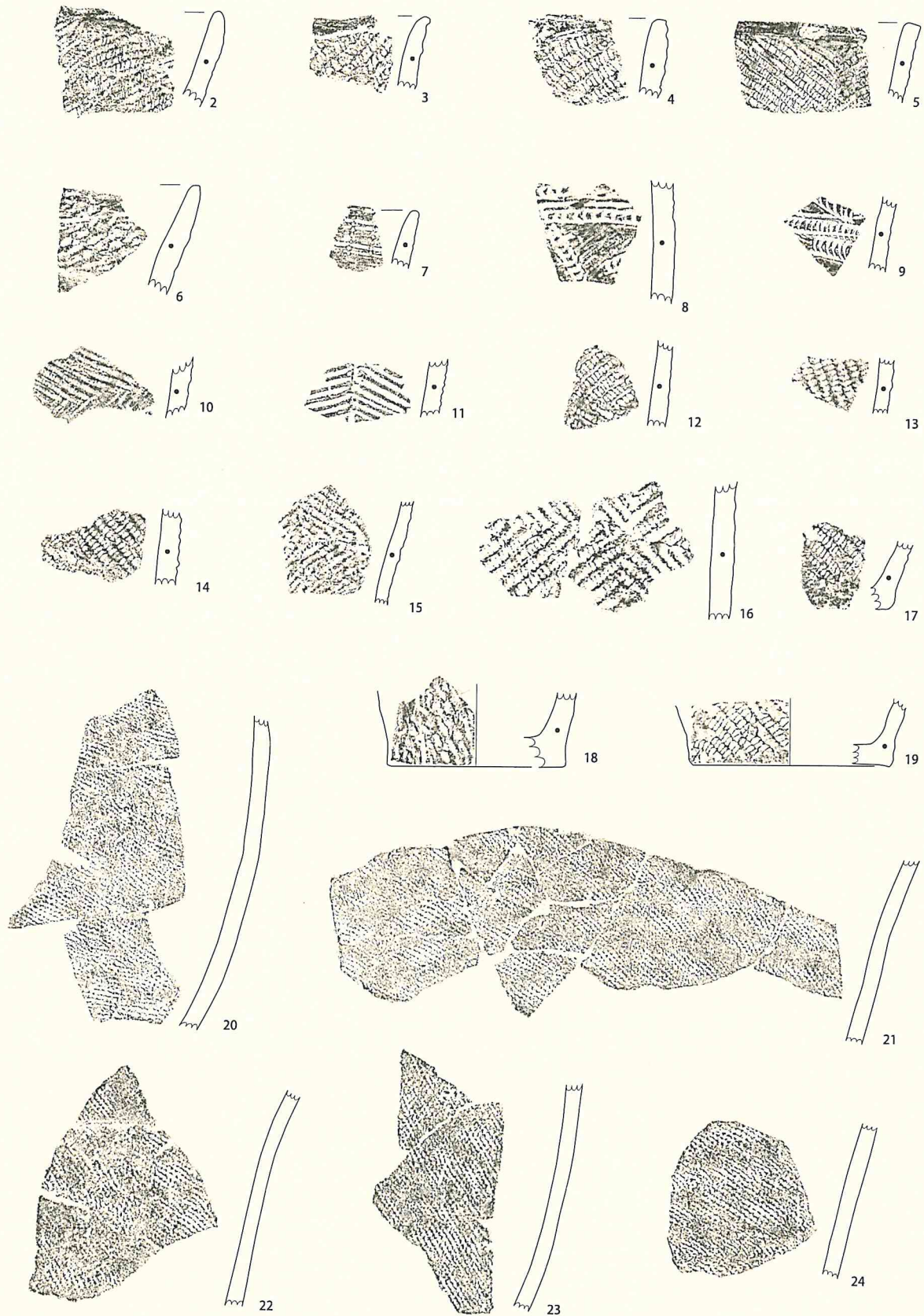


第12図 縄文時代4号土坑



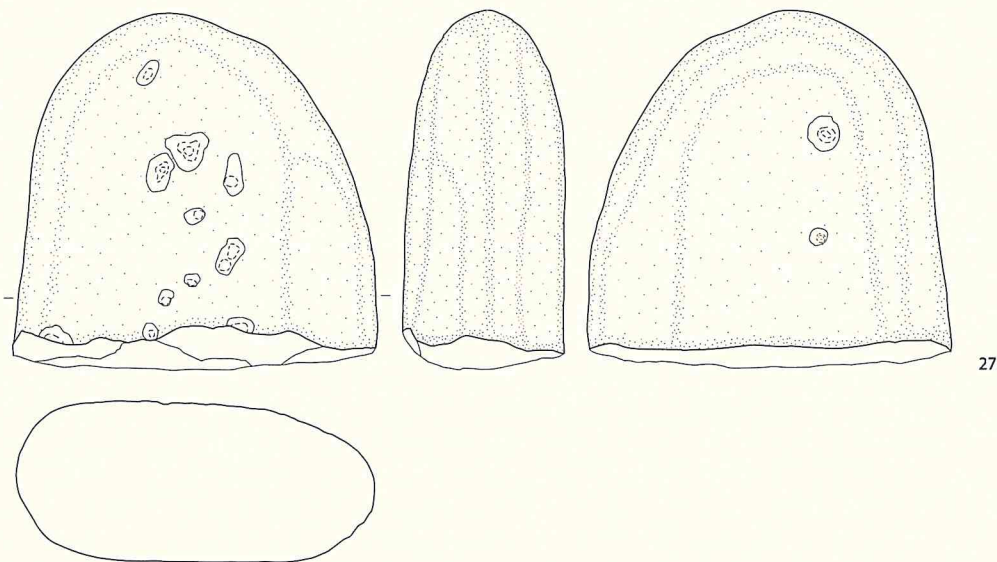
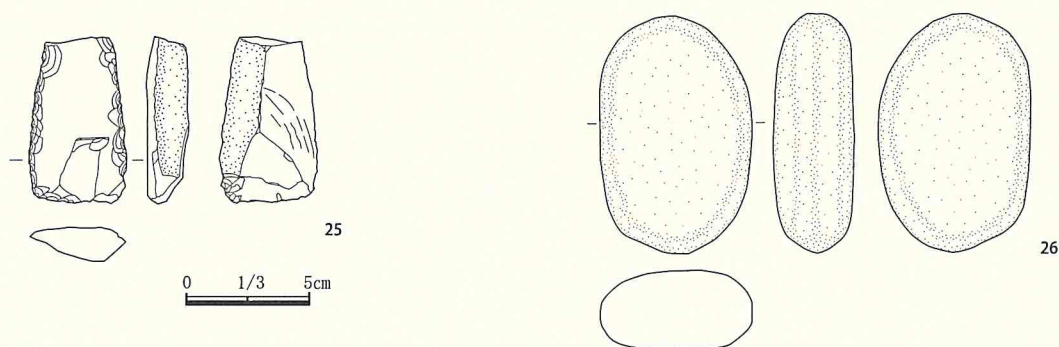
第13図 縄文時代4号土坑出土遺物(1)

0 1/3 5cm



第14図 縄文時代4号土坑出土遺物(2)

0 1/3 5cm



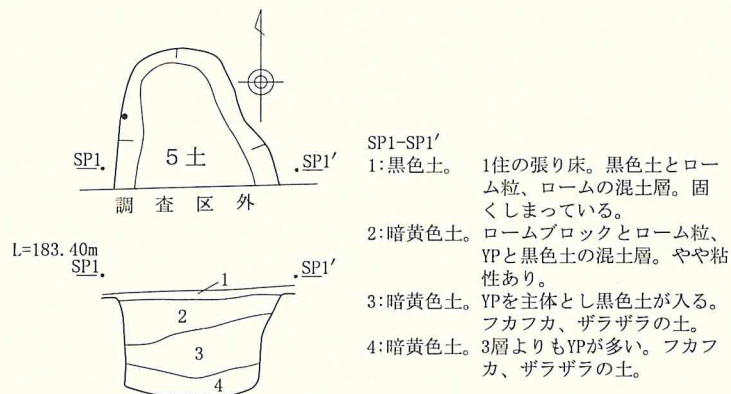
第15図 縄文時代4号土坑出土遺物(3)

0 1/4 10cm

縄文時代5号土坑

調査区南側のほぼ中央部で検出された土坑。南側約半分は調査区域外である。古墳時代の1号住居跡に上部をすべて切られているが、下部は住居跡の床面よりも深かったため北側半分の平面形を捉えることはできた。東西133cm、南北110cm以上の楕円形状を呈すると考えられるもので、住居跡床面下の確認面から底面までの深さは83cm程で、底面からの壁の立ち上がりはほぼ直上である。

遺物は、中期後半と考えられる深鉢型土器の底部1片が出土しているのみである。



第16図 縄文時代5号土坑

0 1/60 2m



第17図 縄文時代5号土坑出土遺物

第4表 縄文時代3号土坑出土遺物観察表

番号	器種	部位	文様	原体・施文具	時期	胎土 繊維 (●)	色調	備考
1	深鉢	胴部	沈線文。	半截竹管。	前期中葉	粗い。細粒多く含む。 石英含む。 ●	7.5YR4/1 褐灰	

第5表 縄文時代4号土坑出土遺物観察表(1)

番号	器種	部位	文様	原体・施文具	時期	胎土 繊維 (●)	色調	備考
1	深鉢	口縁～ 底部	爪形刺突を持つ平行沈線。 羽状縄文。	半截竹管。 単節LR。RL横。 0段多状。	前期中葉	やや粗。長石、軽石状小礫 含む。 ●	7.5YR4/2 灰褐	波状口縁2単位。
2	深鉢	口縁部	縄文。	0段多状。 単節LR横。	前期中葉	普通。長石粒含む。 ●	10YR7/4 にぶい橙	
3	深鉢	口縁部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	普通。細砂含む。 ●	7.5YR6/6 橙	
4	深鉢	口縁部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	粗。細砂多く含む。 ●	7.5YR7/4 にぶい橙	
5	深鉢	口縁部	羽状縄文。	単節LR。 RL縦。	前期中葉	普通。長石、2～3mm小礫含 む。 ●	7.5YR5/3 にぶい褐	
6	深鉢	口縁部	縄文。	無節LR横。	前期中葉	やや粗。細砂含む。 ●	5YR6/4 にぶい橙	
7	深鉢	口縁部	平行沈線。刺突文。	櫛歯状工具。	前期中葉	粗。 ●	7.5YR4/1 褐灰	
8	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。細砂含む。 ●	7.5YR7/4 にぶい橙	
9	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。細砂含む。 ●	7.5YR6/6 橙	
10	深鉢	胴部	羽状縄文。	撚紐。単節RL。 LR横。	前期中葉	粗。長石多く含む。 ●	7.5YR6/6 橙	
11	深鉢	胴部	羽状肋骨文。縦。	半截竹管。	前期中葉	普通。細砂含む。 ●	10YR6/6 明黄褐	
12	深鉢	胴部	羽状縄文。	撚紐。単節LR。 RL縦。	前期中葉	やや粗。片岩小礫含む。 ●	7.5YR6/4 にぶい橙	
13	深鉢	胴部	縄文。	撚紐。 単節RL横。	前期中葉	やや粗。細砂含む。 ●	7.5YR6/4 にぶい橙	
14	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	粗。長石多く含む。 ●	7.5YR5/2 灰褐	
15	深鉢	胴部	羽状縄文。	単節LR。RL横。	前期中葉	普通。3～5mm小礫含む。 ●	7.5YR4/2 灰褐	器肉薄い。
16	深鉢	胴部	菱状縄文。	単節LR。RL横。	前期中葉	やや粗。細砂多く含む。 ●	7.5YR7/4 にぶい橙	
17	深鉢	底部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	粗。細砂多く含む。2～6mm 小礫含む。 ●	7.5YR6/8 にぶい橙	
18	深鉢	底部	縄文。	無節。	前期中葉	粗。細砂多く含む。 ●	7.5YR6/4 にぶい橙	底径 9.0cm(推)。
19	深鉢	底部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	普通。粗砂多く含む。 ●	7.5YR7/4 にぶい橙	底径 10.0cm(推)。
20	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや密。長石多く含む。	2.5YR5/6 明赤褐	21・22・23・24と同一 個体。
21	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや密。長石多く含む。	2.5YR5/6 明赤褐	20・22・23・24と同一 個体。
22	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや密。長石多く含む。	2.5YR5/6 明赤褐	20・21・23・24と同一 個体。
23	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや密。長石多く含む。	2.5YR5/6 明赤褐	20・21・22・24と同一 個体。
24	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや密。長石多く含む。	2.5YR5/6 明赤褐	20・21・22・23と同一 個体。

第6表 縄文時代4号土坑出土遺物観察表(2)

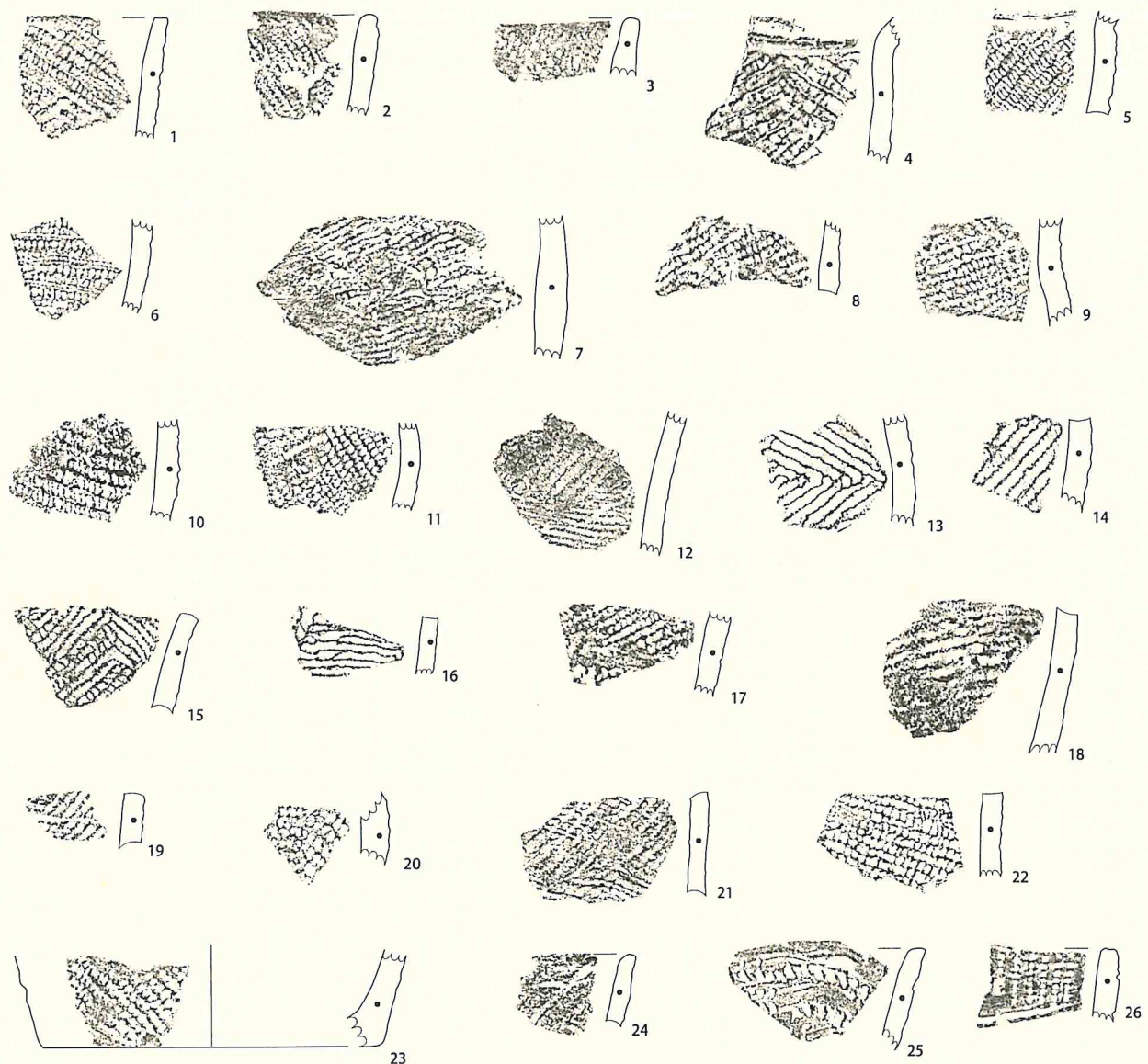
石製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	石材・石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
25	削器	使用面非常に 研磨されている。	完形	チャート	6.7	4.0	1.7	48.7	
26	磨石	楕円形	完形	安山岩	12.8	8.1	4.3	710.0	
27	凹石	楕円形	2/3	安山岩	19.2	19.4	8.6	4550.0	

第7表 縄文時代5号土坑出土遺物観察表

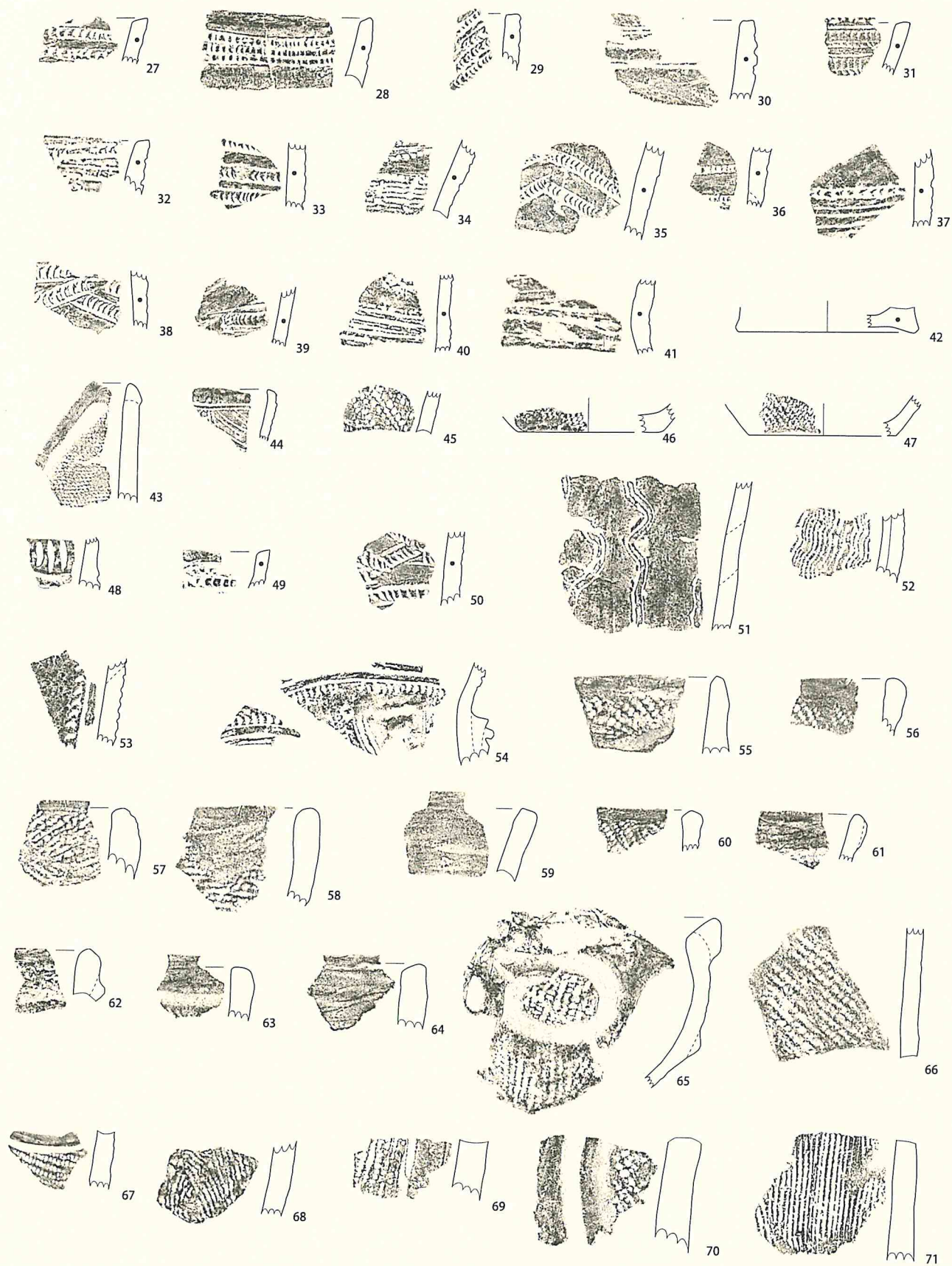
番号	器種	部位	文様	原体・施文具	時期	胎土 繊維 (●)	色調	備考
1	深鉢	底部	指頭圧痕。		中期後半	やや粗。砂粒、石英含む。	10YR8/6 浅黄橙	底部径6.8cm(推)。

縄文時代遺構外出土遺物



第18図 縄文時代遺構外出土遺物(1)

0 1/3 5cm



第19図 縄文時代遺構外出土遺物(2)

0 1/3 5cm



第20図 縄文時代遺構外出土遺物(3)

第8表 縄文時代遺構外出土遺物観察表(1)

番号	器種	部位	文様	原体・施文具	時期	胎土 繊維 (●)	色調	備考
1	深鉢	口縁部	羽状縄文。	単節RL。 LR横。	前期中葉	やや粗。1~2mm小礫多量含む。 ●	5YR6/6 橙	
2	深鉢	口縁部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	やや密。 ●	7. 5YR4/2 灰褐	
3	深鉢	口縁部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	粗。4~5mm小礫含む。 ●	10YR7/4 にぶい黄橙	
4	深鉢	肩部	羽状縄文。平行沈線。	半截竹管。 単節RL。LR。	前期中葉	粗。チャート、2~5mm小礫 多く含む。 ●	7. 5YR5/4 にぶい褐	
5	深鉢	胴上部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	やや密。長石含む。 ●	10YR7/4 にぶい黄橙	
6	深鉢	胴部	付加状縄文。	単節RL。	前期中葉	やや粗。細砂多く含む。	7. 5YR6/4 にぶい橙	
7	深鉢	胴部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	やや密。細砂含む。 ●	10YR8/6 黄橙	
8	深鉢	胴部	縄文。	単節RL。LR横。	前期中葉	やや粗。1~3mm小礫含む。 ●	7. 5YR7/6 橙	
9	深鉢	頸部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	やや密。1~2mm小礫含む。 ●	7. 5YR6/6 橙	
10	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	やや粗。細砂含む。 ●	7. 5YR6/6 橙	
11	深鉢	胴部	菱状縄文。	単節RL。 LR縦。	前期中葉	やや粗。長石1~4mm小礫含 む。 ●	5YR6/4 にぶい橙	
12	深鉢	胴部	縄文。	単節LR。 R横。	前期中葉	粗。3~5mm小礫少量含む。	7. 5YR8/4 浅黄橙	
13	深鉢	胴部	羽状縄文。	半截竹管。 単節RL。LR横。 0段多条。	前期中葉	やや密。 ●	7. 5YR6/4 にぶい橙	
14	深鉢	胴部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	やや密。 ●	10YR8/6 黄橙	
15	深鉢	胴部	羽状縄文。	単節LR。 RL縦。	前期中葉	やや粗。細砂含む。 ●	10YR4/1 灰褐	
16	深鉢	胴部	縄文。	無節L。	前期中葉	やや粗。 ●	7. 5YR5/1 褐灰	
17	深鉢	胴部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	やや粗。チャート少量含む。 ●	7. 5YR7/4 にぶい橙	
18	深鉢	胴部	縄文。	無節L横。	前期中葉	やや粗。 ●	5YR6/6 橙	
19	深鉢	胴部	沈線文。縄文。	単節LR横。	前期中葉	やや粗。 ●	5YR5/4 にぶい赤褐	
20	深鉢	胴部	縄文。	単節LR横。	前期中葉	やや粗。1~2mm小礫含む。 ●	7. 5YR7/6 橙	
21	深鉢	胴部	羽状縄文。	単節LR。R横。	前期中葉	やや粗。石英含む。 ●	7. 5YR4/2 灰褐	
22	深鉢	胴部	縄文。	単節RL。	前期中葉	やや密。軽石状小礫含む。 ●	10YR7/3 にぶい黄橙	
23	深鉢	胴部~ 底部	縄文。	単節RL横。	前期中葉	やや粗。2~3mm軽石状の小 礫含む。 ●	5YR6/6 橙	底径15.0cm(推)。
24	浅鉢	口縁部	縄文。	無節。	前期中葉	粗。長石多量含む。 ●	7. 5YR5/4 にぶい褐	
25	深鉢	口縁部	連続刺突文。	棒状工具。	前期中葉	やや密。細砂含む。 ●	7. 5YR5/4 にぶい褐	
26	深鉢	口縁部	平行沈線。連続刺突文。	櫛歯状工具。	前期中葉	やや密。細砂含む。 ●	7. 5YR6/4 にぶい橙	
27	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや密。 ●	10YR7/4 にぶい黄橙	
28	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや密。 ●	10YR8/4 浅黄橙	
29	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや密。細砂含む。 ●	7. 5YR7/6 橙	
30	深鉢	口縁部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。細砂含む。 ●	2. 5YR5/6 赤褐	
31	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	粗。細砂含む。 ●	5YR5/3 にぶい赤褐	口唇部半截竹管に よるキザミあり。

第9表 縄文時代遺構外出土遺物観察表(2)

番号	器種	部位	文様	原体・施文具	時期	胎土 繊維 (●)	色調	備考
32	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。軽石状小礫含む。 ●	7. 5YR7/4 橙	
33	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。長石含む。 ●	7. 5YR7/6 橙	
34	深鉢	胴部	刺突文。条線。	櫛歯状工具。	前期中葉	やや密。長石含む。 ●	10YR7/4 にぶい黄橙	
35	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。長石含む。 ●	7. 5YR7/4 にぶい橙	
36	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。軽石状小礫含む。 ●	7. 5YR5/3 にぶい褐	
37	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや密。細砂含む。 ●	7. 5YR6/6 橙	
38	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや密。1~2mm小礫含む。 ●	7. 5YR6/4 にぶい橙	
39	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや密。 ●	5YR4/2 灰褐	
40	深鉢	胴部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。1~2mm小礫含む。 ●	7. 5YR6/6 橙	
41	深鉢	頸部	平行沈線。	半截竹管。	前期中葉	やや粗。細砂、長石、2~3mm小礫含む。 ●	7. 5YR7/6 橙	
42	深鉢	底部	無文。		前期中葉	やや密。微砂含む。 ●	5YR6/6 橙	底径10.0cm(推)。
43	深鉢	口縁部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや粗。砂粒多量含む。	2. 5YR5/8 明赤褐	
44	浅鉢	口縁部	平行沈線。	半截竹管。	前期後半	やや密。砂粒含む。	2. 5YR6/6 橙	
45	深鉢	胴部	縄文。	単節RL横。	前期後半	密。砂粒多く含む。	5YR5/4 にぶい赤褐	円盤状に整形。
46	深鉢	底部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや粗。長石、細砂多く含む。	5YR5/4 にぶい赤褐	底径7.8cm(推)。
47	深鉢	胴部~ 底部	縄文。	単節RL横。	前期後半	やや密。雲母、軽石状小礫含む。	7. 5YR4/2 灰褐	底径8.0cm(推)。
48	深鉢	胴上部	沈線。刻文(縦)。	棒状工具。	中期中葉	やや密。軽石状小礫含む。	10YR8/4 浅黄橙	
49	深鉢	口縁部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	中期中葉	粗。砂粒含む。 ●	10YR8/4 浅黄橙	
50	深鉢	胴部	爪形刺突を持つ平行沈線。	半截竹管。	中期中葉	やや粗。細砂多く含む。 ●	5YR6/6 橙	
51	深鉢	胴部	蛇行沈線。	半截竹管。	中期中葉	砂粒、金雲母多く含む。 粗い。	5YR6/4 にぶい橙	
52	深鉢	胴部	波状文。縦。	櫛歯状工具。	中期中葉	軽石状小礫含む。	5YR7/4 にぶい橙	
53	深鉢	胴部	沈線文。 連続刺突文。	半截竹管。	中期中葉	粗。石英、2~3mm小礫多く含む。	5YR5/2 灰褐	
54	深鉢	肩部	平行沈線。連続爪形文。 隆帯。	半截竹管。	中期中葉	やや粗。片岩、長石多量含む。	2. 5YR5/6 明赤褐	2点。
55	深鉢	口縁部	縄文。	単節RL横。	中期後半	やや密。軽石状小礫含む。	5YR6/6 橙	
56	深鉢	口縁部	磨消縄文。沈線。	単節RL横。 棒状工具。	中期後半	やや粗。軽石状小礫含む。	7. 5YR7/6 橙	
57	深鉢	口縁部	縄文。	無節L。	中期後半	やや粗。軽石状小礫含む。	10YR5/2 灰黄褐	
58	深鉢	口縁部	縄文。	無節R。	中期後半	やや粗。長石、軽石状小礫含む。	10YR8/4 浅黄橙	
59	深鉢	口縁部	無文。		中期後半	やや密。雲母少量含む。	10YR8/4 浅黄橙	
60	深鉢	口縁部	縄文。	単節RL横。	中期後半	やや粗。軽石状の小礫多量含む。	5YR5/2 灰褐	
61	深鉢	口縁部	縄文。		中期後半	やや密。長石含む。	7. 5YR7/2 明褐灰	
62	深鉢	口縁部	縄文。隆帯。		中期後半	やや密。軽石状小礫多量含む。	7. 5YR7/4 にぶい橙	
63	深鉢	口縁部	縄文。		中期後半	やや密。軽石状小礫多量含む。	7. 5YR6/3 にぶい褐	

第10表 縄文時代遺構外出土遺物観察表(3)

番号	器種	部位	文様	原体・施文具	時期	胎土 繊維(●)	色調	備考
64	深鉢	口縁部	口唇部内反り状。		中期後半	やや密。砂粒、長石含む。	5YR4/1 褐灰	
65	深鉢	口縁部	縄文。隆帯。区画。	単節RL。縦。	中期後半	やや粗。軽石状小礫多量含む。	7.5YR7/6 橙	
66	深鉢	胴部	縄文。沈線。	単節RL横。	中期後半	粗。軽石状小礫多く含む。	7.5YR7/8 黄橙	
67	深鉢	胴部	沈線。縄文(区画内)。	沈線区画内単節RL。 半截竹管。	中期後半	やや密。長石含む。	7.5YR5/2 灰褐	
68	深鉢	胴部	縄文。	無節L縦。	中期後半	粗。砂粒多量含む。	2.5YR6/6 橙	
69	深鉢	胴部	磨消縄文。沈線。	単節LR横。 棒状工具。	中期後半	やや密。長石含む。	7.5YR5/2 灰褐	器肉厚い。
70	深鉢	胴部	磨消縄文。隆帯。	単節RL。	中期後半	やや粗。雲母、軽石状細砂含む。	10YR8/4 浅黄橙	
71	深鉢	胴部	条線。縦。	櫛歯状工具。	中期後半	やや粗。軽石状の小礫多量含む。	7.5YR7/4 にぶい橙	
72	深鉢	胴部	隆帯。沈線。	半截竹管。	中期後半	やや粗。長石含む。	5YR7/4 にぶい橙	
73	深鉢	胴部	平行沈線。隆帯。	棒状工具。 半截竹管。	中期後半	やや粗。粗砂含む。	7.5YR6/6 橙	
74	深鉢	胴部	沈線。縄文。	棒状工具。 単節RL横。	中期後半	やや粗。細砂多く含む。	2.5YR6/6 橙	
75	深鉢	胴部	斜位条痕文。	櫛歯状工具。	中期後半	やや粗。軽石状小礫多く含む。	7.5YR7/4 にぶい橙	
76	深鉢	胴部	条痕文。縦。	櫛歯状工具。	中期後半	粗。砂粒、軽石状小礫含む。	7.5YR6/4 にぶい橙	
77	深鉢	胴部	沈線文。	棒状工具。	中期後半	長石含む。	5YR6/6 橙	
78	浅鉢	頸部～ 胴部	磨き(ヨコ)。	ヘラ状工具。	中期後半	粗砂含む。	5YR6/6 橙	
79	深鉢	胴部	磨消縄文。	単節RL縦。 棒状工具。	中期後半	やや粗。軽石状小礫多く含む。	7.5YR7/6 橙	
80	深鉢	底部	無文。		中期後半	やや粗。長石、軽石状小礫3～7mm多く含む。	5YR6/6 橙	底径8.0cm(推)。
81	深鉢	底部	無文。		中期後半	やや粗。長石、砂粒多く含む。	5YR6/6 橙	底径8.1cm(推)。

石製品

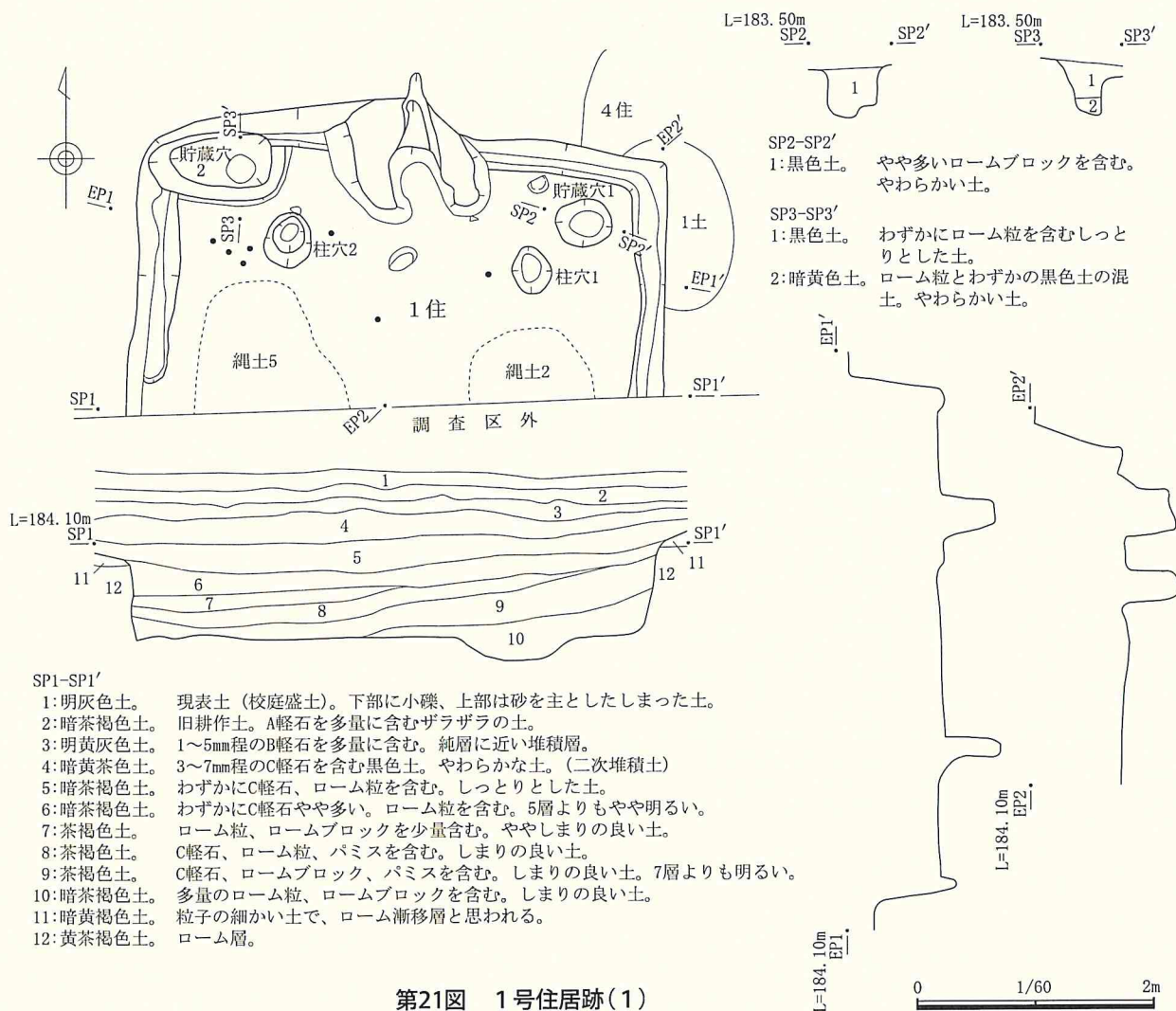
番号	器種	特徴・形態	残存状態	石材・石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
82	石錐	先端が鋭く細くなる。	ほぼ完形	頁岩	5.8	6.8	1.6	36.6	
83	打製石斧		上部欠損	頁岩	8.1	4.5	0.9	33.0	
84	削器	打撃による作成。	上部欠損	頁岩	4.3	2.4	0.7	6.9	
85	打製石斧	小形	上部欠損	硅質板岩	4.9	3.2	0.8	17.7	
86	磨製石斧	短冊形	刃部一部残存	安山岩	7.3	4.9	3.0	104.5	
87	剥片			頁岩	11.2	6.0	3.0	150.0	
88	磨石	楕円形	1/2	安山岩	10.3	9.4	4.4	550.0	
89	磨石	円形	完形	安山岩	7.7	7.5	5.6	400.0	全面研磨。
90	凹石	楕円形	一部欠損	安山岩	9.6	7.6	4.0	380.0	

第2節 古墳～平安時代

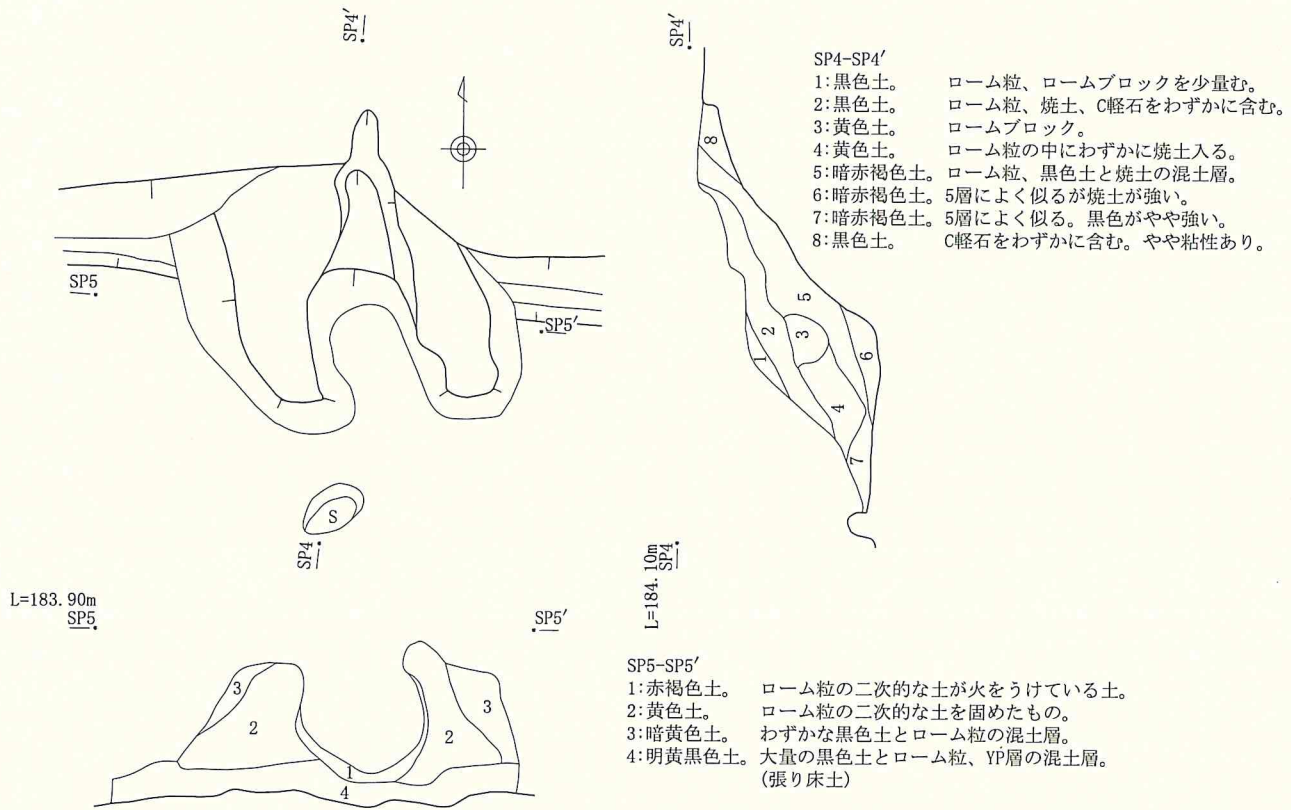
1号住居跡

調査区南側の西よりで検出された住居跡。住居跡南側の約半分は調査区域外である。縄文時代の2号・5号土坑を切って構築され、平安時代の4号住居跡と近世以降の1号土坑に切られている。遺構確認面より床面までの深さは70cm程で、竈を北壁のほぼ中央部に築き、各壁の直下には幅10～15cm、深さ10～15cmの周溝を伴う残存状況の良い住居跡である。規模は東西4.45m、南北は2.6mまで調査できたが南側が調査区域外となるため計測不可能であるが、おそらく隅丸方形の平面形を有する住居跡と考えられる。竈を主軸とした方位はN-1°-Eである。柱穴は調査できた範囲で2基検出されており、住居跡平面形に合わせた形で4基のものと考えられる。柱穴間の間隔は約2mで2基ともに床面からの深さは50cm程である。

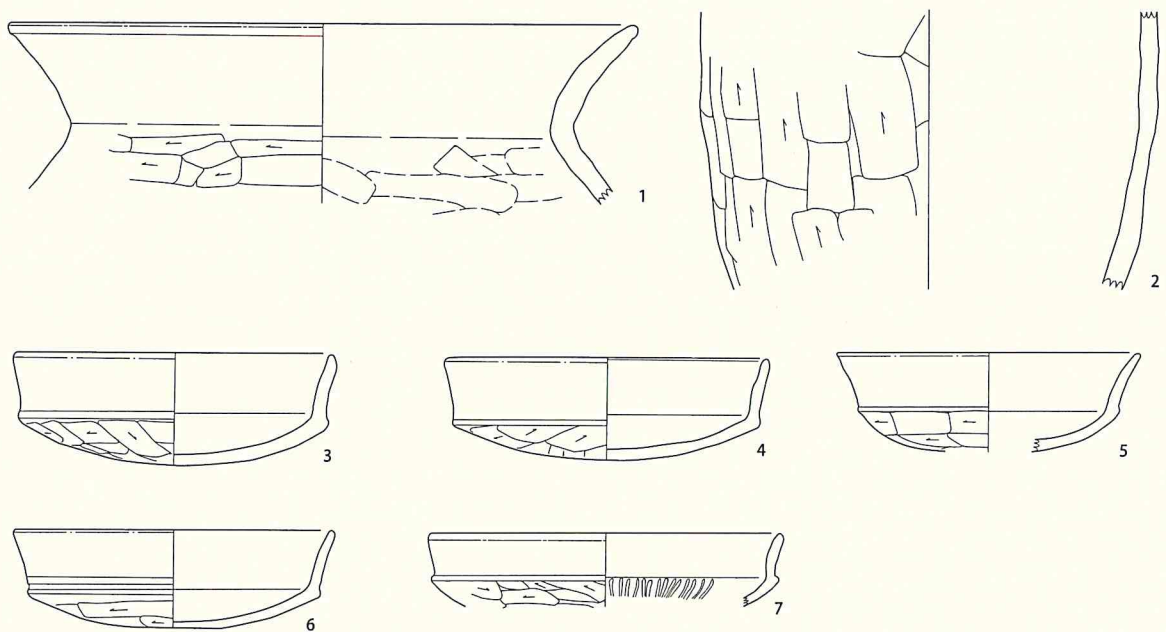
竈は前述のごとく北壁のほぼ中央部に築かれており、燃焼部奥から煙道部は北壁をU字状に切り込み、両袖部分はロームを主体とした土で築いている。規模は、焚口部幅40cm、焚口部から燃焼部奥まで60cm、燃焼部奥から煙道部まで62cmである。貯蔵穴は北東隅および北西隅から検出された。北西隅の貯蔵穴は壁面から直接掘り込んでいもので東西90cm、南北60cm程を約15cm掘り下げた長楕円形の中をさらに直径50cm程の円形状に掘り込み40cm程掘り込んだものである。北東隅で検出された貯蔵穴は、隅部から20cmの場所に直径50cm程を円形状に50cm程掘り込んだものである。遺物は甕片と坏類が散在的に検出されている。遺物から推定される住居跡の時期は6世紀後半と考えられる。



第21図 1号住居跡(1)



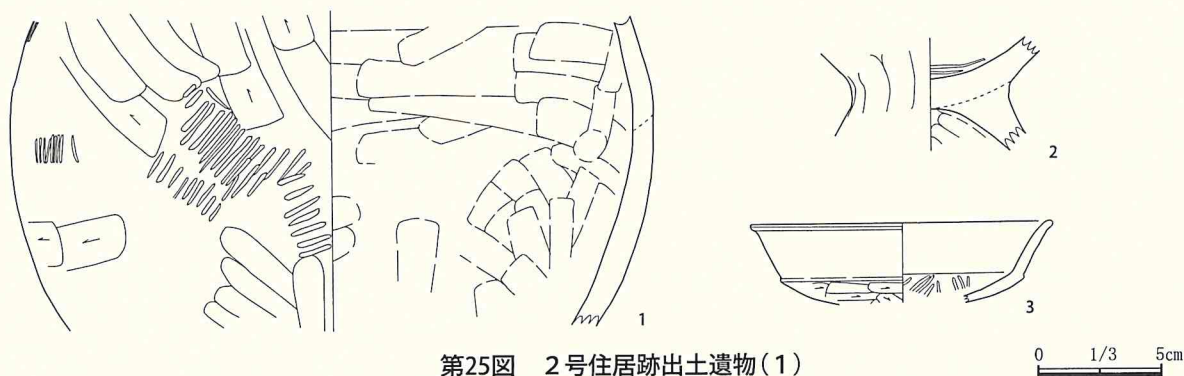
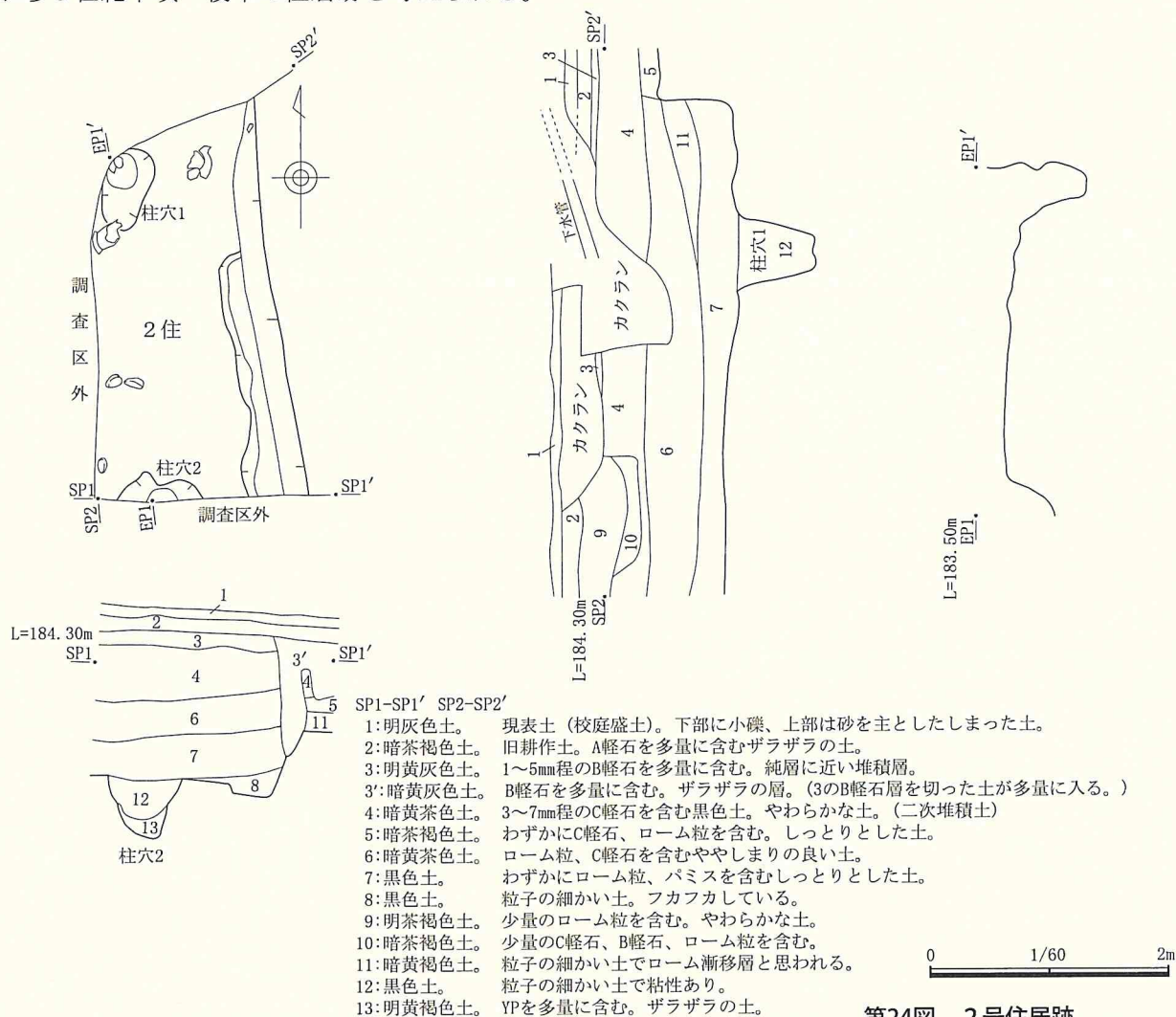
第22図 1号住居跡(2)

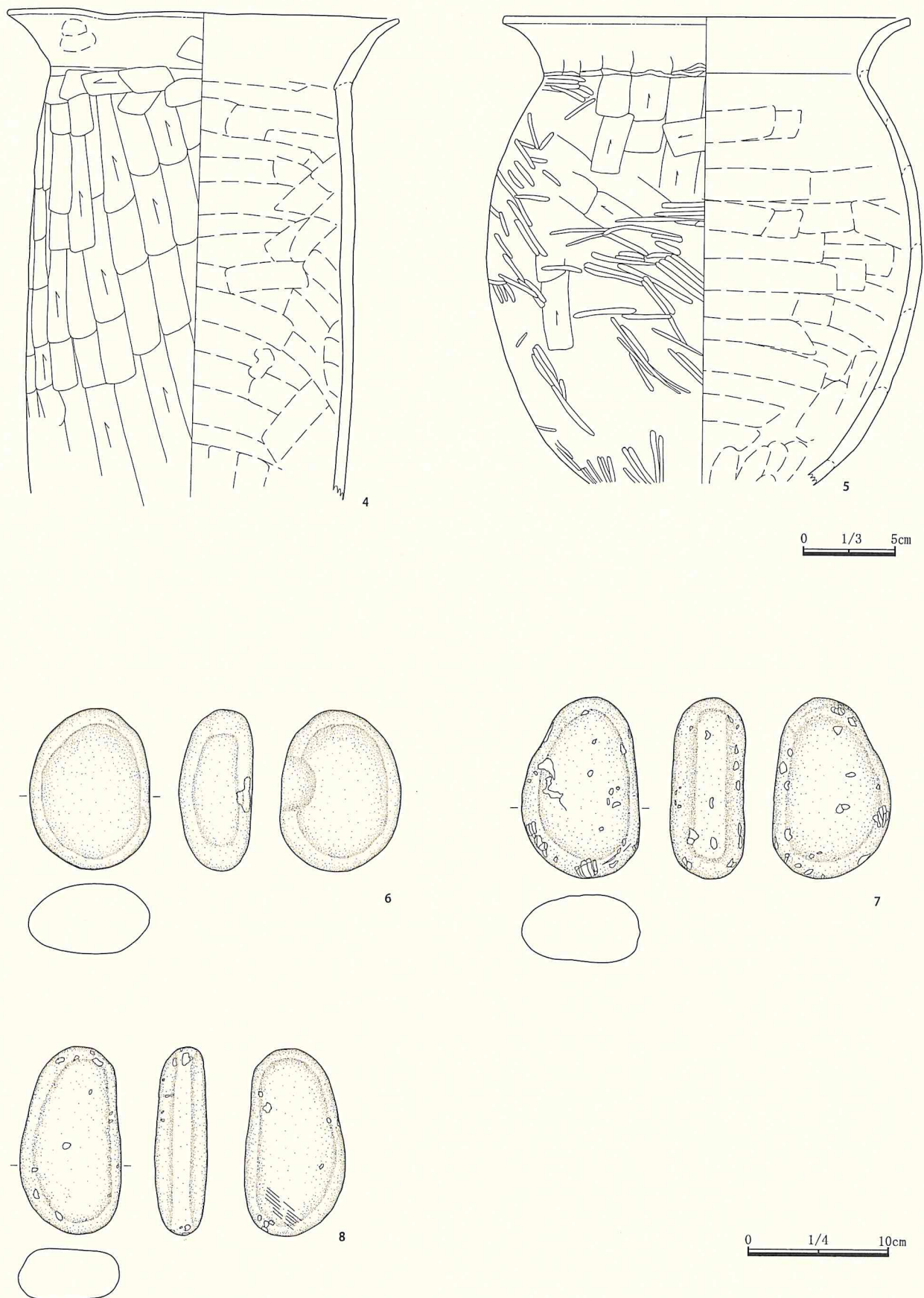


第23図 1号住居跡出土遺物

2号住居跡

調査区西隅で検出された住居跡。住居跡の大部分が調査区域外であり、確認されたのは東西1.8m、南北3.3mで住居跡の東側部分のみである。このため、住居跡の平面形や規模および竈・貯蔵穴等については不明である。このような状況のなかで得られた情報は、南北に伸びる東壁とその直下の周溝、柱穴2基のみである。東壁を軸とした方位はN-6°-Wで、遺構確認面から床面までの深さは65cm、周溝の幅20cm、深さ10cm程、南北で確認された柱穴間の間隔は約2.6mであった。遺物は北側の柱穴付近で壺、甕類が、中央から南部分でやや細長い楕円形の自然石数点が発見されている。遺物の特徴から6世紀中頃～後半の住居跡と考えられる。



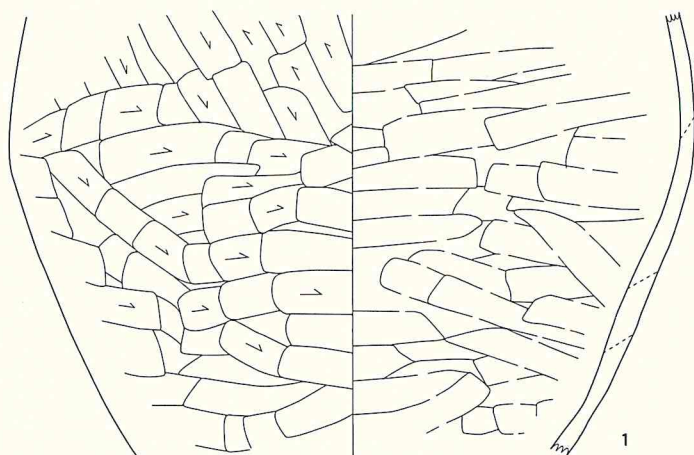
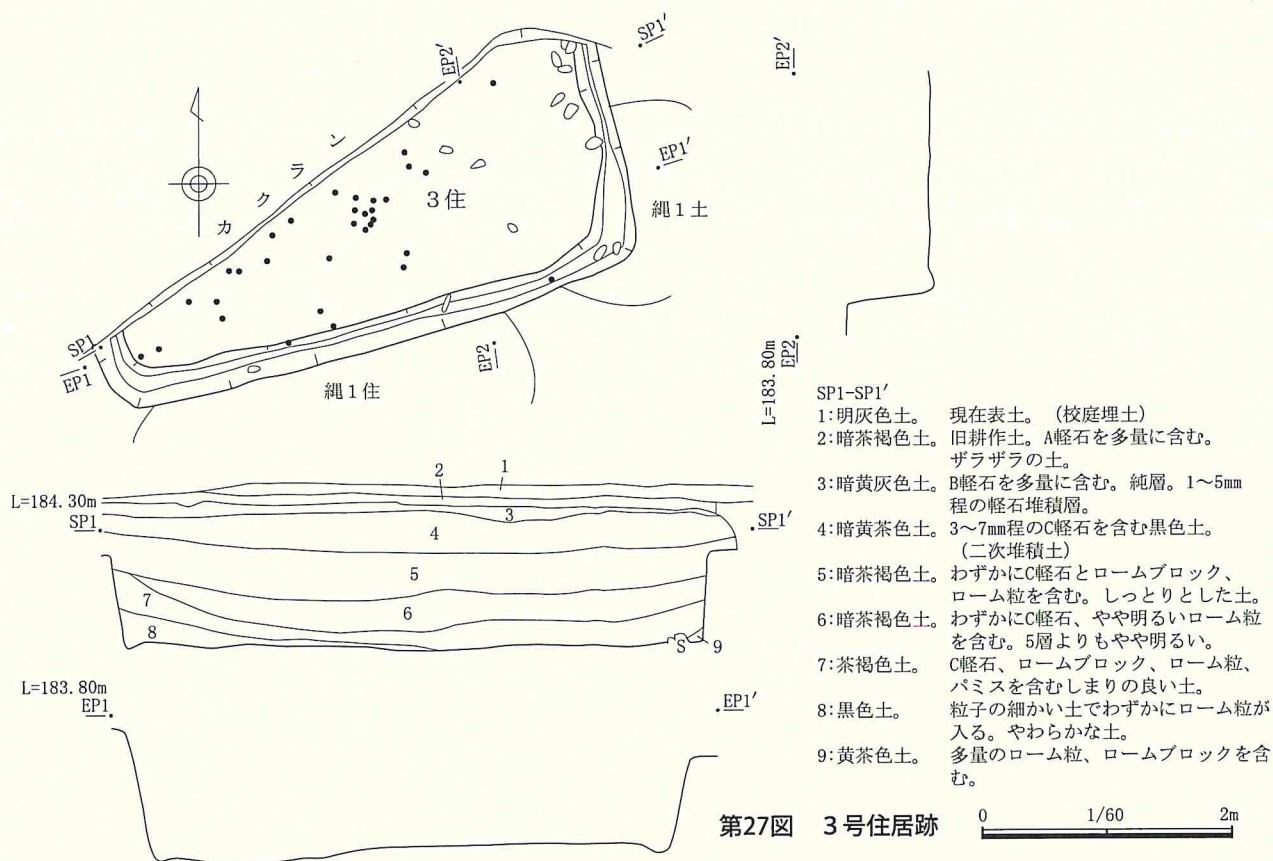


第26図 2号住居跡出土遺物(2)

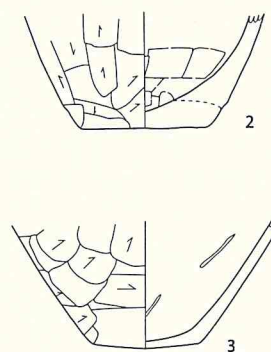
3号住居跡

調査区北側の西よりで検出された住居跡。縄文時代の1号住居跡と1号土坑を切って構築され、住居跡北側の約半分が攪乱を受けているとともに調査区域外である。

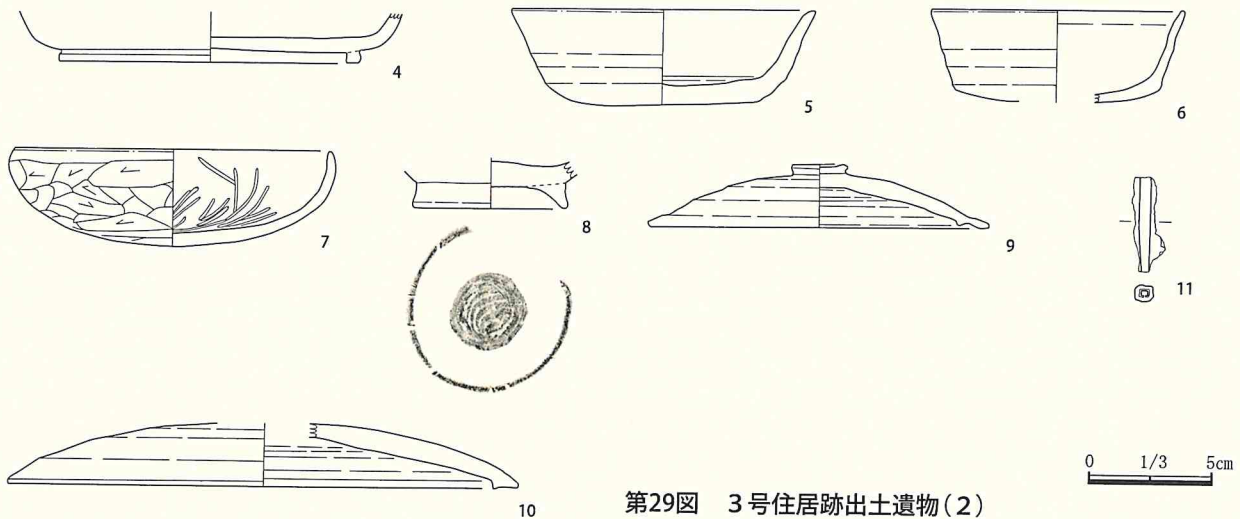
遺構確認面より床面までの深さ72cm程で、各壁の直下には幅10~15cm、深さ5~10cmの周溝が確認された。規模は東西4.5m、南北は2.1mまで調査できたが北側が攪乱となるため計測不可能であるが、隅丸方形か隅丸長方形の平面形を有する住居跡と考えられる。東壁を軸とした方位はN-20°-Wである。調査範囲内からは柱穴、貯蔵穴、竈は確認されなかった。遺物は、ほぼ全面から散発的に甕・坏等の土師器類の他、須恵器の坏・蓋等が発見されている。遺物から8世紀後半から9世紀前半の住居跡と考えられる。



第28図 3号住居跡出土遺物(1)



0 1/3 5cm

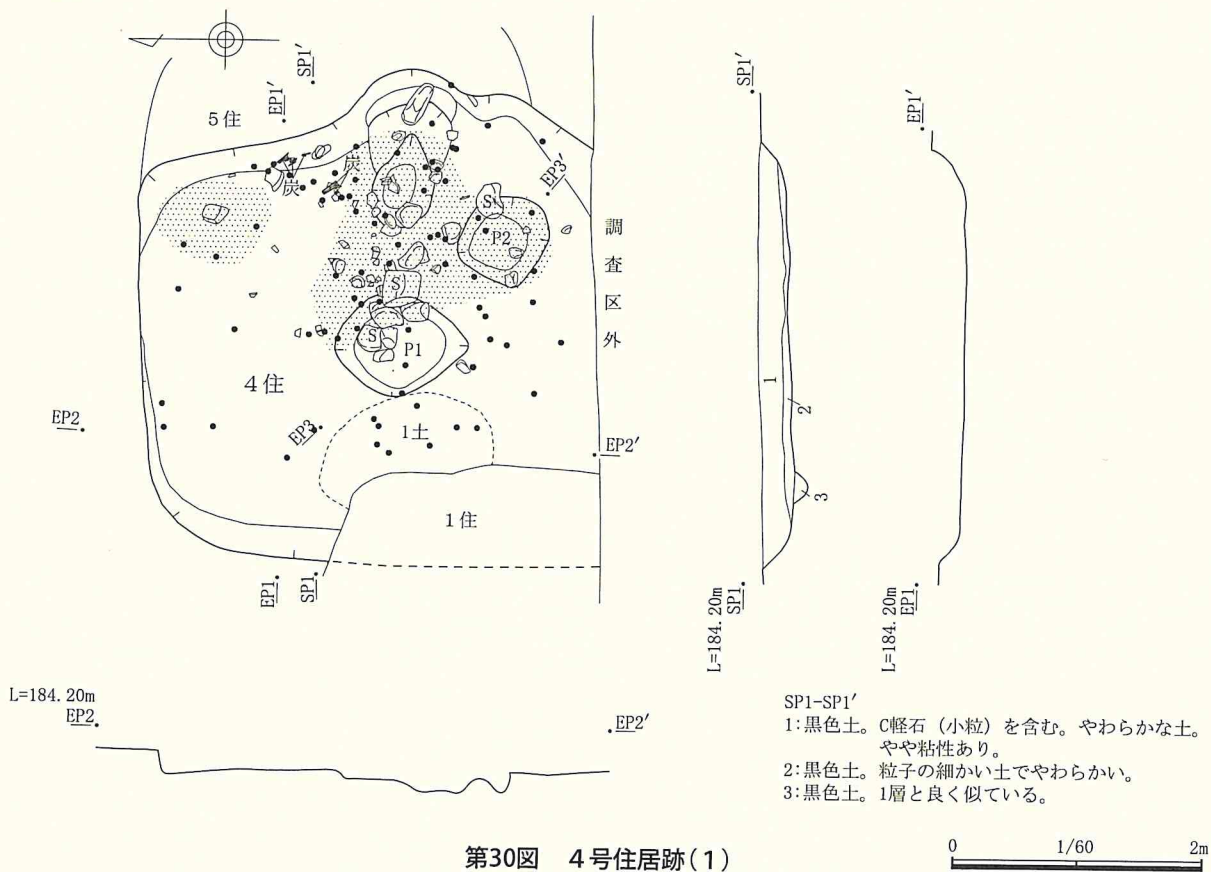


第29図 3号住居跡出土遺物(2)

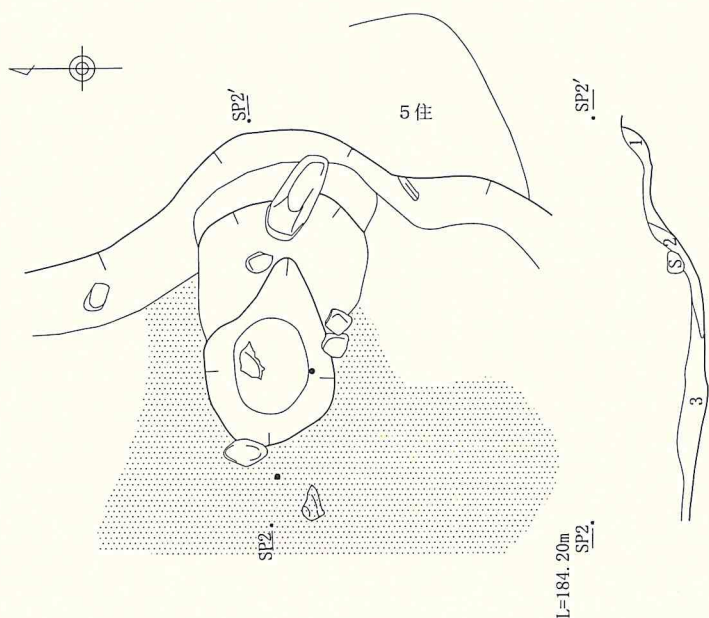
4号住居跡

調査区東側の南で検出された住居跡。古墳時代1号住居跡、平安時代5号住居跡を切って構築され、近世以降の1号土坑に一部切られた住居跡で南側の一部は調査区域外である。遺構確認面より床面までの深さは22cm程で、南部が調査区域外のため計測できた範囲内での規模は東西3.45m、南北3.65m以上のやや南北に長い隅丸長方形の平面形を持つ住居跡と考えられる。竈を主軸とした方位はN-86°-Eである。

竈は、東壁の中央部より僅かに南側で検出された。残存状況が悪く詳細は不明であるが、遺物はほぼ全面から散発的に羽釜、高台付碗等の須恵器を中心とした10世紀代と考えられる土器類が出土している。



第30図 4号住居跡(1)

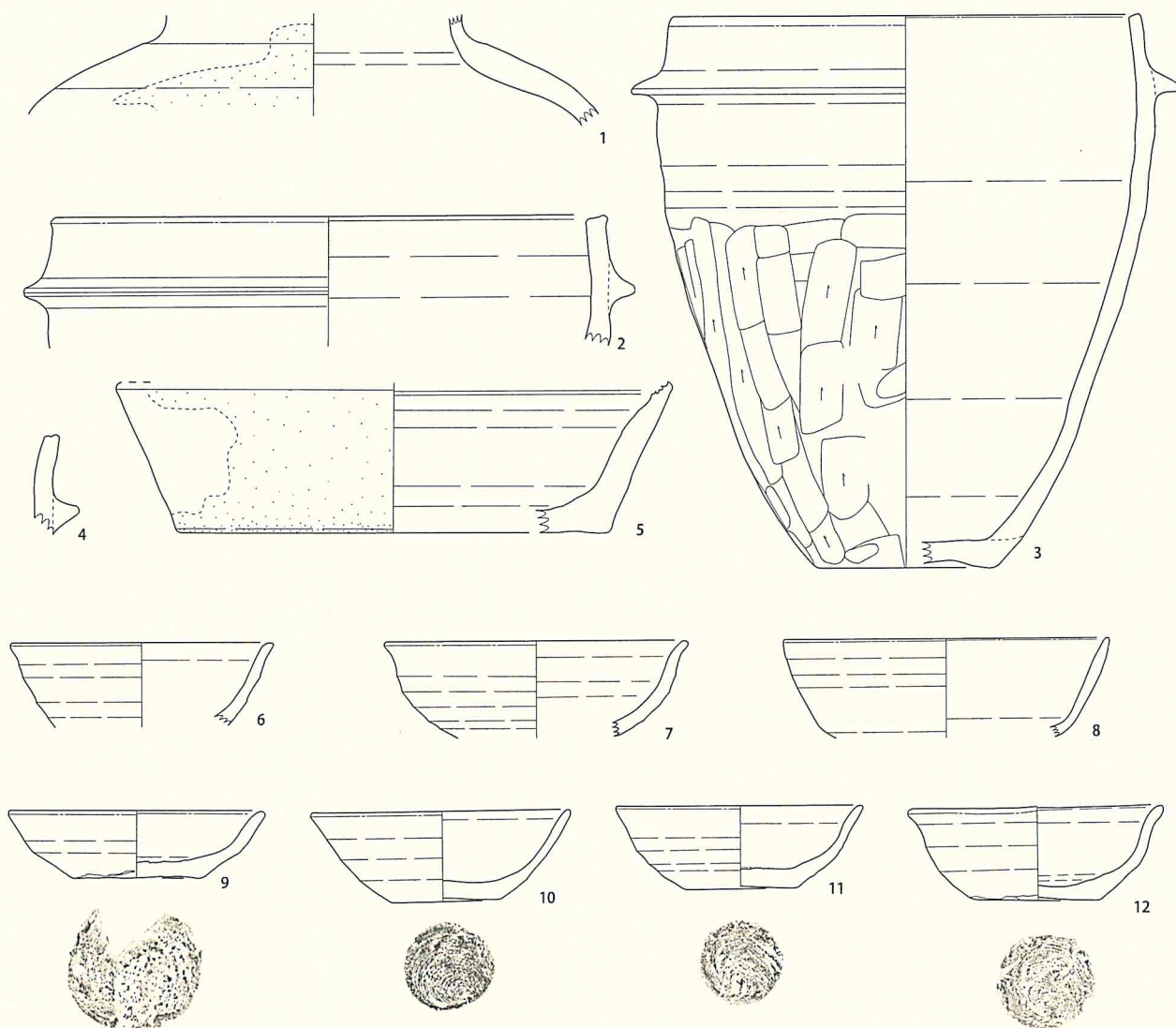


SP2-SP2'

- 1: 黒色土。 5号住居土。C軽石を含むやわらかな土。
2: 暗赤褐色土。 竈に利用のロームが赤く焼けている土。
3: 暗灰色土。 灰、焼土、黒色の混土層。やわらかい土。

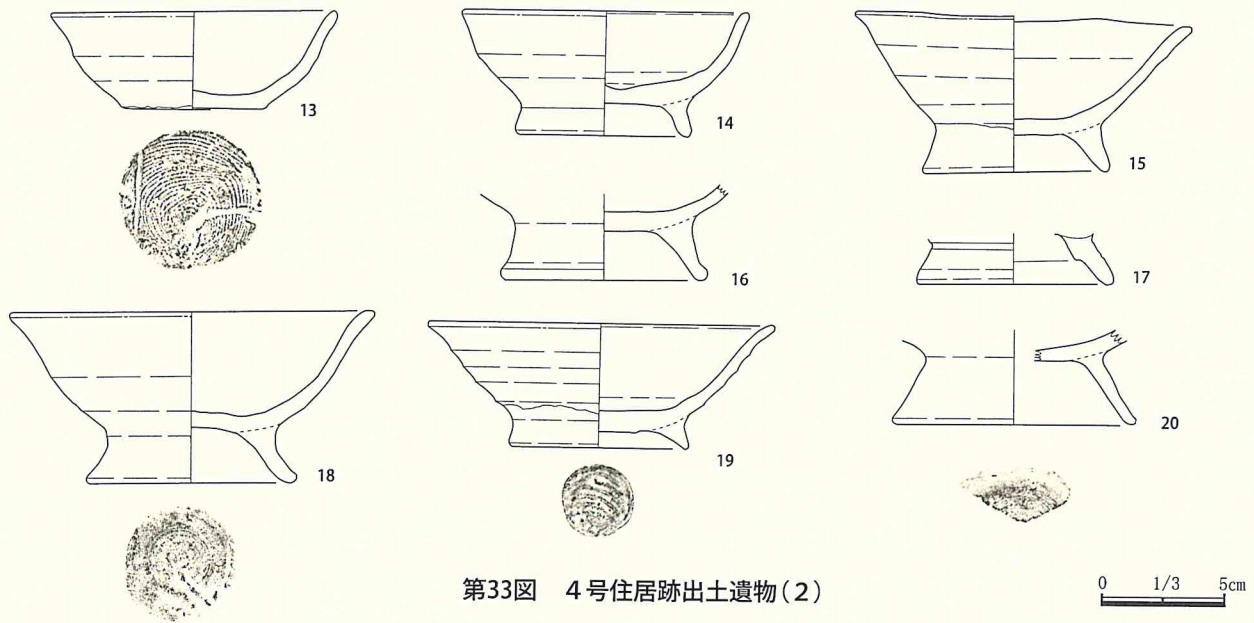
0 1/30 50cm

第31図 4号住居跡(2)



第32図 4号住居跡出土遺物(1)

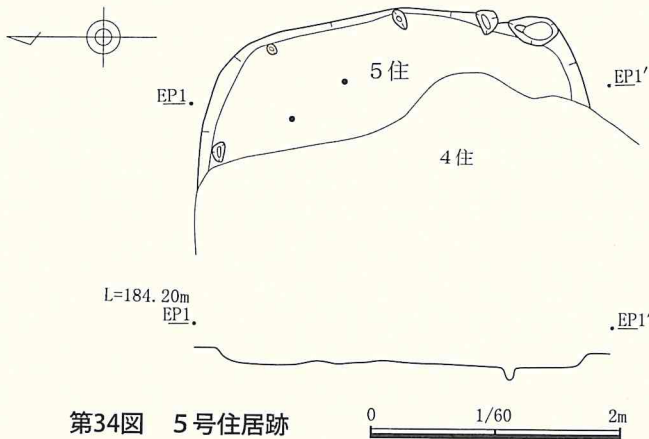
0 1/3 5cm



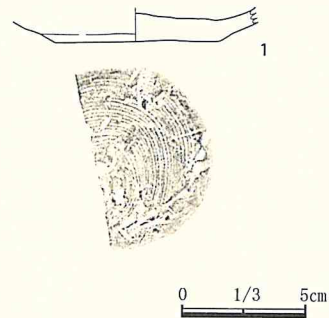
第33図 4号住居跡出土遺物(2)

5号住居跡

調査区東側の南で検出された住居跡。4号住居跡に住居跡西側の大部分が切られた住居跡で残存状況は非常に悪かった。遺構確認面より床面までの深さは10cm程で、計測できた範囲内での規模は東西1m以上、南北3.1mで隅丸長方形の平面形を持つ住居跡と考えられる。東壁を軸としたときの方位はN-6°-Wである。遺物は坏片1点のみであるが9世紀前半から中頃のものと考えられ、住居跡もその時期と考えられる。

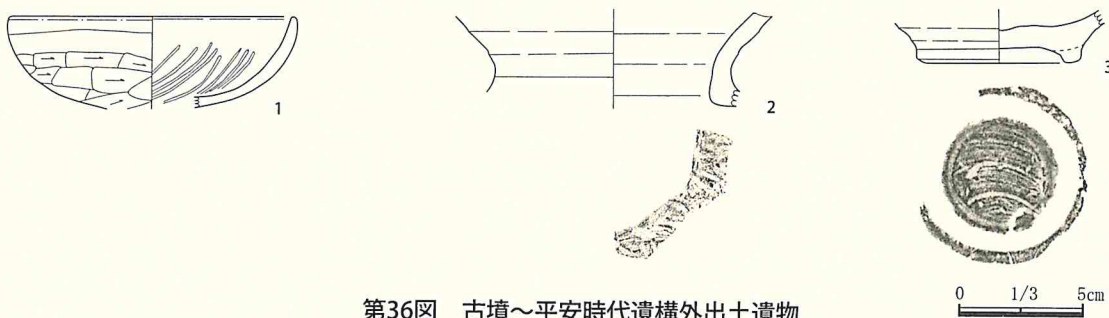


第34図 5号住居跡



第35図 5号住居跡出土遺物

古墳～平安時代遺構外出土遺物



第36図 古墳～平安時代遺構外出土遺物

第11表 1号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	甕 (土師器)	口縁～ 肩部	やや粗。 砂粒含む。	良好。 やや硬質。	5YR7/6 橙	25.0(推)	口縁部「く」の字状。 外反。	外：口縁部から頸部ヨコナデ。 肩部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。ヘラナ デ。ユビナデ。	
2	長胴甕 (土師器)	胴部	粗。小礫多 量含む。	良好。	2. 5YR6/6 橙		胴部やや直線的。	外：タテヘラケズリ。 内：ナデ。	最大径 胴部中央部。
3	坏 (土師器)	口縁～ 底部	密。2～4mm 小礫含む。	やや良好。 軟質。	2. 5YR7/8 橙	12.9 4.5	口縁部下端に稜を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナ デ。	残存率75%
4	坏 (土師器)	口縁～ 底部	密。2～3mm 粗砂含む。	やや良好。 軟質。	5YR7/8 橙	13.1(推) 4.2	口縁部下端に稜を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。	残存率40%
5	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 砂粒含む。	やや良好。 軟質。	5YR7/6 橙	12.2(推) 3.9(推)	口縁部外反。口縁部下 端に稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナ デ。	
6	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 砂粒含む。	やや不良。 軟質。	5YR7/8 橙	12.8(推) 4.0	口縁部下端に稜を持つ。 丸底。3本沈線めぐらす。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナ デ。	
7	坏 (土師器)	口縁～ 体部	普通。 細かい砂含む。	やや良好。 やや軟質。	2. 5YR6/8 橙	14.0(推)	外面口縁部下端に明瞭 な稜を持つ。底部丸底 か。	外：体部回転ナデ。体部手持 ちヘラケズリ。 内：口縁回転ナデ。受部ヘラ ミガキ。	

第12表 2号住居跡遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	甕 (土師器)	胴部	密。微砂。 しまっている。	良好。 やや硬質。	7. 5YR7/4 にぶい橙		丸みを持つ。	外：ヘラケズリ後ナデ。ヘラ ミガキ。 内：ヘラナデ。指圧痕。	最大径 胴部中央部。
2	台付甕 (土師器)	台部	粗。砂粒多 く含む。1 ～2mm小礫、 石英含む。	やや良好。	2. 5YR6/6 橙		台部厚い作り。	外：タテユビナデ。 内：ナデ2mm幅沈線2本。 ユビナデ。	内黒。
3	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。	やや不良。 軟質。	5YR7/6 橙	12.0(推)	口縁部外傾。口唇部や や外反。口縁部下端に 明瞭な稜を持つ。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。受部ヘ ラミガキ。	
4	長胴甕 (土師器)	口縁～ 胴部	粗。砂粒、 小礫多く含 む。	良好。 やや硬質。	2. 5YR6/4 にぶい橙	21.0	口縁部外反。胴部やや 直線的。	外：口縁部ヨコナデ。ユビナ デ。頸部ヨコヘラナデ。 胴部タテヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘ ラナデ。	
5	甕 (土師器)	口縁～ 胴部	粗。石英含 む。2～5mm 小礫多量含 む。	良好。 やや硬質。	5YR5/6 明赤褐	22.0(推)	口縁部弓状に大きく外 反。最大径胴部中央。	外：口縁部ヨコナデ。ヘラケ ズリ後荒いヘラミガキ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヨ コヘラナデ。下部ユビナ デ。	

石製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	石材・石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
6	菰編石	拳大の自然石	完形	安山岩	11.0	8.2	5.1	600.0	両面磨った使用痕あり。
7	菰編石	拳大の自然石	完形	安山岩	13.0	8.6	5.4	830.0	両面磨った使用痕あり。
8	菰編石	拳大の自然石	完形	安山岩	13.6	7.3	3.7	580.0	両面磨った使用痕あり。

第13表 3号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径(cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	甕 (土師器)	胴部	粗。小礫多 量含む。	良好。 やや硬質。	5YR6/6 橙			外：ヘラケズリ後ナデ。 内：ナデ。	最大径 胴中央部か。
2	甕 (土師器)	胴部～ 底部	粗。石英少 量、粗砂多 量含む。	やや不良。 やや軟質。	7.5YR7/4 にぶい橙	5.0(推)	小型。平底。	外：胴部タテヘラケズリ。底 部ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
3	甕 (土師器)	胴部～ 底部	やや粗。石 英粒少量、砂 粒多く含む。	良好。 やや硬質。	7.5YR6/6 橙	4.5	器肉薄い。胴部直線的 に外傾。底部小さい。	外：ナナメヘラケズリ。ヨコ ヘラケズリ。 内：ナデ。	
4	鉢 (須恵器)	体部～ 底部	密。白色微 砂粒含む。	良好。	2.5YR6/1 黄褐	11.8(推)	ロクロ成形。底部回転 ヘラ切り。付け高台。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
5	坏 (須恵器)	口縁～ 底部	やや密。 細砂。	やや良好。 硬質。	5Y7/1 灰白	12.3 4.0 7.0	ロクロ成形。口縁部や や外反。	外：ロクロナデ。底部手持ち ヘラケズリ。 内：ロクロナデ。	
6	坏 (須恵器)	口縁～ 底部	密。微砂。	良好。硬 質。しまり 良い。	10YR4/1 褐灰	10.2(推) 3.7(推)	ロクロ成形。体部直線的 にやや外傾。底部わ ずかに丸みを持つ。	外：ロクロナデ。底部手持ち ヘラケズリ後ナデ。 内：ロクロナデ。	
7	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。砂 粒多く含む。	良好。 やや軟質。	5YR6/6 橙	12.6 3.9	口縁から体部内湾し、 口縁部さらに内湾。体 部から底部丸みを持つ。	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘ ラケズリ。 内：ヘラミガキ。	
8	埴 (土師器)	高台部	やや密。石 英粒、細砂 含む。	良好。 やや硬質。	5Y7/6 橙	6.2	ロクロ成形。底部回転 糸切り後付け高台。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
9	蓋 (須恵器)	摘み部 縁部	密。白色微 砂粒含む。	良好。硬 質。	N6/ 灰	13.8(推) 2.5(推) 2.4(推)	ロクロ成形。摘み部扁 平ドーム状を呈する。	外：回転ヘラケズリ。ロクロ ナデ。 内：ロクロナデ。	
10	蓋 (須恵器)	ドーム 部	普通。 白色、黒色 砂粒含む。	良好。 やや硬質。	2.5Y8/1 灰白	20.4(推)	ロクロ成形。ドーム状 を呈する。	外：回転ヘラケズリ後ナデ。 内：ロクロナデ。	
11	鉄鏃	茎部か				長 3.8 幅 0.5 厚 0.4 重 4.0g		袋状に折り込み。	

第14表 4号住居跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径(cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	壺 (須恵器)	頸部～ 肩部	やや密。2 ～4mm小礫 含む。	良好。 硬質。	2.5YR7/1 灰白		ロクロ成形。頸部器肉 薄い。肩部器肉厚い。	外：頸部ロクロナデ。肩部ヘ ラナデ。 内：ロクロナデ。ヘラナデ。	外面自然釉 付着。
2	羽釜 (須恵器)	口縁～ 鏝部	粗砂。2～4 mm小礫多 く含む。	良好。 硬質。	10YR7/1 灰白	23.6(推)	ロクロ成形。口縁部や や内傾。鏝部貼り付け。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
3	羽釜 (須恵器)	口縁～ 底部	やや粗。2 ～4mm小礫 含む。	やや良好。 硬質。	10YR6/2 灰黄褐	20.0(推) 23.6(推) 7.7(推)	口縁部鏝上器肉薄い。 鏝部貼り付け。	外：口縁から鏝下5cmロクロナ デ明瞭。胴部タテヘラケ ズリ。ユビナデ。 内：ロクロナデ。	残存率65%
4	羽釜 (須恵器)	口縁～ 鏝部	やや密。	やや良好。 やや硬質。	7.5YR8/4 浅黄橙		ロクロ成形。口唇部平 らで1mmの沈線めぐら す。鏝部貼り付け。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
5	鉢 (須恵器)	口縁～ 底部	密。微砂含 む。	良好。 硬質。	N5/ 灰	18.4(推)	ロクロ成形。体部外傾。 底部ヘラ切り後調整。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	口縁部欠損。 外面自然釉 付着。(秋間 産か)
6	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	普通。1～2 mm小礫多 く含む。	やや良好。 やや硬質。	7.5YR6/3 にぶい褐	11.3(推)	ロクロ成形。口縁部外 反。ロクロ目明瞭。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
7	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	普通。白色 鈎物含む。 2～3mm小礫 多く含む。	良好。 やや硬質。	7.5YR6/4 橙	13.0(推)	ロクロ成形。口縁部外 反。体部丸みを持つ。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
8	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	密。1～2mm 小礫少量含 む。	良好。 硬質。	10YR6/1 褐灰	14.0(推)	ロクロ成形。体部やや 直線的に開く。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	

第15表 4号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径(cm)	器形・成形	整形・調整	備考
9	埴 (須恵器)	口縁～ 底部	やや粗。2 ～5mm小礫 含む。	やや良好。 やや硬質。	5YR6/6 橙	10.9(推) 2.9 5.7	ロクロ成形。口縁上部 やや外反。底部右回転 糸切り。無調整。	外:ロクロナデ。体部中央か ら下部回転ヘラケズリ。 内:ロクロナデ。	内面底部作 り雑。(めく れている)
10	埴 (須恵器)	完形	やや粗。 小礫含む。	酸化焰 焼成。	10YR8/4 浅黄橙	11.0 3.9 4.5	体部ゆるやかな丸みを 持ち開く。底部回転糸 切り無調整。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。	
11	埴 (須恵器)	口縁～ 底部	やや粗。 小礫含む。	酸化焰 焼成。	2.5YR6/6 橙	10.5 3.6 4.8	口縁部外反。体部ふく らみを持つ。底部右回 転糸切り無調整。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。	残存率75%
12	埴 (須恵器)	口縁～ 底部	やや粗。 小礫含む。	酸化焰 焼成。	10YR3/1 黒褐	11.0(推) 3.9 5.6	口縁部外反。体部ふく らみを持つ。底部右回 転糸切り無調整。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。	残存率70%
13	埴 (須恵器)	ほぼ完 形	やや粗。 2～7mm小礫 含む。	酸化焰 焼成。	7.5YR7/6 橙	11.6 4.0 5.7	ロクロ成形。口縁部外 反。底部右回転糸切り 離し。無調整。	外:口縁から体部中央ロク ロナデ。体部中央から下 部回転ヘラケズリ後ロク ロナデ。 内:ロクロナデ。	残存率95%
14	高台付埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	やや密。 細砂含む。	やや良好。 やや硬質。	7.5YR8/3 浅黄橙	11.5(推) 5.0 高台径7.0	ロクロ成形。体部中央 丸みを持つ。体部から 高台部なだらかな。底 部回転糸切り後足高付 け高台。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。	残存率60%
15	高台付埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	粗砂、砂粒 含む。2～4 mm小礫多く 含む。	やや不良。	10YR8/3 浅黄橙	13.6 6.5 7.5(推)	ロクロ成形。口縁部外 反。足高付け高台。	外:ロクロナデ。底部回転ナ デ。 内:ロクロナデ。	ゆがみあり。 高台貼り付 け雑。 残存率90%
16	高台付埴 (須恵器)	体部～ 高台部	やや密。砂 粒、石英粒 含む。	やや良好。	2.5YR6/6 橙	8.0	ロクロ成形。底部回転 糸切り後足高付け高台。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。	高台部丁寧 な作り。
17	高台付埴 (須恵器)	高台部	粗砂。砂粒 多く含む。	やや不良。	7.5YR7/6 橙	7.9	足高付け高台。高台内 側に段あり。高台部中 央に稜を持つ。	外:ロクロナデ。坏身と高台 接着部に2mm幅沈線めぐ らす。 内:ロクロナデ。	接着不完全。 (剥離)
18	高台付埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	やや粗。砂 粒、石英粒 多く含む。	やや不良。	7.5YR7/6 橙	14.6(推) 6.9 8.5	ロクロ成形。口縁部外 反。体部下半やや丸み を持つ。足高付け高台。	外:ロクロナデ。後底部丁寧 に回転ナデ。 内:ロクロナデ。	残存率50%
19	高台付埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	やや密。砂 粒、石英粒 多く含む。	やや良好。 やや硬質。	5YR6/6 橙	14.0 4.8 7.3(推)	ロクロ成形。口縁部外 反。ロクロ目明瞭。底 部回転糸切り後付け高 台。	外:ロクロナデ。底部回転ナ デ。 内:ロクロナデ。	外面高台貼 り付け雑。 残存率80%
20	高台付埴 (須恵器)	高台部	やや密。細 砂、石英粒 含む。	やや良好。 硬質。	5YR4/1 褐灰	9.8(推)	ロクロ成形。底部回転 糸切り後足高付け高台。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。	高台部丁寧 な作り。

第16表 5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径(cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	坏 (須恵器)	底部	密。 砂粒含む。	良好。 硬質。	2.5YR7/1 灰白	6.4(推)	底部回転糸切り後調整。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。	

第17表 古墳～平安時代遺構外出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径(cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	坏 (土師器)	口縁～ 底部	密。 砂粒含む。	やや良好。	5YR6/6 橙	11.6(推) 3.6(推)	口縁部内湾。丸底。	外:口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内:口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。	
2	壺 (須恵器)	頸部	密。 砂粒含む。	良好。 硬質。	10YR6/1 褐灰		ロクロ成形。頸部大き く外反。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。肩部叩き締 め痕あり。	
3	埴 (須恵器)	高台部	密。 粗砂含む。	良好。 硬質。	2.5YR7/1 灰白	5.6	ロクロ成形。底部回転 糸切り後付け高台。	外:ロクロナデ。 内:ロクロナデ。	

うしろひきまもとやしき

後疋間元屋敷遺跡

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

平成25年3月に高崎市教育委員会事務局教育総務課（以下、「教育総務課」）より高崎市立国府小学校プール建て替え事業が計画された。事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、教育総務課より高崎市教育委員会文化財保護課（以下、「文化財保護課」）に確認調査の依頼があった。また、教育総務課より文化財保護法第94条に基づく通知が文化財保護課に提出された。

本遺跡周辺では、同一台地上に所在する後疋間遺跡において昭和60年度から62年度まで圃場整備に伴う発掘調査が実施されている（後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ）。これらの調査では60軒以上の竪穴住居跡が検出されており、古墳時代後期および奈良・平安時代の集落が展開している様相が確認されている。これらの調査成果より、本事業地においても同様の遺構の検出が想定された。

過年度の調査成果を受け、教育総務課と文化財保護課との間で埋蔵文化財保護の協議を行ったが、教育総務課より事業計画の変更は困難であるとの回答を得た。事業予定地内において検出されることが予測される古墳時代や平安時代の竪穴住居跡をはじめとする埋蔵文化財への工事による影響は不可避とのことであったため、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。

第2節 日誌抄

調査の経過を調査日誌より一部抜粋する。	9月26日	C区トレンチ掘削。
9月12日 現地調査開始。重機による表土掘削。	9月27日	A区全景写真撮影。
9月13日 遺構確認。竪穴住居等を検出。	10月 1日	3号住から紡錘車出土。
9月18日 B区トレンチ2本掘削。	10月 3日	基準杭測量。
9月20日 3号住から須恵器高坏出土。	10月 4日	埋め戻し完了。現地撤収。

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

後疋間元屋敷遺跡は、高崎市の北東部、群馬地域（旧群馬郡群馬町）の後疋間町に位置している。

群馬地域は榛名山南東麓の相馬ヶ原扇状地の裾部に位置し、北西から南東方向に入る後背湿地および谷底平野により起伏に富んだやや複雑な地形となっている。本遺跡周辺は南を染谷川、北を染谷川の支流である「弁天谷」に挟まれた台地状を呈する地形となっており、本遺跡はこの台地上北東縁に立地している。弁天谷を遡ると北谷遺跡が、下って染谷川と合流する地点に国分寺跡が所在する。

なお、遺跡地の標高は現地表面でおよそ131mである。

第2節 歴史的環境

後疋間元屋敷遺跡(1)が立地する台地上および周辺には数多くの遺跡が点在している。本遺跡と同一台地上には後疋間遺跡(2)がある。後疋間遺跡では圃場整備に伴う発掘調査の結果、古墳時代後期および平安時代の竪穴住居跡60軒以上が検出されており、遺跡の内容や立地の関係から、本遺跡と一連の集落域となる可能性が考えられる。以下、時期別に周辺遺跡を概観する。

縄文時代 染谷川の東岸には上野国分僧寺・尼寺中間地域(21)において前期の竪穴住居跡や中期後半の拠点集落が存在している。

弥生時代 染谷川西岸の元総社西川遺跡では弥生時代末～古墳時代初頭の竪穴住居跡が検出されており、牛池川南岸の上野国分僧寺・尼寺中間地域では中期～後期の集落跡および後期の方形周溝墓が確認されている。



1. 後疋間元屋敷遺跡 (本報告)
2. 後疋間遺跡
3. 西国府遺跡群
4. 北谷遺跡
5. 西三社免遺跡
6. 小池遺跡
7. 諏訪西遺跡
8. 冷水村東遺跡
9. 西国府新田遺跡
10. 金古町裏遺跡
11. 東久保古墳群
12. 寝保窪古墳群
13. 棟高遺跡群
14. 菅谷遺跡群
15. 塚田中原遺跡
16. 塚田の場・引間秋葉遺跡
17. 上野国分寺跡
18. 上野国分尼寺跡
19. 山王廃寺
20. 国分境遺跡
21. 上野国分僧寺・尼寺中間地域

第1図 周辺遺跡位置図

古墳時代 前期では上野国分僧寺・尼寺中間地域の他、鳥羽遺跡、西三社免遺跡(5)、小池遺跡(6)、塚田中原遺跡(15)において竪穴住居跡が散見される。中期では鳥羽遺跡や西三社免遺跡で少数の竪穴住居跡が確認されているが、5世紀後半以降になると鳥羽遺跡や後疋間遺跡、西国分遺跡群(3)、諏訪西遺跡(7)、冷水村東遺跡(8)などで6世紀初頭の榛名山を給源とするテフラに埋没する集落が確認される。また、本遺跡より北西850mの同一台地上には首長居館の北谷遺跡(4)が所在しており、



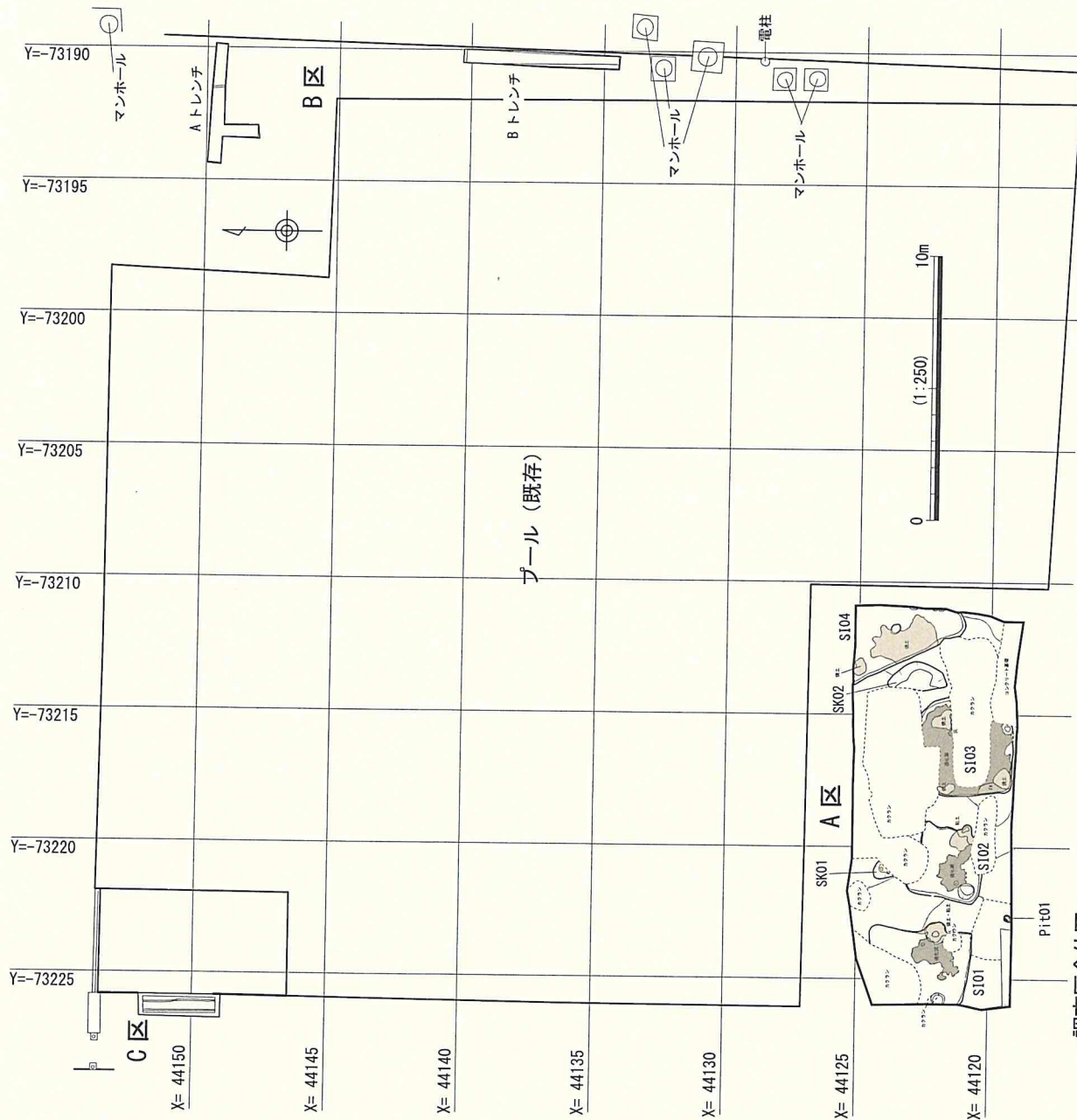
第2図 後疋間遺跡・後疋間元屋敷遺跡位置図

染谷川流域において一定のまとまりを以て遺跡が立地する様相が確認できる。また、群馬地域北部の各河川流域において7世紀を中心とする多数の円墳による群集墳が築かれている。

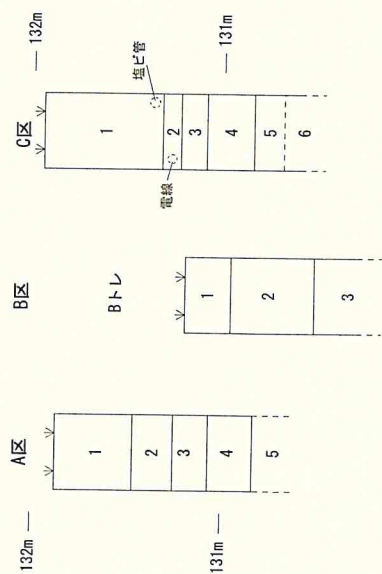
奈良・平安時代 本遺跡より北東1.5～2.3kmには群馬県でも最初期の寺院となる山王廃寺跡(19)および7世紀代の大型方墳・宝塔山古墳、蛇穴山古墳がある総社古墳群が所在する。また、本遺跡東450mには8世紀中頃に造営された上野国分寺跡(17)があり、さらに東方には国分尼寺跡(18)や国府の想定域がある。本遺跡の東には古墳時代終末期以降に古代群馬の中核となっていく地域に各種遺跡が展開している。

第3節 基本土層

遺構確認面は2層上面である(A区)。いずれの区でもテフラは層として未確認であり、As-B混土やHr-FAブロックのように、遺構内において局所的に散見されるのみである。各区堆積土層上位には学校施設の整備に伴うと推測される造成土が見られるため、本来の堆積土層は損なわれたものと考えられる(第3図基本土層柱状図参照)。



第4図 後正間元屋敷遺跡調査区全体図

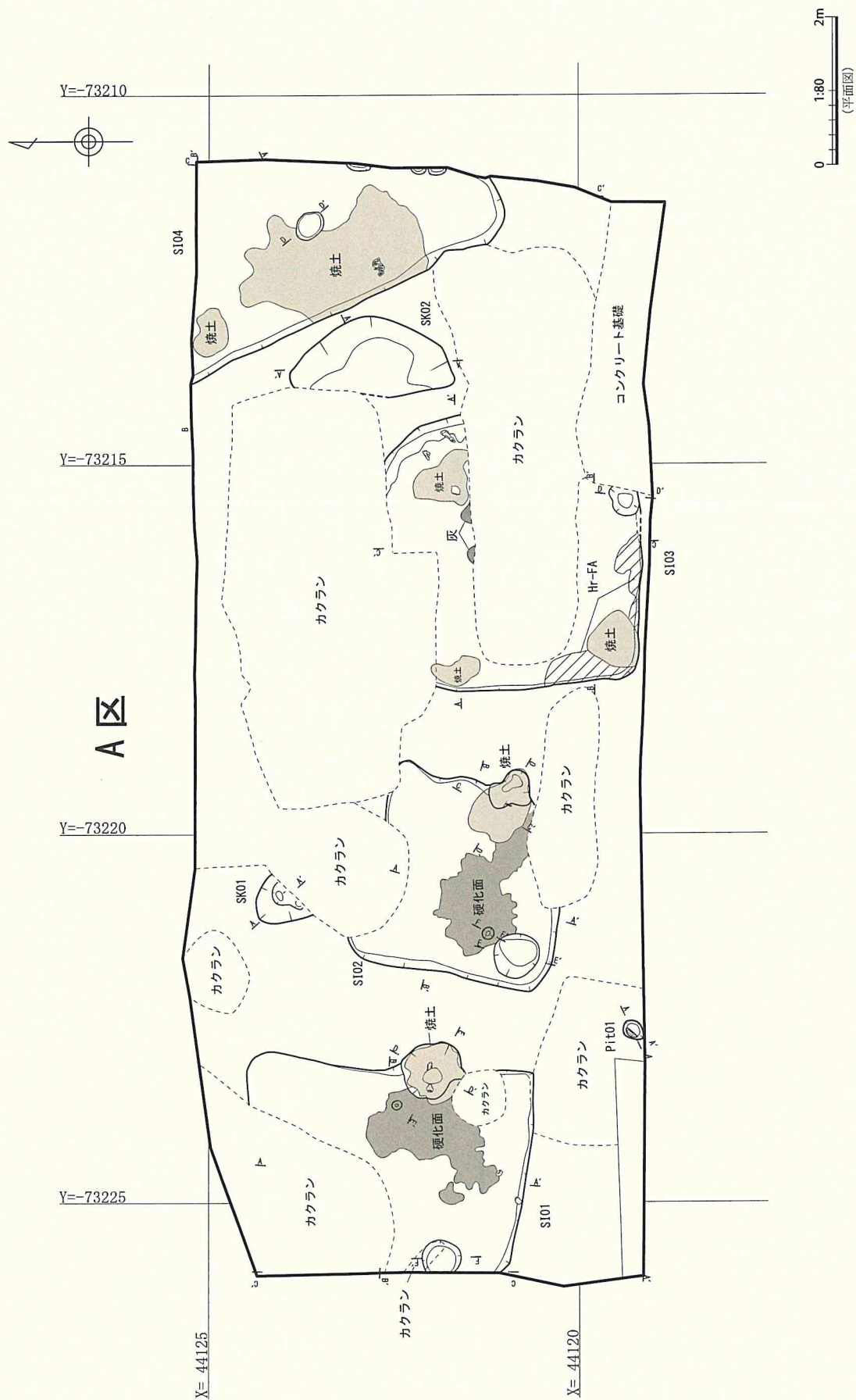


- A区
- 1 表土、砂層。校庭造成土。
 - 2 灰褐色 (10YR3/3) As-C混土層。黄褐色シルト、炭化物少量含む。
 - 3 暗褐色 (10YR3/1) 軽石の混入はない。黄褐色シルト粒子少量含む。
 - 4 黒褐色 (10YR3/1) 漸移層。黄褐色シルトブロック含む。
 - 5 黄褐色 (10YR5/6) シルト層。

- B区Bトレンチ
- 1 灰褐色 (7.5YR4/2) 黄褐色ブロック、礫多量含む。造成土。
 - 2 暗褐色 (7.5YR3/2) 礫、プラスチックゴミ含む。造成土。
 - 3 黒色 (10YR2/1) 炭雑物少量。

- C区
- 1 礫、碎石。造成土。
 - 2 黒褐色 (10YR2/3) 褐色土ブロック混じる。カクラン。
 - 3 黒色 (10YR1.0/1) 軽石状粒子少量含む。カクラン。
 - 4 暗褐色 (10YR2/2) 焼土状の赤褐色粒子少量含む。
 - 5 暗褐色 (10YR3/3) As-Yp風化した粒子を含む。
 - 6 暗褐色 (10YR3/4) 硬質、軽石状粒子全体的に含む。

第3図 基本土層柱状図



第5図 A区全体図

第3章 検出した遺構・遺物

第1節 調査の方法および調査成果の概要

今回の発掘調査対象面積は約240㎡である。既存のプールを解体し施設を新築する計画であったため、調査は既存施設部分を除外した計画建物範囲内を対象とした。調査可能区域は3地点であり、各調査区をA～C区と呼称した（第4図）。

発掘調査では、遺構確認面までは重機を使用した表土除去作業を行った。発掘調査中の掘削によって生じた排出土は、事業地内を仮置き場として管理した。遺構確認面では人力により遺構平面プランの検出を行い、遺構の形状や重複関係の確認を行った。遺構確認後は土層観察用ベルトの設定や半裁方向を決定し、順次人力での掘削を行った。土層観察用ベルトは、各遺構の覆土堆積状況などを観察し、分層作業や写真撮影、断面図化作業を行った後に取り除いた。掘削が完了した遺構はフィルムカメラを用いて35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラにより記録写真撮影を行った後、光波測距儀や平板測量で平面図および断面図ならびに遺物出土状況の記録図作成を行った。検出した遺物は出土状況の記録写真や分布状況の記録図面を作成した後、遺構ごとに取り上げを行った。すべての遺構の調査が完了した後に埋め戻しを行った。

なお、調査範囲が狭小となったB・C区については人力によるトレンチ掘削を行い遺構の有無を確認した結果、遺物の出土が若干見られるものの遺構の存在は認められなかった。

今回の調査では、平安時代および古墳時代の竪穴住居跡4軒のほか、土坑やピットを検出した。また、遺物は竪穴住居跡内を中心に一定量が出土している。

以下では、調査区ごとに、各種遺構および遺物を詳述する。

第2節 A区の遺構・遺物

A区の調査面積は91.5㎡である。調査開始以前には学校遊具が設置されており、また、かつて存在したと考えられる建築物に伴うコンクリート基礎が遺構面深度まで到達していた。これらの影響により当調査区の自然堆積土層の一部はすでに失われていることが明らかとなった。浅間山起原の火山噴出物（As-A、As-B）および榛名山起源火山噴出物（Hr-FA）の堆積層はいずれも確認できていない。

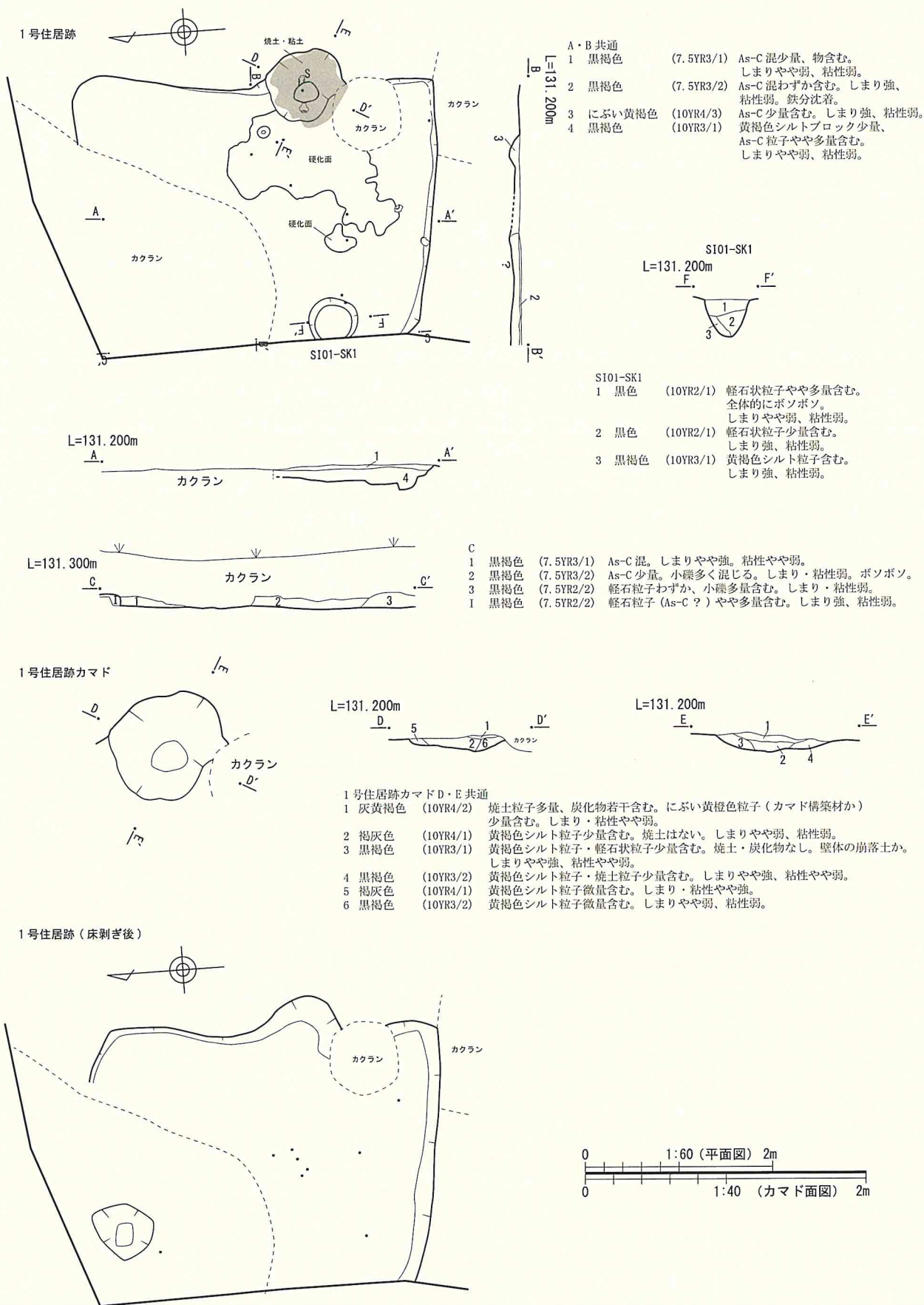
なお、遺構確認面は現地表より深さ約40cmである（第2章第3節参照）。

（1）竪穴住居跡

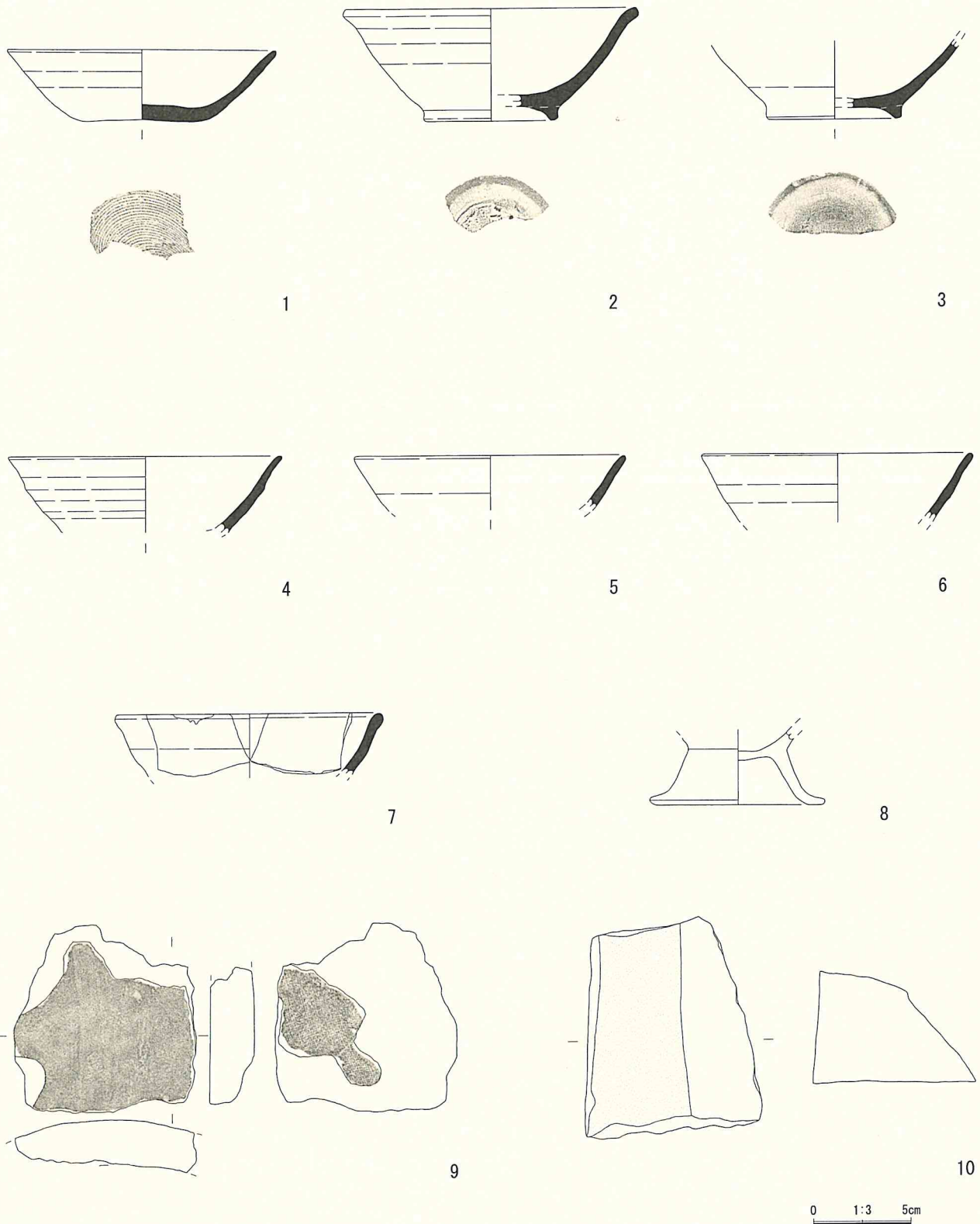
1号住居跡（第6・7図）

位置 調査区西の壁際で検出した。**重複** 遺構の一部は調査区外西へと延伸する。また北西隅を攪乱により損失する。**主軸** N-98° -E **形状** 部分検出であるため不明確だが、隅丸の矩形と推定される。**規模** 検出長は南北軸で3.90mとなる。東西軸は2.76mで、カマドを含めると3.12mとなる。遺構確認面から床面までは深さ10cm強と極めて浅い。**覆土** 黒褐色を基調とし地山由来のAs-Cを混入するが、As-Bは検出されない。**床面** 遺構底面はカマドの前面を中心に硬化しており、この硬化面を以て床面であったことが考えられる。**カマド** 東壁を掘り込んで構築される。カマドはすでに大きく損なわれていたが、カマド覆土に黄橙色粒子が集中することから、地山のシルト層を主な構築材としたものと推測される。袖石などの補強材は未検出である。カマド中央やや北寄りの位置に直立する礫を検出したが、これは支脚石と考えられる（第5図8）。**貯蔵穴・ピット** 遺構内南西隅に土坑1基を検出した。遺物の出土が少ないため詳細は不明だが、本遺構に伴う貯蔵穴と想定される。また、遺構の北西部分に重複する攪乱下より土坑状の掘り込みを検出したが、本住居跡との関連は不明瞭である。その他、床面および床下面からはピット等の検出はない。**出土遺物** 須恵器坏や酸化炎焼成の高台付埴の他、土師器

後疋間元屋敷遺跡



第6図 1号住居跡平面図・断面図



第7図 1号住居跡出土遺物図

台付甕が出土している。その他、布目瓦片などがある。年代 出土遺物は9～10世紀代の様相を示すが、羽釜は見られないことから、本遺構は9世紀後半と想定したい。

第1表 1号住居跡出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②胎土 ③色調	残存	備考
				口径	底径	器高				
第6図 PL. 15	1号住居	1	須恵器 坏	【13.6】	【5.3】	3.7	ロクロ成形、底部糸切痕。器面内外は黒色に変色。	①不良 ②10YR 3/1 ③長石、小礫	1/3	
第6図 PL. 15	1号住居	2	須恵器 高台付埴	【14.9】	【6.6】	5.7	ロクロ成形。底部切り離し後、高台貼付け。内外面が二次被熱か、赤色に変色する箇所あり。粘土状の付着物あり。	①酸化炎 ②10YR 7/3 ③夾雑物少ない	1/3	
第6図 PL. 15	1号住居	3	須恵器 高台付埴	-	【6.7】	(4.0)	ロクロ成形。底部切り離し後、高台貼付け。切り離し痕は消す。	①酸化炎 ②2.5Y 6/2 ③夾雑物少ない	1/3	
第6図 PL. 15	1号住居	4	須恵器 (高台付)埴	【14.0】	-	(3.9)	ロクロ成形。外面の水引き成形痕が明瞭に残る。	①還元炎 ②2.5Y 5/2 ③長石、小礫	1/5	
第6図 PL. 15	1号住居	5	須恵器 (高台付)埴	【13.8】	-	(2.8)	ロクロ成形。器面の風化が著しい。	①還元炎 ②2.5Y 5/1 ③長石	口縁部破片	
第6図 PL. 15	1号住居	6	須恵器 埴	【13.8】	-	(3.5)	ロクロ成形。	①還元炎 ②10YR 5/2 ③黒色粒子	破片	
第6図 PL. 15	1号住居	7	須恵器 埴	【13.4】	-	(3.2)	ロクロ成形。内面と口縁の一部に煤付着。	①酸化炎 ②10YR 7/2 ③長石、石英	破片	
第6図 PL. 15	1号住居	8	土師器 高坏か	-	【8.4】	(3.9)	脚部内外面は横位にナデ。体部底面はヘラナデ。	①良好 ②7.5YR 3/3 ③長石、石英	脚部1/2	
第6図 PL. 15	1号住居	9	平瓦	長 (8.5)	幅 (9.0)	厚 2.3	布目瓦。	①酸化炎 ②10YR 7/2 ③長石	破片	
第6図 PL. 15	1号住居	10	礫 カマド支石	長 (11.4)	幅 (9.0)	厚 7.7	切石。上部が被熱。	石材：安山岩か		

2号住居跡 (第8～11図)

位置 調査区西半で検出した。1号住居跡の東隣となる。**重複** 遺構との重複はなし。攪乱により一部損失する。**主軸** N-104° -E **形状** 攪乱により一部未検出の箇所もあるが、本遺構は概ね隅丸の正方形と考えられる。**規模** 検出長は南北軸2.16mを測る。東西軸は2.64mで、カマドを含めると2.88mとなる。遺構確認面から床面までは深さ15cm程度を測る。**床面** 遺構中央付近よりやや南寄りでは硬化面が確認された。この硬化面を以て床面であったことが考えられる。**カマド** 東壁を掘り込んで構築される。カマドはすでに損なわれていたが、1号住居跡同様に黄褐色土のシルトブロックなどが見られるため、主な構築材として黄褐色系の粘土・シルトが使用されたものと推測される。

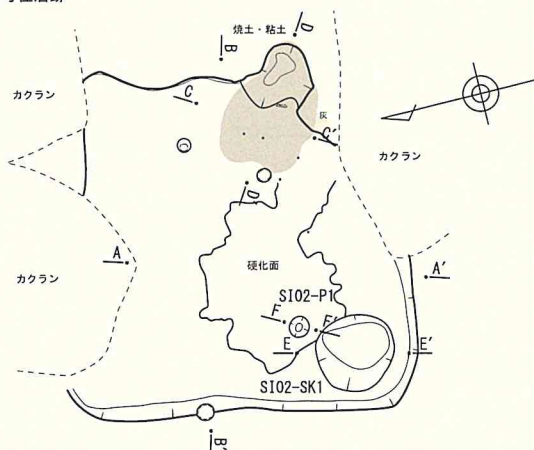
貯蔵穴 遺構内南西隅より土坑1基を検出した。土坑は、検出径55～65cm程度の円形を呈しており、床面付近から深さ30cmを測る。**ピット** 貯蔵穴と思われる土坑の北隣に小ピット1基を検出した。

覆土 遺構内は黒褐色土を基調とした覆土が堆積している。As-B軽石等は検出していない。

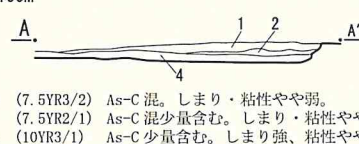
出土遺物 須恵器埴は小片のみだが、完形の灰釉陶器やロクロ土師器の埴、土師器甕、酸化炎焼成の羽釜など多器種の出土がある。その他には布目瓦片や鉄滓（流動滓）などが出土した。

年代 出土した遺物から10世紀代と考えられる。

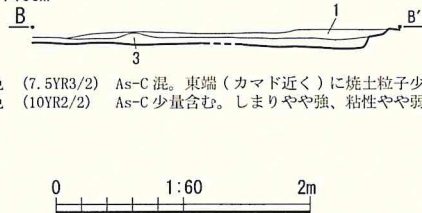
2号住居跡



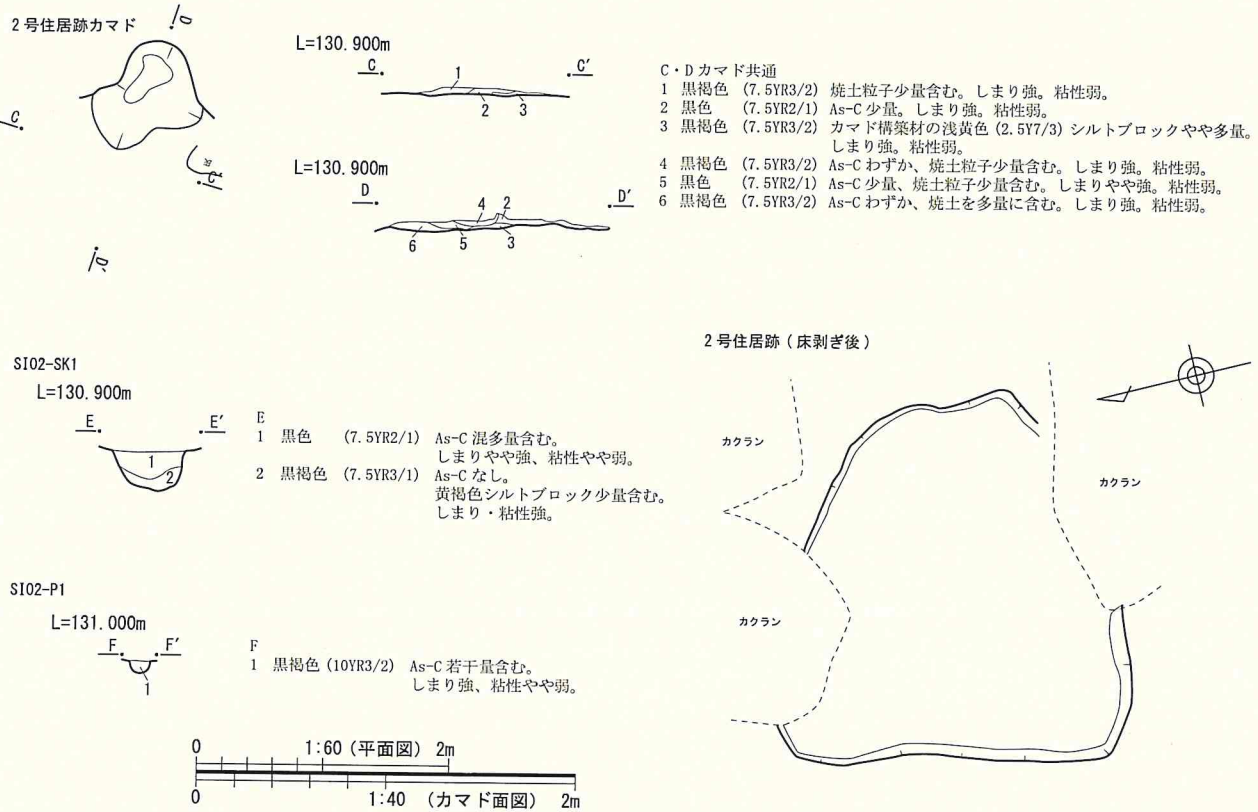
L=131.100m



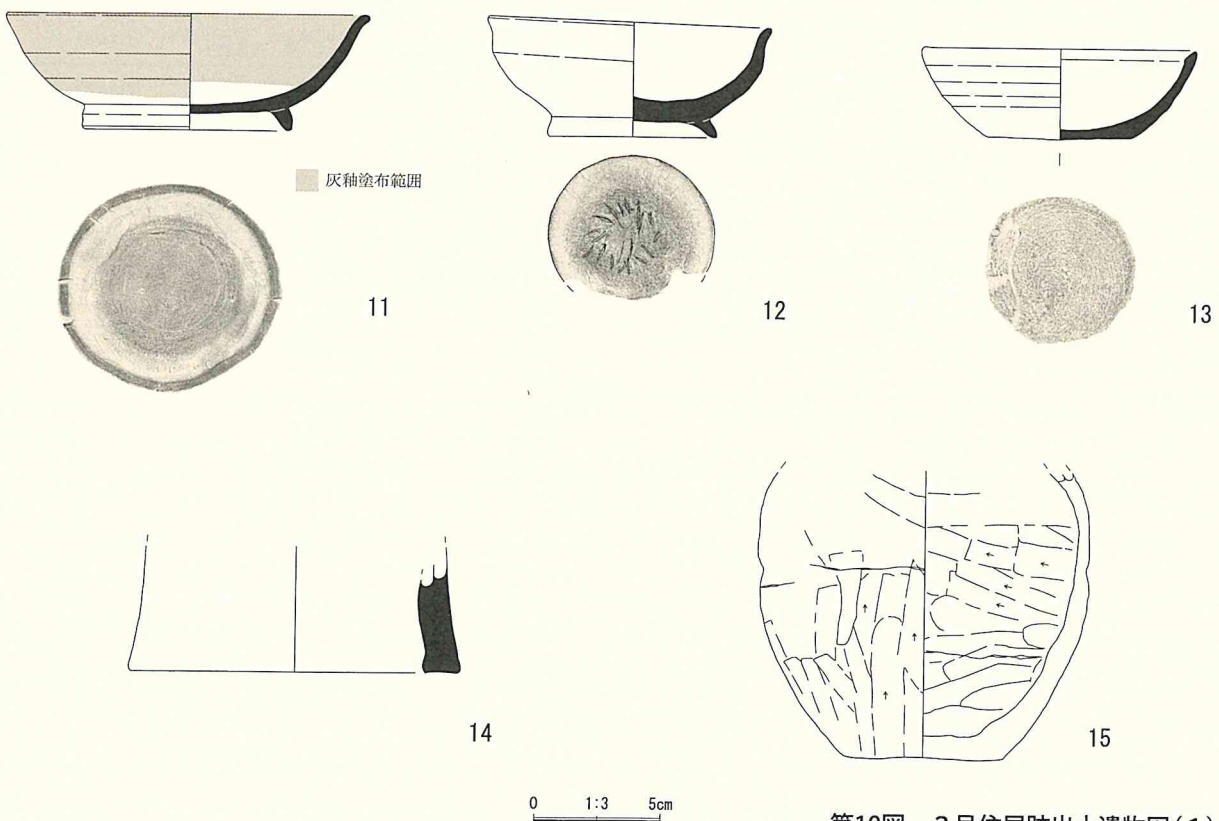
L=131.100m



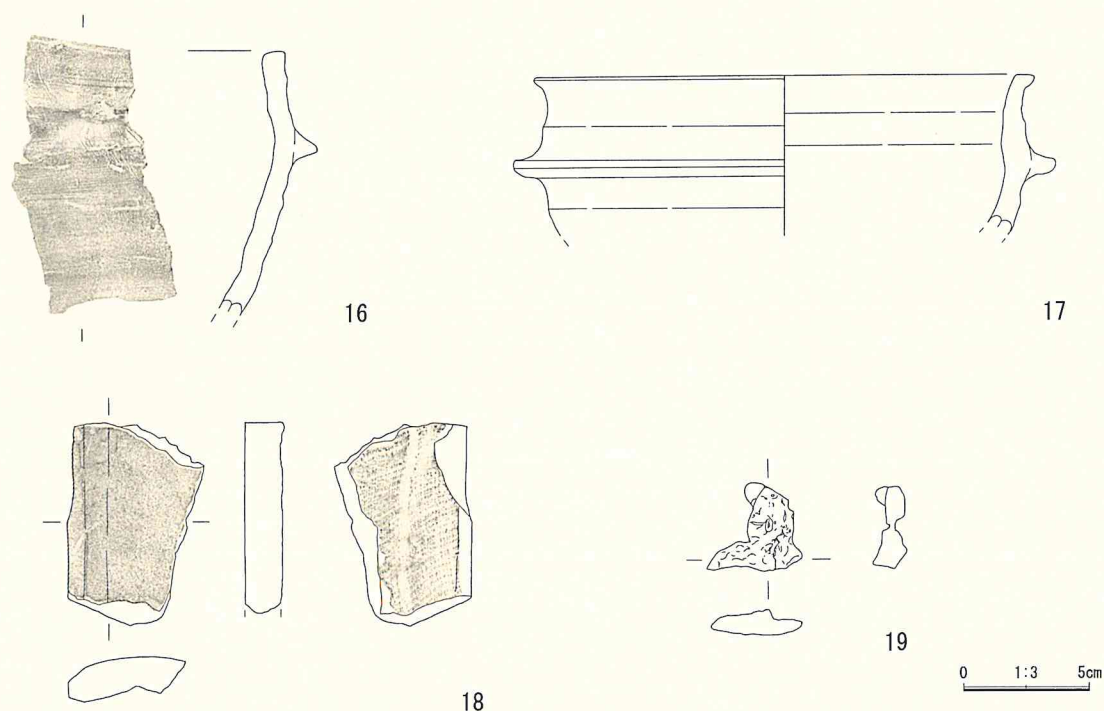
第8図 2号住居跡平面図・断面図(1)



第9図 2号住居跡平面図・断面図(2)



第10図 2号住居跡出土遺物図(1)



第11図 2号住居跡出土遺物図(2)

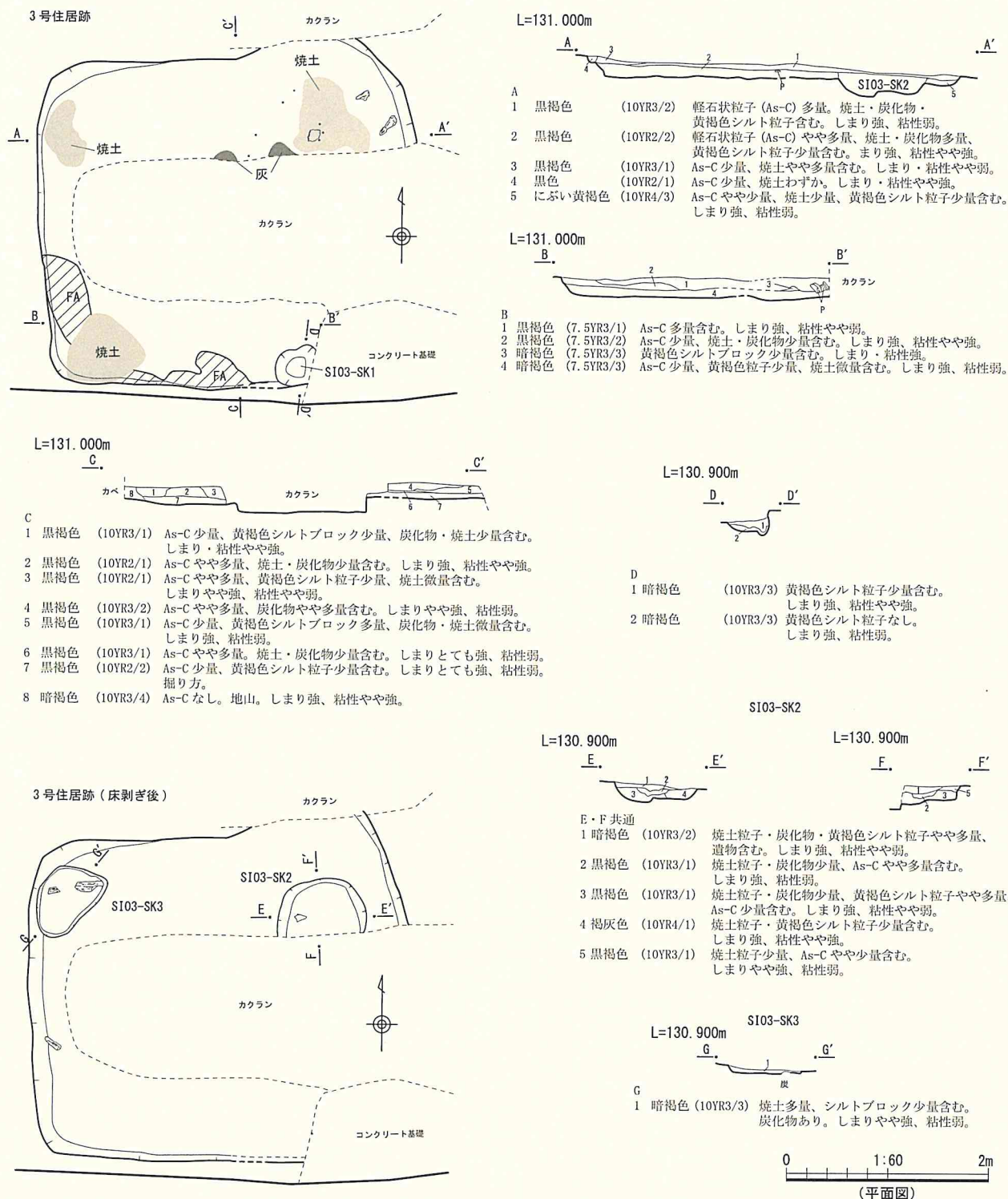
第2表 2号住居跡出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ③胎土	②色調	残存	備考
				口径	底径	器高					
第9図 Pl. 15	2号住居	11	灰釉陶器 甕	14.2	8.2	4.6	ロクロ成形。底部調整後、高台貼付け。口縁〜体部 中程まで器面内外に灰釉を施釉。	①良好 ③小礫	②2.5Y 7/1	完形	
第9図 Pl. 15	2号住居	12	須恵器 甕	11.1	6.6	4.6	ロクロ成形。体部はやや丸みがあり、口縁はやや外 反する。高台貼付け。底面には爪形文か。	①酸化炎 ③小礫、黒色粒子	②10YR 8/4	ほぼ完形	
第9図 Pl. 15	2号住居	13	須恵器 甕	10.9	5.8	3.6	ロクロ成形、右回転。底部糸切痕。内面はナデ。	①還元炎 ③小礫、赤色粒子	②10YR 8/3	ほぼ完形	
第9図 Pl. 15	2号住居	14	須恵質	-	【12.9】	(5.0)	器種不明。底面端部の他1面が破断面でなく残存。 硯や瓦の可能性か。内面はヘラナデ。	①やや不良 ③長石	②N 4/	破片	
第9図 Pl. 15	2号住居	15	土師器 小型甕	-	6.3	(11.4)	粘土紐巻上げ。成・整形は粗雑。内外面ヘラナデ。 外面に煤付着。	①やや不良 ③長石	②10YR 4/3	1/2	
第10図 Pl. 15	2号住居	16	羽釜	-	-	-	ロクロ成形後、断面三角の罫貼付け。口縁は直立気 味にやや内傾。罫以下は被熱のためか一部変色。	①酸化炎 ③小礫、白・黒色粒子	②10YR 5/2	破片	
第10図 Pl. 15	2号住居	17	羽釜	【19.8】	-	(9.4)	ロクロ成形。罫貼付けか。口縁は内傾し端部が外反 する。罫以下は被熱のためか一部変色。	①酸化炎 ③小礫	②7.5YR 7/4	破片	
第10図 Pl. 15	2号住居	18	平瓦	長 (8.0)	幅 (5.4)	厚 1.5	布目瓦。	①酸化炎 ③砂礫	②7.5YR 7/4	破片	
第10図 Pl. 15	2号住居	19	鉄滓	長 (3.5)	幅 (3.8)	厚 1.0	流動滓。重さ10g。磁力なし。	-	-	破片	

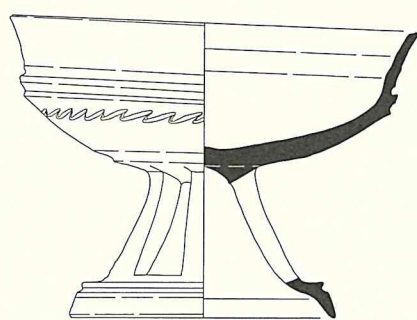
3号住居跡(第12・13図)

位置 調査区東半南寄りで検出した。主軸 N-1°-W 形状 部分検出だが、隅丸の正方形となると考えられる。規模 検出長で東西軸は3.6m、南北軸は3.4mである。遺構確認面からは床面までは深さ10cm程度である。床面 遺構底面付近は硬化しており、この硬化面を以て床面であったことが考えられる。覆土 As-C軽石が混入する黒褐色土を基調としている。遺構内南西隅にはHr-FAと考えられる黄褐色土層が覆土層上位に観察された。一次堆積層ではないが比較的純度の高いもので

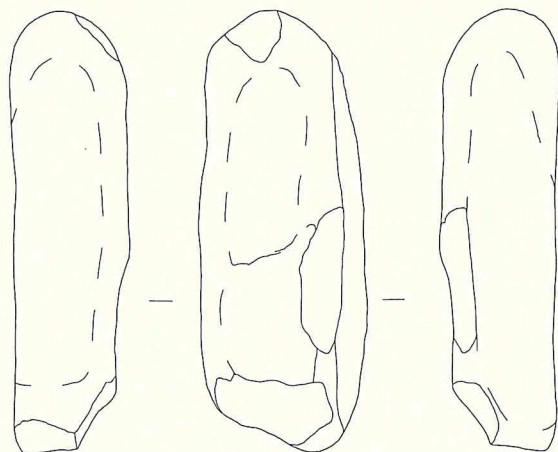
ある。 **燃焼施設** 遺構床面より局所的な焼土の分布が見られ、遺構中央付近では灰を検出した。四壁にカマドの痕跡は見出せないため詳細は不明である。 **出土遺物** 土師器坏、須恵器高坏、石製紡錘車が出土。 **年代** 覆土上位にHr-FAと考えられる層があり、6世紀初頭の榛名山噴火時には本遺構の埋没はすでに進行していたものと考えられる。出土した遺物からも、本遺構は5世紀後半としたい。 **備考** 遺構中央をはじめ多くの箇所では攪乱を受けている。そのためもあつてか遺構内ではピットや壁周溝などの住居に付帯する施設の痕跡は検出していない。



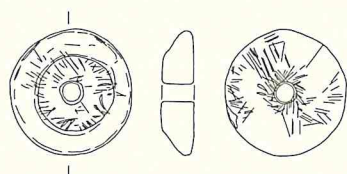
第12図 3号住居跡平面図・断面図



20



22



21

0 1:3 5cm

第13図 3号住居跡出土遺物図

第3表 3号住居跡出土遺物観察表

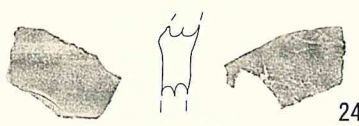
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第12図 PL. 16	3号住居	20	須恵器 高杯	16.1	10.5	11.7	ロクロ成形。坏部：口縁がやや外反。体部中央に二条の沈線、下半に波状文。脚部：方形透かし3ヶ所。透かし切り取り時の鋭利な工具痕残存。	①還元炎 ②7.5Y 5/1 ③白色細砂、小礫	ほぼ完形	
第12図 PL. 16	3号住居	21	紡錘車	直径5.0	-	-	両面に擦痕多数。	滑石製。重量45.0g。	完形	
第12図 PL. 16	3号住居	22	こも編み石	長 17.5	幅 6.7	厚 4.1	一面が平坦。その他の面は滑らか。	安山岩。重量880.0g。	ほぼ完形	

4号住居跡(第14・15図)

位置 調査区北東の壁際で検出した。**重複** 攪乱に遺構南西側の一部を壊されている以外では他遺構との重複はない。ただし遺構の大半は調査区外となる。**主軸** N-35°-W **形状** 部分検出であるため不明確だが、隅丸の正方形か長方形となることが予測される。**規模** 検出長で北西-南東軸は4.8m、北東-南西軸は2.5mであるが、調査区外に延びるため規模はさらに大きくなる。遺構確認面からは床面までは深さ50cmを測る。**床面** 遺構底面付近は硬化しており、この硬化面を以て床面であったことが考えられる。**燃烧施設** 遺構床面で掘り込みの浅い土坑が見られ、炉跡と想定される。遺構の北および東半分が調査区外であるためその他の燃烧施設の存在は未確認。**覆土** As-Cが混入する黒褐色土の覆土が主体となる。特に覆土上～中位にはAs-Cが多く見られるが下位層には少ない。**出土遺物** 土師器坏片や土鍋片など覆土上層より出土。**年代** 出土遺物は流れ込みによるものと推測され、その他の遺物やカマド施設の有無は未確認である。覆土の様相から古墳～平安時代に相応するものと推定されるが詳細な時期は不明である。



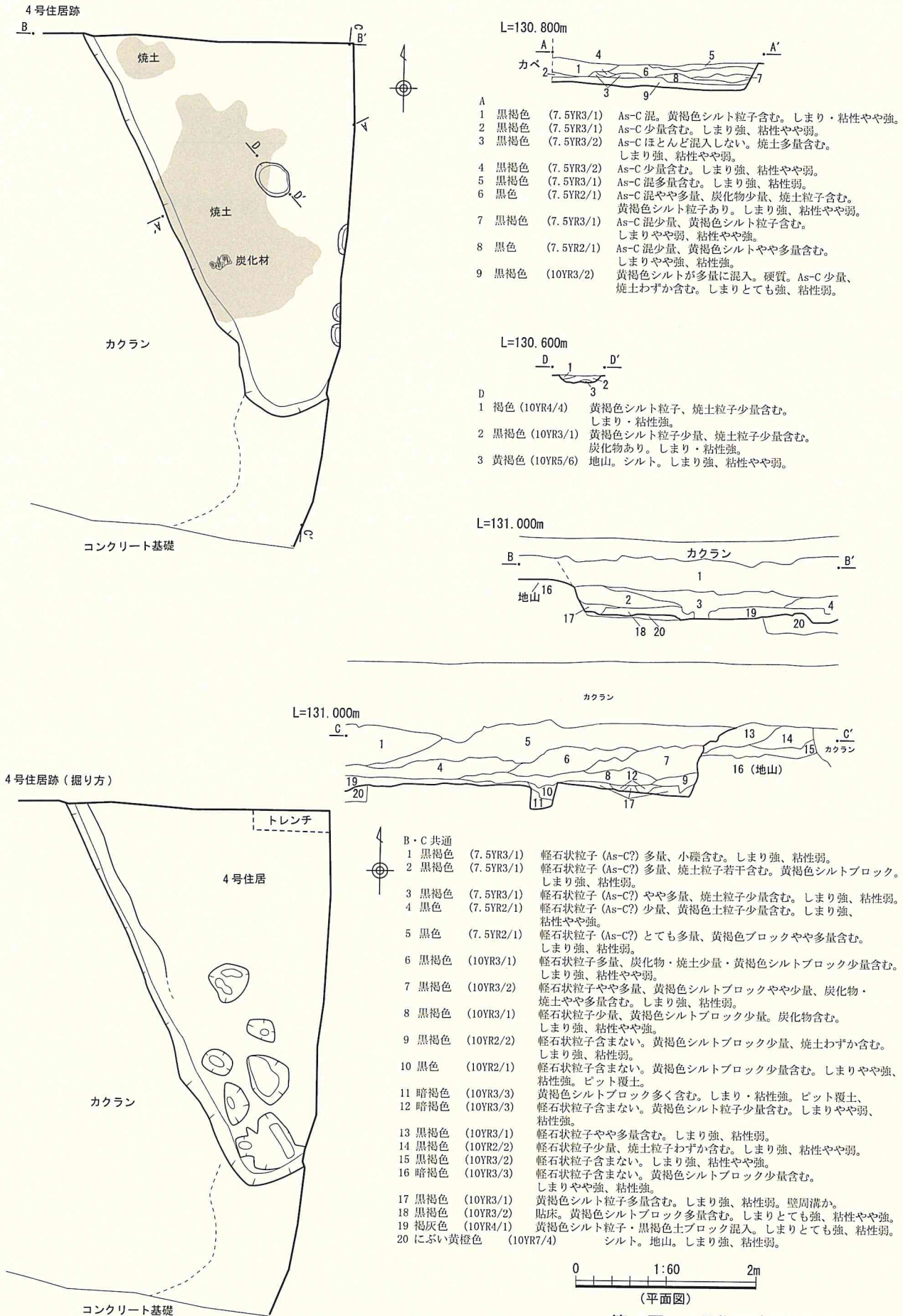
23



24

0 1:3 5cm

第14図 4号住居跡出土遺物図



第15図 4号住居跡平面図・断面図

第4表 4号住居跡出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第13図 Pl. 16	4号住居	23	土師器 坏	-	【6.8】	(4.1)	内外面にヘラ状工具によるナデ。	①良好 ②2.5YR 5/6 ③赤色粒子	破片	
第13図 Pl. 16	4号住居	24	土鍋?	-	-	(2.9)	内外面ナデ。外面は黒色に変色。	①良好 ②7.5YR 2/3 ③赤色粒子	破片	

(2) 土坑・ピット

調査区内では土坑2基およびピット1基を検出した。1号土坑および1号ピットについては単独での検出となった。2号土坑については倒木痕の可能性が考えられる。

1号土坑 (第16図)

位置 調査区中央北西寄りで検出した。重複 南東側を攪乱により壊されている。

主軸 N-41° -W 形状 楕円形と推定される。規模 長軸0.5m、短軸0.8mを測り、遺構確認面からの深度は15cmとなる。覆土 黒褐色土にAs-Bが混入する。出土遺物 なし。

年代 As-Bを混入することから平安時代後期As-B軽石降下以後である。

2号土坑 (第16図)

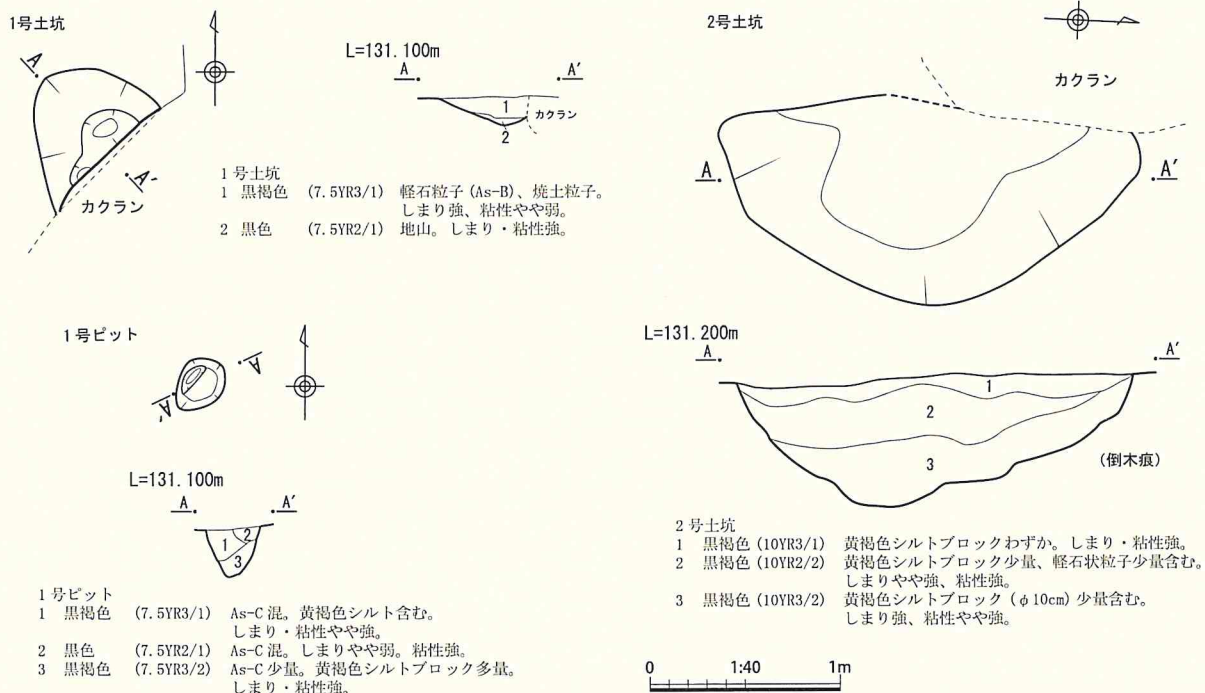
位置 調査区東側で検出した。重複 西側を攪乱により一部壊されている。

主軸 N-6° -W 形状 不整楕円形である。規模 長軸2.2m、短軸1.1mを測り、遺構確認面からの深度は65cmとなる。覆土 黒褐色土を基調に黄褐色シルトブロックを含む。しまりおよび粘性は比較的強い。出土遺物 なし。年代 詳細な時期は不明。

1号ピット (第16図)

位置 調査区南端西寄りで検出した。主軸 N-36° -W 形状 楕円形を呈する。

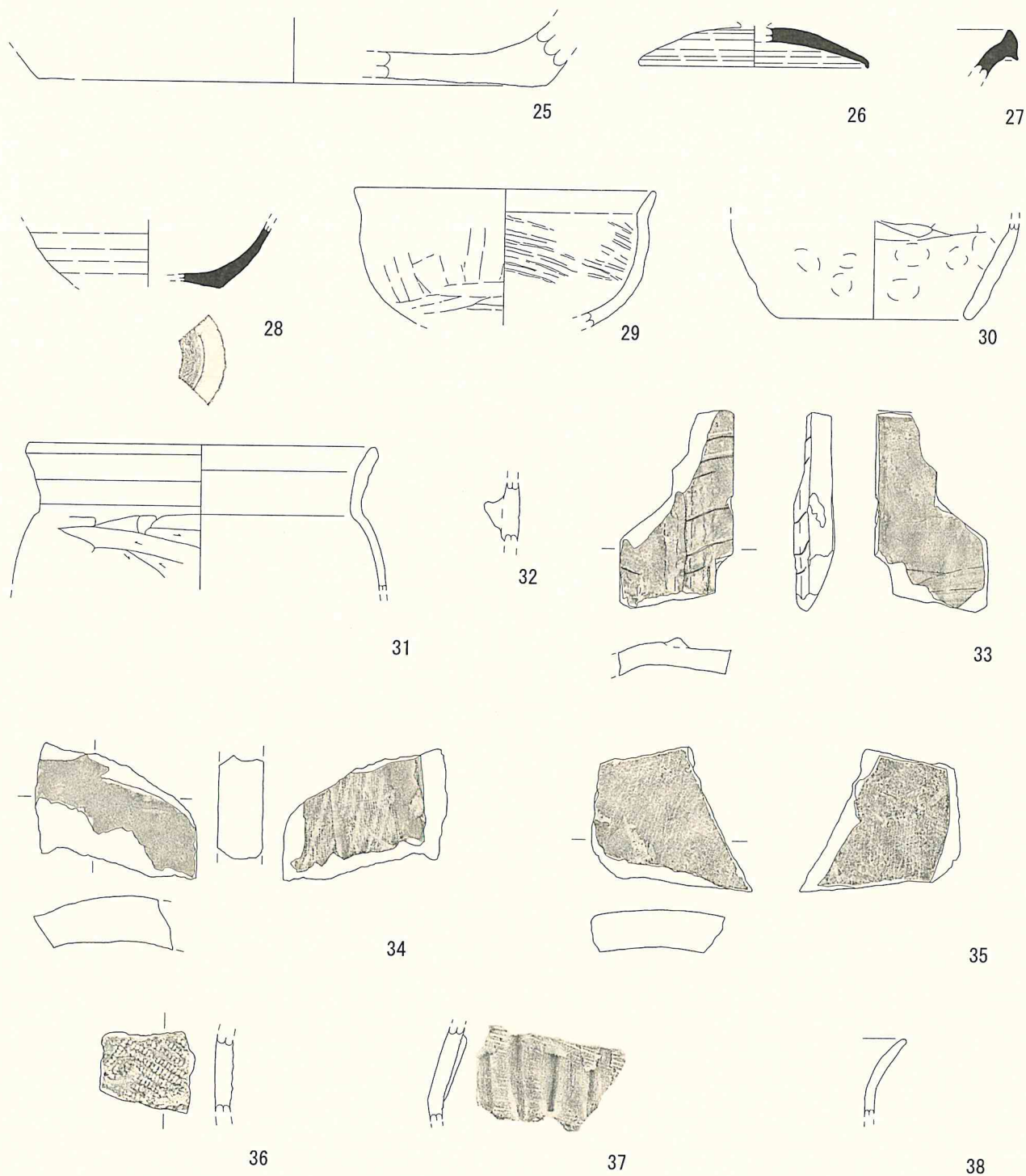
規模 長軸0.3m、短軸0.2mを測り、以降確認面からの深度は25cmとなる。覆土 黒褐色土を基調にAs-Cが混入している。出土遺物 なし。年代 As-Bが混入しないことから古墳～平安時代後期と推測される。



(3) 遺構外出土遺物

今回の調査では、遺構からの出土遺物以外にも一部遺構に該当しない箇所より遺物の出土が見られた。本項では、これら遺構外出土遺物の内、資料化できたものを中心に掲載する。

須恵器坏蓋や甕口縁、土師器坏、甑など古墳時代の遺物のほか、羽釜や布目瓦が出土している。第17図25は比較的径の大きい壺状の土器底部片である。胎土や焼成などから弥生時代土器の様相を呈しているものと思われる。同33は扁平な土製品で、胎土は比較的緻密である。瓦塔の一部であろうか。同36、37は縄文土器であり、弁天谷を見下ろすB区で出土した。



第17図 遺構外出土遺物図

第6表 遺構外出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ③胎土	②色調	残存	備考
				口径	底径	器高					
第16図 PL. 16	A区一括	25	弥生土器か 壺	-	【24.8】	(3.2)	底部外面に工具によるナデが僅かに看取される。底面には砂粒子が付着し、胎土にも砂状の夾雑物が多く含まれる。	①良好 ②5Y 5/8 ③赤色粒子、砂		底部破片	
第16図 PL. 16	A区一括	26	須恵器 蓋	【11.2】	-	(2.0)	つまみを欠損しかえりはない。器面は成形痕が残存。	①還元炎 ③長石	②2.5Y 5/	1/4	
第16図 PL. 16	A区一括	27	須恵器 甕	-	-	(2.4)	口縁内部に自然釉が広範囲に付着。端部にも塗布。	①還元炎 ③長石、小礫	②N 4/	口縁部破片	
第12図 PL. 16	A区一括	28	須恵器 高台付埴	-	-	(3.3)	ロクロ成形。高台は残存しないが底部に剥離痕あり。	①還元炎 ③小礫	②10YR 6/2	破片	
第16図 PL. 16	A区一括	29	土師器 杯	【14.6】	-	(6.7)	内外面はナデ調整、内面には暗文が施される。口縁が強く外傾する。	①良好 ③石英	②5YR 4/3	1/3	
第16図 PL. 16	A区一括	30	土師器 甕	-	【9.4】	(4.8)	内面はヘラ状工具およびユビナデ整形。外面は底面端部のナデ以外は未整形。	①やや良好 ③赤・白色粒子	②5YR 6/4	底部破片	
第16図 PL. 16	A区一括	31	土師器 甕	【17.0】	-	(7.0)	外面のケズリは浅く成形痕が残存する。口縁端部外面に強めの稜を持つ。内面はヘラナデ、黒変色。	①良好 ③白色粒子	②7.5YR 5/4	口縁部破片	
第16図 PL. 16	A区一括	32	羽釜	-	-	(3.0)	器面内外面はナデ。罫上部は被熱による赤変色。	①良好 ③長石	②10YR 6/2	罫破片	
第16図 PL. 16	A区一括	33	土製品 瓦塔か	長 (9.7)	幅 (5.5)	厚 1.1	前面は粘土をつまみ上げて一筋の隆起線をつけ、片側に線刻様に工具をナデつける。端部には一部矩形の切り込みがある。背面は工具によりナデ整形、わずかに湾曲する。瓦塔の屋蓋部だろうか。	①酸化炎、良好 ②7.5YR 6/6 ③長石、小礫、金雲母か		破片	
第16図 PL. 16	A区一括	34	布目瓦 平瓦	長 (5.0)	幅 (6.8)	厚 2.1	端部は整形されており、背面には布目が明瞭に残る。模骨痕と見られる筋がある。桶巻技法。	①やや不良 ③小礫、黒色粒子	②10YR 5/3	破片	
第16図 PL. 16	A区一括	35	布目瓦 平瓦	長 (9.7)	幅 (5.5)	厚 1.8	背面は指圧痕があり、布目が僅かに看取されるのみで模骨痕は見えない。一枚作りであろう。	①良好 ③長石、小礫	②2.5Y 8/2	破片	
第16図 PL. 16	B区Aトレ	36	縄文土器	-	-	厚 3.8	無節縄文。羽状。	①やや良好 ③白色粒子	②7.5YR 5/3	破片	
第16図 PL. 16	B区Aトレ	37	縄文土器	-	-	厚 4.6	横位に施される条痕文の上に棒状粘土貼付け。内面はナデ。諸磯式。	①やや不良 ③小礫	②7.5YR 6/3	破片	
第16図 PL. 16	B区Bトレ	38	土師器 甕				内外面ナデ。口縁は緩やかに外反する。	①良好 ③長石	②2.5YR 6/6	口縁部破片	

(4) 小結

今回の調査では、古墳～平安時代の堅穴住居跡4軒および土坑、ピットなどの遺構の他、縄文土器や古代瓦などの各種遺物も検出した。これらの遺構遺物を通して、本遺跡の動向を概観したい。

本遺跡は集落域であり、各時代の遺構遺物が確認されている。縄文土器は低地を見下ろす台地縁のB区で採取した。少数の土器片であり遺構の検出はなかったものの、本遺跡ないし周辺に縄文時代前期の集落が存在した可能性が示唆される。しかしながら、本遺跡の中心時期は古墳～平安時代である。同一台地上の後足間遺跡では当該期の住居跡が60軒以上も検出されており、今回の調査成果と合わせ、本遺跡周辺における当該時期の集落域が展開する様相が明らかとなってきた。

本調査区で検出した3号住居跡は残存状況があまり良好でなくその全体像は不詳のままだが、埋没土中よりHr-FAを局所的に検出しており、当該テフラ降下時の前後に住居跡が廃絶されたことが理解される。過年度調査では5世紀後半～6世紀前半の住居跡は4軒確認されており、取り立てて遺構密度が高い状況ではないが、須恵器器台が出土した1次調査5号住居跡などは同時期の集落展開を考える上で興味深い要素となる。古墳時代後期の集落は同一台地上流に立地する北谷遺跡の存続時期に近接するものの、両者のつながりは不明瞭である。

これまでの調査で7～8世紀代の住居跡も確認されており、古墳時代以降も集落造営が継続されていたことが看取されるが、むしろ集落展開のピークは9～10世紀代が中心となるようである。これら平安期集落には灰釉陶器を所持する住居跡が複数見られるなど、内容も充実している様相が窺える。本遺跡から東方450mには8世紀半ばに整備される上野国分寺が所在しており、律令体制下の古代群馬中枢地域に近接する当地では、これら中枢地域の文物の流れの影響を受けたことは想像に難くない。

今回の調査では、調査区が狭小ながら一定の成果があったものと考えているが、より具体的な集落展開を検討するには今ひとつ資料の不足感は否めない。周辺主要遺跡との動向や連動性などを検討するために、今後のさらなる調査を待ち、より多くの資料の蓄積を期待したい。

かみおおるい きただ

上大類北田遺跡

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

高崎市上大類町に所在する高崎市立東部小学校の体育館の建替工事が計画され、現在の建築面積より東南部に大幅に広がる設計書が高崎市教育委員会の担当課から文化財保護課に提示された。東部小学校の周辺部では古代の遺跡が数多く確認されている場所であり、建物の拡張部分にも遺跡存在の可能性があることから、文化財保護課では遺跡の有無を確認するための試掘調査が必要であることを担当課に提示した。

この結果をうけて、高崎市教育委員会が遺跡の有無を確認するための試掘調査を平成24年9月に実施し調査により、古代の遺構が残されていることが確認された。このため、試掘調査の結果を担当課に報告するとともに本調査の必要性を伝えた。その後、数度にわたり調査に伴う予算や日時および現場管理等十分に担当課および学校関係者と協議を重ね、平成25年10月はじめから本調査にはいった。

第2章 調査の方法

第1節 試掘調査

平成24年9月18日、対象地は22,301㎡と広範囲であるが既存の体育館部分は残されている図面などから、すでに大きく破壊されていることが確認視されていた。そのため、新体育館建設計画図から大きく拡張される部分を対象に、1本の長いトレンチを設定して試掘調査を実施した。調査の結果、対象地内は厚く盛土されていたが、盛土の下約40～50cmの旧耕作土と考えられる軽石と黒色土の混土層下で平安時代を中心とした土器片が相当量出土した。また、平安時代後期の天仁元年(1108)に起こったとされる浅間山大噴火に伴う降下軽石の純層下には、水田遺構も残されていることが確認された。

第2節 本調査

上大類北田遺跡の本調査は、試掘調査の結果を受けて、東西に長い計画区域であることと土置き場のことを考え、最初に西南側区域の遺跡が良好に残されていると思われる場所から掘削を始めた。最終的には旧体育館建設により大きく攪乱を受けていない場所はすべて調査の対象とすることを前提として調査を開始した。調査対象地の旧私道以外は1～2m以上の盛土が確認されており、重機により取り除いてから表土の掘削に入った。測量については業者に委託し、国家座標(世界測地系2011)による基準杭2点と標高1点設置してもらい、その杭をもとに調査地内に10mのグリッドを設定して調査を進めた。遺構番号は遺構ごとに確認順に付した。遺構実測図は平板を使用し1/20縮尺を基本とし、遺物包含層についても1/20縮尺で手取りとした。また、遺構図はグリッドに沿った割付を基本とし、重複する遺構が認められた場合は遺構ごとに作成し、グリッドに合わせた。遺構・遺物の写真については白黒35mmとカラーリバーサル35mmを利用し、補助的にデジタルカメラも使用した。

第3節 日誌抄

発掘調査

平成25年度

- 平成25年10月 1日 調査準備および境界にバリケード設置。
- 10月 8日 表土掘削開始。最初に掘削した場所から順次調査始める。
- 10月 17日 水田面の調査進める。
- 10月 21日 本日で重機による掘削終了。水田面および周辺の調査続ける。
- 10月 23日 水田面跡を部分的に調査、白線を入れ撮影。
- 10月 29日 遺物包含区調査進める。
- 10月 31日 水田面足跡検出作業。
- 11月 7日 土器洗浄作業。
- 11月 18日 水田面断ち割り調査。
- 11月 21日 土器洗浄・注記作業。
- 11月 25日 発掘調査、埋め戻し終了。
- 11月 27日 本日で発掘調査終了。

整理作業

平成26年度

- 平成26年11月 4日 足門事務所より遺物を棟高事務所まで運び確認作業。
- 11月 7日 遺物復元作業始める。
- 11月 17日 遺物復元作業・実測作業進める。
- 12月 4日 遺物復元作業・実測作業進める。
- 12月 11日 図面・レイアウト調整・原稿作成作業。
- 平成27年 1月 6日 遺物復元作業・実測作業進める。
- 1月 8日 掲載遺構・遺物の仕分け作業。
- 1月 15日 掲載遺構図面より原稿準備作業・実測作業。
- 1月 28日 掲載遺構図面トレース・実測作業・原稿作成。
- 2月 10日 遺物実測・拓本作業。
- 2月 18日 遺物実測・遺物デジタルトレース・レイアウト調整作業。
- 3月 16日 遺構図・レイアウト調整・原稿作成。
- 3月 25日 報告書作成の為の作業ほぼ終了。

平成27年度

- 平成27年 9月 14日 印刷に向けて原稿、図面最終調整始める。
- 9月 30日 本日を以てすべての作業終了。

第3章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と周辺の歴史的環境

榛名山に源を発する井野川は高崎市の北部から蛇行しつつ東南流し、東方を南流してくる染谷川と合流し、さらに烏川と合流している。上大類北田遺跡は、この染谷川の合流地点から西方約1kmの井野川右岸近くに存在する。

井野川の流路に沿った周辺部は、以前より遺跡が数多く存在することで知られている場所であり、縄文時代以降平安時代に至る集落跡や古墳・水田跡・館跡等が各所で調査されている。本遺跡地周辺部においても、矢島増殿遺跡や万相寺遺跡で縄文時代中期から後期の住居跡が発見され、万相寺遺跡や宿大類村西遺跡で弥生時代後半期の住居跡が確認されている。古墳時代になると、古墳時代初頭の方形周溝墓・円筒埴輪を棺に利用した土坑墓や平安時代の住居跡が確認されている貝沢柳町遺跡が西南100m程の場所にあり、古墳時代から平安時代の住居跡が確認されている上大類薬師遺跡が南方約300mに位置している。また、古墳については本遺跡の西200mほどに5世紀後半から6世紀初頭の竪穴系の石室を伴ったとされる聖天山古墳があり、6世紀後半と考えられる全長約50mの前方後円墳である五霊神社古墳が本遺跡地の北西約500mに存在している。さらに、平安時代後期の天仁元年(1108)に浅間山が大噴火した時の降下軽石により埋もれた水田跡が、本遺跡も含め周辺部一帯で広範囲にわたり確認されており、平安時代水田跡を研究する上で欠かすことのできない地域となっている。その後中世になると宿大類城址や矢島村西城址・天田館址・村北館址等多数の居館址が遺跡地周辺に存在し、縄文時代以来人々の生活の場として受け継がれ、現在に至っている。

第2節 遺跡の概要

上大類北田遺跡から発見された遺構・遺物は、部分的ではあるが平安時代後期に起こった浅間山の大噴火による降下軽石に埋もれた水田跡に伴う畦畔や水口・人の足跡が多数検出された。また、遺跡地西側では流されてきたと考えられる堆積土層中から、古墳時代後半期の土器の破片も多数発見されている。他には近世以降の溝状遺構が僅かに検出されている。

第3節 基本土層

現在校舎等の建物が建っている表層は70～90cm程の盛土があり、その下の校庭築造以前の層位中には本遺跡地西方の群馬県と長野県境にそびえる浅間山の大噴火に伴う降下軽石(A・B・C)が認められ時期決定の大きな指標となっている。

1	1: 白灰色土。	盛土。白灰色泥。炭・板材等を含む。
2	2: 旧耕作土。	A・B軽石を多く含む非常にしまりの良い土。
3	3: 明黄茶褐色土。	多量のB軽石、鉄分とわずかな黒色土の混土層。
4	4: オリーブ黄緑色土。	B軽石の純層。
5	5: 黄茶褐色土。	粘性のある粒子の細かい土。鉄分を含むと色味が赤さび色になる。
6	6: 灰茶褐色土。	非常に粘性強く、C軽石を含む。
7	7: 黒褐色土。	黒色の強い土で粘性あり。
8	8: 黄橙色土。	ロームとわずかな黒色土を含む。やや粘性あり。
9	9: 明黄茶褐色土。	遺跡地最下層の基盤の土と考えられる。ロームを主体とした土の二次堆積層。

A・・・江戸時代。天明3年「1783」とされる降下軽石の略称。
 B・・・平安時代後期。天仁元年「1108」とされる降下軽石の略称。
 C・・・古墳時代初頭。3世紀後半～4世紀前半とされる降下軽石の略称。

第1図 基本土層図



第1表 上大類北田遺跡周辺遺跡一覧表

第2図 上大類北田遺跡周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	遺跡の概要	所在地	文献
1	上大類北田遺跡	B水田。	高崎市上大類町北田	本報告。
2	聖天山古墳	直径25m程の5～6世紀前半の円墳。	高崎市貝沢町柳町	新編「高崎市史」資料編1.原始古代
3	貝沢柳町遺跡	方形周溝墓。平安時代住居。	高崎市貝沢町柳町	教育委員会第74集(1986)
4	五霊神社	前方後円墳。	高崎市貝沢町井野前	綜高崎223 県台帳(1972)
5	稲荷町Ⅰ遺跡	古墳：住居。	高崎市稲荷町	遺跡調査会第18集(1992)
6	上大類薬師遺跡	古墳～平安：住居。	高崎市上大類町薬師	遺跡調査会第8集(1985)
7	上大類新井屋敷	城館。	高崎市上大類町北宅地	新編「高崎市史」資料編3・中世
8	西島相ノ沢遺跡	弥生：環濠集落。古墳：住居。	高崎市西島相ノ沢	教育委員会第102集(1990)
9	新保八坂遺跡	B水田。	高崎市新保町八坂	教育委員会第158集(1988)
10	稲荷町Ⅱ遺跡	古墳。	高崎市稲荷町	教育委員会第142集(1996)
11	日光町Ⅰ・Ⅱ遺跡	古墳～平安：住居・B水田。	高崎市日光町	教育委員会第112集(1991)
12	上大類坂サ堰遺跡	B水田。	高崎市上大類町坂サ堰	遺跡調査会第64集(1997)
13	江木環濠遺構	城館。	高崎市江木町北屋敷	新編「高崎市史」資料編3・中世
14	江木諏訪西遺跡	B水田。	高崎市江木町	遺跡調査会第42集(1995)
15	東町Ⅳ遺跡	B水田。	高崎市東町	教育委員会第138集(1995)
16	高岡東沖・村前遺跡	弥生：住居・水田・古墳。	高崎市高岡町村前	教育委員会第135集(1995)
17	栄町Ⅰ遺跡	B水田・A水田。	高崎市栄町	遺跡調査会第43集(1996)
18	岩押Ⅰ遺跡	B水田。	高崎市岩押町	教育委員会第25集(1994)
19	上中居早道場遺跡	溝。	高崎市上中居町早道場	教育委員会第119集(1992)
20	長井戸屋敷	城館。	高崎市上大類町西宅地	新編「高崎市史」資料編3・中世
21	天田・川押遺跡	奈良～平安：住居・B水田。	高崎市上大類町川押	教育委員会第41集(1983)
22	矢島村西・増殿遺跡	縄文：住居。古墳～平安：住居・城館。	高崎市矢島町村西	教育委員会第71集(1986)
23	村北・矢島前・村東遺跡	平安：住居・B水田・城館。	高崎市宿大類町矢島前	教育委員会第61集(1985)
24	市指定史跡	「正応の板碑」。	高崎市宿大類町村北	
25	高岡塚田遺跡	B水田。	高崎市高岡町塚田	教育委員会第120集(1992)
26	高岡北沖遺跡	B下遺構。	高崎市高岡町北沖	教育委員会第120集(1992)
27	岡久保遺跡	B水田・馬蹄跡。	高崎市高岡町岡久保	教育委員会第88集(1988)
28	柴崎遺跡群	B水田。	高崎市柴崎町柳原	教育委員会第103集
29	柴崎遺跡群(Ⅰ)西沖・柳原・吹手西遺跡	B水田・大型水路。	高崎市柴崎町柳原	教育委員会第79集(1987)
30	南大類稲荷遺跡	縄文～平安：住居・水田。	高崎市南大類町稲荷	教育委員会第148集(1997)
31	南大類東沖遺跡	方形周溝墓・掘立柱建物。	高崎市南大類町東沖	教育委員会第148集(1997)
32	塚ノ越屋敷	城館。	高崎市宿大類町塚ノ越	新編「高崎市史」資料編3・中世
33	万相寺遺跡	敷石住居。弥生～平安：住居・古墳。	高崎市宿大類町万相寺	教育委員会第66集(1985)
34	天神久保遺跡	平安：住居・B水田・土製瓦。	高崎市宿大類町天神久保	教育委員会第64集(1985)
35	矢島町薬師遺跡	弥生古墳：住居・溝。	高崎市宿大類町薬師	遺跡調査会第27集(1994)
36	貝沢八幡屋敷	城館。	高崎市貝沢町島	新編「高崎市史」資料編3・中世
37	飯玉Ⅰ遺跡	古墳・B水田。	高崎市飯玉町	
38	天田遺跡Ⅱ	奈良～中世：住居・B水田・城館。	宿大類町天田	教育委員会第48集(1984)
39	宿大類町村西遺跡	縄文～平安：住居・墓・城館。	宿大類町村西	教育委員会第75集(1987)

上大類北田遺跡全体図

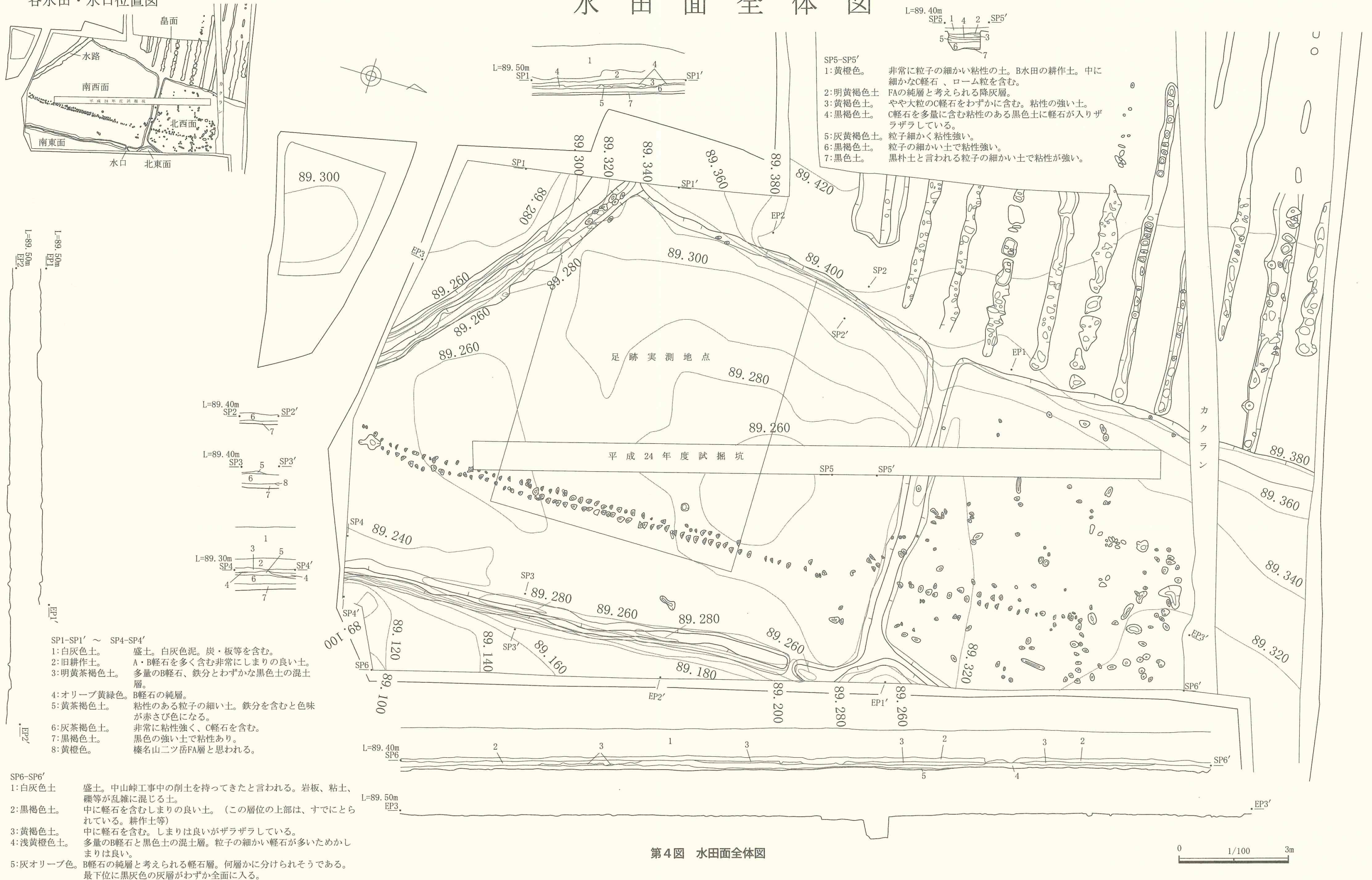


第3図 上大類北田遺跡全体図

各水田・水口位置図



水田面全体図



第4図 水田面全体図

0 1/100 3m

第4章 古代の遺構と遺物

第1節 水田跡

平安時代後期の天仁元年（1108）に起こった浅間山噴火に伴う降下軽石層に埋もれた水田跡は、本遺跡南側のほぼ中央部に南北に伸びる地形の変換点から東側で確認された。確認された水田の西端は、標高89.4m程の本遺跡調査地の中央部を南北に伸びる部分にあたり、この場所から西側に向かうほど地形が僅かずつ高くなり水田跡は認められない。また、北部についても本遺跡地から北は急激に地形が下がっており、谷地形状となり井野川沿いに向かっている。このことから、遺跡地周辺部での水田は本遺跡地が西部や北部の境地となっており、当時の水田は本遺跡から東南の井野川方向に伸びていたものと考えられる。このことを裏付けるようなかたちで、各水田面の標高は北西面の水田が89.34m、南西面の水田が89.26m、南東面の水田が89.14m程となっており、地形に合わせた形で北西部から南東部に向かい10cm程下がっている。

本遺跡で確認された水田面検出総面積は約230㎡であり、確認された水田面は一部確認されたものを含め4面である。

畦畔は幅90～120cm、高さ上面の水田面から5～7cm、下面の水田面からは10～15cm程の高さとなっており、各水田が地形に合わせて階段状に作られていることが理解できる。なお、調査の都合上各水田が部分的な調査であり、一枚ごとの大きさを知ることはできなかった。

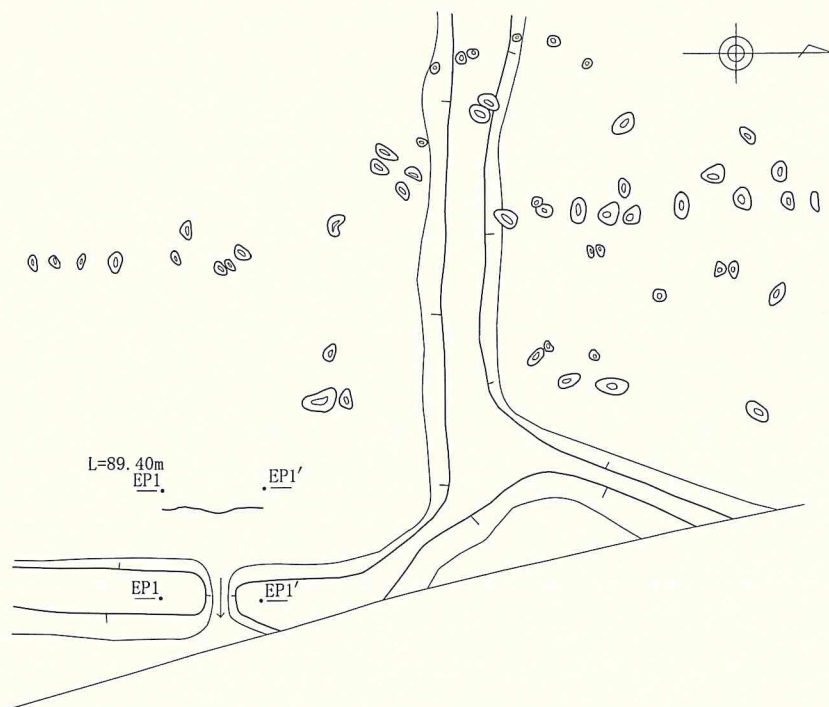
水口は1箇所ではあったが、一番広く調査することのできた南西面の水田北東部で確認された。西の水田から東の水田に配水するための水口で、巾約20cm・畦畔上面から8～10cm程U字状に切り込んで作られている。

水田面からは多数の人の足跡が検出されており、明瞭に残されている時期に浅間山の大噴火があったことを物語っている。これらの足跡をみると、水田南側では弧を描くような部分が数箇所確認され、北側方面は直線的に歩いたような形跡が認められる。なお、畦畔上には足跡は確認されておらず、意識的に上らなかったものと考えられる。

水田跡では、水田内を分割するような形で水路状の遺構が検出された。水田が作られ始める場所から東南方向に延びているもので、僅かに水田面よりも低く水路状にしているような形であり、水路に伴う畦畔は明瞭には認められなかった。おそらく、ひとつの水田の中で余剰的な水を下の水田に流すための簡単な施設であったものと考えられる。

遺物については水田内からは遺物の検出は認められなかった。

なお、時期は異なるが南西面の水田と北西面の水田のやや東側を南北に長く鋤き先痕と考えられる遺構が検出された。この鋤き先痕と考えられる遺構は、2箇所ずつ規則正しく40m以上続き、覆土中にはB軽石が多量に含まれA軽石が認められないことから、中世から江戸時代中頃の間掘られた牛蒡穴状の遺構と考えられる。



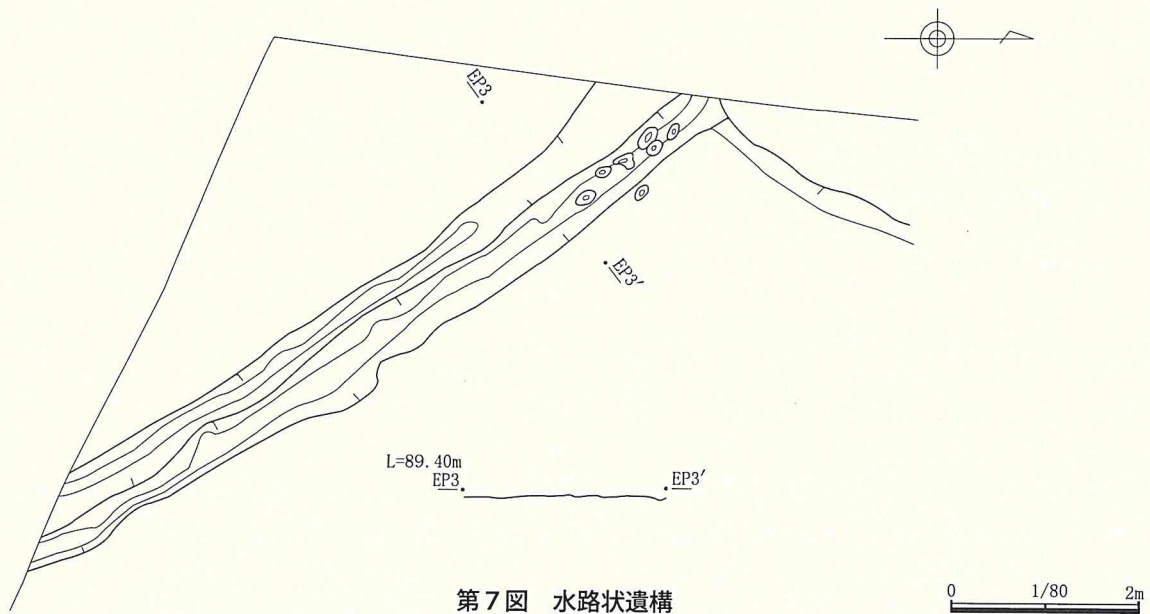
第5図 水田面畦・及び水口

0 1/60 2m



第6図 水田面足跡

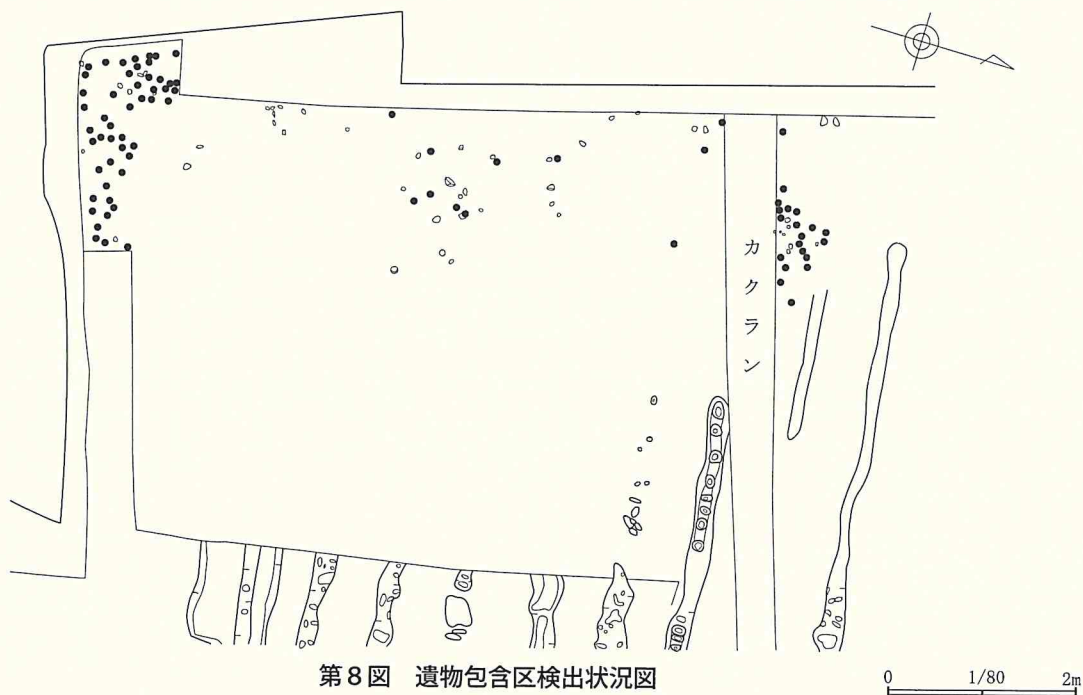
0 1/60 2m



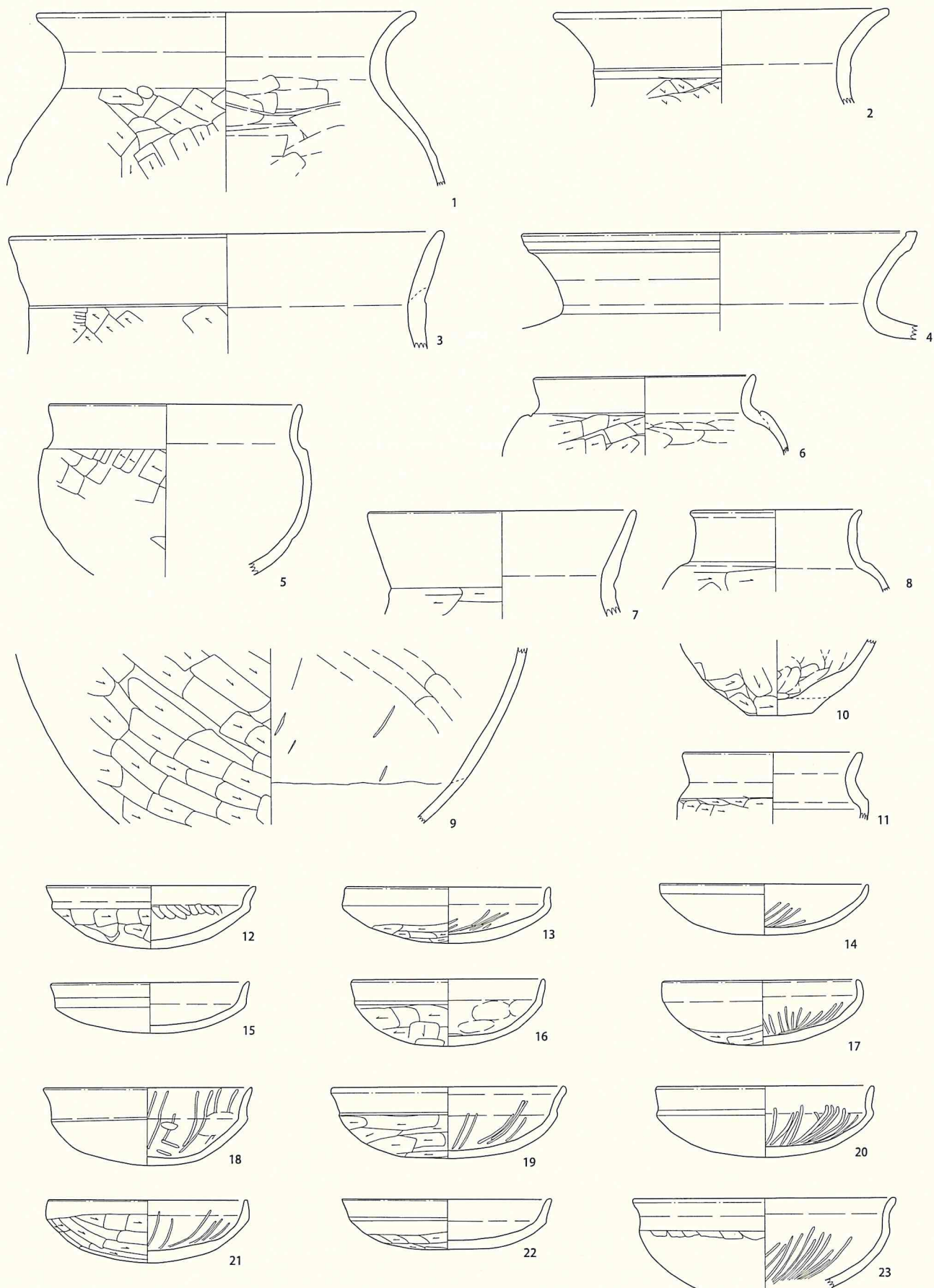
第7図 水路状遺構

第2節 遺物包含区

調査区南西部の約70㎡で、古墳時代後期を中心とした土器類が多数検出された。大部分の土器が小破片となっており、部分的に復元は出来たが完形品は一点も認められなかった。出土した場所は本遺跡地でも標高が高い所にあたるが、土器片が多数出土した場所はなだらかなレンズ状の窪みの場所にあたると考えられる。覆土は、黄茶褐色のC軽石を含むやや粘性のあるしまった土で、土器片はこの土の中に入っている。土器類は6～7世紀代を中心とした土師器・須恵器が大部分であるが、埴輪片や10世紀代の土器類も確認された。本遺跡地内では住居跡や古墳等は確認されていないが、遺跡地西方は僅かずつではあるが標高も上がり、現在住宅地となっていて、古墳時代から奈良・平安時代の包蔵地となっており、西側の集落遺跡となんらかの関連のある遺構と考えられる。古墳についても本遺跡地西方に直径25m程と考えられる聖天山古墳が存在したことが知られており、この聖天山古墳出土の埴輪片と本遺跡出土の埴輪片がよく似ており、関連性を考えてもよいと思われる。

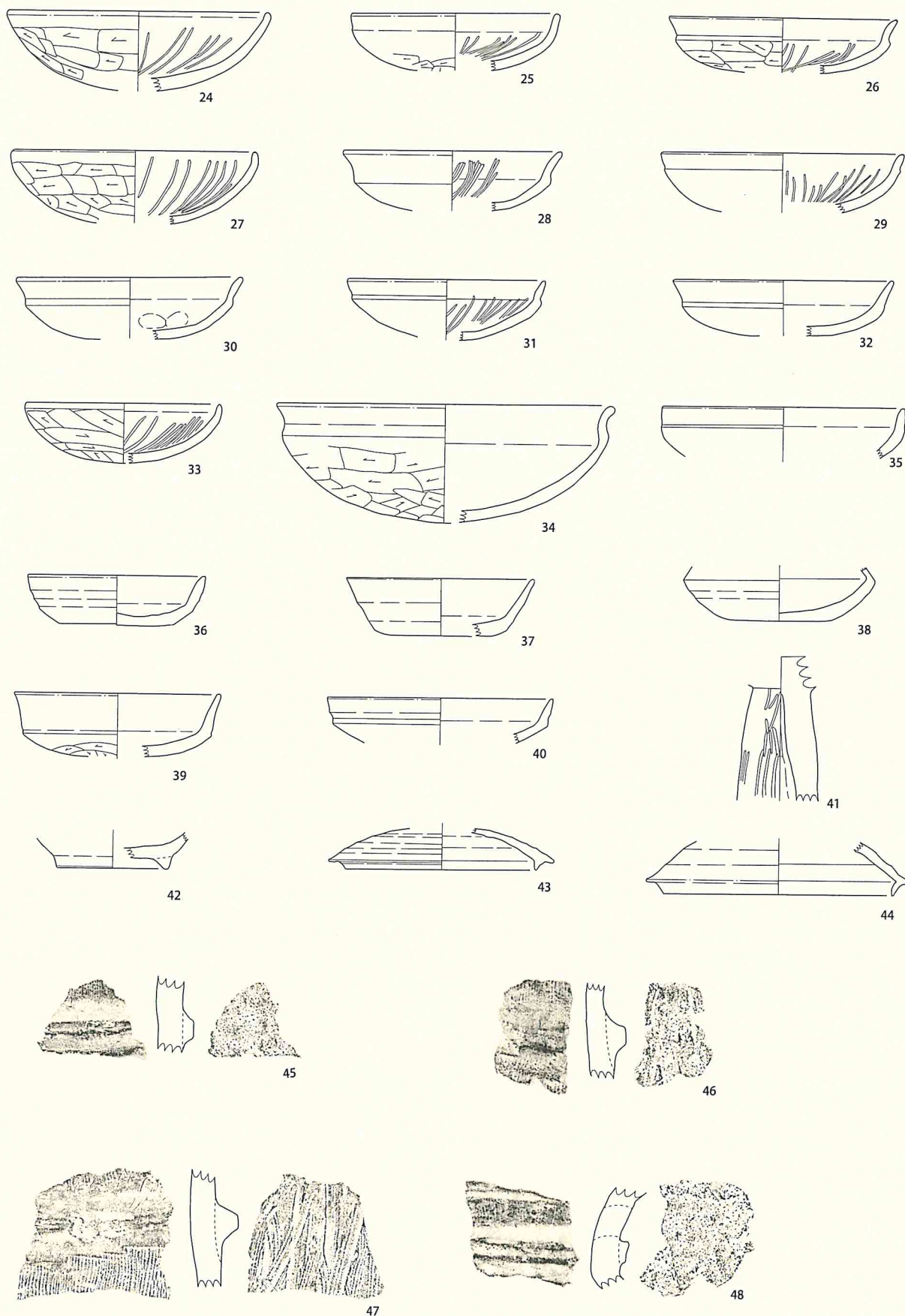


第8図 遺物包含区検出状況図



第9図 遺物包含区出土遺物(1)

0 1/3 5cm



第10図 遺物包含区出土遺物(2)

第2表 遺物包含区出土遺物観察表(1)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	甕 (土師器)	口縁～ 胴部	普通。 長石、雲母、 砂粒含む。	良好。 硬質。	10YR7/2 にぶい黄 橙	21.0(推)	口縁部大きく外反。	外：口縁部から頸部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。肩部ヘ ラナデ。	
2	甕 (土師器)	口縁～ 頸部	普通。 雲母、砂粒 多く含む。	良好。 やや硬質。	7.5YR6/1 橙	18.5(推)	口縁部大きく外反。	外：口縁部ヨコナデ。頸部ヘ ラケズリ。 内：ヨコナデ。	
3	甕 (土師器)	口縁～ 肩部	粗。 小礫、細砂 多く含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	24.0(推)	口縁部やや外反。頸部 2mm幅沈線めぐらす。	外：口縁部ヨコナデ。肩部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。	
4	甕 (須恵器)	口縁～ 肩部	密。 微砂含む。	良好。 硬質。	N7/	22.0(推)	ロクロ成形。口縁部外 反。内面平行叩きじめ 痕(青海波)。	外：ロクロナデ。 内：口縁部ロクロナデ。	
5	小型甕 (土師器)	口縁～ 体部	やや密。 微砂含む。	やや不良。 軟質。	5YR7/8 橙	14.0(推)	口縁部弓状にゆるやか に外反。口縁部下端に 稜。体部丸みを持つ。	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘ ラケズリ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。	
6	壺 (土師器)	口縁～ 肩部	やや密。 長石、雲母 含む。	やや良好。	7.5YR5/4 にぶい褐	12.4(推)	口縁部短く外反。胴上 部ヘラ先に段差をつけた 稜線あり。	外：口縁部ヨコナデ。 内：口縁部ヨコナデ。肩部ヨ コナデ。	
7	甕 (土師器)	口縁～ 頸部	粗。 粗砂多く含 む。	やや不良。 やや軟質。	7.5YR8/6 浅黄橙	15.0(推)	口縁部やや外傾。	外：口縁部ヨコナデ。肩部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。	
8	壺 (土師器)	口縁～ 肩部	やや粗。雲 母、長石、 細砂含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/4 にぶい橙	9.5	口縁部弓状に外反。頸 部に2mm幅沈線めぐらす。 肩部稜を持つ。	外：口縁部ヨコナデ。肩部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ヨ コナデ。	
9	甕 (土師器)	胴部	やや粗。雲 母少量、長 石粒、細砂 多く含む。	やや良好。 やや硬質。	7.5YR7/4 にぶい橙		器肉薄い。輪積痕あり。	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。ユビナデ。	
10	甕 (土師器)	胴部～ 底部	やや粗。 雲母、長石、 細砂多く含 む。	やや不良。 やや軟質。	7.5YR6/4 にぶい橙	3.7(推)	底部小さい。	外：胴部から底部ヘラケズリ。 内：ユビナデ。	内面、沈殿 物の跡か。 薄茶色の光 沢あり。
11	小型甕 (土師器)	口縁～ 肩部	やや粗。 雲母、砂粒 多く含む。	良好。 やや硬質。	7.5YR7/6 橙	10.0(推)	口縁部外反。肩部に稜 を持つ。	外：口縁部ヨコナデ。肩部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。	
12	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 1～3mm小礫 含む。	やや良好 やや軟質。	5YR7/6 橙	11.6 3.5	口縁部外反。口縁部下 端に稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。 ヘラミガキ。	
13	坏 (土師器)	口縁～ 底部	密。 2～5mm小礫 多く含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/8 橙	11.4 3.1	口縁部下端にゆるやか な稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。	残存率90%
14	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 1～2mm小礫 含む。	やや良好。 軟質。	5YR7/6 橙	11.6(推) 2.8	口縁部やや内湾。体部 丸みを持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘ ラケズリ後丁寧にナデ。 内：ナデ後ヘラミガキ。	
15	坏 (土師器)	口縁～ 底部	普通。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/8 橙	11.0(推) 2.8	口縁下端に稜を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘ ラケズリ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。	残存率90%
16	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 粗砂含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	10.8(推) 3.8	口縁部やや外傾。口縁 部下端に稜を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後丁寧にナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。指頭圧痕。	残存率55%

第3表 遺物包含区出土遺物観察表(2)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
17	坏 (土師器)	ほぼ完 形	普通。 長石、3~5 mm礫含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	10.6 3.6	口縁部下端ゆるやかな 稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。ヘラミ ガキ。	残存率75%
18	坏 (土師器)	ほぼ完 形	普通。	やや良好。 やや軟質。	5YR6/6 橙	11.6 4.2	口縁部外反。口縁部下 端に稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部丁 寧にナデ。 内：口縁部ヨコナデ。ヘラミ ガキ。指頭圧痕。	残存率90%
19	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 2~3mm小礫 含む。	良好。 やや硬質。	7.5YR7/4 にぶい橙	13.0(推) 4.0(推)	口縁部下端に稜を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後ナデ。 内：口縁部ナデ。体部ヘラミ ガキ。	
20	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 細砂含む。	やや不良。 軟質。	7.5YR7/6 橙	12.1(推) 4.0	口縁部下端に稜を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後丁寧にナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ヘ ラミガキ。	
21	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 細砂多く含 む。	やや良好。 やや硬質。	5YR7/6 橙	11.0(推) 3.5(推)	口縁部下端に稜を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内：ナデ後ヘラミガキ。	残存率55%
22	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 長石粒、細 砂多く含む。	良好。 やや硬質。	5YR7/6 橙	11.6(推) 2.8	口縁部下端に稜を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。	残存率80% 底部外面 黒斑あり。
23	坏 (土師器)	口縁～ 体部	やや粗。 長石、2~4 mm小礫含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/8 橙	14.6(推)	口縁部外反。口縁部下 端にゆるやかな稜を持 つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘ ラケズリ後丁寧にナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。	
24	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 3~4mm小礫 含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	14.0(推)	口縁端部内湾。体部か ら底部丸みを持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部か ら底部ヘラケズリ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ後ヘラミガキ。	
25	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 長石含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	11.2(推)	口縁部下端にゆるやか な稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。	
26	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 軽石状小礫 含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	12.2(推)	口縁部外反。口縁部下 端に稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後ナデ。 内：ヨコナデ。	
27	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 細砂含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	13.2(推)	口縁部内湾。口縁部下 端にわずかな稜を持つ。 体部から底部丸みを持 つ。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ後ヘラミガキ。	
28	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 微砂含む。	やや良好。	5YR6/6 橙	11.8(推)	口縁部外反。口縁部下 端に稜を持つ。	外：口縁部ヨコナデ。底部 ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ヘ ラミガキ。	
29	坏 (土師器)	口縁～ 体部	普通。 石英、長石 含む。	やや良好。 やや軟質。	7.5YR8/2 灰白	13.0(推)	口縁部下端に稜あり。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。 内：体部ヘラミガキ。	
30	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 長石、粗砂 多く含む。	やや不良。 軟質。	5YR7/6 橙	12.0(推)	口縁部下端に稜を持つ。 口縁部やや外反。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部ヘ ラケズリ後丁寧にナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。指頭圧痕。	
31	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 粗砂含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	10.8 3.3	口縁部外傾。口縁部下 端に稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。 ヘラケズリ後丁寧にナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ後ヘラミガキ。	

第4表 遺物包含区出土遺物観察表(3)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
32	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 細砂多く含 む。	やや良好。 軟質。	5YR7/6 橙	12.0(推) 3.1(推)	口縁部外反。口縁部下 端に稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部へ ラケズリ後丁寧にナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。	
33	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 粗砂多く含 む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	10.5(推) 3.2(推)	口縁部内湾。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部か ら底部へラケズリ。 内：ヨコナデ。	残存率60%
34	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 粗砂多く含 む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	18.2(推) 6.3(推)	口縁部外反。口縁部下 端に稜を持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部へ ラケズリ後丁寧にナデ。 内：ヨコナデ。	大型坏。
35	坏 (土師器)	口縁～ 体部	普通。 微砂含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	13.0(推)	口縁部下端に稜を持つ。	外：口縁部ヨコナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部へ ラケズリ後丁寧にナデ。	
36	坏 (須恵器)	口縁～ 底部	やや密。 黒色小礫粒 多く含む。	良好。 硬質。	5RP7/1 明紫灰	9.4(推) 2.7(推) 6.0(推)	ロクロ成形。小型。	外：ロクロナデ。体部中央か ら底部回転へラケズリ。 内：ロクロナデ。	残存率45%
37	坏 (須恵器)	口縁～ 底部	やや密。 2～3mm黒色 小礫多く含 む。	良好。 硬質。	2.5YR7/1 明オリー ブ灰	10.0(推) 3.1(推) 5.8(推)	ロクロ成形。	外：ロクロナデ。底部回転へ ラケズリ。 内：ロクロナデ。	
38	坏 (須恵器)	体部～ 底部	やや密。 微砂含む。	良好。 硬質。	5YR7/1 灰白	5.0(推)	ロクロ成形。体部明瞭 な稜を持つ。	外：ロクロナデ。体部中央か ら底部回転へラケズリ。 内：ロクロナデ。	6世紀から7 世紀前葉。
39	坏 (須恵器)	口縁～ 底部	やや密。 長石粒含む。	良好。 硬質。	5PB7/1 明青灰	11.0(推)	ロクロ成形。口縁下端 に稜を持つ。	外：ロクロナデ。底部へラケ ズリ。 内：ロクロナデ。	
40	坏 (須恵器)	口縁～ 体部	やや密。 細砂多く含 む。	良好。 硬質。	N8/ 灰白	12.0(推)	ロクロ成形。口縁部下 端に稜を持つ。体部回 転へラケズリ後ナデ。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
41	高坏 (土師器)	脚部	やや粗。 砂粒多く含 む。	やや良好。 やや軟質。	5YR8/4 淡橙		器肉厚い。	外：ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
42	埴 (須恵器)	高台部	やや粗。	不良。	2.5YR8/3 淡黄	6.0(推)	ロクロ成形。 付け高台。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
43	蓋 (須恵器)	蓋部	やや密。 2～3mm小礫 含む。	良好。 硬質。	2.5YR8/1 灰白	10.0(推)	ロクロ成形。	外：ロクロナデ。天井部回転 へラケズリ。 内：ロクロナデ。	
44	蓋 (須恵器)	蓋部	やや密。	良好。 硬質。	5PB7/1 明青灰	12.0(推)	ロクロ成形。ロクロ目 明瞭。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
45	円筒埴輪	突帯部	やや粗。 砂粒多く含 む。	やや良好。	5YR7/6 橙		突帯部貼り付け。	外：細かい刷毛調整。 内：ナデ。	
46	円筒埴輪	突帯部	普通。砂粒 多く含む。	やや良好。 やや軟質。	7.5YR6/8 橙		突帯部貼り付け。	外：刷毛目。 内：ヘラナデ。	
47	円筒埴輪	突帯部	やや密。 小礫多く含 む。	良好。 やや硬質。	5YR6/6 橙		突帯部貼り付け。	外：2cm幅12本刷毛目。 内：ヘラナデ。	
48	朝顔型 埴輪	突帯部	粗。長石、 2～8mm小礫 多く含む。	良好。 やや硬質。	5YR6/4 橙		突帯部貼り付け。突帯 上部沈線めぐる。	外：刷毛目。突帯部貼り付ヨ コナデ。ヘラ状工具によ り刺突。 内：ナデ。輪積痕跡あり。	

第5章 近世以降の遺構と遺物

第1節 畠状の遺構

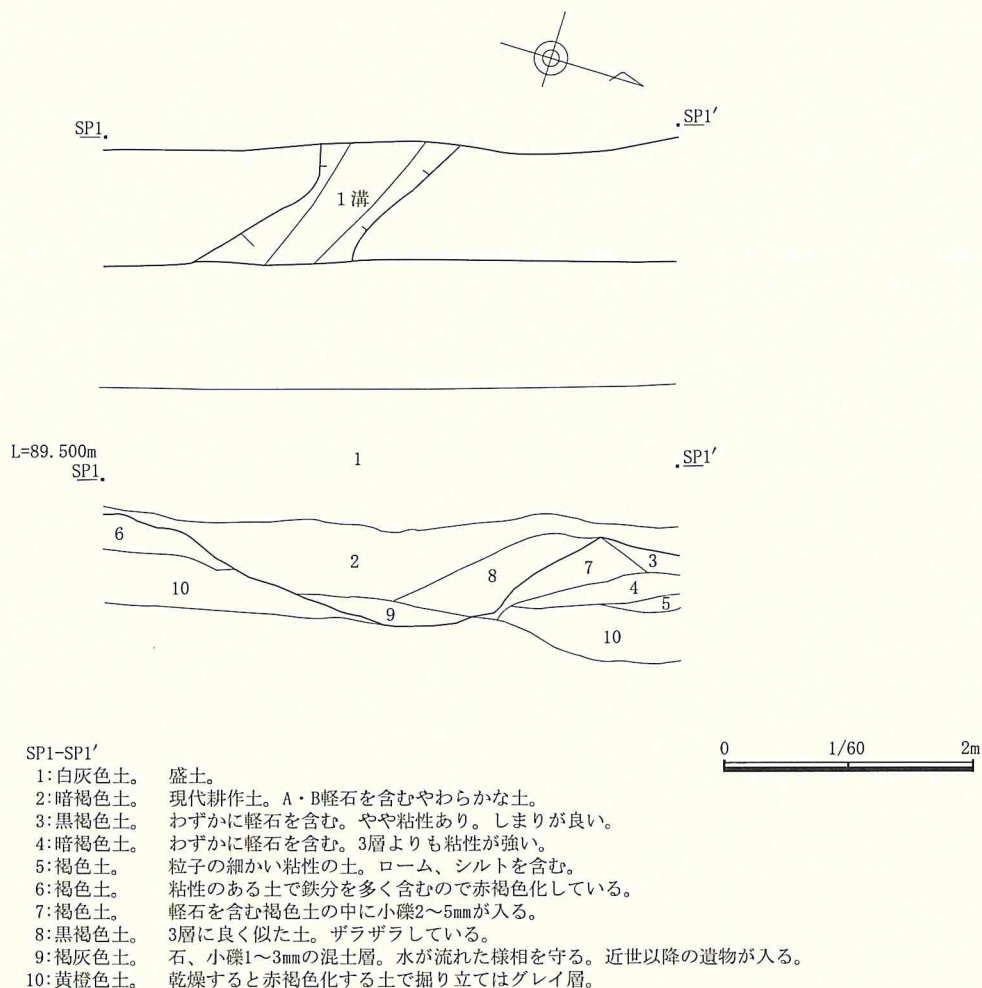
水田跡の西側で、遺物包含区の東側に当たる場所から、幅20～40cm程で確認面より5～10cm程の東西に伸びる溝状遺構の底面部を11条検出した。溝と溝の間隔は40～70cm程で、僅かに残された覆土中には多量のA軽石が混入しているとともに、古墳時代の土器片や近世以降の陶磁器類の小破片が検出されており、近世以降の根菜類生産のための遺構と考えられる。



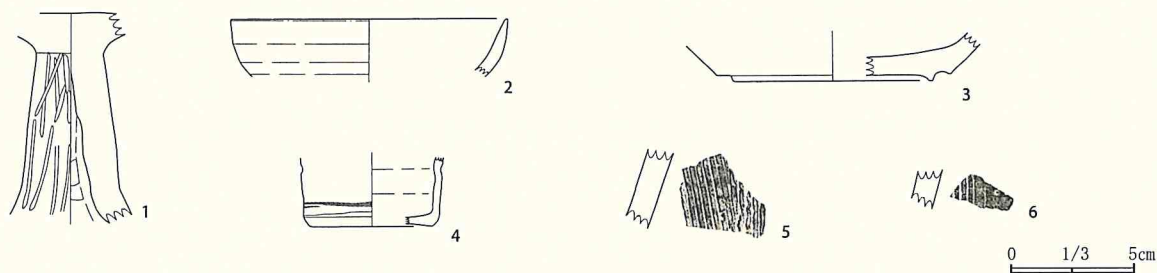
第11図 畠面

第2節 1号溝

本遺跡地の北部は井野川に伴うと考えられる段丘状になっており、遺跡地の標高が90.5mに対し、北部の現状が水田の場所は89.5mと徐々に標高を下げている。1号溝は、この標高が下がった段丘状の底部で確認された東西方向に伸びると考えられる溝跡であり、この部分を境に北西から南東方向に向かっていると考えられることから、現在の東貝沢町と上大類町の字の境界を示す溝跡と考えられる。断面で見ると、幅約3.7m・深さ約0.9mでなだらかなU字状に掘り込まれた溝で、底部から古墳時代の高坏の脚部や近世以降の陶磁器類の小破片が僅かに検出されている。溝の位置や出土遺物から考えて、現在耕作されている北側や東側の水田に水を潤すための溝の一部と考えて良いと思われる。



第12図 1号溝(遺構確認平面図・断面図)



第13図 1号溝出土遺物

第5表 1号溝出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	高坏	脚部	やや密。 2~4mm小礫 含む。	良好。 やや硬質。	2.5YR7/4 暗赤灰		ロクロ成形。体部外傾。	外：ナデ。 内：ヘラミガキ。	
2	小鉢 (陶器)	口縁～ 体部	普通。	やや良好。	7.5Y8/1 灰白	11.0(推)	ロクロ成形。 内面鉄釉。 外面口縁下一条の線。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	美濃焼。 18世紀。
3	皿 (灰釉陶器)	体部～ 高台部	密。 微砂含む。	良好。 硬質。	5YR8/2 灰白	8.0(推)	ロクロ成形。高台部鋭 角。丁寧な作り。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	美濃焼。 内外面施釉。
4	徳利 (磁器)	胴部～ 底部				5.0(推)	つくり薄い。		明治初期。 吹墨。
5	搦鉢	体部	やや密。 2mmの粗砂 含む。	良好。 やや硬質。	2.5YR6/3 にぶい橙		ロクロ成形。体部外傾。	外：ナデ。 内：3mm幅櫛目。	
6	搦鉢	体部	やや粗。 砂粒多く含 む。	やや不良。 やや軟質。	2.5YR3/1 暗赤灰		ロクロ成形。体部外傾。	外：ナデ。 内：2.5mm櫛目。	

とみおかしもくら

富岡下蔵遺跡 2

第1章 調査と遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

平成25年度に高崎市福祉部保育課（以下、「保育課」）より高崎市立箕郷第三保育園舎の老朽化に伴い新園舎建設事業が計画された。高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課（以下、「文化財保護課」）へ工事予定地の埋蔵文化財について照会があった。事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当することが明らかになった。平成25年6月6日に、高崎市教育委員会が試掘調査を行い、平安時代の集落跡を検出した。平成25年6月20日に保育課より文化財保護法第94条に基づく通知が文化財保護課に提出された。工事計画に基づき、保育課と文化財保護課で埋蔵文化財保護について協議を行ったが、保育課より事業計画の見直しや変更は不可能との回答を得た。文化財保護課では、埋蔵文化財への工事による影響は不可避との判断により、群馬県埋蔵文化財発掘調査取り扱い基準に基づき、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。

第2節 調査の方法

発掘調査は平成25年10月7日～12月20日まで実施した。昭和30年代まで三郷小学校として利用されていた為、はじめに重機による砕石・アスファルト部分の除去をした。また、建物基礎部分は残しながら調査を実施した。このため、この部分の調査は実施していない。重機による表土掘削は、基本土層Ⅱ層上面まで掘り下げた。その後、人力による遺構確認を行い、重複関係を明らかにした上で、時代の新しい遺構から精査を行った。この過程で、遺物出土状態・遺構の埋没状況・完掘状況等の記録を段階的に作成した。遺構測量にあたっては、遺構全体図・平面図・断面図や出土遺物図などを作成し、記録化した。遺構測量に関しては、作業効率化のため、一部外部委託を実施している。写真記録は、35mmのモノクロとリバーサルを使用し、調査担当者が撮影した。空中写真撮影は外部委託で実施した。調査終了後は、搬出した表土を用いて調査区の埋め戻しを行い、現地調査を終了した。

発掘調査期間に、出土遺物の洗浄、注記、接合作業を行った。遺構平面図・断面図は住居跡を外部に委託し、それ以外は、担当者の指示のもと作業員がデジタルトレースをした。出土遺物の実測・トレース・観察表・写真撮影は、鉄製品以外を外部に委託した。版組・編集作業は、担当者の指示のもと作業員が行った。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地と環境

高崎市の地形は榛名山南東麓に広がる火山山麓扇状地（相馬ヶ原扇状地）と、それに続く前橋台地とからなり、烏川から井野川までは井野川低地帯が続いている。前橋台地は約2.1万年前に発生した浅間山起源の前橋泥流層からなり、この上に砂層・泥炭層が堆積し、さらに約1.1万年前の高崎泥流層が堆積し、高崎台地を形成している。

富岡下蔵遺跡は、旧箕郷町鳴沢湖の東側にあり、榛名山の古期活動によって形成された古期扇状地である「十文字面」の東側に立地している。この「十文字面」は、小河川による開析谷が発達している。本遺跡東側を流れる榛名白川から井野川に挟まれた地域は「白川扇状地」と呼ばれ、榛名山二ツ



第1図 富岡下蔵遺跡2位置図

岳の二度の噴火に伴う火砕流（FPF-1、FPF-2）と二次的な洪水層が厚く堆積している。また、井野川以東は、相馬ヶ原扇状地が広がっている。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

本遺跡地周辺は、烏川に合流する駒寄川、谷津川、高浜川が西側に流れ、車川・榛名白川・井野川が東に流れ、変化に富んだ地形を形成し、多くの遺跡が営まれている。

旧石器時代 榛名白川右岸に立地する白川傘松遺跡（32）から、旧石器時代後期の石器類が出土している。また、車川流域の中善地・宮地遺跡からは、旧石器時代終末期に相当する槍先形尖頭器や細石刃が確認されている。

縄文時代 縄文時代には、榛名山麓の丘陵上一体に遺跡分布が認められる。十文字平から鳴沢湖周辺にかけて前期後半の十三坊遺跡（18）、前・中期の西ノ原遺跡（7）、原山向遺跡（6）、富岡・稲荷山遺跡（11）、中期の向山遺跡（8）、前期から後期の善地・抜樋遺跡などがあり、中期の白川傘松遺跡（32）から翡翠製大珠が出土している。

弥生時代 烏川沿いにかけて蔵屋敷遺跡、寺内遺跡、麻干原遺跡（49）があり、中里見中川遺跡（23）から弥生時代後期の水田跡が検出されている。台地上では集落などが営まれ、河川沿いや谷地で水田耕作を行っていたと考えられる。

古墳時代 鳴上遺跡（4）、京塚古墳（3）、原山遺跡（8）、車持塚古墳（15）、長者久保古墳群などがあり、弥生時代に比べて遺跡数が増加している。4世紀初頭には中里見原遺跡（21）に古墳が造られ始める。中期になると下芝五反田遺跡（37）、行力春名社（38）などがあり、下芝天神遺跡（35）からは2500点余の土器祭祀遺構がある。後期にはいと和田山天神前遺跡（33）、道場遺跡、海行A遺跡など集落が展開してくる。7世紀にはいと本郷的場古墳群、奥原古墳群（48）が造られる。下里見宮谷戸遺跡から鉄製金床が出土し、海行B遺跡から韓式土器が出土している。

奈良・平安時代 奈良時代に入ると生原薬師遺跡（43）、生原堀ノ内遺跡（44）などの集落がつくられ、平安時代後期になると神戸宮山遺跡（25）、三ツ子沢中遺跡（26）、和田山天神前遺跡（33）などの集落が展開してくる。中里見原遺跡（21）・中里見根岸遺跡（22）・中里見中川遺跡（23）では、9～10世紀の製鉄関連遺構が確認されている。また、浅間B軽石によって覆われた水田跡が中里見中川遺跡（23）・神戸岩下遺跡（24）・高浜向原遺跡（27）・浜川長町遺跡（39）・北新波遺跡（50）などで検出されている。生原諏訪遺跡（42）からは浅間B軽石下から灌漑に伴うと考えられる大溝が確認されている。

中世 中世に入ると長野郷から長野氏が台頭し、北新波砦遺跡（51）・浜川高田遺跡などで城館が造られる。和田山天神前遺跡（33）から14世紀前後の寺院跡が確認され、極楽院伝承地の土坑から信貴形水瓶が埋納された状態で出土している。永正9（1512）年、大永6（1526）年？に長野尚業により箕輪城が築城される。長野尚業・憲業・業政・業盛の4代は、榛名山南麓を基盤とする武士団の頭領として勢力を広げてくる。永禄9年9月（1566年）武田信玄により箕輪城攻略され、天正10年3月（1582年）織田配下の滝川一益が入城する。6月織田氏滅亡後、後北条氏の配下となる。

近世 1590年小田原の役後、豊臣秀吉の命により、徳川家康家臣の井伊直政は上野国箕輪に12万石で配された。1598年、秀吉の死後、徳川家康の命で箕輪城を和田城跡地に移城し、高崎藩を立藩する。

和田城は正長元（1428）年、和田義信築城と「和田記」に記されている。和田氏は、初め長野氏（箕輪城）の元、上杉方に属していた。1562（永禄5）年5月以前に武田方に、1582（天正10）年には滝川一益、1582年神流川合戦後は小田原北条氏に属した。1590（天正18）年、小田原の役の際、和田信業（当主）は小田原城に籠城している。このとき、和田城も廃城になった可能性がある。



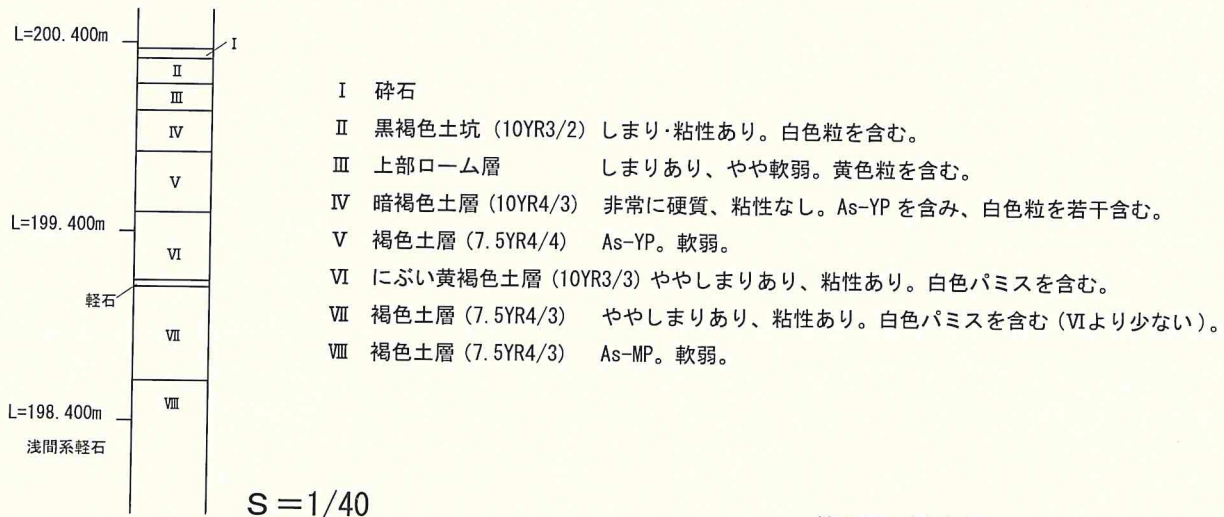
第2図 周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の内容
1	富岡下蔵遺跡2	旧箕郷町富岡	縄文時代中期住居、平安時代集落、鍛冶遺構。
2	富岡下蔵遺跡	旧箕郷町富岡	弥生時代後期・平安時代の遺物散布。
3	京塚古墳	旧箕郷町富岡	古墳、綜覧旧車郷村1号
4	鴨入遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代早期～中期・弥生時代後期・奈良～中世の遺物散布。
5	柿木沢遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代前期～中期・奈良・平安時代の遺物散布。
6	原山向遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代前期～中期・平安時代の遺物散布。
7	西ノ原遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代前期・平安時代・中世・近世の遺物散布。
8	原山遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代中期の遺物散布、古墳。
9	箕輪城跡	旧箕郷町東明屋	1512年(1526年?)に築城、1598年に廃城、梯郭式山城。
10	城山	旧箕郷町西明屋	縄文時代中期集落。
11	富岡・稲荷山遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代前期住居。
12	富岡・西並木遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代～中世にかけての遺物散布。
13	東沢遺跡	旧箕郷町善地	平安時代の遺物散布。
14	下千手遺跡	旧箕郷町善地	平安時代の遺物散布。
15	車持塚古墳	旧箕郷町善地	古墳時代後期古墳、鉄製直刀、金環出土。 綜覧旧車郷村39号
16	善地・下ノ原遺跡	旧箕郷町善地	縄文時代遺物散布、古墳。
17	富岡・笠原遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代遺物散布。
18	十三坊遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代前期～後期・奈良・平安時代・中世・近世の遺物散布。
19	中尾根遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代早期～中期・弥生時代中期の遺物散布。
20	千福遺跡	旧箕郷町富岡	縄文時代中期・弥生時代中期・奈良・平安時代の遺物散布。
21	中里見原遺跡	旧榛名町中里見	4C初古墳、平安時代集落・基壇建物、製鉄遺構(9C)。
22	中里見根岸遺跡	旧榛名町中里見	縄文時代晩期包含層、平安時代製鉄遺構(10C)。
23	中里見中川遺跡	旧榛名町中里見	弥生時代後期水田、平安時代製鉄遺構(10C)、As-B下水田。
24	神戸岩下遺跡	旧榛名町神戸	As-C下水田、As-B下水田、近代畠。
25	神戸宮山遺跡	旧榛名町神戸	平安時代後期集落(10C後半～11C前半)。
26	三ツ子沢中遺跡	旧榛名町三ツ子沢	旧石器時代、縄文時代前期～後期住居、弥生時代後期集落、古墳時代後期集落、平安時代後期集落、江戸時代祭祀遺構。
27	高浜向原遺跡	旧榛名町高浜	縄文時代前期集落、As-C下水田、As-B下水田。
28	高浜広神遺跡	旧榛名町高浜	縄文時代中期後半集落、9～10C集落・掘立建物。
29	白岩民部遺跡	旧榛名町白岩	A T層下旧石器、As-B下水田。
30	白岩浦久保遺跡	旧榛名町白岩	縄文時代土坑、古墳時代後期住居、中世畠。
31	白川笹塚遺跡	旧箕郷町白川	縄文時代前～中期集落、7C古墳、近世墓坑。
32	白川傘松遺跡	旧箕郷町白川	A T層下旧石器、縄文時代中期拠点集落、翡翠製大珠出土。
33	和田山天神前遺跡	旧箕郷町和田山	A T層下旧石器、縄文時代前期・古墳時代後期・平安時代後期集落、6C後半～7C前半群集墳、中世寺院。
34	下芝上田屋遺跡	旧箕郷町下芝	8C代?畠、As-B下水田。
35	下芝天神遺跡	旧箕郷町下芝	古墳時代中期住居・祭祀遺跡、As-B下水田。
36	下芝谷ツ古墳	旧箕郷町下芝	古墳時代中期方墳、金銅製飾履出土。
37	下芝五反田遺跡	旧箕郷町下芝	古墳時代中期集落・畠、奈良～平安時代集落、As-B下水田。
38	行力春名社遺跡	高崎市行力町	古墳時代中期滑石製品工房、平安時代掘立建物、As-B下水田。
39	浜川長町遺跡	高崎市浜川町	古墳時代後期住居、Hr-FP下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田。
40	上芝古墳	旧箕郷町上芝	古墳時代後期帆立貝式古墳、綜覧旧箕郷町4号。
41	生原八反畠遺跡	旧箕郷町生原	縄文時代中期住居、奈良～平安時代集落。
42	生原諏訪遺跡	旧箕郷町生原	平安時代(10C)住居、As-B下大溝。
43	生原薬師遺跡	旧箕郷町生原	奈良～平安時代集落。
44	生原堀ノ内遺跡	旧箕郷町生原	奈良～平安時代集落、鍛冶遺構。
45	生原佐藤遺跡	旧箕郷町生原	古墳時代後期～平安時代集落。
46	生原飯盛遺跡	旧箕郷町生原	古墳時代後期・奈良～平安時代集落、7C前半古墳。
47	生原善龍寺前遺跡	旧箕郷町生原	縄文時代中期住居、古墳～平安時代集落。
48	奥原古墳群	旧榛名町本郷	7C初頭～7C末古墳群。
49	麻干原遺跡	旧榛名町本郷	弥生時代・古墳時代後期・平安時代集落。
50	北新波遺跡	高崎市北新波町	平安時代後期住居、As-B下水田。
51	北新波砦遺跡	高崎市北新波町古城	14～15C城館、長野氏に関連すると考えられる。

第3節 基本土層

調査区は、旧建物や通路として利用され、建物取壊し後も駐車場として使用されたため、地表約10cmの厚さで碎石が敷設されていた（Ⅰ層）。8～70cmの厚みで、黒褐色土があり（Ⅱ層）、Ⅲ層から、ローム層が形成されている。火山噴出物である浅間A軽石（As-A）、浅間B軽石（As-B）については、確認出来なかった。浅間C軽石（As-C）についてはⅡ層で二次堆積が確認できた。Ⅴ層から浅間白糸軽石（As-YP）、Ⅷ層から浅間室田軽石（As-MP）が確認できる。表土掘削は、Ⅱ層上面で行った。



第3図 基本土層図

第4節 遺跡の概要

(1) 旧石器時代

旧石器期の遺構の検出、遺物の出土は無かった。

(2) 縄文時代

縄文期の遺構は、17号住居を検出している。この他に、18号住居も縄文期と考えられるが、出土遺物が黒曜石片のみで確定には至らなかった。17号住居からは、加曾利EⅢ式の深鉢が出土している。また、3号住居から石鏃が出土している。

(3) 弥生時代・古墳時代

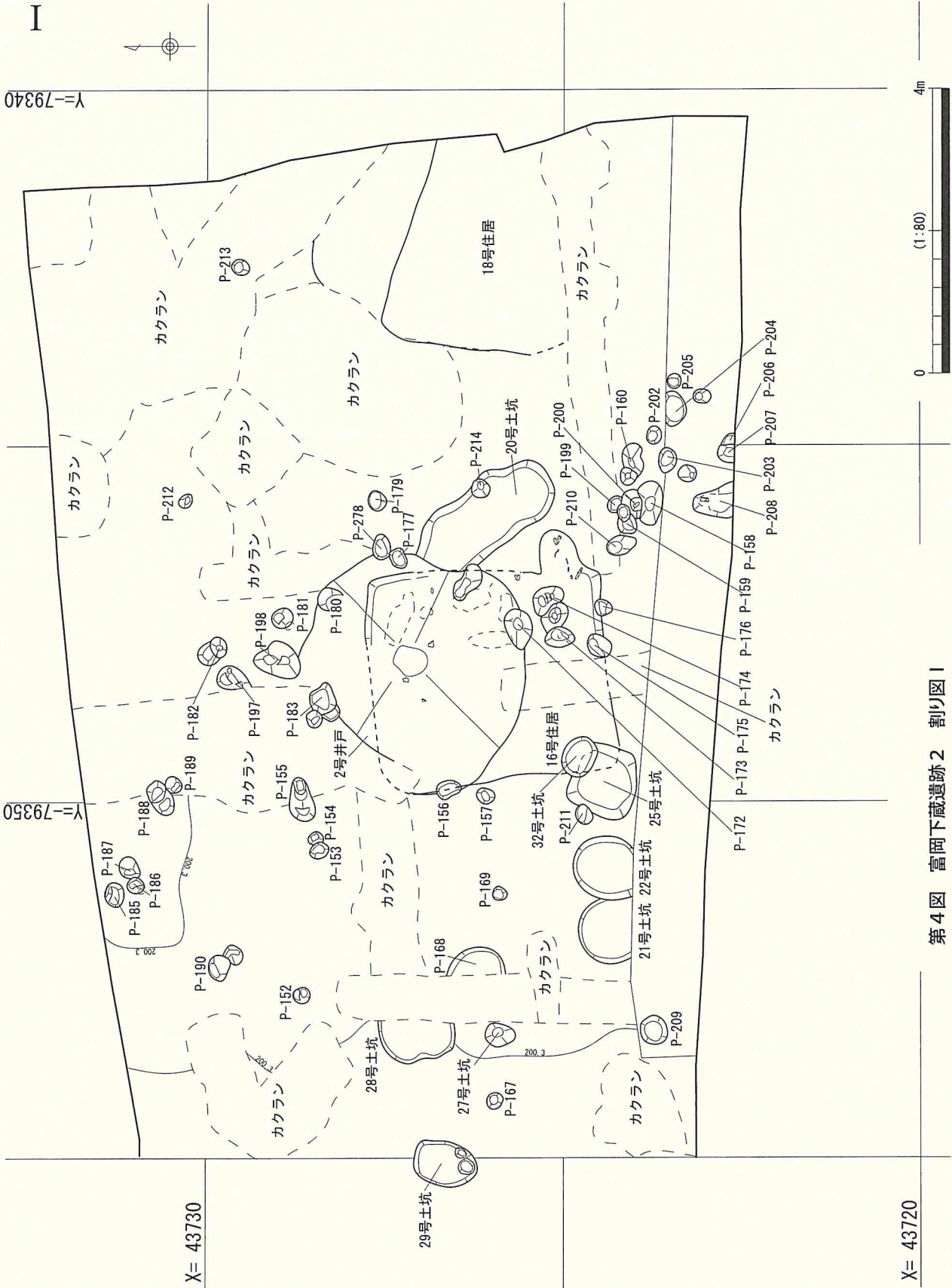
弥生期の遺構の検出、遺物の出土は確認できなかった。古墳期の遺構は確認できなかった。遺物の出土は皆無である。

(4) 奈良・平安時代

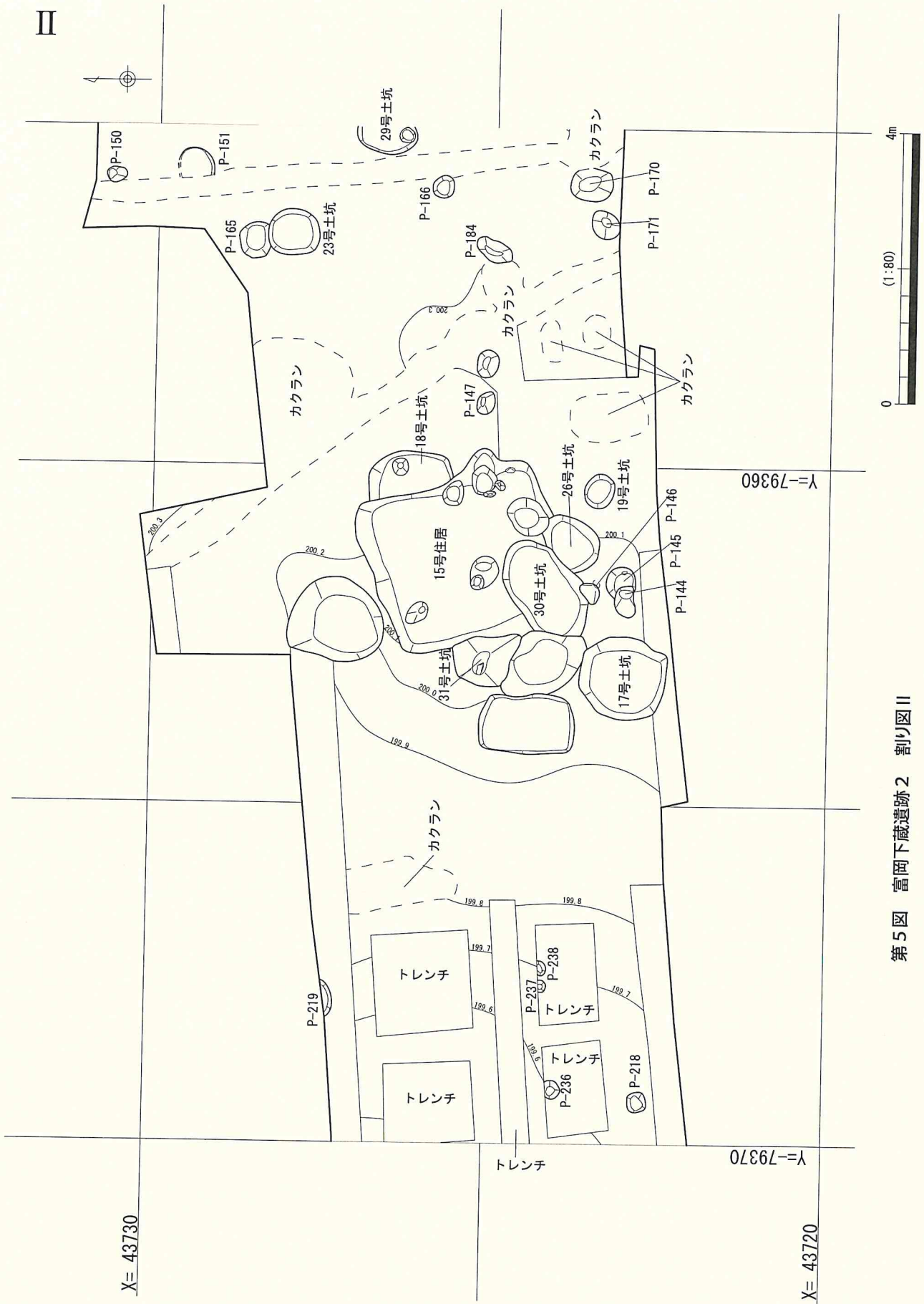
奈良・平安期の遺構は、1～16・19号住居、土坑、ピット、1～3号溝、2号井戸を検出している。多くの住居は、調査区西南側から確認している。12号住居から、羽口・金床石・鉄滓が出土している。この他、3・4・9・15・16号住居から鉄鏃・刀子などの鉄製品が出土している。20号土坑から鉄製釘が出土しており、墓坑と考えられる。

(5) 中世

中世の遺構は、断面などから土坑、ピットを確認している。遺物は皆無で、2号溝から青磁片が出土している。

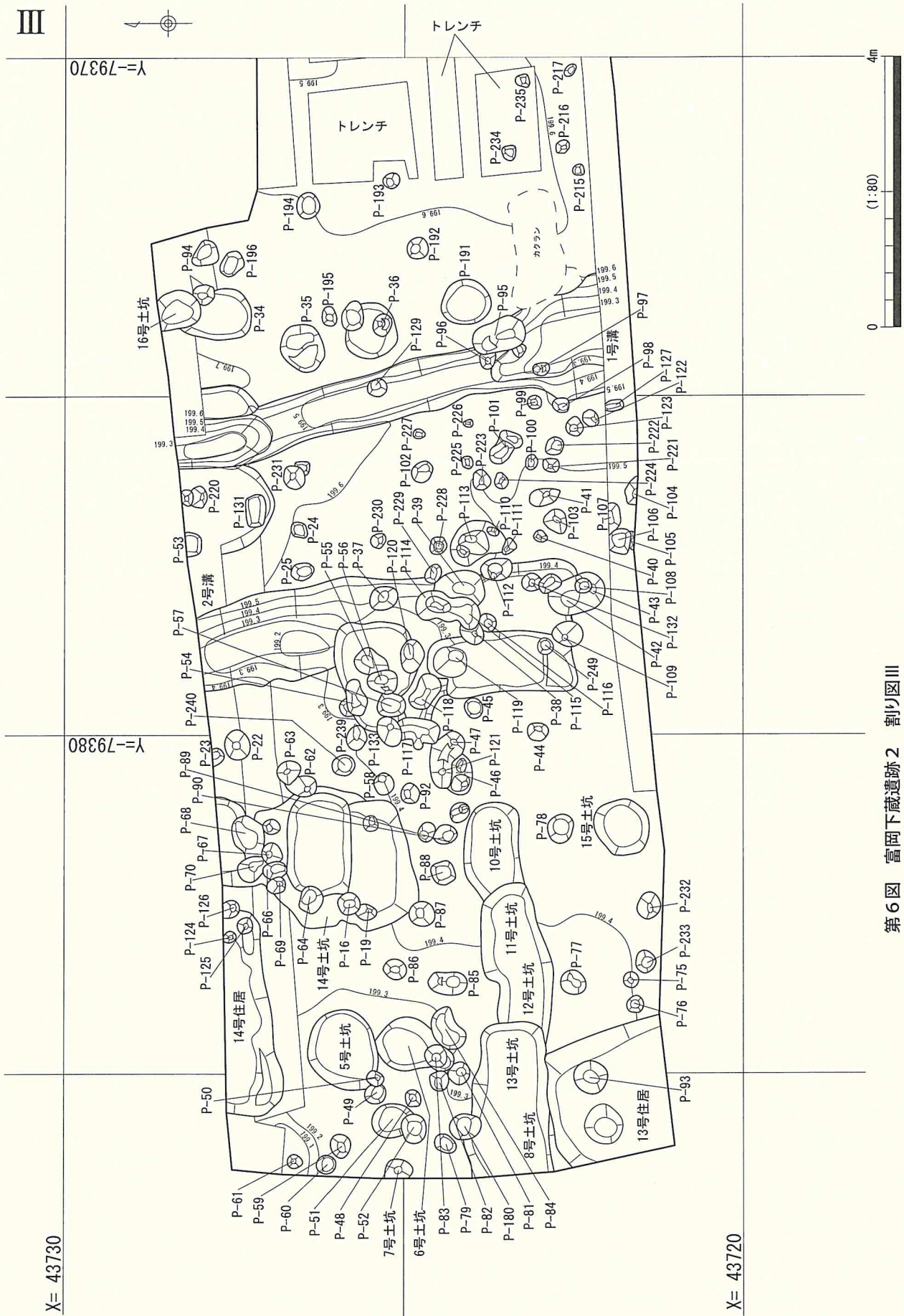


第4図 富岡下蔵遺跡 2 割り図 I



第5図 富岡下蔵遺跡2 割り図II

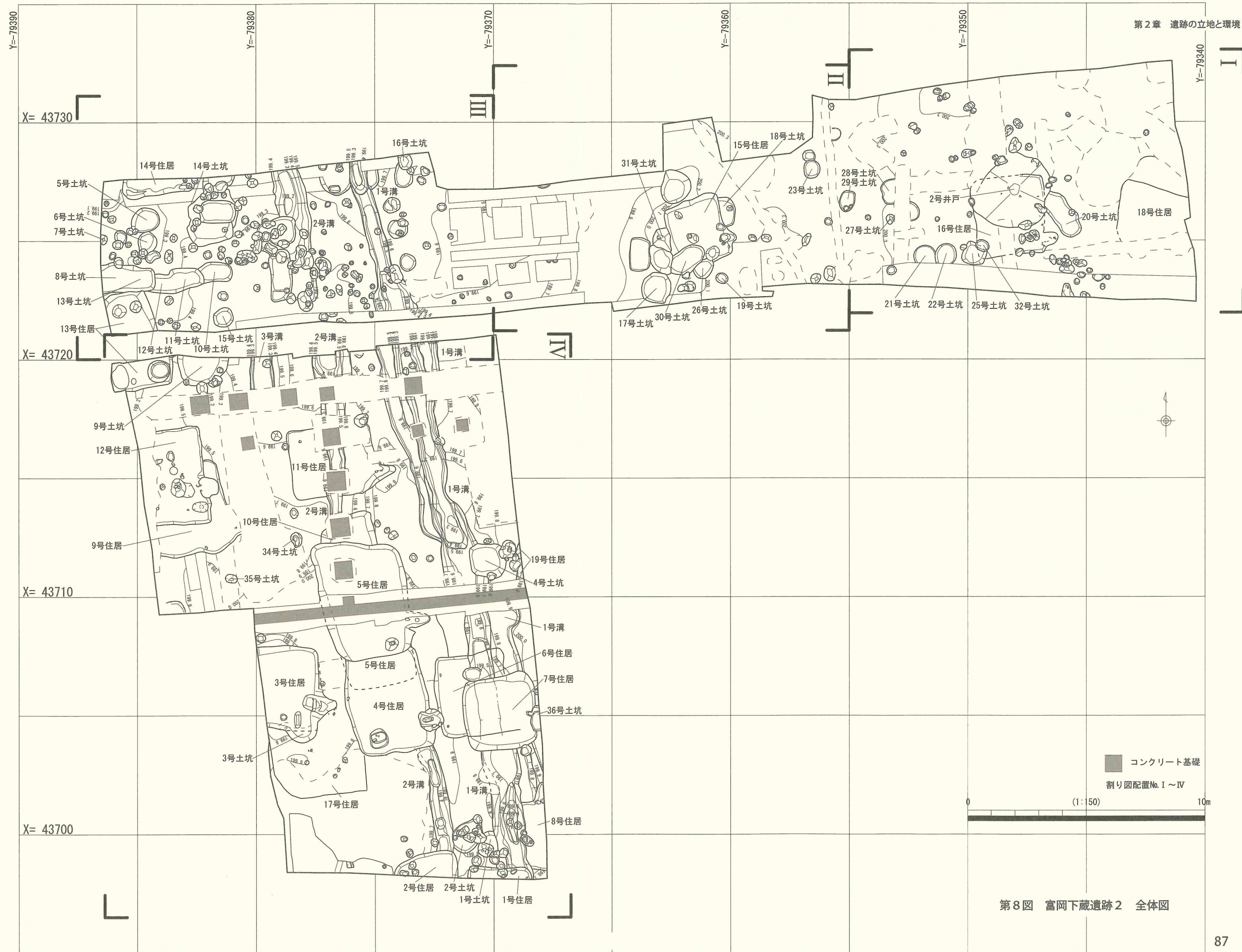
III



第6図 富岡下蔵遺跡 2 割図 III



第7図 富岡下蔵遺跡2 割り図IV



第8図 富岡下蔵遺跡2 全体図

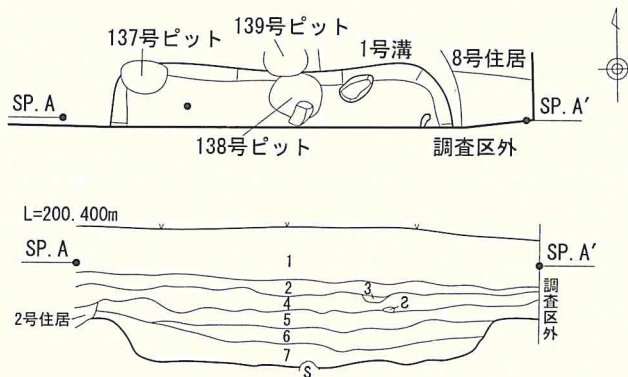
第3章 検出した遺構・遺物

第1節 検出した遺構・遺物

(1) 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡(第9図)

規模 東西2.7m、南北0.5mを測り、正方形を呈す。 **方位** N-1.25° -E **重複** 137・138・139号ピット、1号溝と重複する。1号溝→1号竪穴住居と新しい。 **壁** 残存壁高は37cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。 **床面** 黄白色土の混じる褐色土である。 **柱穴** 確認できず。 **遺物出土状態** 土師器の坏片、須恵器坏片、鉄滓が出土。

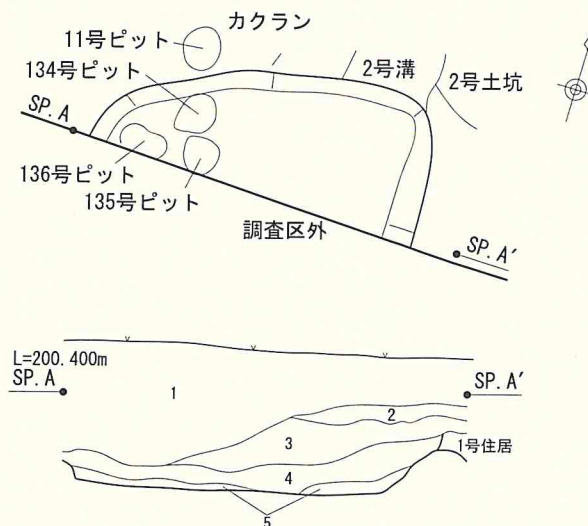


- 1 近代昭和20年代の造成土。黄色粘質土主体。
(車郷中時代はグラウンド利用部分)
- 2 黒褐色土(5YR3/1) As-B混。砂質だがしり強い。
- 3 黒色土(10YR2/1) As-B混。砂質で軟弱。
- 4 黒色土(N2/0) 多量のAs-C。若干の黄色粒混。
粘性弱いがしりあり。
- 5 黒色土(N2/0) As-C。黄色粒混。角閃石安山岩
(φ10cm)若干混じる。
粘性弱いがしりあり。
- 6 黒色土(N2/0) As-C(7>8)。黄色粒混。
粘性弱いがしりあり。
- 7 黒色土(N2/0) As-C(8>9)。黄色粒混。
粘性弱いがしりあり。

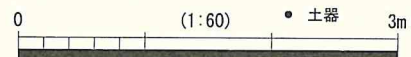
第9図 1号竪穴住居跡 平面図・断面図

2号竪穴住居跡(第10図 PL.26)

規模 東西2.7m、南北1.3mを測り、方形を呈す。 **方位** N-3.8° -W **重複** 134・135・136号ピット、2号溝と重複する。2号溝→2号竪穴住居と新しい。 **壁** 残存壁高は50cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。 **床面** 黄白色土の混じる褐色土である。 **柱穴** 確認できず。 **遺物出土状態** 土師器の坏片、須恵器坏片が出土。



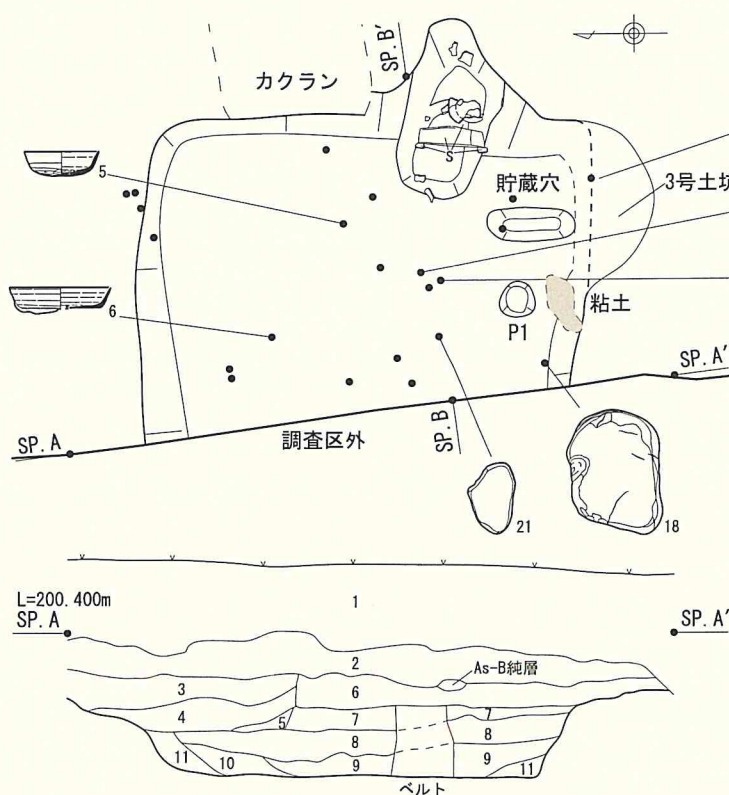
- 1 近代昭和20年代の造成土。黄色粘質土主体。
(車郷中時代はグラウンド利用部分)
- 2 黒褐色土(5YR3/1) As-B混。砂質だがしり強い。
- 3 黒色土(N2/0) 多量のAs-C。若干の黄色粒混。
粘性弱いがしりあり。
- 4 赤黒色土(2.5YR2/1) 多量のAs-C(4>5)。若干の黄色粒混。
粘性弱いがしりあり。
- 5 赤黒色土(2.5YR2/1) 多量のAs-C(5>6)。若干の黄色粒混。
粘性弱いがしりあり。



第10図 2号竪穴住居跡 平面図・断面図

3号竪穴住居跡(第11~17図 PL. 26・31)

規模 東西3.3 m、南北3.6 mを測り、正方形を呈す。 **方位** N- 97.2° -E **重複** 3号土坑と重複する。3号土坑→3号竪穴住居と新しい。 **壁** 残存壁高は54cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。 **床面** 全体が硬化し、黄白色土の混じる褐色土である。 **柱穴** 住居の南側に2基の柱穴を検出した。P1は径40×42cm、深さ14cm、P2は径50×58cm、深さ35cm **貯蔵穴** 南東隅に径86cm×32cm、深さ27cmを測り、長方形を呈す。 **カマド** 南東に位置する。焚き口幅52cm、奥行き100cmを測り、壁外に造り出される。天井石・袖石に凝灰岩を使用。火床面に灰を検出した。 **遺物出土状態** 土師器の坏、須恵器坏蓋・坏、羽釜が出土。このほか、掘り方土中から土製円盤・剥片などが出土した。

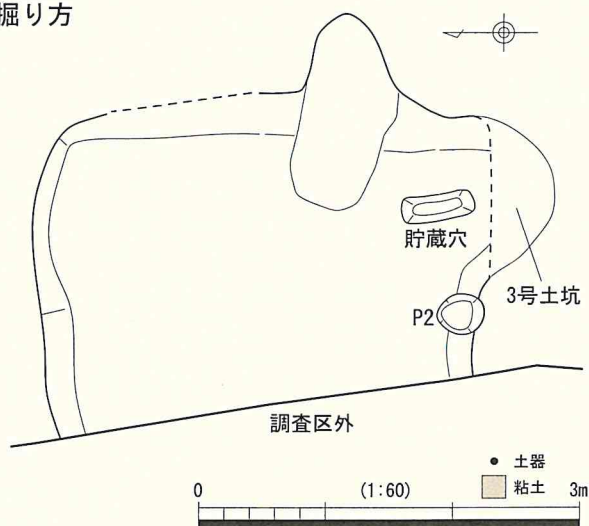


3号住居 A・B

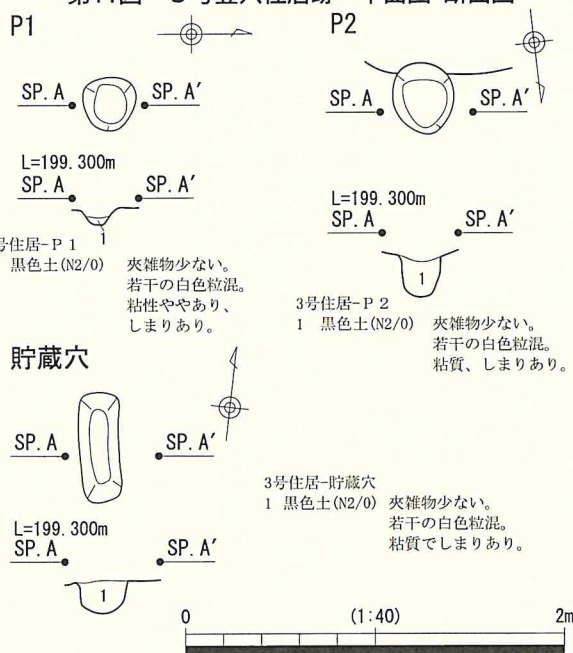
- 1 近代 (昭和 20 年代) の造成土。
As-A、-B 混。
砂質だがしまりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1)
As-B 混。砂質だがしまりあり。
As-B 混 (3>4)。
砂質だがしまりあり。
- 3 暗灰色土 (N3/0)
- 4 暗灰色土 (N3/0)
As-B 混 (4>5)。砂質だがしまりあり。
As-C。黄色粒混。ややしまりあり。
- 5 暗灰色土 (N3/0)
- 6 暗灰色土 (N3/0)
- 7 暗灰色土 (N3/0)
- 8 暗灰色土 (N3/0)
As-C (7<8)。黄色粒、炭化粒 (7>8) 混。
しまりあり。
- 9 暗灰色土 (N3/0)
As-C (8>9)。黄色粒混。しまりあり。
- 10 暗灰色土 (N3/0)
As-C (9<10)。黄色粒混。しまりあり。
- 11 暗灰色土 (N3/0)
若干の As-C 混 (II 層の崩落が主体か)。
粘質でしまりあり。

第11図 3号竪穴住居跡 平面図・断面図

掘り方

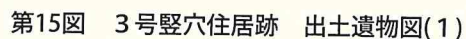
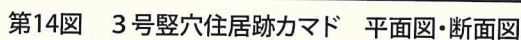


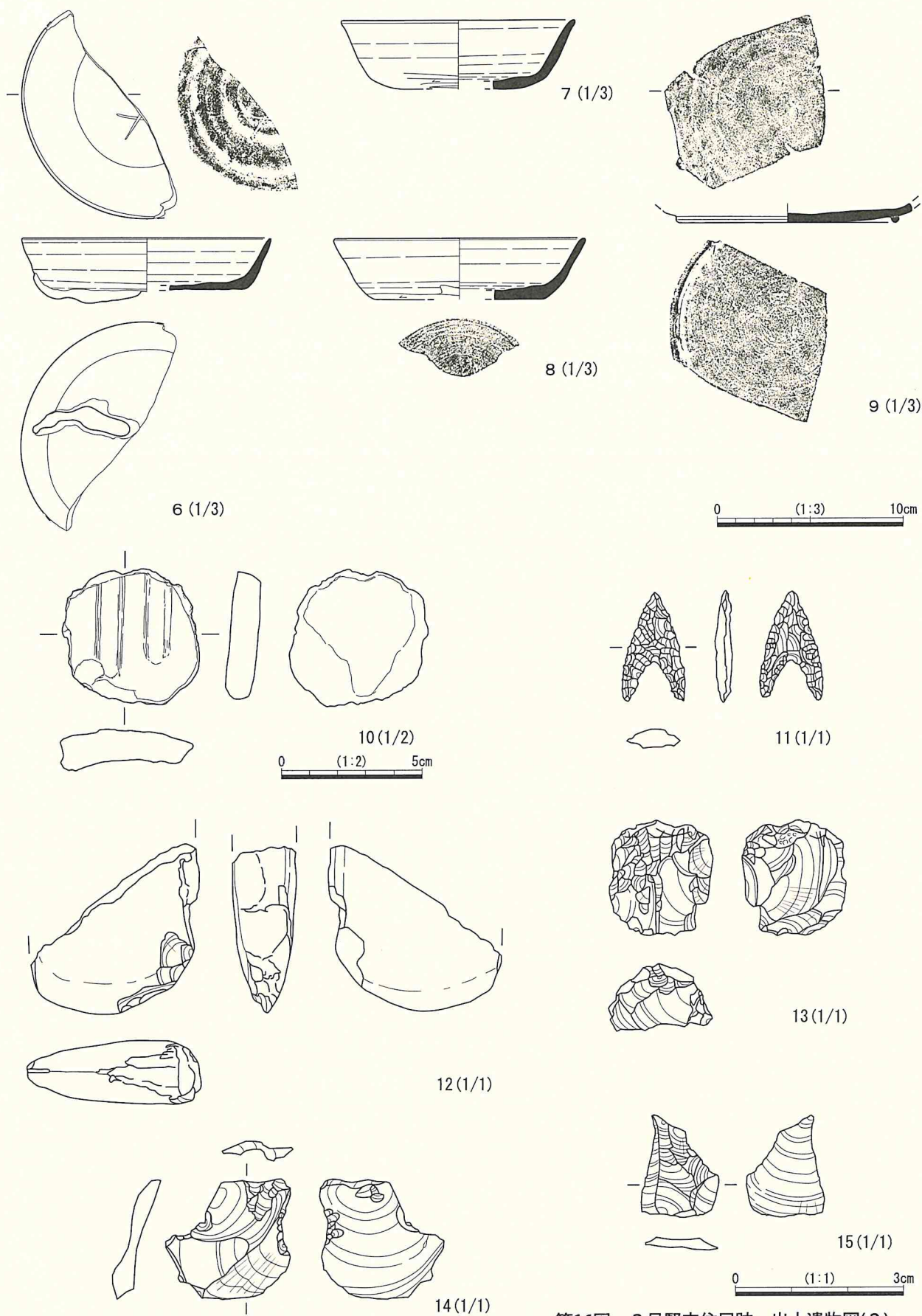
第12図 3号竪穴住居跡掘り方 平面図



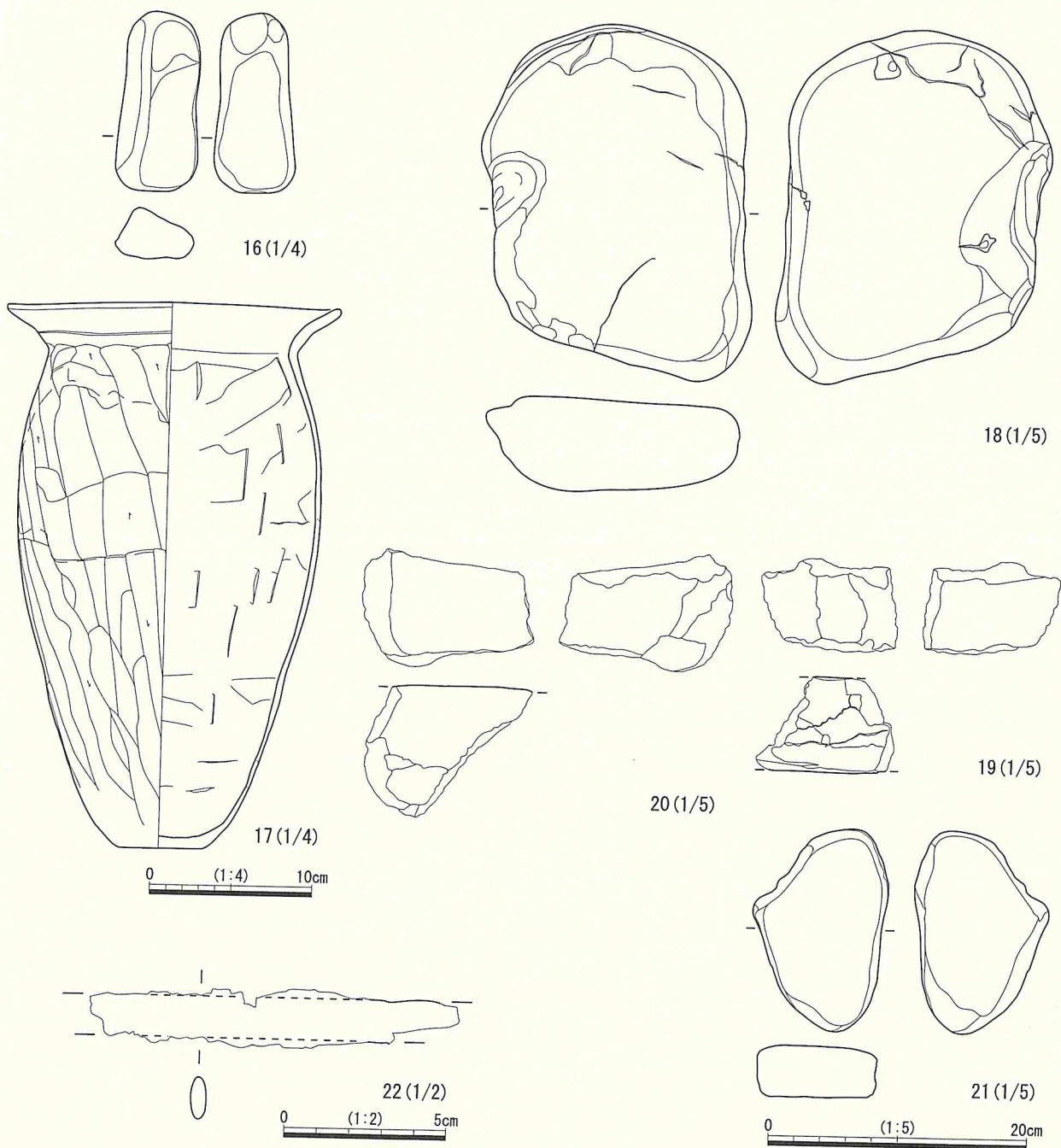
第13図 3号竪穴住居跡貯蔵穴・ピット 平面図・断面図

カマド





第16図 3号竪穴住居跡 出土遺物図(2)



第17図 3号竪穴住居跡 出土遺物図(3)

第2表 3号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ③胎土	②色調	残存	備考
				口径	底径	器高					
第15図 PL. 31	S I-3 1区フク土	1	土師器 杯	【16.2】	—	【3.6】	口縁部ヨコナデ 内：ヘラミガキ 外：ヘラ削りか	①普通 ③赤色粒、小礫	②橙色	口縁部～体部 20%	
第15図 PL. 31	S I-3 1区フク土	2	土師器 杯	【13.1】	—	【2.6】	口縁部ヨコナデ 内：ナデ 外：ヘラ削り	①普通 ③白色粒、雲母、小礫	②橙色	口縁部～体部 20%	
第15図 PL. 31	S I-3 カマド フク土	3	須恵器 蓋	【17.9】	—	【2.8】	内：ロクロ整形、返し有り 外：体部回転ヘラ削り	①酸化・不良 ③黒色粒、白色粒、小礫	②にぶい橙色	体部～口唇部 20%	
第15図 PL. 31	S I-3 カマド フク土	4	須恵器 蓋	【23.6】	—	【3.4】	内：回転ハケ目 外：体部回転ヘラ削り	①酸化・不良 ③黒色粒、白色粒、小礫	②にぶい橙色	体部～口唇部 10%	

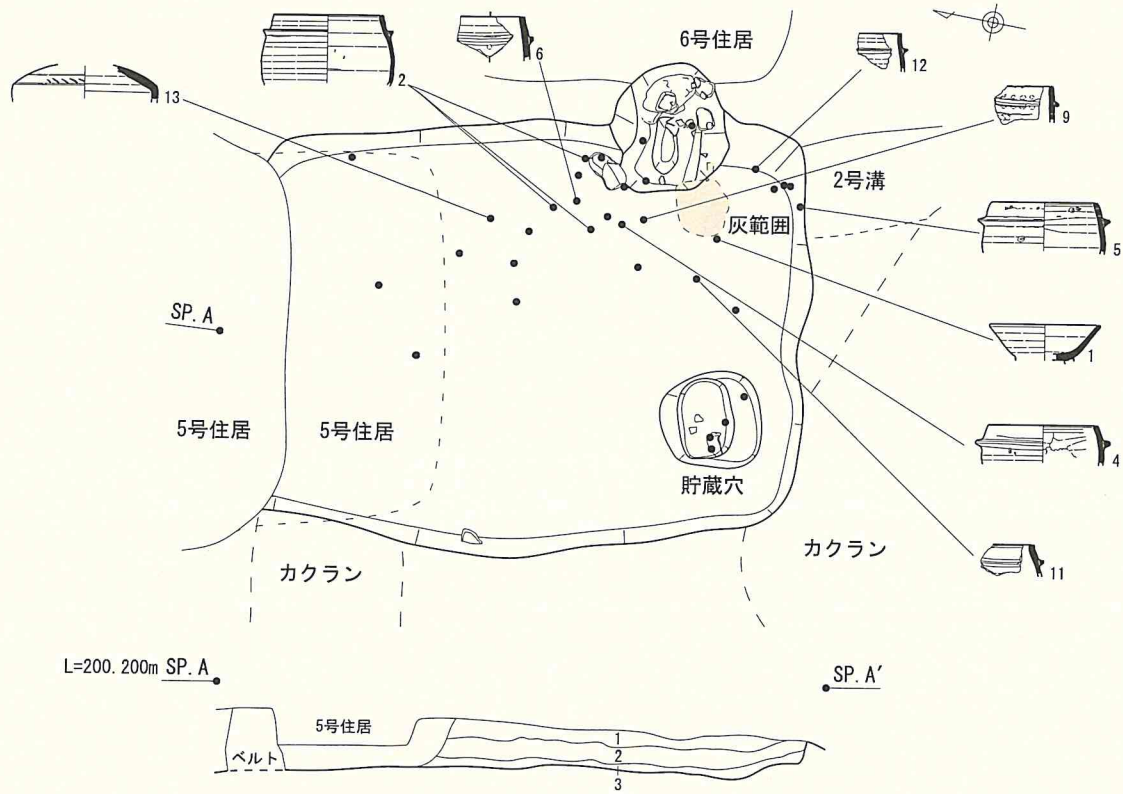
第3表 3号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第15図 PL. 31	S I - 3 1区フク土	5	須恵器 坏	【9.7】	2.0	3.3	ロクロ整形 外：体部～底部ヘラ削り	①還元・良好 ②黄灰色 ③黒色粒、小礫	口縁部～体上 部30% 体下部～底部 完存	
第16図 PL. 31	S I - 3 1区フク土	6	須恵器 坏	【13.2】	【10.6】	2.8	内：「X」状線刻 外：回転ヘラ削り、底部に自然釉塊 付着	①還元・良好 ②灰白色 ③黒色粒	30%	
第16図 PL. 31	S I - 3 2区フク土	7	須恵器 坏	【12.4】	【5.7】	3.7	ロクロ整形 外：体下部回転ヘラ削り・底部ヘラ 削り	①還元・良好 ②灰白色 ③にぶい黄橙色粒	20%	
第16図 PL. 31	S I - 3 1区フク土	8	須恵器 坏	【13.3】	【8.9】	3.3	ロクロ整形 外：体下部～底部回転ヘラ削り	①還元・良好 ②灰黄色 ③黒色粒	口縁部10% 体部～底部 25%	
第16図 PL. 31	S I - 3 1区フク土 ベルト内	9	須恵器 皿	—	【11.6】	【1.1】	ロクロ整形 外：底部回転ヘラ切り後高台貼付	①還元・良好 ②灰色 ③黒色粒	底部 30%	
第17図 PL. 31	S I - 3 カマドNo.23	17	土師器 甕	20.4	【5.0】	33.7	口縁部ヨコナデ、体上部煤付着 内：ヘラナデ、ナデ 外：体部～底部外面ヘラ削り	①普通 ②橙色 ③雲母、小礫	口縁部～体中 部50%体下部 75%底部20%	

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第16図 PL. 31	S I - 3 掘方	10	土製円 盤?	4.9	4.9	1.2	26.4	土製	垂下する隆帯下端部か	一部	縄文中期加 曾利E式
第16図 PL. 31	S I - 3 掘方	11	石鏃	2.0	1.2	0.3	0.5	黒色頁岩	白黄褐色	完形	
第16図 PL. 31	S I - 3 南2面	12	磨製石 斧	3.0	3.1	1.2	11.1	—	白黄緑色	刃部のみ	
第16図 PL. 31	S I - 3 掘方	13	剥片	2.1	1.9	1.1	4.4	黒曜石	—	—	
第16図 PL. 31	S I - 3 カマド フク土	14	剥片	2.1	2.3	0.3	1.6	黒曜石	—	—	
第16図 PL. 31	S I - 3 No.14	15	剥片	1.8	1.4	0.2	0.5	黒曜石	—	—	
第17図 PL. 31	S I - 3 カマド フク土	16	菰編石	11.1	5.5	3.1	308.7	—	灰色	完形	
第17図 PL. 31	S I - 3 No.9	18	石	27.4	21.3	7.2	490	—	にぶい黄橙色	完形	
第17図 PL. 31	S I - 3 No.17	19	石	【7.2】	【10.6】	7.3	【642.3】	—	灰黄色	破片	
第17図 PL. 31	S I - 3 No.19	20	石	【9.1】	【13.3】	10.2	【1,233】	—	灰色	破片	
第17図 PL. 31	S I - 3 No.20	21	石	15.7	10.3	4.0	838.9	—	黄灰色	破片	
第17図 PL. 31	S I - 3 No.15	22	刀子	11.5	1.8	0.5～ 1.6	28.8	鉄	刃部、木質残存	—	

4号竪穴住居跡(第18～23図 PL. 26・32)

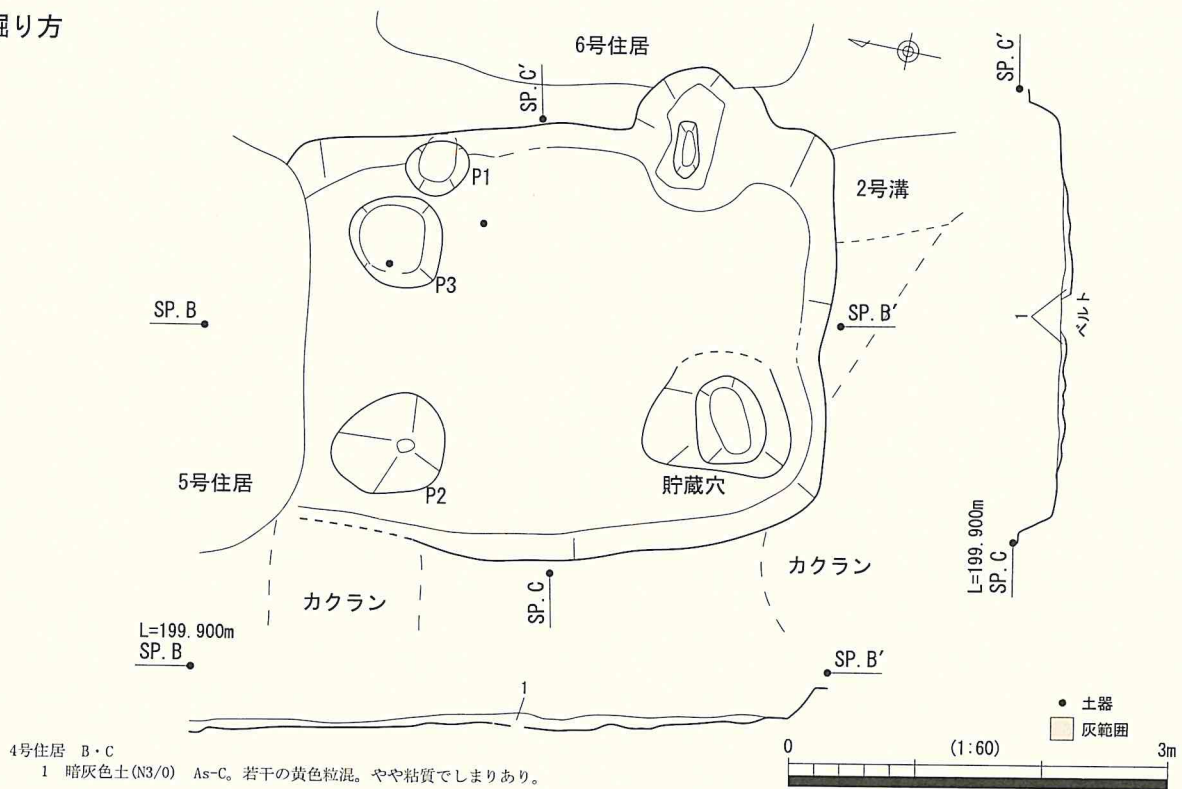
規模 東西3.4m、南北4.4mを測り、正方形を呈す。 **方位** N-9.2° -E **重複** 5・6号竪穴住居と重複する。4号竪穴住居→5・6号竪穴住居と新しい。 **壁** 残存壁高は37cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。 **床面** 全体が硬化し、黄白色土の混じる褐色土である。 **柱穴** 住居の北西側に3基の柱穴を検出した。P1は径43×48cm、深さ9～27cm、P2は径79×89cm、深さ14cm、P3は径72×74cm、深さ20cm **貯蔵穴** 南西隅に径78cm×78cm、深さ27cmを測り、方形を呈す。 **カマド** 南東に位置する。焚き口幅92cm、奥行き76cmを測り、壁外に造り出される。天井石・袖石に河原石を使用。カマド南西に灰を検出した。 **遺物出土状態** 須恵器碗、羽釜、布目瓦が出土。このほか、貯蔵穴から金床石が出土。



- 4号住居 A
 1 黒色土(N2/0) As-C。若干の黄色土。やや粘質でしまりあり。
 2 黒色土(N2/0) As-C(8>9)。若干の黄色土。やや粘質でしまりあり。
 3 黒色土(N2/0) As-C(9>10)。若干の黄色土。やや粘質でしまりあり。

第18図 4号竪穴住居跡 平面図・断面図

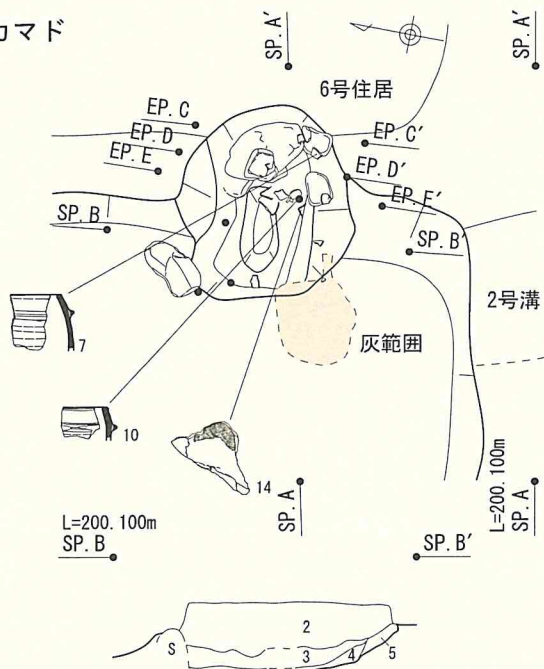
掘り方



- 4号住居 B・C
 1 暗灰色土(N3/0) As-C。若干の黄色粒混。やや粘質でしまりあり。

第19図 4号竪穴住居跡掘り方 平面図・断面図

カマド



4号住居カマド A・B

- 1 暗灰色土(N3/0) As-C。黄色土。粘性弱く。しまりあり。
- 2 黒褐色土(5YR3/1) As-C。黄色粒(1<2)。粘性弱く。しまりあり。
- 3 黒褐色土(7.5YR3/1) 黄色土主体。粘質でしまりあり。天井崩落土。
- 4 黒色土(N2/0) As-C。黄色粒混。粘性弱く。しまりあり。
- 5 黒色土(N2/0) As-C(4>5)。黄色粒混。粘性弱く。しまりあり。

L=200.100m EP. C

EP. C'

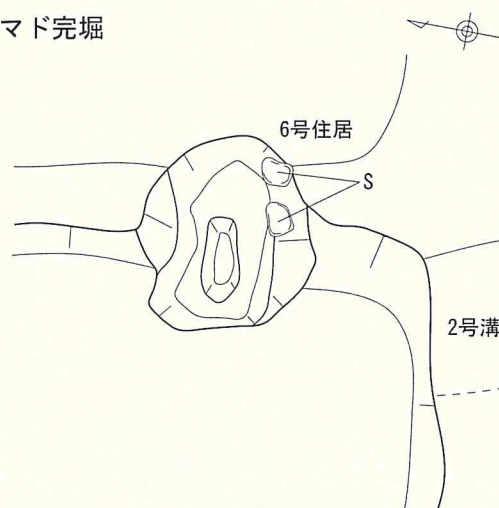
L=200.100m EP. D

EP. D'

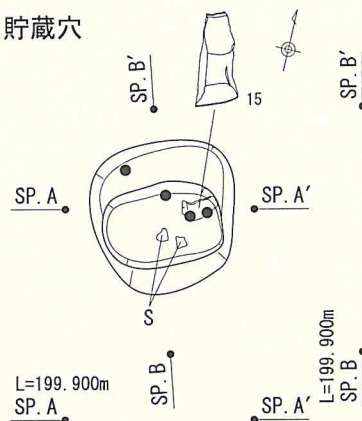
L=200.100m EP. E

EP. E'

カマド完掘



貯蔵穴

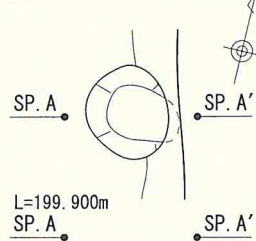


- 1 黒色土(N2/0) As-C。黄色土塊(φ0.5~1.0cm)。やや硬質で粘性弱い。
- 2 黒色土(N2/0) As-C。黄色土塊(1<2)。やや硬質でやや粘質。
- 3 黒色土(10YR2/1) As-C。黄色土塊(2>3)。やや硬質でやや粘質。
- 4 黒色土(N2/0) 軟弱でやや粘質。

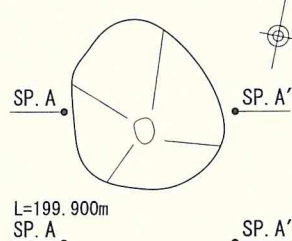
1 黒色土(10YR2/1) 若干の黄色粒混。やや粘質でしまりあり。

第20図 4号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図

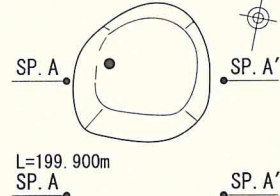
P1



P2



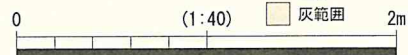
P3



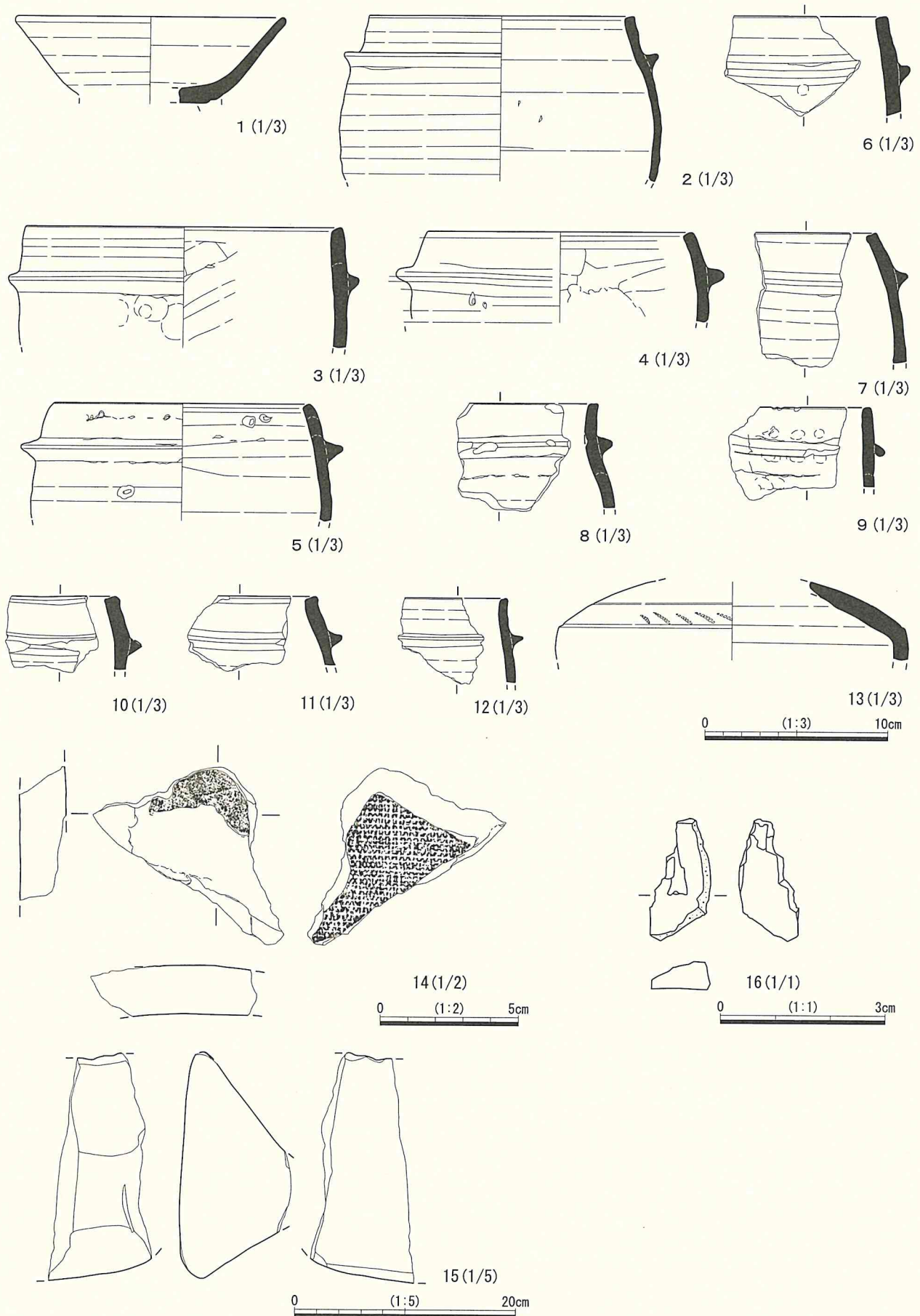
- 1 黒色土(N2/0) 若干の黄色粒混。やや粘質でしまりあり。

- 1 暗灰色土(N3/0) 若干の黄色粒混。やや粘質でしまりあり。

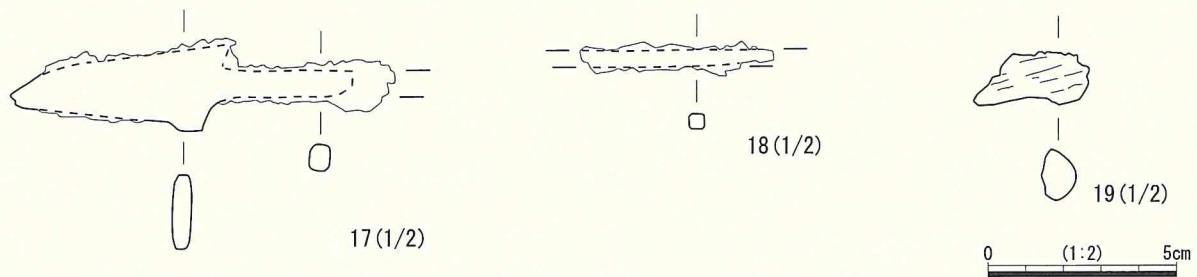
- 1 暗灰色土(N3/0) 白色粒、若干の黄色粒混。やや粘質でしまりあり。



第21図 4号竪穴住居跡ピット 平面図・断面図



第22図 4号竪穴住居跡 出土遺物図(1)



第23図 4号竪穴住居跡 出土遺物図(2)

第4表 4号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量(cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第22図 PL. 32	S I - 4 No. 9	1	須恵器 碗	【15.4】	【6.2】	4.8	ロクロ整形 外：底部ヘラナデ後高台貼付	①酸化・不良 ②にぶい褐色 ③赤色粒、小礫	口縁部～底部 25% 高台部欠損	
第22図 PL. 32	S I - 4 No.13, 18, 21	2	羽釜	【19.2】	—	【12.1】	ロクロ整形後鋳貼付 口唇部面取り	①酸化・普通 ②にぶい黄褐色 ③橙色粒、小礫	口縁部～体上 部25%	吉井型羽 釜
第22図 PL. 32	S I - 4 No.33 カマド フク土	3	羽釜	【22.7】	—	【8.8】	口唇部面取り 内：ヘラナデ後口縁端部ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ・体上部ヘラナ デ後鋳貼付	①酸化・普通 ②褐色 ③白色粒、小礫	口縁部～体上 部20%	月夜野型 羽釜
第22図 PL. 32	S I - 4 No.13	4	羽釜	【19.2】	—	【6.6】	口唇部面取り 内：ユビナデ 外：ロクロナデ後鋳貼付	①酸化・普通 ②黒褐色 ③白色粒、石英、小礫	口縁部～体上 部25%	吉井型羽 釜
第22図 PL. 32	S I - 4 No.3	5	羽釜	【18.4】	—	【8.5】	口唇部面取り 内：ユビナデ 外：ロクロナデ後鋳貼付	①酸化・普通 ②褐色 ③白色粒、小礫	口縁部～体上 部25%	
第22図 PL. 32	S I - 4 カマド No.20	6	羽釜	—	—	【7.3】	口唇部面取り 内：ユビナデ 外：口縁部ヨコナデ・体上部ヘラナ デ後鋳貼付	①酸化・普通 ②黒褐色 ③白色粒、橙色粒	口縁部～体上 部破片	月夜野型 羽釜
第22図 PL. 32	S I - 4 カマド No.5	7	羽釜	—	—	【9.8】	口唇部面取り 内：ロクロナデ 外：ロクロナデ後鋳貼付	①酸化・やや不良 ②橙色 ③雲母、小礫	口縁部～体上 部破片	吉井型羽 釜
第22図 PL. 32	S I - 4 東	8	羽釜	—	—	【7.9】	ロクロナデ後鋳貼付 積み上げ痕残 る 口唇部面取り	①酸化・普通 ②黄褐色 ③白色粒、橙色粒	口縁部～体上 部破片	吉井型羽 釜
第22図 PL. 32	S I - 4 No.12	9	羽釜	—	—	【6.7】	ロクロナデ後鋳貼付 積み上げ痕残 る 口唇部面取り 外：押圧痕あり	①酸化・普通 ②黄褐色 ③白色粒	口縁部～体上 部破片	吉井型羽 釜
第22図 PL. 32	S I - 4 No.8	10	羽釜	—	—	【5.6】	ロクロナデ後鋳貼付 口唇部面取り	①酸化・普通 ②灰黄 ③小礫	口縁部破片	吉井型羽 釜
第22図 PL. 32	S I - 4 No.10	11	羽釜	—	—	【5.5】	ロクロナデ後鋳貼付 口唇部面取り	①酸化・やや不良 ②褐色 ③小礫	口縁部破片	吉井型羽 釜
第22図 PL. 32	S I - 4 No.7	12	羽釜	—	—	【6.3】	ロクロナデ後鋳貼付 口唇部面取り	①酸化・やや不良 ②赤褐色 ③白色粒	口縁部～体上 部破片	吉井型羽 釜
第22図 PL. 32	S I - 4 No.25	13	須恵器 瓶類	—	—	【4.3】	ロクロ整形 外：肩部回転ヘラ削り2条、6本1 単位のハケ状工具圧痕あり	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒	口縁部破片	
第22図 PL. 32	S I - 4 カマド No.10	14	布目瓦	長さ 【6.4】	幅 【7.0】	厚さ 1.8	凹面布目痕 凸面ナデ	①やや不良 ②褐色 ③赤色粒、小礫	破片	

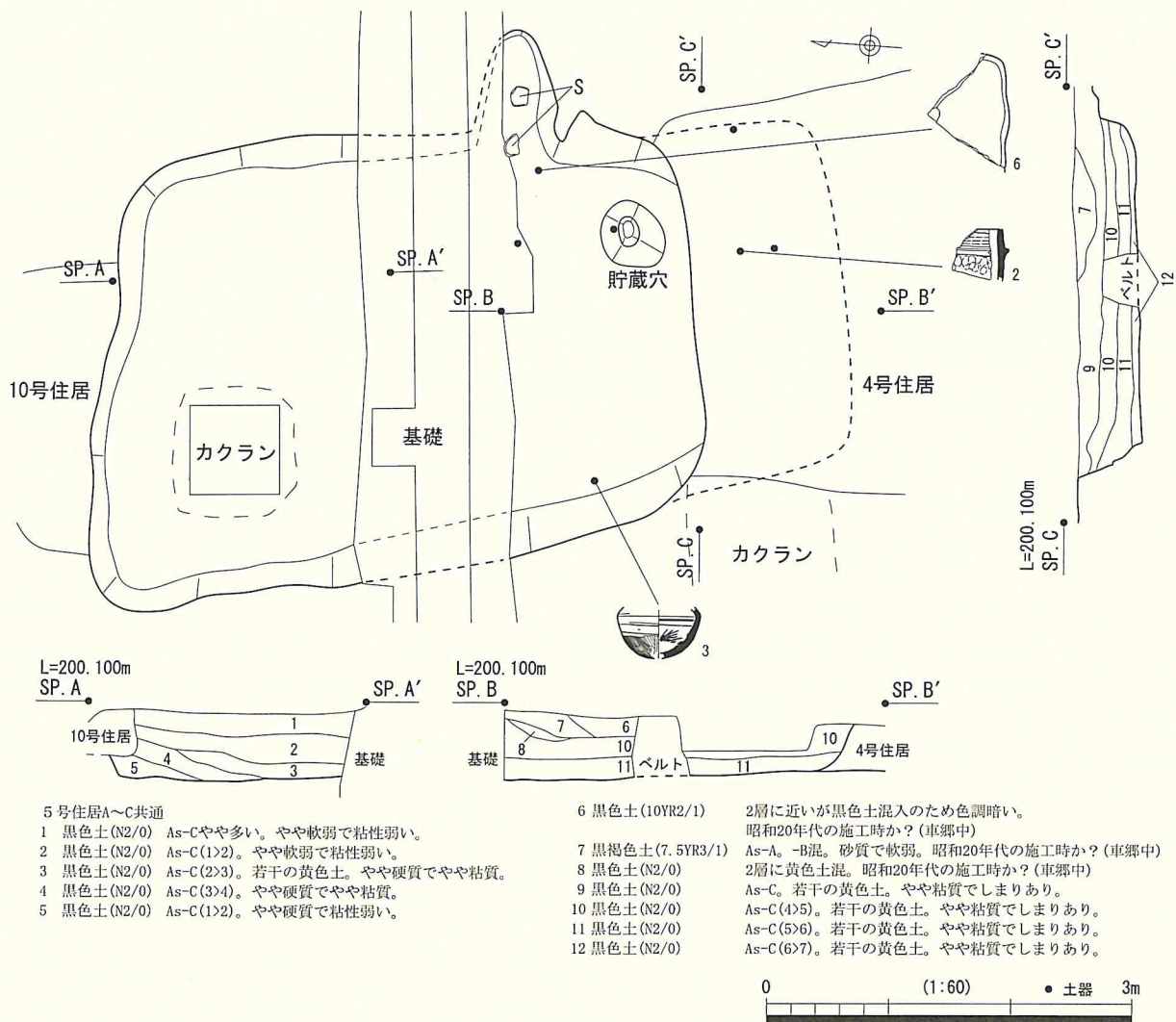
図版	出土地	番号	種類 種別	法量(cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第22図 PL. 32	S I - 4 貯穴No.3	15	金床石	20.7	【9.2】	【10.1】	【2,310】	—	灰黄色	破片	
第22図 PL. 32	S I - 4 西	16	石片	2.2	1.1	0.5	1.1	石英	—	—	

第5表 4号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量(cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第23図 PL. 32	S I-4 No.28	17	鉄鏃	10.1	2.3	1.8	26.3	鉄	—	破片	No.18と同一
第23図 PL. 32	S I-4 No.28	18	鉄鏃	5.1	0.5	0.4	3.9	鉄	断層四角形	破片	No.17と同一
第23図 PL. 32	S I-4 No.28	19	鉄製品	3.0	1.4	0.9	2.9	鉄	使途不明	破片	

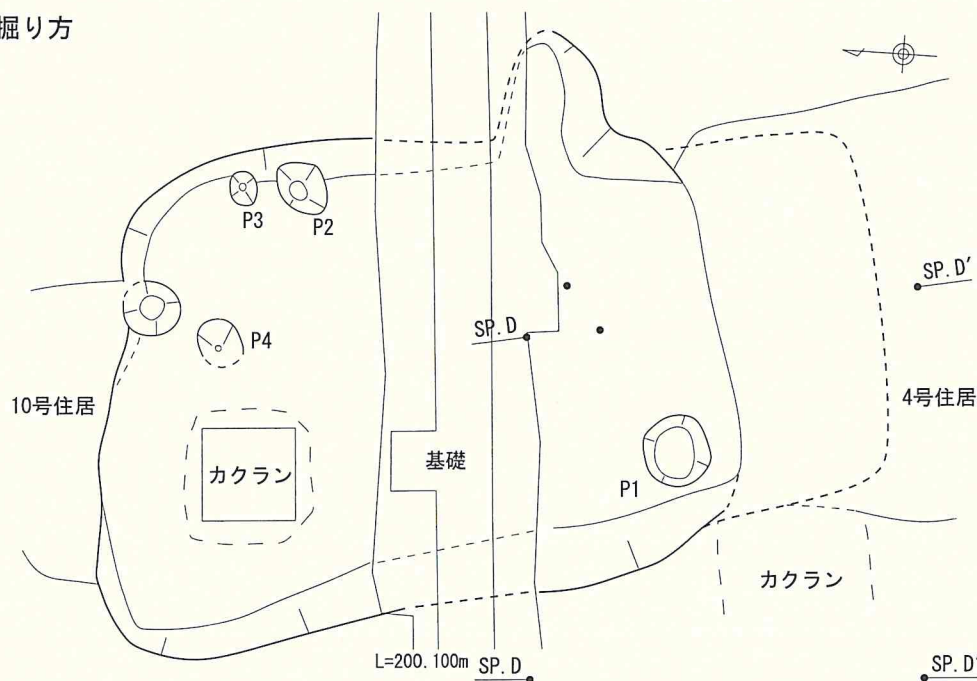
5号竪穴住居跡(第24~28図 PL. 32)

規模 東西3.8m、南北6.2mを測り、長正方形を呈す。**方位** N-85.7°-E **重複** 4・10号竪穴住居と重複する。4号竪穴住居→5号竪穴住居→10号竪穴住居と新しい。**壁** 残存壁高は57cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。**床面** 全体が硬化し、黄白色土の混じる褐色土である。**柱穴** 住居の北東側に4基、南西側に1基の柱穴を検出した。P1は径67×50cm、深さ11cm、P2は径40×37cm、深さ19cm、P3は径27×21cm、深さ10cm、P4は径39×32cm、深さ11cm **貯蔵穴** 南東隅に径58cm×50cm、深さ16cmを測り、楕円形を呈す。**カマド** 東に位置する。焚き口幅70cm、奥行き104cmを測り、壁外に造り出される。**遺物出土状態** 須恵器甕・瓶類、羽釜、灰釉陶器、菰編石、金床石が出土。

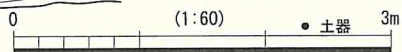


第24図 5号竪穴住居跡 平面図・断面図

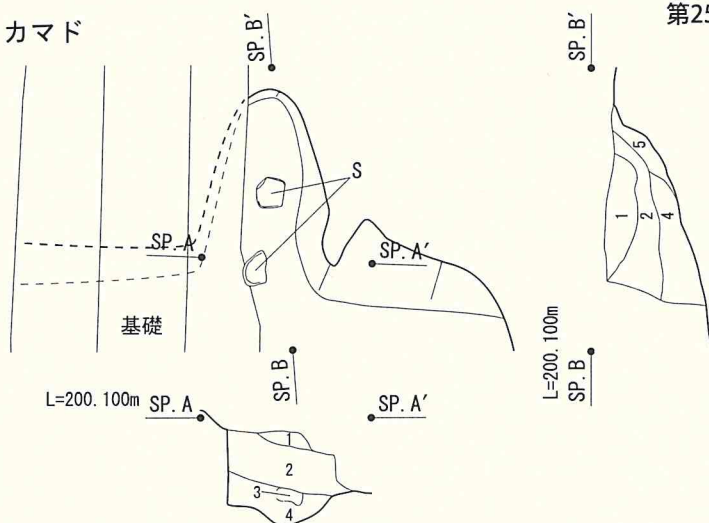
掘り方



1 暗灰色(N3/0) As-C. 若干の黄色粒混。やや粘質でしまりあり。



カマド

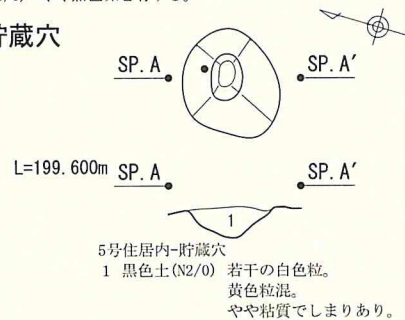


第25図 5号竪穴住居跡掘り方 平面図・断面図

5号住居カマドA・B

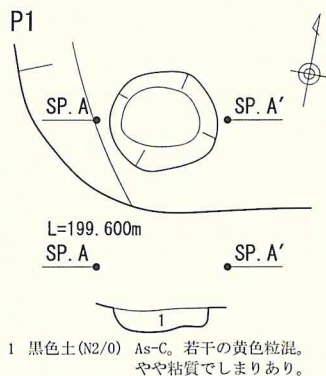
- 1 黒色土(N2/0) 若干のAs-C. 黄色土混。天井崩落土か? 硬質でしまりあり。
- 2 黒色土(N2/0) 若干のAs-C(1>2)。黄色粒混。やや粘質でしまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 焼土多く混じる。粘性弱く。軟弱。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 2層に似るが。黄色粒(2>4)混。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) やや黒色味を有する。

貯蔵穴

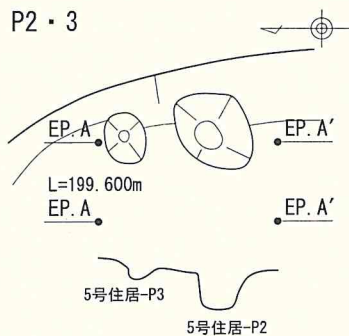


5号住居内-貯蔵穴
1 黒色土(N2/0) 若干の白色粒。黄色粒混。やや粘質でしまりあり。

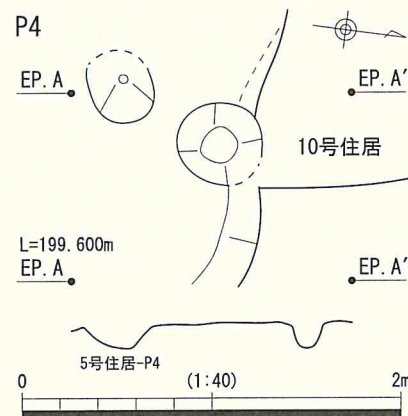
第26図 5号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図



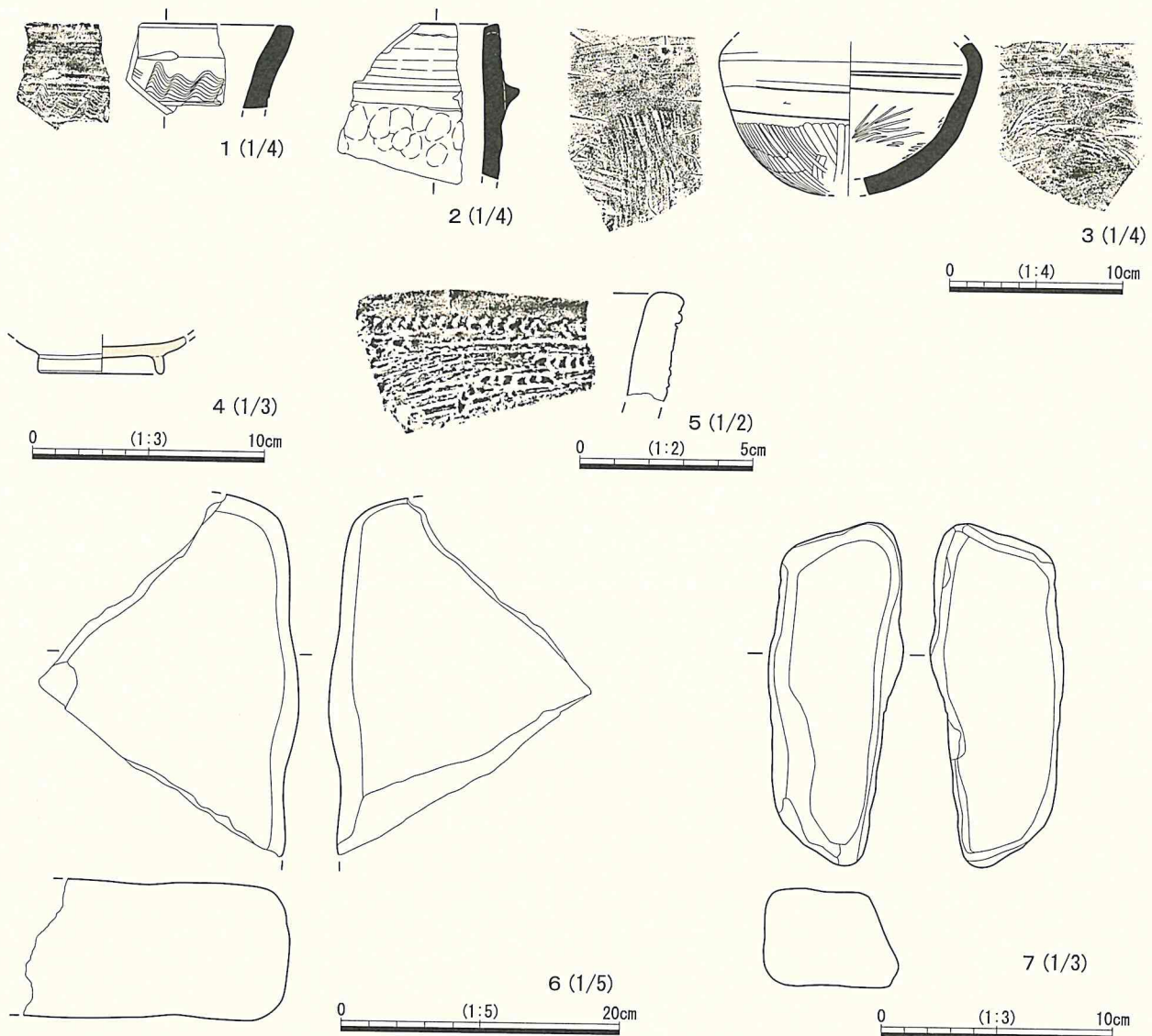
1 黒色土(N2/0) As-C. 若干の黄色粒混。やや粘質でしまりあり。



5号住居-P3
5号住居-P2



第27図 5号竪穴住居跡貯蔵穴・ピット 平面図・断面図



第6表 5号竪穴住居跡 出土遺物観察表

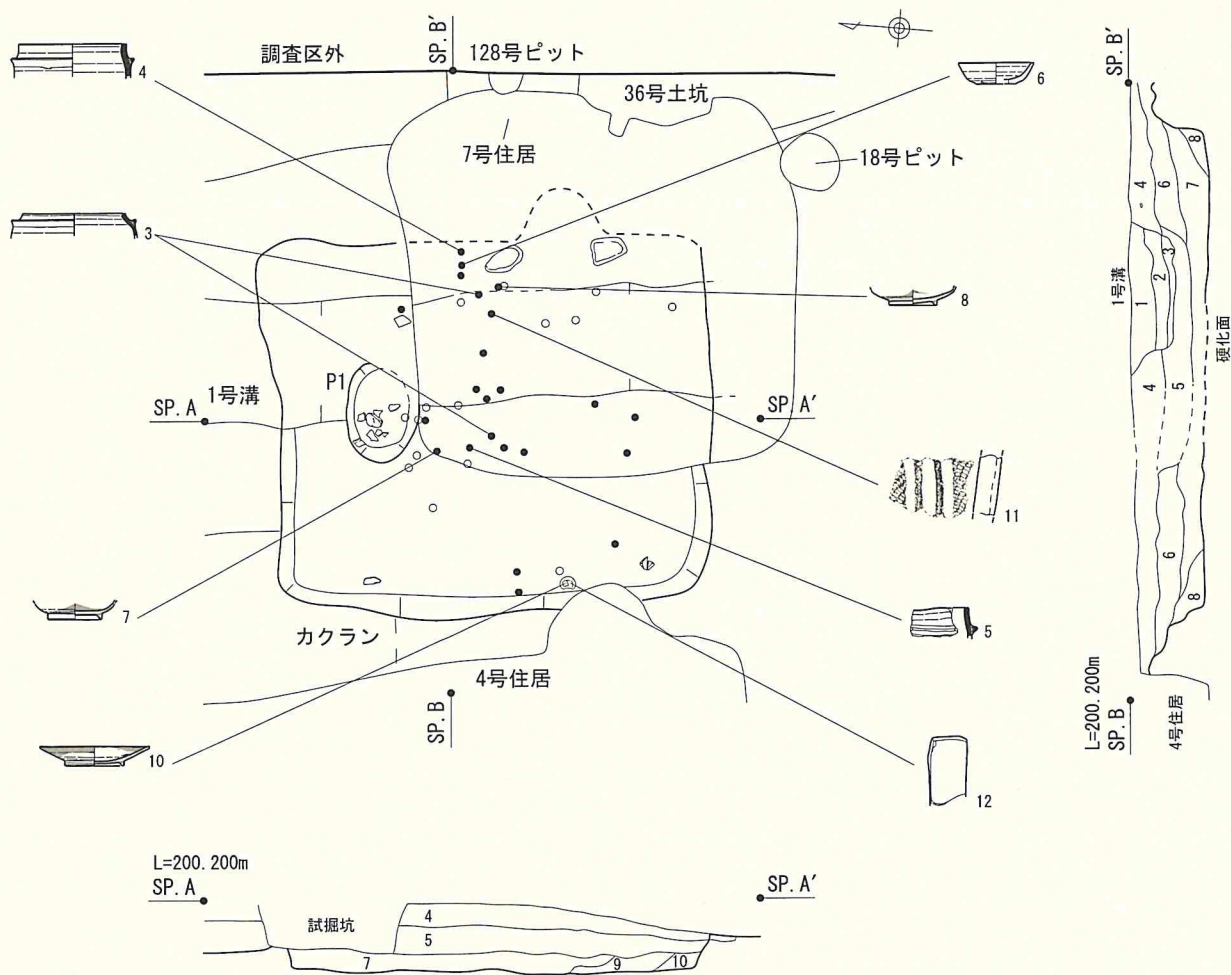
第28図 5号竪穴住居跡 出土遺物図

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第28図 PL. 32	S I - 5 フク土	1	須恵器 甕	—	—	【5.3】	ロクロ整形 口唇部面取り 外：櫛描波状文	①還元・良好 ②にぶい褐色 ③白色粒	口縁部破片	
第28図 PL. 32	S I - 5 No. 2、 SI-15-3	2	羽釜	—	—	【9.3】	外：口縁部ヨコナデ、体部指頭圧痕・ ヘラナデ	①酸化・普通 ②褐色 ③橙色粒、小礫	口縁部～体上 部破片	月夜野型 羽釜
第28図 PL. 32	S I - 3 No. 5	3	須恵器 瓶類	—	—	【8.9】	内：ロクロナデ後体下部棒状工具削り 外：回転ヘラ削り後体下部ヘラナデ	①還元・良好 ②灰色 ③黒色粒	体中部～底部 20%	自然袖付 着
第28図 PL. 32	S I - 5 フク土	4	灰釉埴	—	【5.1】	【1.7】	ロクロ整形 外：三角高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒	体下部～高台 部40%	
第28図 PL. 32	S I - 5 フク土	5	縄文 深鉢	—	—	【4.2】	横位半裁竹管による平行沈線を地紋に 結節浮線文を施す	①良好 ②赤橙色 ③砂粒	口縁部破片	縄文前期 諸磯b式

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第28図 PL. 32	S I - 5 No. 6	6	金床石	【26.0】	【18.7】	9.9	【5, 850】	—	灰色 被熱によると思われる変色（煤か）あり	破片	
第28図 PL. 32	S I - 5 フク土	7	菰編石	14.8	5.7	4.2	629.2	—	にぶい褐色	完形	

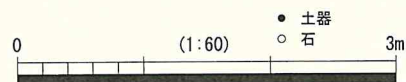
6号竪穴住居跡(第29~33図 PL. 33)

規模 東西3.0m、南北3.4mを測り、正方形を呈す。 **方位** N-84.8° -E **重複** 4・7号竪穴住居、1号溝と重複する。4号竪穴住居→6号竪穴住居→7号竪穴住居→1号溝と新しい。**壁** 残存壁高は54cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。**床面** 黄白色土の混じる褐色土である。**柱穴** 住居の北側に3基、南西側に1基の柱穴を検出した。P1は径80×57cm、深さ16cm、P2は径36×35cm、深さ21cm、P3は径34×28cm、深さ13cm、P4は径49×47cm、深さ29cm **貯蔵穴** 確認出来ず。**カマド** 東に位置する。袖石を確認。焚き口幅55cmを測る。 **遺物出土状態** 土師器小甕、須恵器小甕、羽釜、灰釉陶器、砥石、縄文土器が出土。



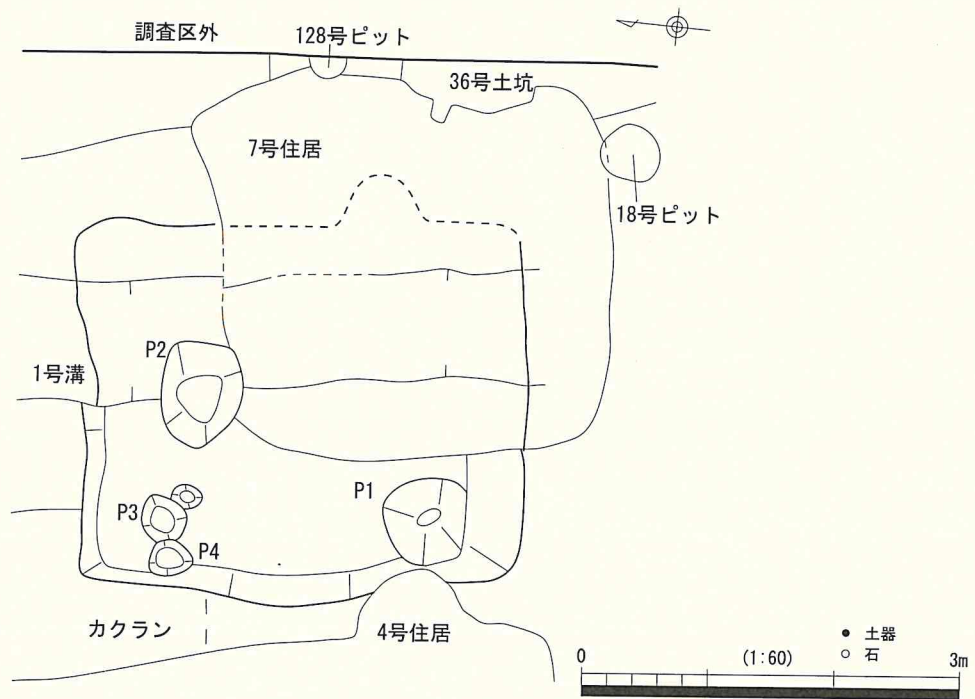
6号住居A・B

- | | | | |
|----------------|-----------------------------------|-------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土(5YR2/1) | As-B主体。砂質でしまりあり。 | 6 黒褐色土(5YR2/1) | As-C(6>7)。黄色粒混。若干の焼土粒。粘性弱く。しまりあり。 |
| 2 黒褐色土(5YR2/1) | As-B(1<2)。砂質でしまりあり。 | 7 黒色土(N2/0) | 黄色粒混。若干の焼土粒。粘性弱く。しまりあり。 |
| 3 黒褐色土(5YR2/1) | As-B主体。純層に近く塊状に入る。 | 8 黒褐色土(5YR2/1) | 黄色粒混。若干の焼土粒(7<8)。粘性弱く。しまりあり。 |
| 4 黒褐色土(5YR2/1) | As-C(4>5)。黄色粒混。 | 9 褐色土(7.5YR4/3) | 黄色粘質土塊多量に含む。やや粘質でしまりあり。 |
| 5 黒褐色土(5YR2/1) | As-C(5>6)。黄色粒混。若干の焼土粒。粘性弱く。しまりあり。 | 10 赤黒色土(2.5YR2/1) | 8層に似る。 |

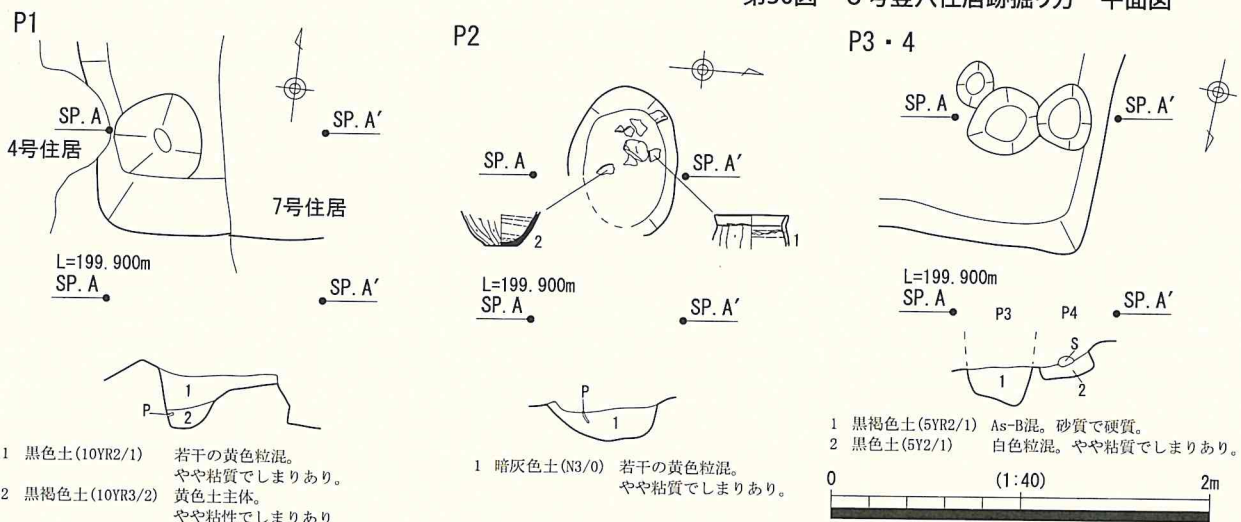


第29図 6号竪穴住居跡 平面図・断面図

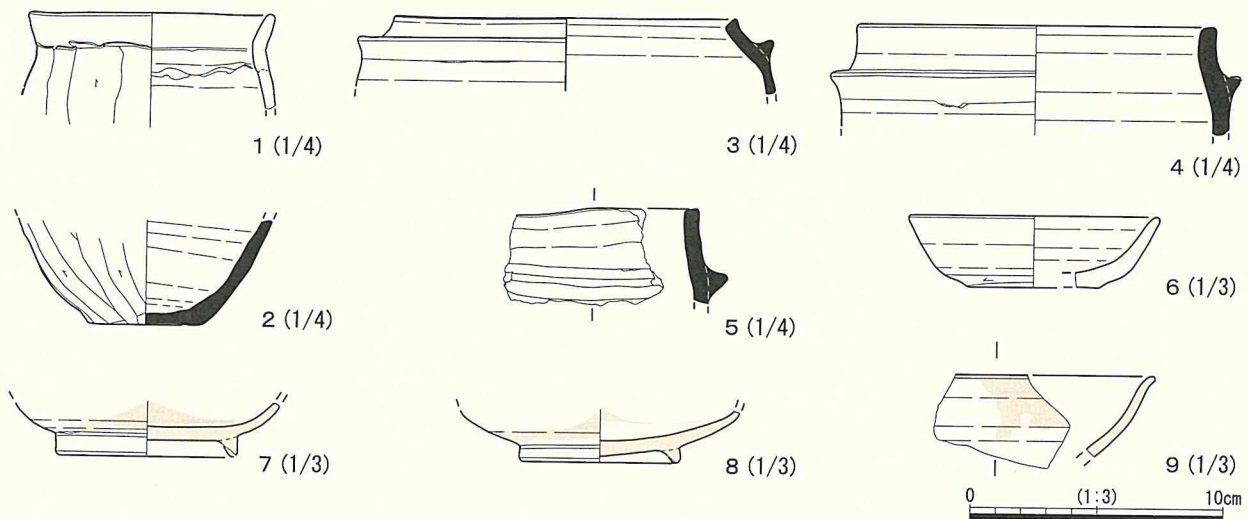
掘り方



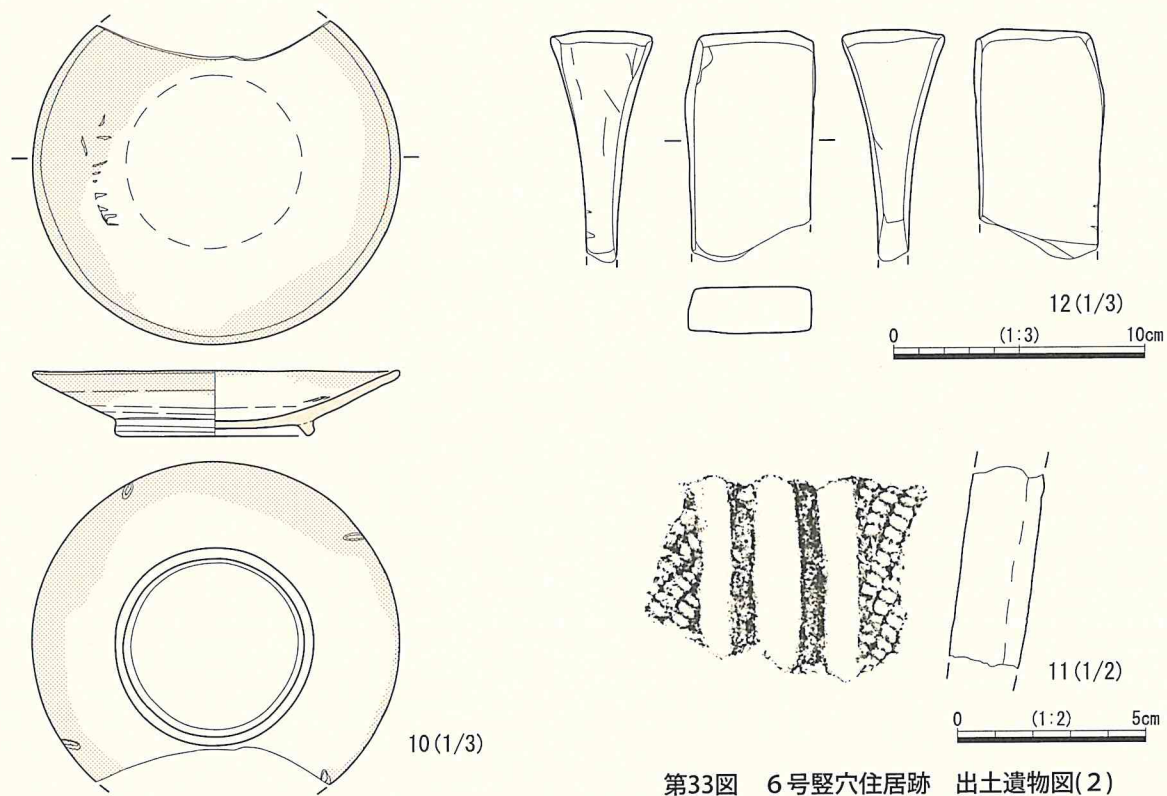
第30図 6号竪穴住居跡掘り方 平面図



第31図 6号竪穴住居跡ピット 平面図・断面図



第32図 6号竪穴住居跡 出土遺物図(1)



第33図 6号竪穴住居跡 出土遺物図(2)

第7表 6号竪穴住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第32図 PL. 33	S I - 6 Pit No. 1	1	土師器 小甕	【12.6】	—	【6.0】	口縁部ヨコナデ 積み上げ痕残る 内：ヘラナデ	①普通 ②褐色 ③赤色粒、小礫	口縁部～体上 部25%	
第32図 PL. 33	S I - 6 Pit No. 7	2	須恵器 小甕	—	5.8	【5.5】	内：ロクロナデ 外：ヘラ削り	①還元・良好 ②黄灰色 ③小礫	体下部～底部 50%	
第32図 PL. 33	S I - 6 No. 7, 17	3	羽釜	【17.8】	—	【3.9】	ロクロナデ後鐔貼付 口唇部面取り	①酸化・普通 ②にぶい黄褐色 ③小礫	口縁部30%	吉井型羽釜
第32図 PL. 33	S I - 6 No. 20	4	羽釜	【18.6】	—	【5.8】	ロクロナデ後鐔貼付 口唇部面取り	①酸化・普通 ②にぶい褐色 ③小礫	口縁部～体上 部20%	吉井型羽釜
第32図 PL. 33	S I - 6 No. 8	5	羽釜	—	—	【5.1】	ヨコナデ後鐔貼付 口唇部面取り	①酸化・普通 ②黄灰色 ③赤色粒、小礫	口縁部破片	月夜野型 羽釜か
第32図 PL. 33	S I - 6 No. 23、2 区ベルト内	6	かわらけ	【9.7】	【5.1】	【2.9】	ロクロ整形 外面体下部ヘラ削り	①普通 ②黄褐色 ③赤色粒	40%	
第32図 PL. 33	S I - 6 No. 9	7	灰釉壺	—	【6.9】	【1.2】	ロクロ整形 灰釉三角高台貼付	①還元・良好 ②明黄褐色 ③黒色粒	体下部～高台 部完存	
第32図 PL. 33	S I - 6 No. 18	8	灰釉壺	—	6.1	【2.1】	ロクロ整形 灰釉浸け掛けか 三日月高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③黒色粒	体下部～高台 部45%	
第32図 PL. 33	S I - 6 3区	9	灰釉壺	—	—	【3.7】	ロクロ整形 灰釉浸け掛け	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒	口縁部破片	
第33図 PL. 33	S I - 6 No. 27	10	灰釉皿	14.3	7.4	2.6	ロクロ整形 灰釉浸け掛け 三日月高台貼付 外：口縁部のほぼ直交する4か所に ヘラ状工具による刺突あり	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒、小礫	口縁部一部欠 損	重ね焼き 痕と思わ れる円形 範囲あり
第33図 PL. 33	S I - 6 No. 16	11	縄文 深鉢	—	—	【5.3】	単節RL縄文 垂下する2本の隆帯	①良好 ②橙色 ③砂粒	胴部破片	

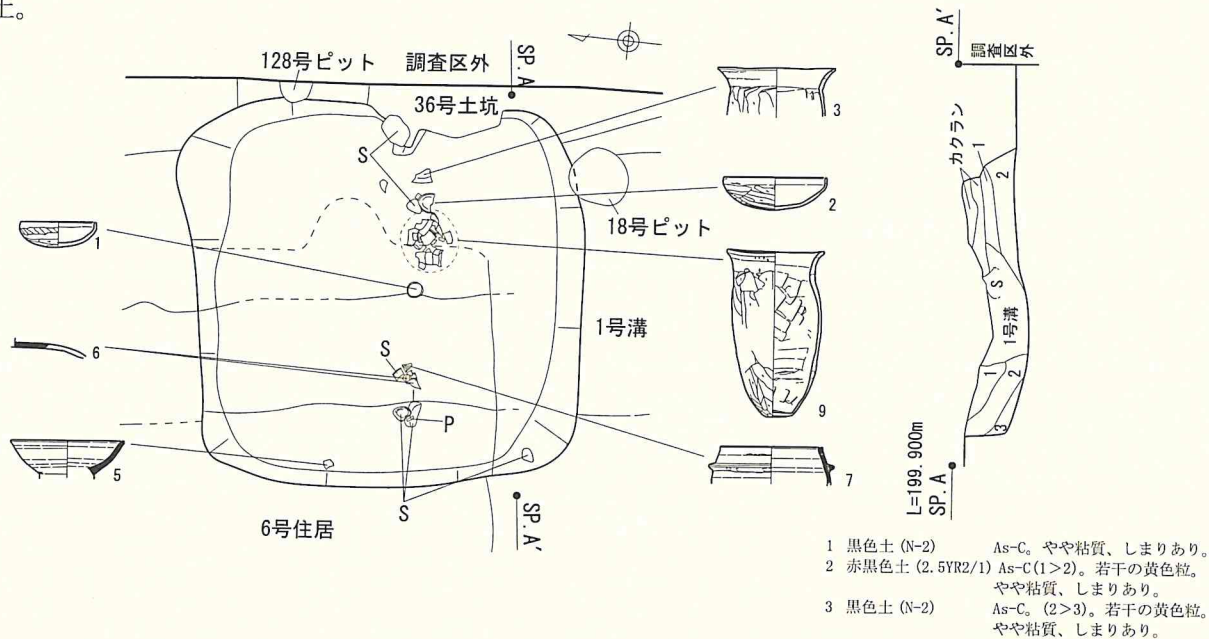
図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第33図 PL. 33	S I - 6 No. 25	12	砥石	【9.2】	【4.1】	端部4.1 中央部 1.2	【166.5】	—	灰白色 撥形	50%	

7号竪穴住居跡(第34～38図 PL. 33)

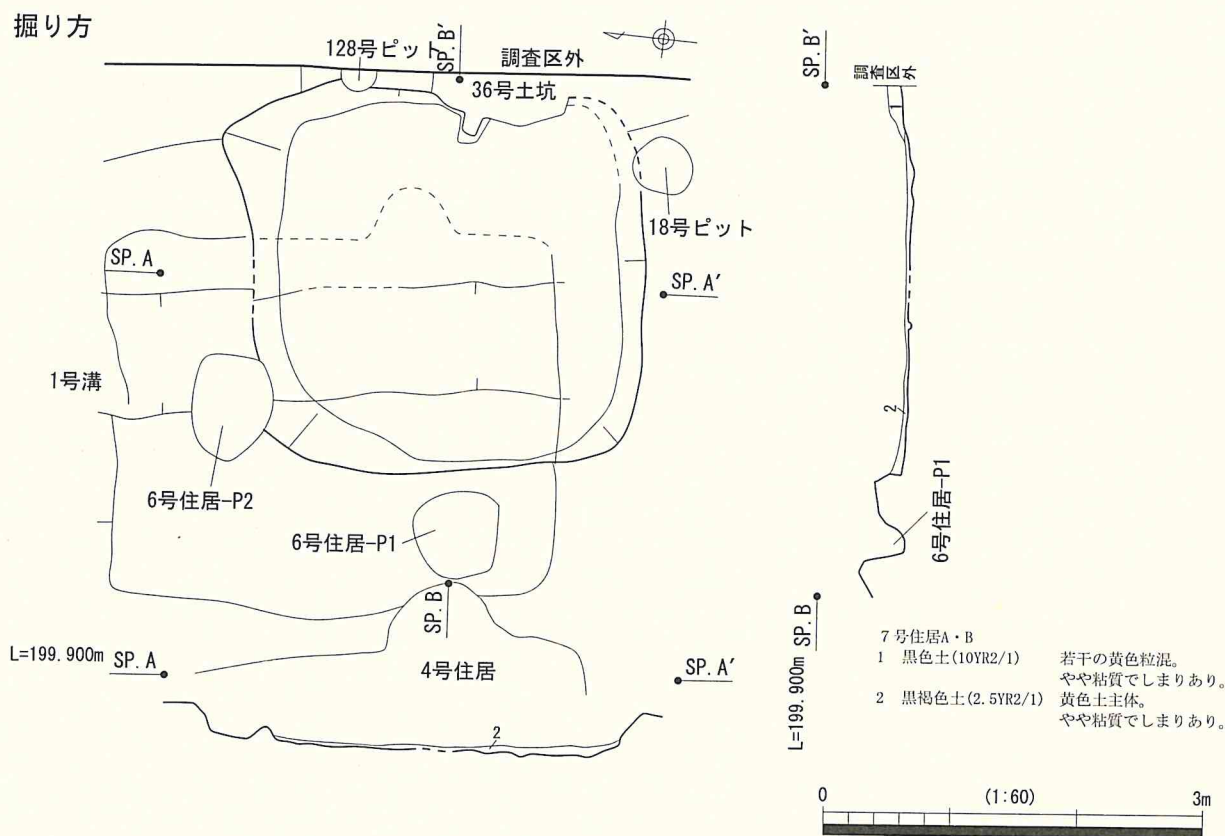
規模 東西3.0m、南北3.1mを測り、正方形を呈す。 **方位** N-84.5° -E **重複** 6号竪穴住居、36号土坑、18・128号ピット、1号溝と重複する。6号竪穴住居→7号竪穴住居→1号溝と新しい。

壁 残存壁高は45cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。 **床面** 黄白色土の混じる褐色土である。

柱穴 確認出来ず。 **貯蔵穴** 確認出来ず。 **カマド** 東に位置する。左袖石を確認。36号土坑によって壊される。 **遺物出土状態** 土師器杯・甕、須恵器杯・埴・甕・横瓶、羽釜、灰釉陶器、菰編石が出土。

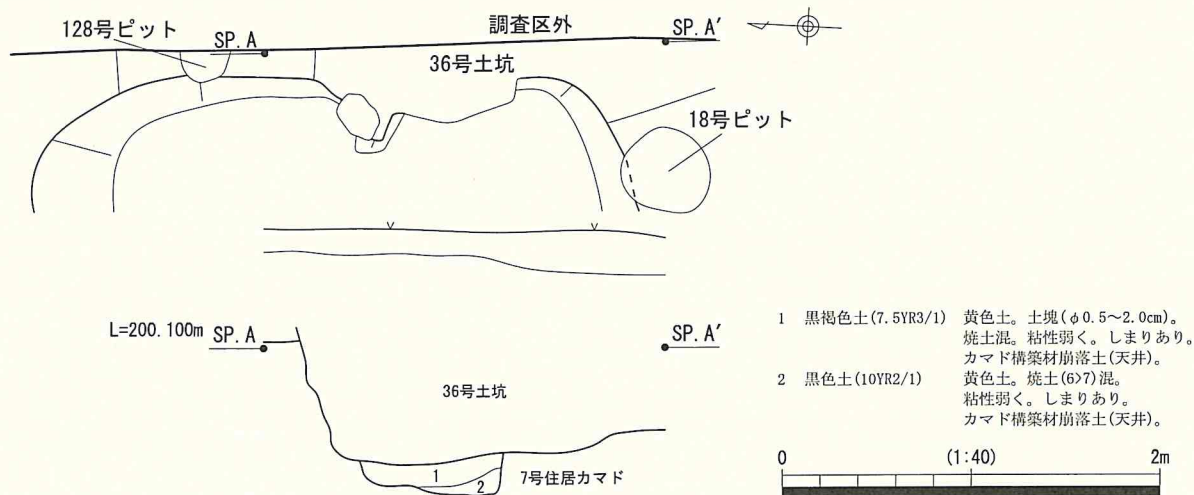


第34図 7号竪穴住居跡 平面図・断面図

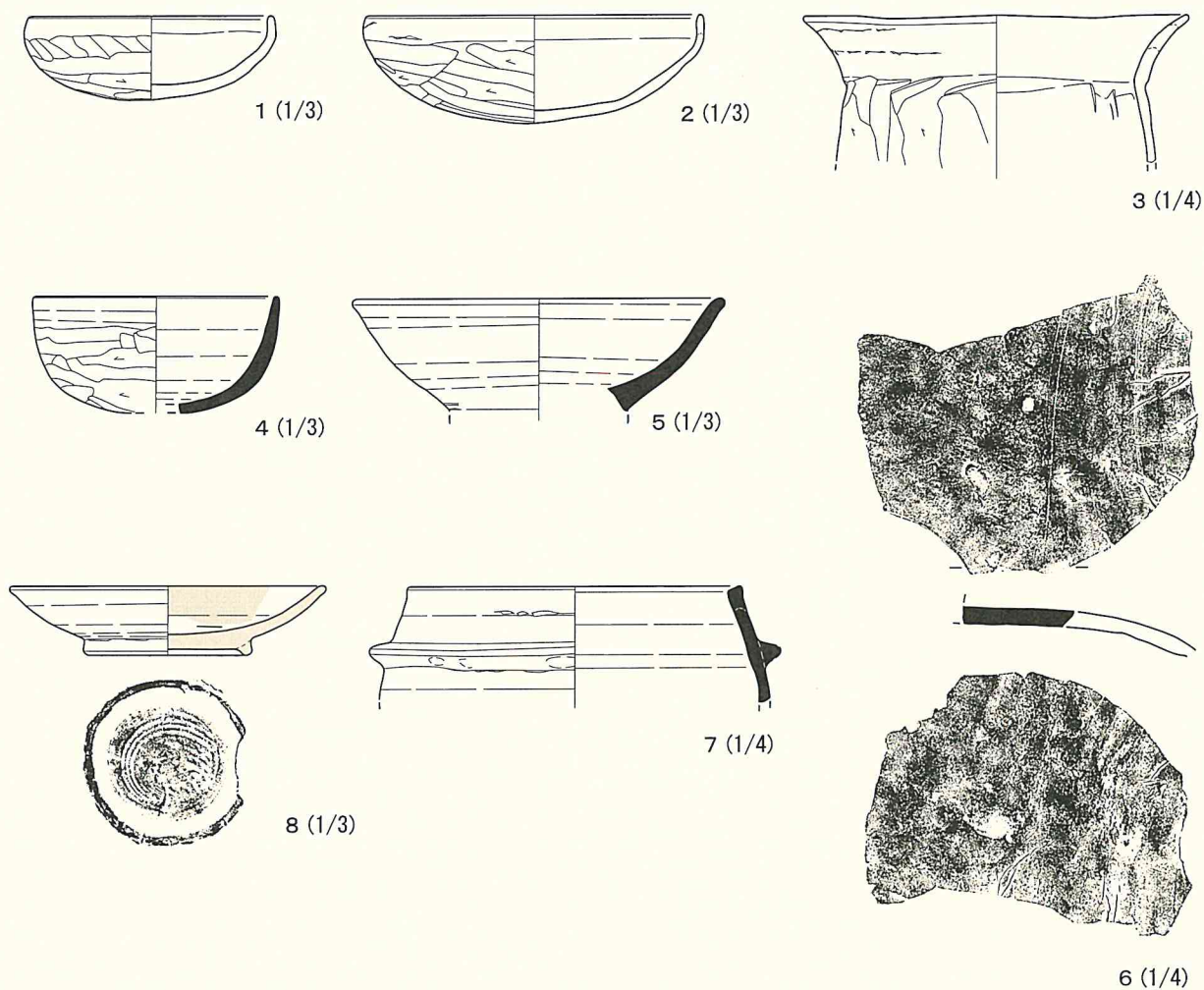


第35図 7号竪穴住居跡掘り方 平面図・断面図

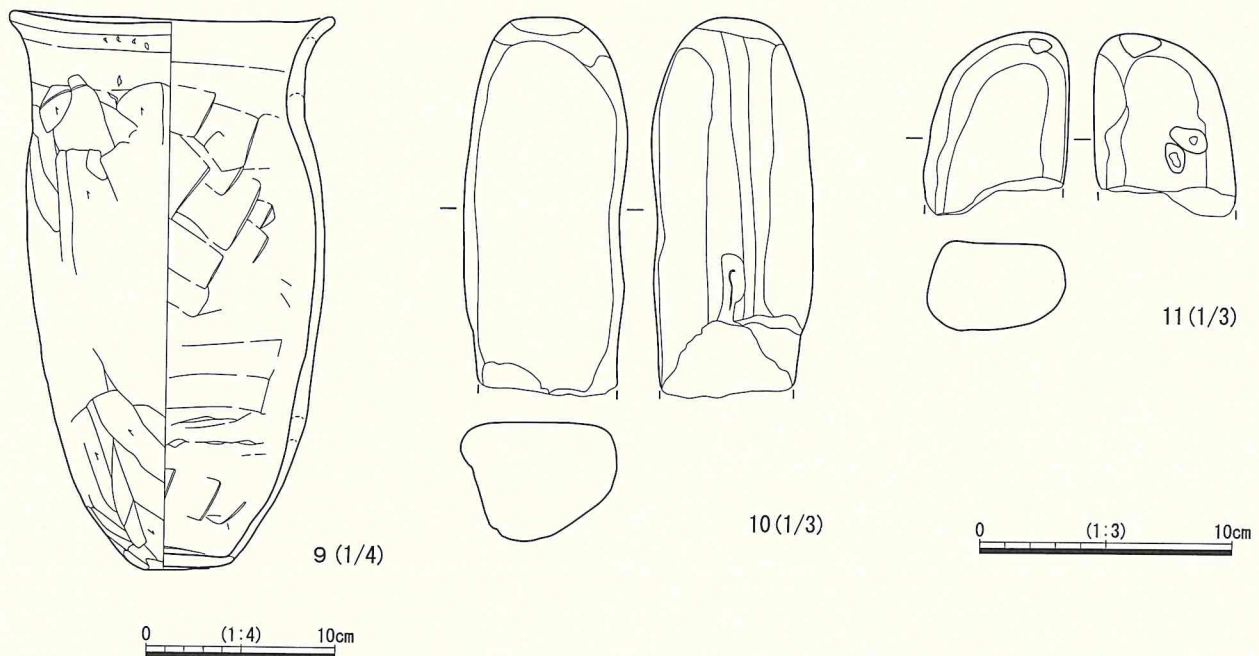
カマド



第36図 7号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図



第37図 7号竪穴住居跡 出土遺物図(1)



第38図 7号竪穴住居跡 出土遺物図(2)

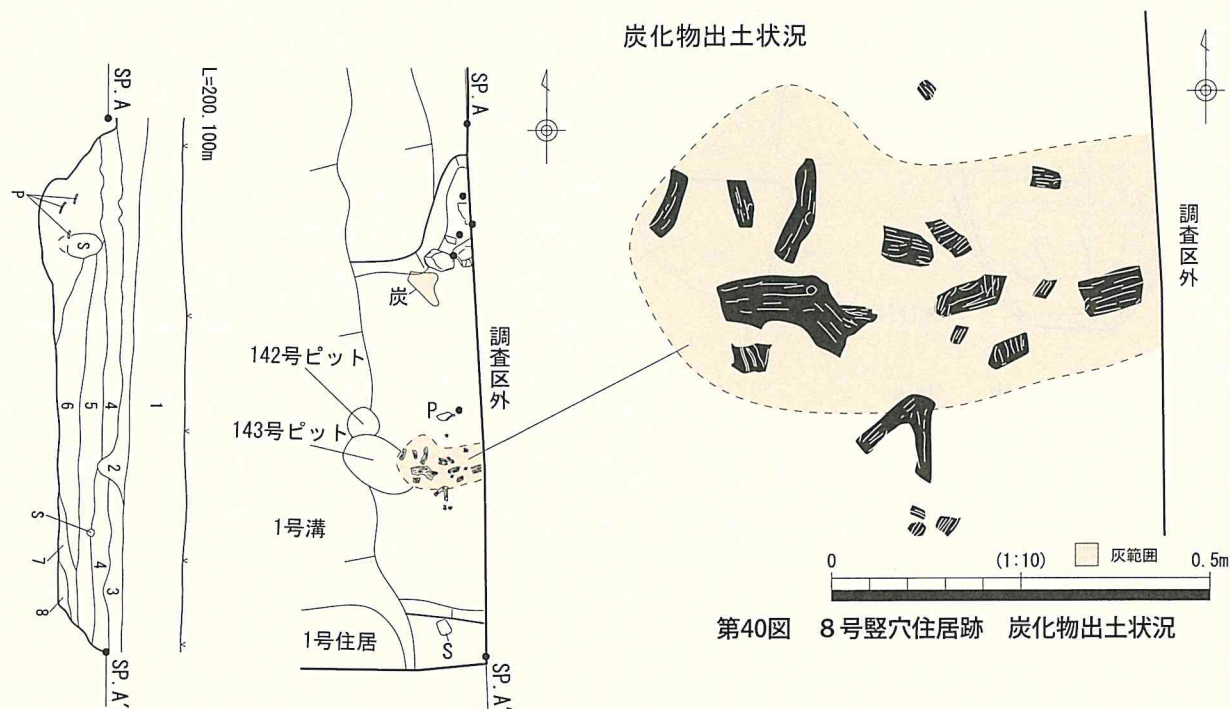
第8表 7号竪穴住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第37図 PL. 33	S I - 7 No. 3	1	土師器 杯	9.7	丸底	3.4	内：口縁部ヨコナデ・体部～底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ・ 底部ヘラ削り	①普通 ②橙色 ③雲母、小礫	完形	
第37図 PL. 33	S I - 7 No. 5	2	土師器 杯	13.4	丸底	4.4	内：口縁部ヨコナデ・体部～底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ・体部～底部ヘラ 削り	①普通 ②橙色 ③石英、雲母、小礫	70%	
第37図 PL. 33	S I - 7 No. 6	3	土師器 甕	【20.5】	—	【8.8】	内：口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ・体部ヘラ削り、 積み上げ痕残る	①普通 ②明褐色 ③雲母、小礫	口縁部～体上 部25%	
第37図 PL. 33	S I - 7 2区	4	須恵器 杯	【9.7】	【2.5】	【4.7】	ロクロ整形 外：体部ロクロナデ後ヘラ削り	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒、小礫	25%	
第37図 PL. 33	S I - 7 No. 8、 フク土	5	須恵器 埴	【14.7】	—	【4.6】	ロクロ整形	①酸化・不良 ②黒褐色 ③赤色粒、小礫	口縁部～体下 部25%	
第37図 PL. 33	S I - 7 No. 1, 10, 11	6	須恵器 横瓶	—	—	【9.3】	ロクロ整形 内：ナデ・指頭圧痕 外：タタキ目・ロクロナデ	①還元・良好 ②灰色 ③小礫	体部破片	
第37図 PL. 33	S I - 7 No. 2	7	羽釜	【17.7】	—	【6.6】	ロクロ整形後鏝貼付 ヨコナデの可能 性あり	①酸化・不良 ②黒褐色 ③小礫	口縁部～体上 部20%	吉井型羽 釜か
第37図 PL. 33	S I - 7 2区フク土	8	灰釉皿	【12.5】	7.4	2.8	ロクロ整形 灰釉浸け掛け 三角高台 貼付 外：底部回転糸切り痕残る	①還元・普通 ②灰黄色 ③黒色粒	口縁部～体部 高台部完損 20% 底部	
第38図 PL. 33	S I - 7 No. 4	9	土師器 甕	16.7	4.5	29.5	口縁部ヨコナデ 内：ヘラナデ、ナデ 外：体部～底部ヘラ削り	①普通 ②にぶい褐色 黒斑 ③白色粒、小礫	体部20%欠損	外面剥離 痕顕著

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第38図 PL. 33	S I - 7 2区フク土	10	石	【15.0】	【6.3】	4.7	【691.9】	—	灰黄色	80%	
第38図 PL. 33	S I - 7 2区フク土	11	菰編石	【7.3】	【5.6】	3.5	【202.5】	—	灰黄色	50%	

8号竪穴住居跡(第39~42図 PL. 30・34)

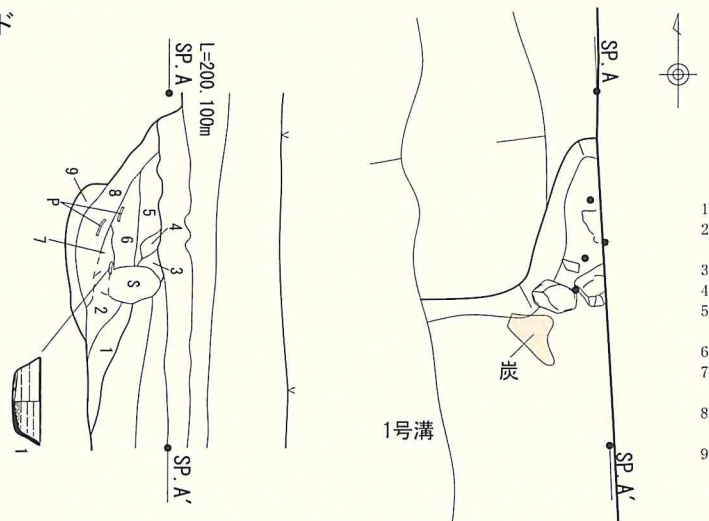
規模 東西1.0m、南北2.9mを測る。**方位** N -0° -E **重複** 142・143号ピット、1号溝と重複する。142・143号ピット→8号竪穴住居→1号溝と新しい。**壁** 残存壁高は52cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。**床面** 黄白色土の混じる褐色土である。また、中央部付近から炭化材・灰が検出された。**柱穴** 確認できず。**カマド** 北に位置する。焚き口幅47cm、奥行き94cmを測る。壁外に造り出される。火床面に焼土を検出した。**遺物出土状態** 土師器坏片・須恵器坏が出土。



- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| 1 灰黄褐色土(10YR4/2) | 昭和20年代の造成土。As-YP混の黄色粘質土主体。 |
| 2 黒褐色土(5YR2/1) | As-B混。砂質だが非常に硬質。造成前表土。 |
| 3 黒褐色土(7.5YR3/1) | As-C多量。若干の黄色粒混。粘性弱くしり強い。 |
| 4 黒色土(10YR2/1) | As-C多量。若干の黄色粒混。3層に似るが色調暗い。 |
| 5 黒色土(2.5Y2/1) | As-C(4)5。若干の黄色粒混。粘性弱く。しり強い。 |
| 6 黒褐色土(5YR2/1) | As-C(5)6。若干の黄色粒。炭化物混(焼失家屋)。粘性弱く。しりあり。 |
| 7 黒褐色土(5YR2/1) | As-C(6)7。若干の黄色粒。焼土粒混(焼失家屋)。粘性弱く。しりあり。 |
| 8 黒色土(N2/0) | As-C少量。II層混する。粘性。しり弱い。 |
- 土器 □ 硬化面

第39図 8号竪穴住居跡 平面図・断面図

カマド



- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 黒色土(N2/0) | As-C少量混。粘性。しり弱い。 |
| 2 黒色土(N2/0) | As-C少量。焼土粒やや多く混。粘性。しり弱い。 |
| 3 赤黒色(2.5YR2/1) | 6層に似る。 |
| 4 黒色土(10YR2/1) | 11層に似るが焼土粒混。 |
| 5 黒褐色土(5YR3/1) | As-C。焼土粒混。やや硬質で粘性弱い。 |
| 6 黒褐色土(5YR2/1) | 焼土粒混。 |
| 7 黒褐色土(5YR2/1) | 焼土粒やや多く混。軟弱で粘性弱い。 |
| 8 黒褐色土(5YR2/1) | As-C少量。焼土粒(13<16)混。軟弱で粘性弱い。 |
| 9 灰層 | |
- 土器 □ 炭

第42図 8号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図

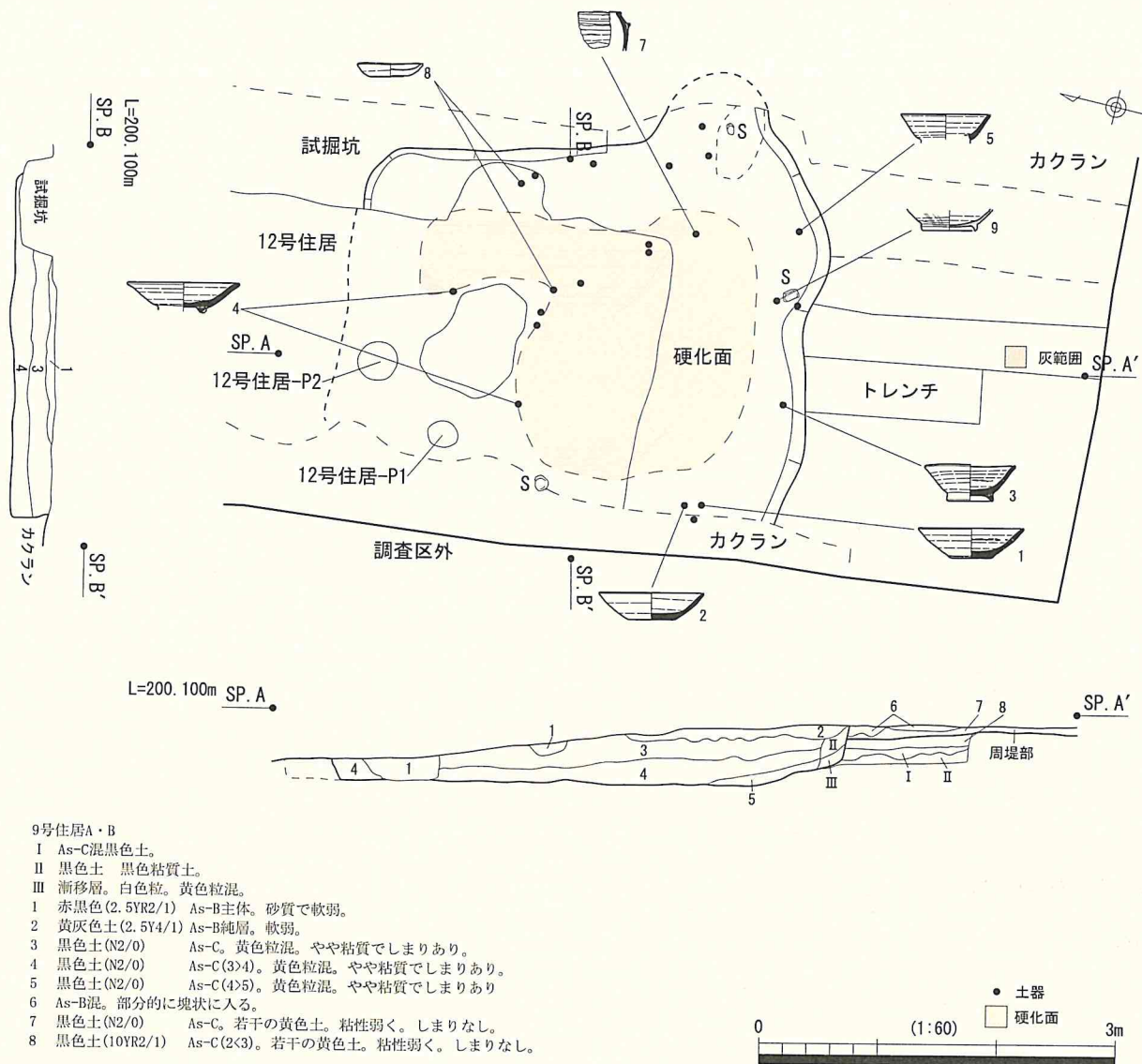
第9表 8号竪穴住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第41図 PL. 34	S I-8 No. 8	1	須恵器 坏	【11.4】	【3.8】	3.7	ロクロ整形 外：ヘラ削り	①酸化・やや不良 ②灰黄色 ③小礫	40%	

9号竪穴住居跡(第43～45図 PL. 27・34)

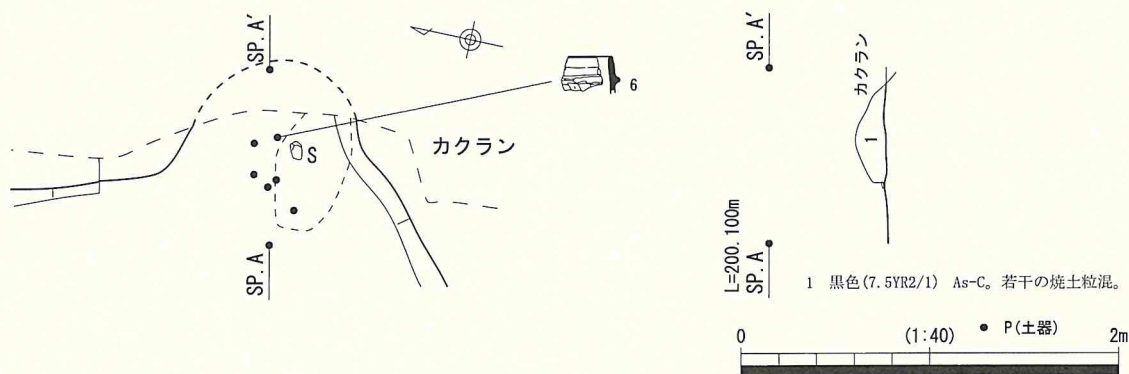
規模 東西3.1m、南北3.9mを測る。 **方位** N-76.6° -E **重複** 12号竪穴住居と重複する。12号竪穴住居→9号竪穴住居と新しい。 **壁** 残存壁高は52cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。

床面 黄白色土の混じる褐色土である。 **柱穴** 確認できず。 **カマド** 南東に位置する。焚き口幅92cmを測る。壁外に造り出される。 **周堤** 住居南トレンチにおいて、周堤と考えられる高まりを確認した(6・7層)。攪乱のため、平面での検出は出来なかった。 **遺物出土状態** 須恵器坏・埴・羽釜、カワラケが出土。

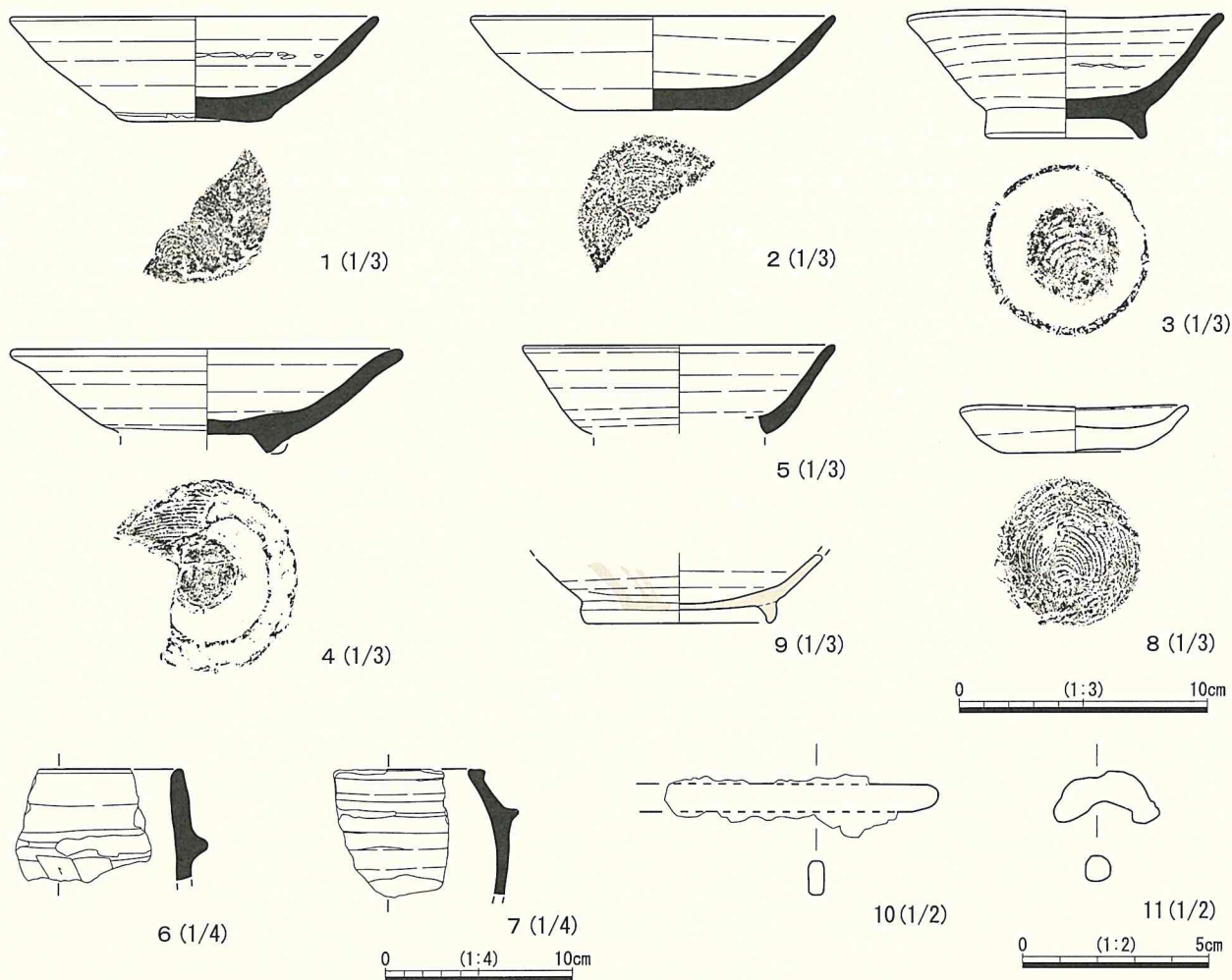


第43図 9号竪穴住居跡 平面図・断面図

カマド



第44図 9号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図



第45図 9号竪穴住居跡 出土遺物図

第10表 9号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第45図 PL. 34	S I - 9 No. 5、 3区フク土	1	須恵器 坏	15.6	5.2	4.3	ロクロ整形 外：底部回転糸切り	①酸化・やや不良 ②にぶい黄橙色 ③赤色粒、白色粒	50%	
第45図 PL. 34	S I - 9 No. 6	2	須恵器 坏	【14.5】	【6.2】	3.8	ロクロ整形 外：底部回転糸切り	①酸化・やや不良 ②橙色 ③赤色粒、小礫	30%	
第45図 PL. 34	S I - 9 No. 4	3	須恵器 埴	12.6	6.1	5.2	ロクロ整形 外：底部回転糸切り後高台貼付	①酸化・やや不良 ②黒褐色 ③白色粒、小礫	完形	内面黒色 処理か

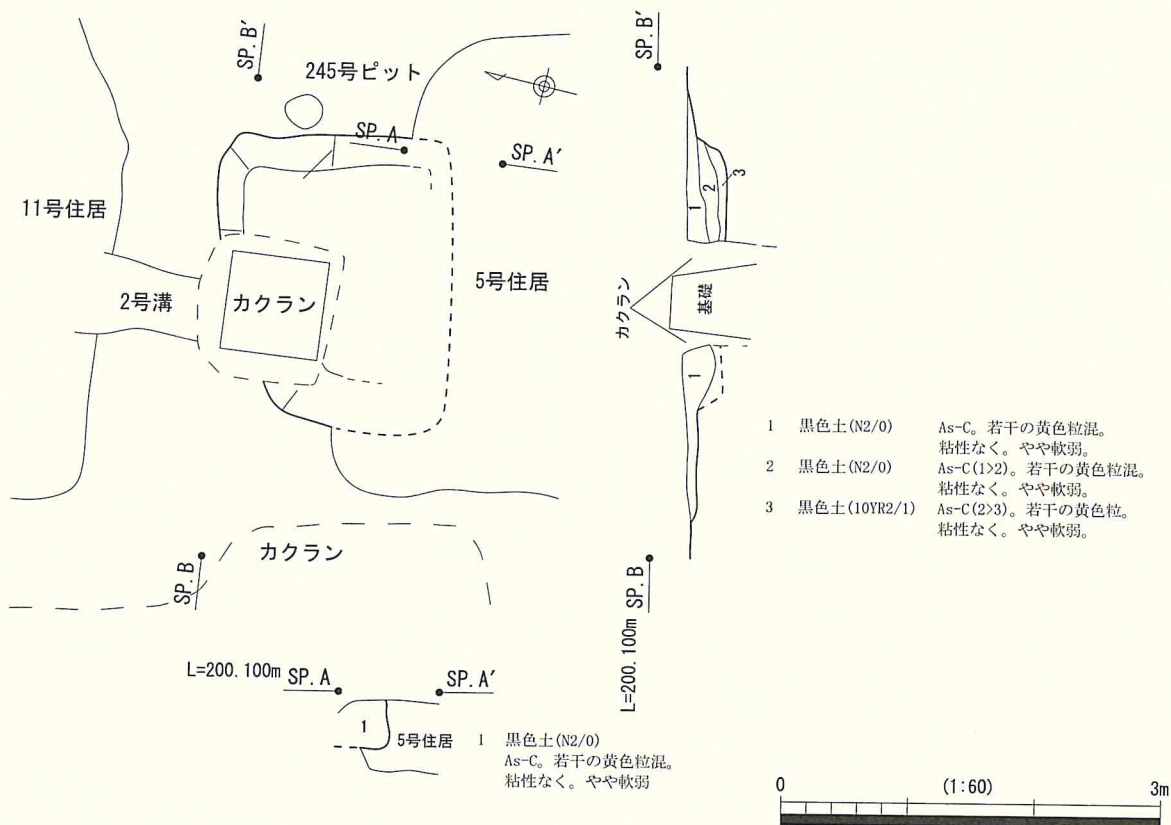
第11表 9号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第45図 PL. 34	S I - 9 No. 7, 12	4	須恵器 埴	15.4	—	4.2	ロクロ整形 外：底部回転糸切り後高台貼付	①酸化・やや不良 ②黒褐色 ③赤色粒、雲母、小礫	口縁部～底部 80% 高台部45%	
第45図 PL. 34	S I - 9 No. 1	5	須恵器 埴	【12.4】	—	【3.6】	クロ整形	①酸化・やや不良 ②黒褐色 ③雲母、白色粒	口縁部～体下 部25%	
第45図 PL. 34	S I - 9 カマド No. 6	6	羽釜	—	—	【6.1】	内：ヨコナデ 外：鋳貼付後口縁部ヨコナデ・体上部 ヘラ削	①酸化・やや不良 ②黒褐色 ③雲母、小礫	口縁部～体上 部破片	月夜野型 羽釜
第45図 PL. 34	S I - 9 No. 17	7	羽釜	—	—	【6.9】	口唇部面取り 外：ロクロ整形後鋳貼付	①還元・やや不良 ②にぶい黄色 ③橙色粒、小礫	口縁部～体上 部破片	口唇部面 取り
第45図 PL. 34	S I - 9 No. 10, 13, ナンメン	8	かわら け	8.4	5.1	2.0	ロクロ整形 外：底部回転糸切り	①良好 ②橙色 ③雲母、赤色粒	ほぼ完形	
第45図 PL. 34	S I - 9 No. 2	9	灰釉埴	—	7.4	2.8	ロクロ整形 外：灰釉掛け掛けか 三日月高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒、黒色粒	体下部～高台 部完存	

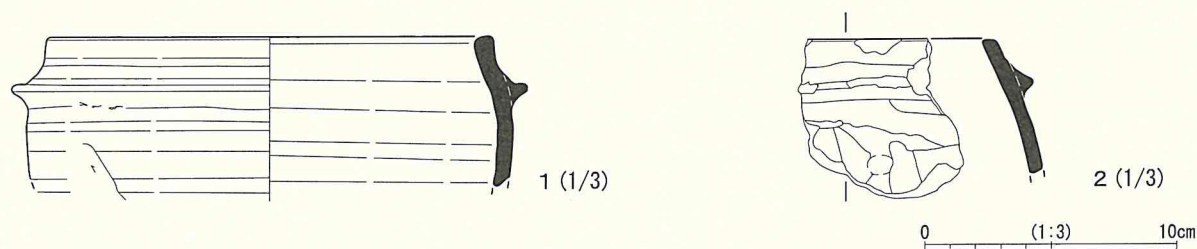
図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第45図 PL. 34	S I - 9 フク土	10	鉄製品	7.2	0.2	0.4	11.2	鉄	鉄鏃か？、断面四角形	—	
第45図 PL. 34	S I - 9 フク土	11	鉄製品	2.3	1.4	0.6	3.0	鉄	環状製品、断面楕円形	—	

10号竪穴住居跡(第46・47図 PL. 34)

規模 東西2.3m、南北1.7mを測り、長方形を呈す。方位 N-76.6° -E 重複 5号竪穴住居と重複する。5号竪穴住居→10号竪穴住居と新しい。壁 残存壁高は35cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。床面 黄白色土の混じる褐色土である。柱穴 確認できず。遺物出土状態 須恵器羽釜が出土。



第46図 10号竪穴住居跡 平面図・断面図



第12表 10号竪穴住居跡 出土遺物観察表

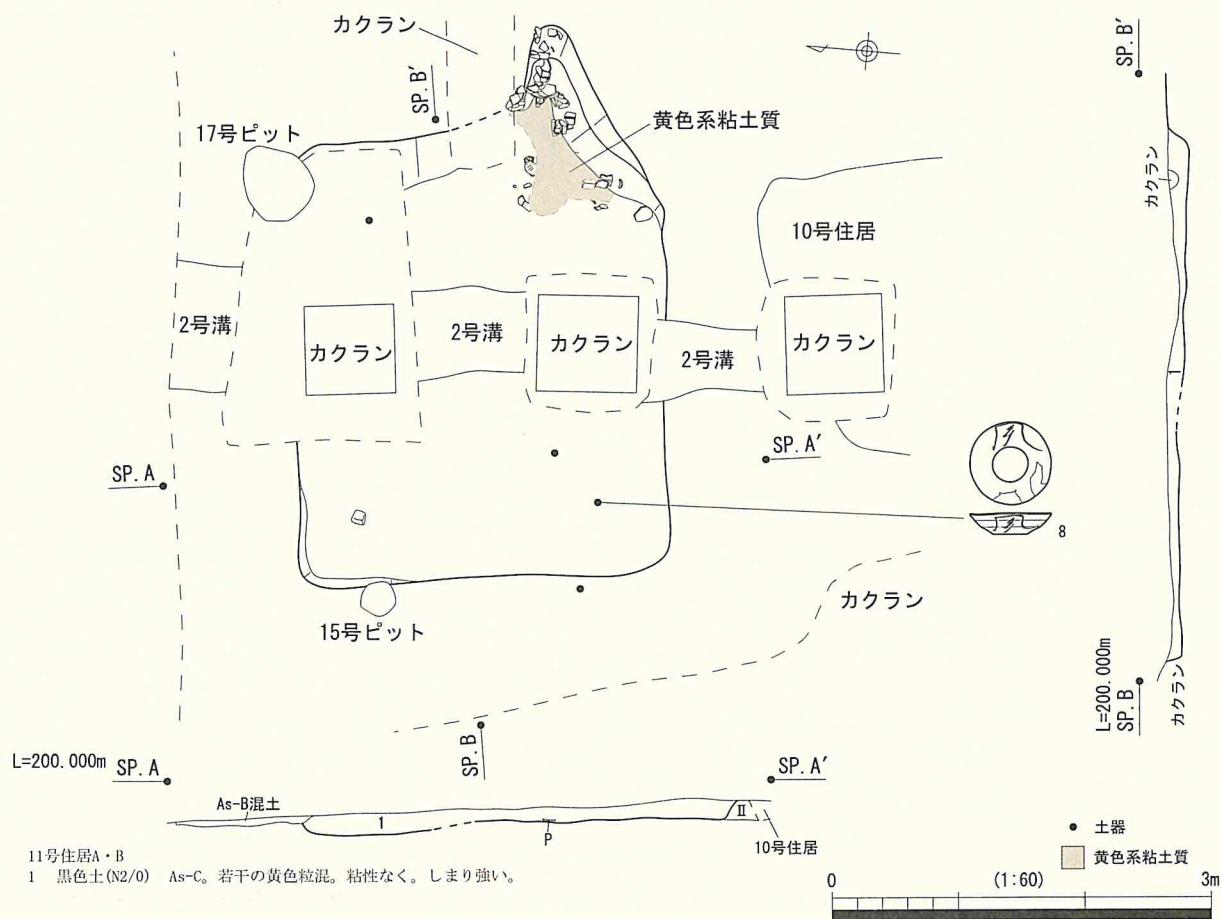
第47図 10号竪穴住居跡 出土遺物図

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第47図 PL. 34	S I-10 フク土	1	羽釜	【23.2】	—	【8.7】	口唇部面取り 外：ロクロ整形後鋳貼付 上部ヘラ 削り	①還元・やや不良 ②にぶい橙色 ③白色粒、小礫	口縁部～体上 部15%	吉井型羽 釜
第47図 PL. 34	S I-10 1区フク土	2	羽釜	—	—	【8.5】	口唇部面取り 内：ヘラナデ 外：鋳貼付後口縁部ヨコナデ・体上 部ヘラナデ	①酸化・普通 ②褐色 ③橙色粒、小礫	口縁部～体上 部破片	

11 号竪穴住居跡 (第48～53図 PL. 27・34)

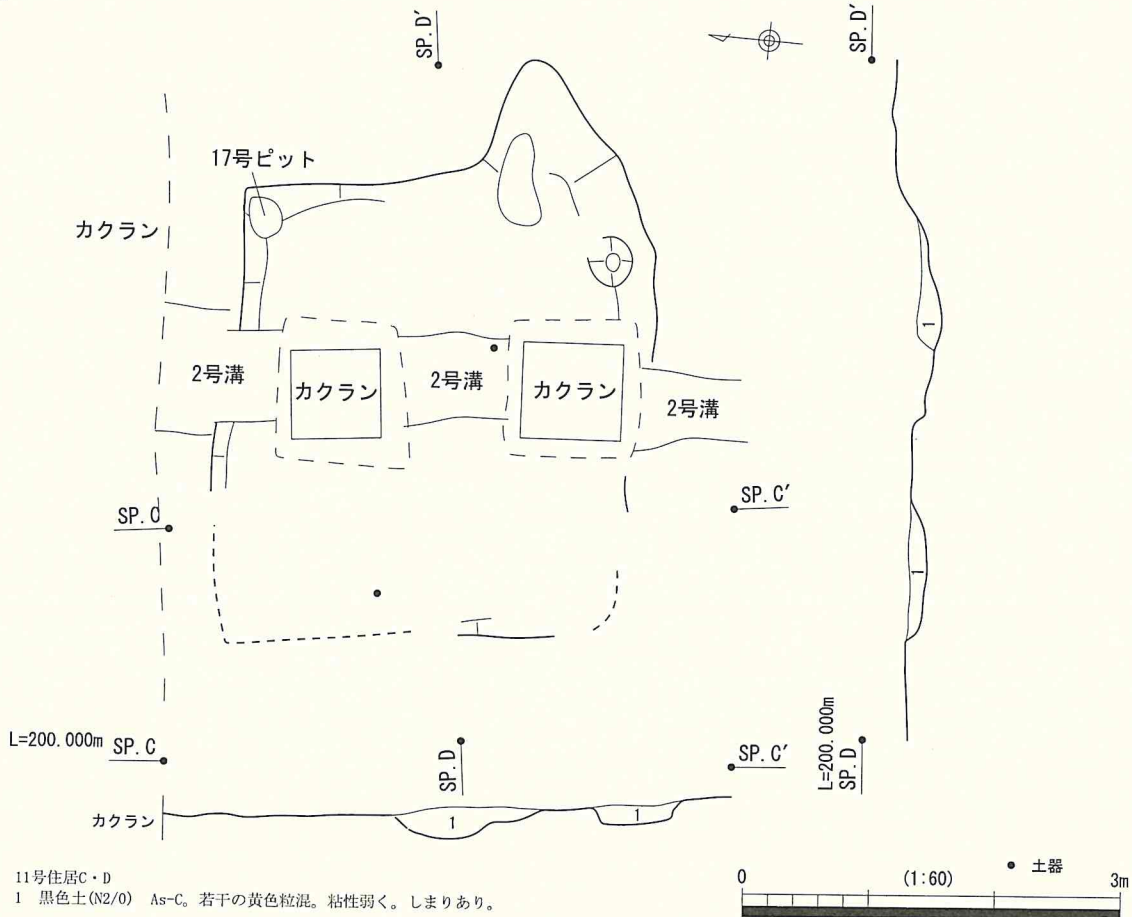
規模 東西3.5m、南北2.9mを測り、長方形を呈す。建物基礎により壊されている。

方位 N-93.5° -E **重複** 2号溝、15・17号ピットと重複する。11号竪穴住居→2号溝・15・17号ピットと新しい。
壁 残存壁高は17cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。
床面 黄白色土の混じる褐色土である。
柱穴 確認できず。
カマド 東に位置する。焚き口幅64cm、奥行き104cmを測る。壁外に造り出される。
遺物出土状態 土師器甕、須恵器瓶類・羽釜、灰釉陶器壺、墨書土器が出土。



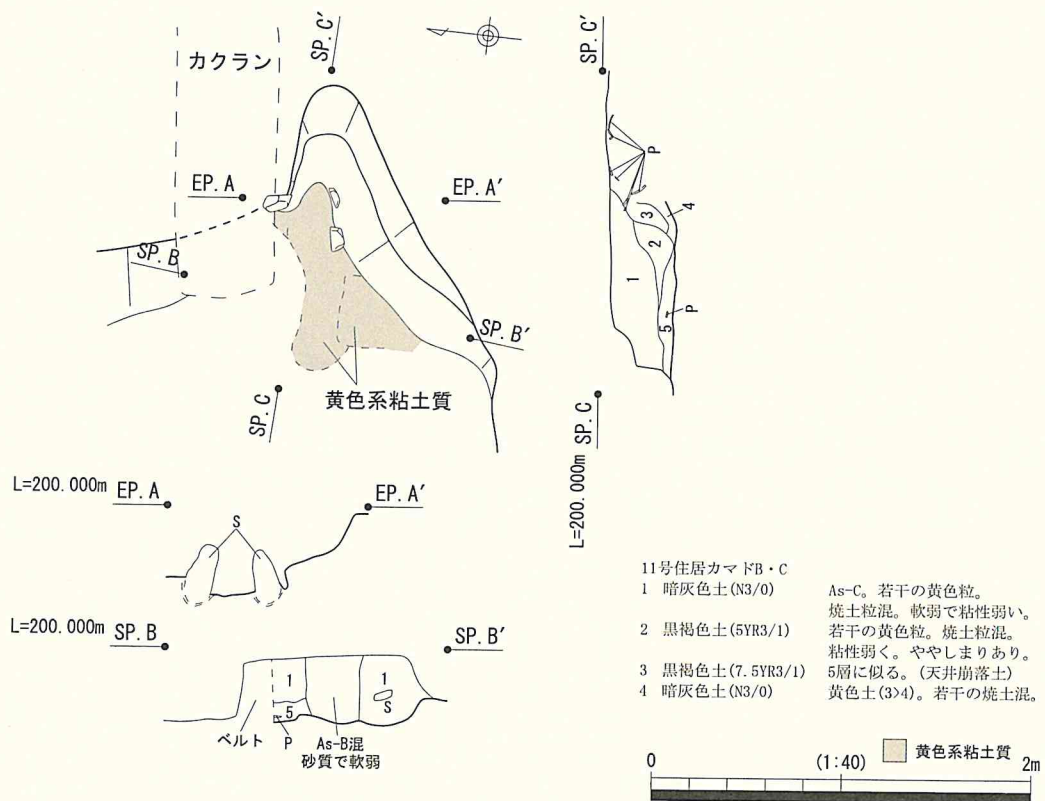
第48図 11号竪穴住居跡 平面図・断面図

掘り方



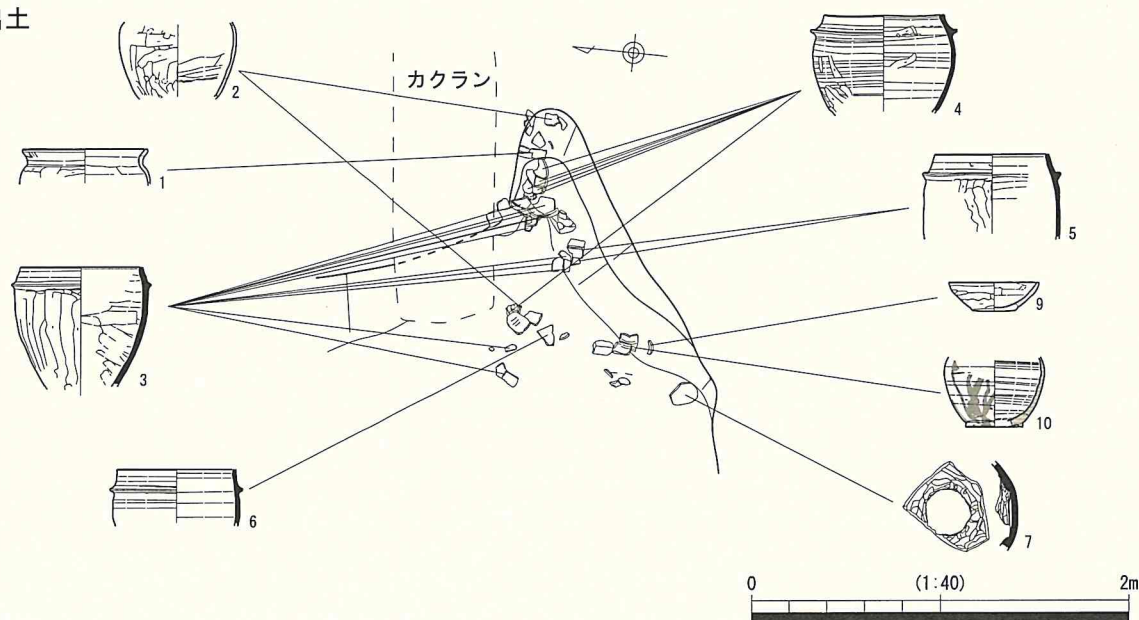
第49図 11号竪穴住居跡掘り方 平面図・断面図

カマド

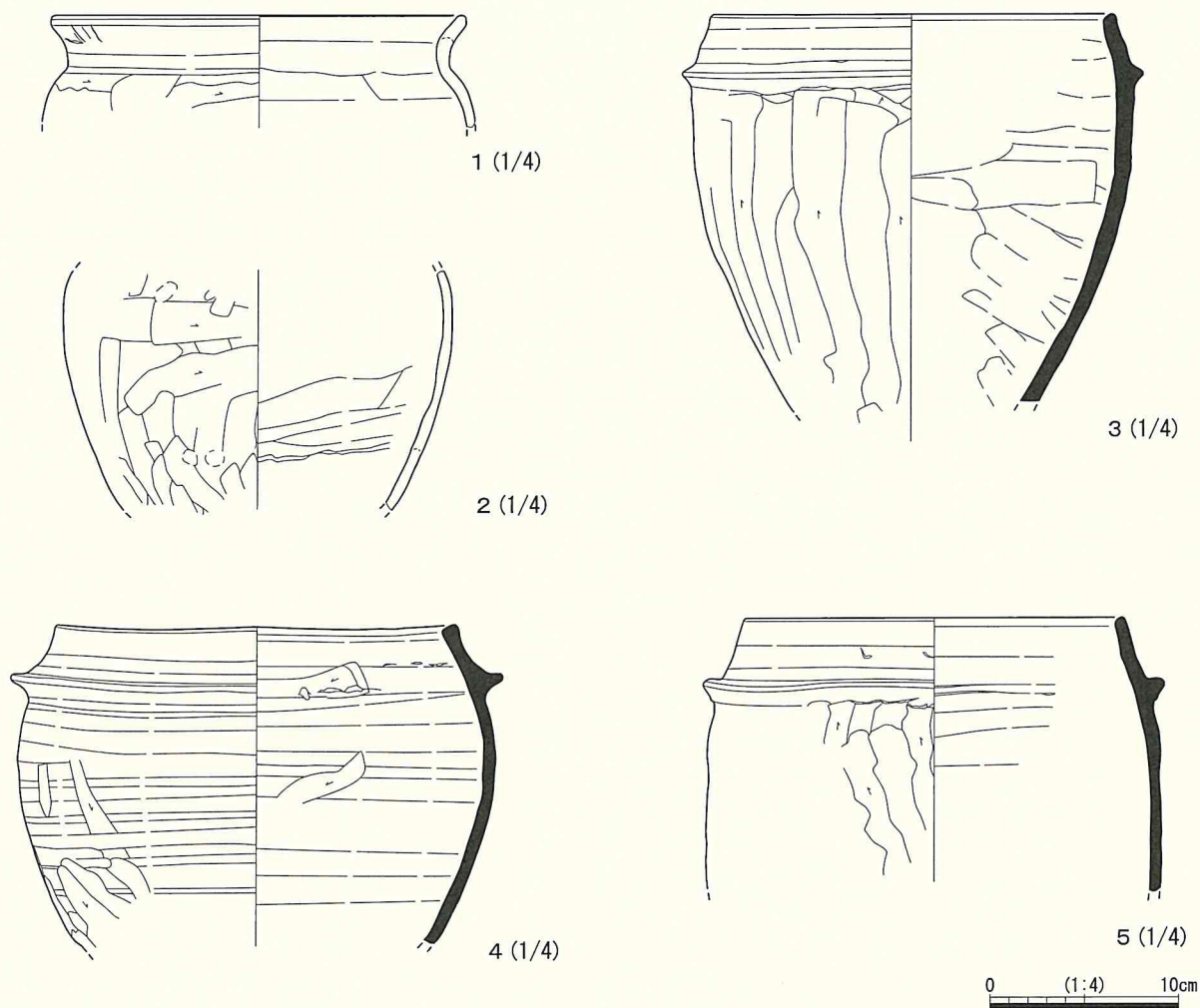


第50図 11号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図

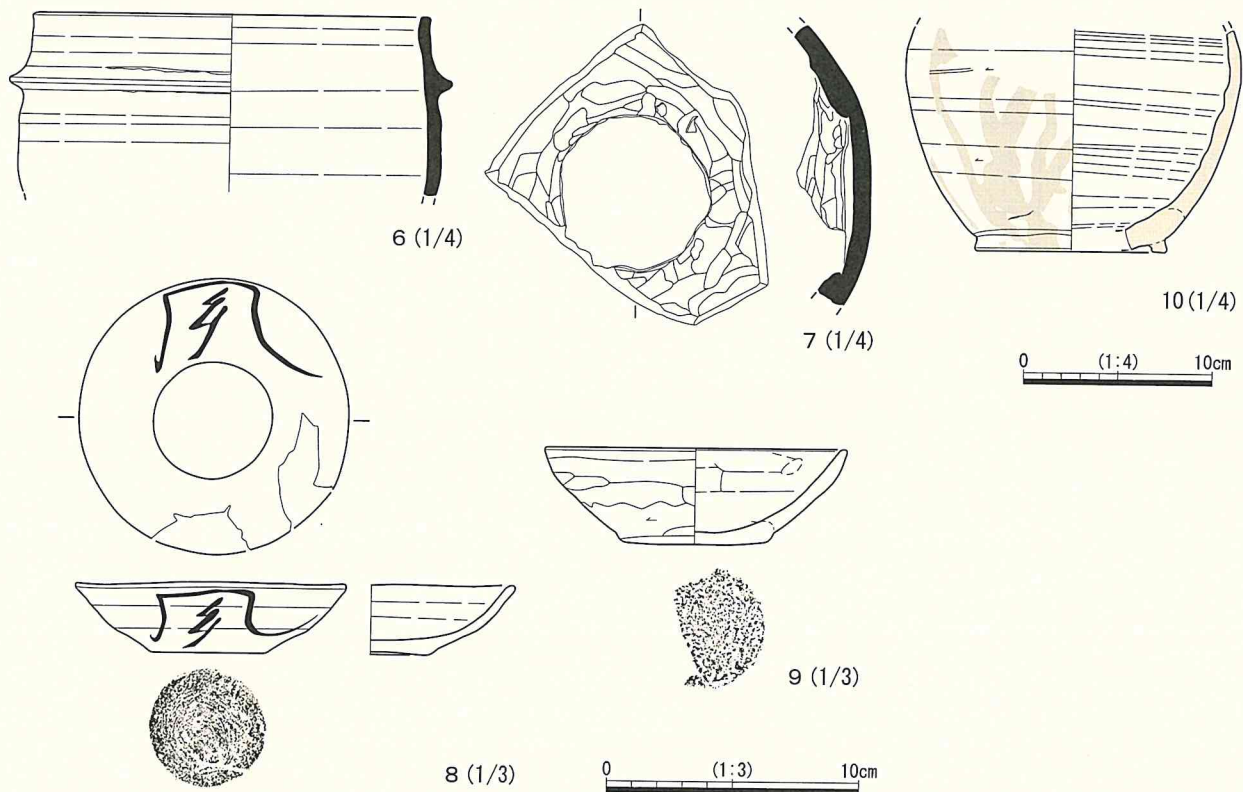
遺物出土



第51図 11号竪穴住居跡カマド 遺物出土状況図



第52図 11号竪穴住居跡 出土遺物図(1)



第53図 11号竪穴住居跡 出土遺物図(2)

第13表 11号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第52図 PL. 34	S I-11 カマド No.25, 26, 27	1	土師器 甕	【21.6】	—	【5.9】	内：口縁部ヨコナデ・体上部ヘラナ 外：口縁部ヨコナデ・体上部ヘラ削り	①普通 ②橙色 ③赤色 粒、小礫	口縁部～体上 部25%	
第52図 PL. 34	S I-11 カマド No.20, 33, カマド フク土	2	土師器 甕	—	—	【12.7】	内：ナデ・ヘラナデ、積み上げ痕顕著 外：ヘラナデ・ヘラ削り	①普通 ②明褐色 ③赤色粒、雲母、小礫	体部25%	
第52図 PL. 34	S I-11 カマド No.1, 3, 11, 13, 14, 15, 18, 21, 22, 35, 44, 45, フク土、 他	3	羽釜	【21.0】	—	【22.5】	ロクロ整形後鑢貼付 内：ハケ状工具ナデ 外：ヘラ削り	①還元・やや不良 ②にぶい黄褐色 ③石英、小礫	口縁部～体上 部40% 体中部～体下 部80%	
第52図 PL. 34	S I-11 カマド No.19, 34, 37, 38, 39, 40, 41, フク土	4	羽釜	【21.9】	—	【16.9】	口唇部面取り 鑢貼付後ロクロ整形 内：体部ヘラ削り 外：体部ヘラ削り	①還元・やや不良 ②にぶい黄褐色 ③小礫	口縁部～体中 部30%	吉井型羽 釜か
第52図 PL. 34	S I-11 カマド No.16, 17	5	羽釜	【19.9】	—	【13.9】	鑢貼付後口縁部ヨコナデ 内：ヨコナデ 外：体部外面ヘラ削り	①還元・やや不良 ②にぶい橙色 ③小礫	口縁部～体中 部20%	
第53図 PL. 34	S I-11 カマドNo.7	6	羽釜	【20.4】	—	【6.4】	ロクロ整形後鑢貼付 口唇部面取り	①還元・やや不良 ②明褐色 ③小礫	口縁部～体上 部20%	吉井型羽 釜か
第53図 PL. 34	S I-11 カマド No.23	7	須恵器 瓶類	—	—	【15.9】	すべての部品を接合後孔を塞ぐ 内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ、自然釉付着	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒、小礫	体部破片	
第53図 PL. 34	S I-11 No.2、3 区フク土	8	かわら け	10.6	4.4	2.8	ロクロ整形 外：底部回転糸切り 体部正位「風」墨書	①普通 ②にぶい黄褐色 ③小礫	ほぼ完形	

第14表 11号竪穴住居 出土遺物観察表(2)

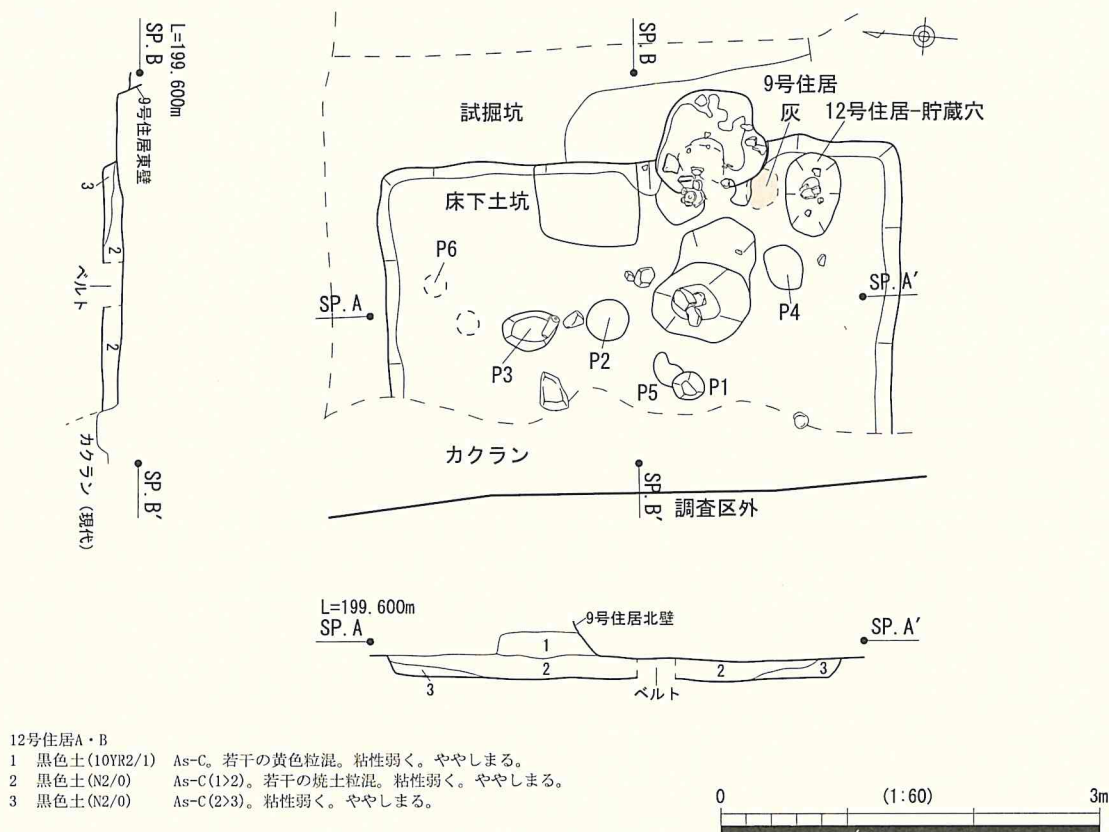
図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第53図 PL. 34	S I-11 カマド No.51、4区 フク土	9	かわらけ	【11.8】	【5.6】	3.8	内：口縁部□ 体部ヨコナデ・底部ナデ 外：口縁部□ 体上部ヨコナデ・体下部 ～底部ヘラ削り	①普通 ②灰黄褐色 ③雲母、小礫	30%	底部砂目
第53図 PL. 34	S I-11 カマドNo.52	10	灰釉壺	—	【9.9】	【11.7】	ロクロ整形 外：灰釉高台貼付	①還元・良好 ②灰色 ③黒色粒、小礫	体中部～高台 部25%	釉垂れ多 数あり

12号竪穴住居跡(第54～60図 PL. 27・28・35・36)

規模 東西4.14m、南北2.3mを測る。西側は攪乱によって壊されている。 **方位** N-85.3°-E

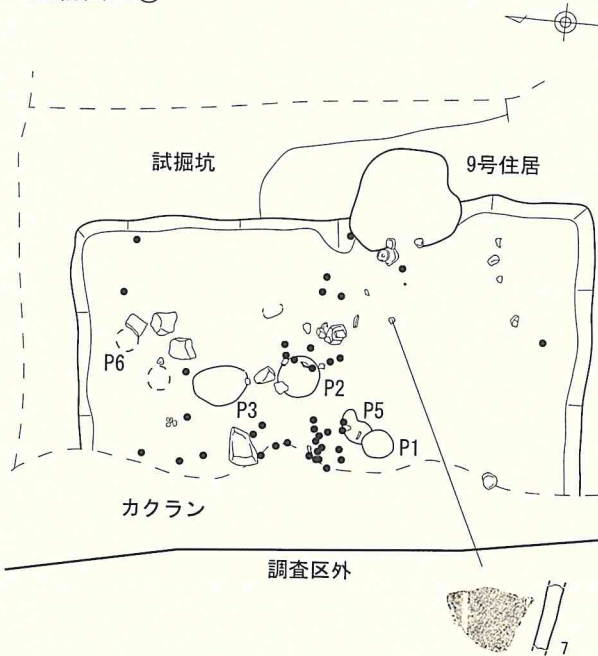
重複 9号竪穴住居と重複する。12号竪穴住居→9号竪穴住居と新しい。 **壁** 残存壁高は17～38cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。 **床面** 黄白色土の混じる褐色土である。 **柱穴** 6基の柱穴を検出した。P1は径22×21cm、深さ15cm、P2は径34×31cm、深さ10cm、P3は径45×30cm、深さ20cm、P4は径34×29cm、深さ10cm、P5は径27×23cm、深さ9cm、P6は径18×17cm、深さ19cm

貯蔵穴 東南隅に径65×44cmを測り、楕円形を呈す。 **床下土坑** 東に径80cm×54cm、深さ19cmを測り、方形を呈す。 **鍛冶遺構** 東に位置し、東西196cm、南北60～87cm、深さ11cmを測り、壁外に造り出される。 **遺物出土状態** 縄文土器深鉢、須恵器壺・羽釜、カワラケが出土。このほか、鍛冶遺構から羽口・金床石などが出土した。

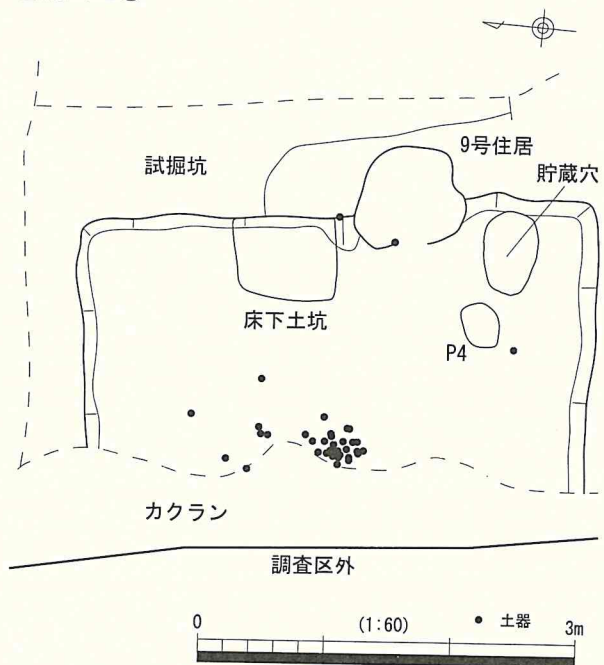


第54図 12号竪穴住居跡 平面図・断面図

遺物出土①



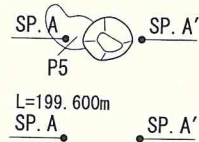
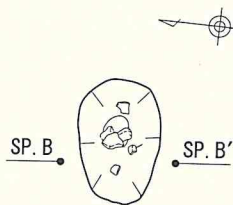
遺物出土②



第55図 12号竪穴住居跡 遺物出土状況図

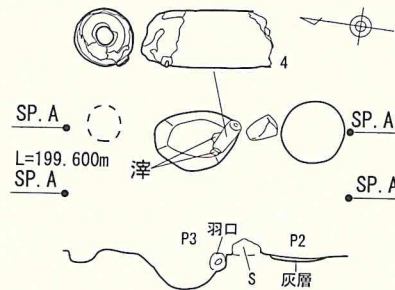
貯蔵穴

P1

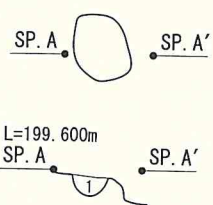


1 黒色土(10YR2/1) As-C.
若干の黄色粒混。

P2・3

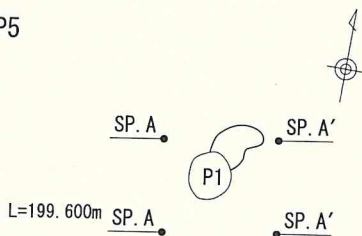


P4



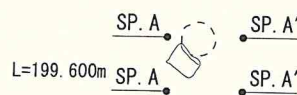
1 黒色土(N2/0) 焼土。灰の塊混。
粘性弱く。しまりなし。

P5



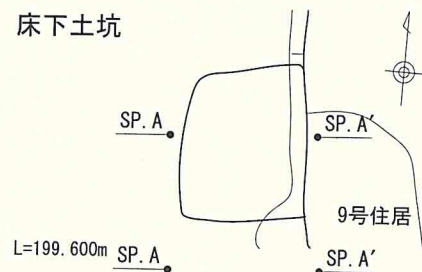
1 黒色土(N2/0) 若干の白色粒。黄色粒混。
粘性弱く。しまりなし。

P6

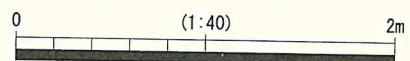


1 黒色土(N2/0) 若干の白色粒。黄色粒混。
粘性弱く。しまりなし。

床下土坑

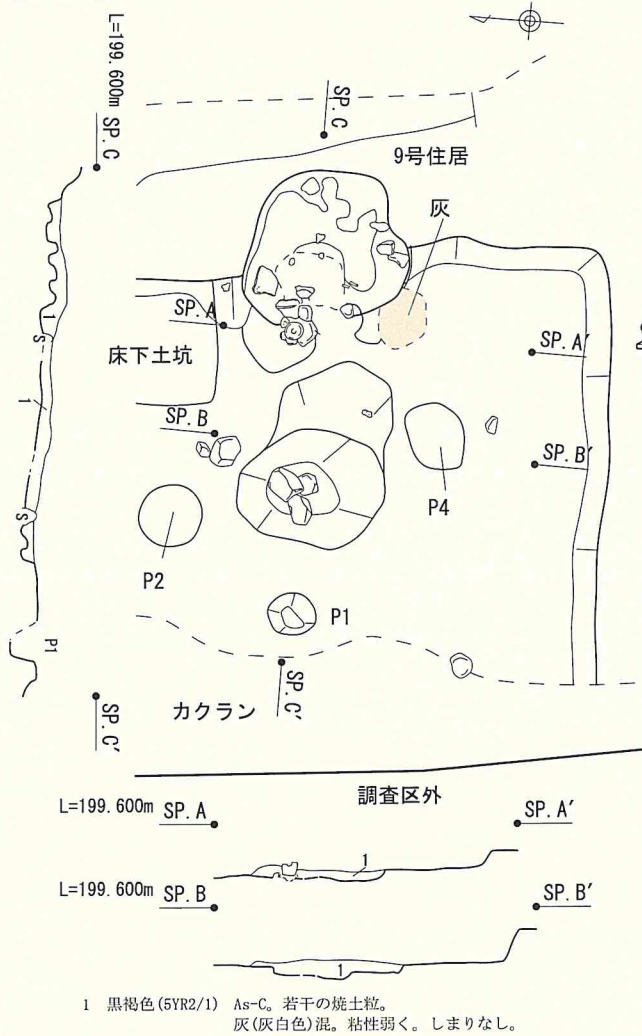


1 黒褐色土(5YR2/1) 若干の黄色粒混。
粘性・しまりなし。

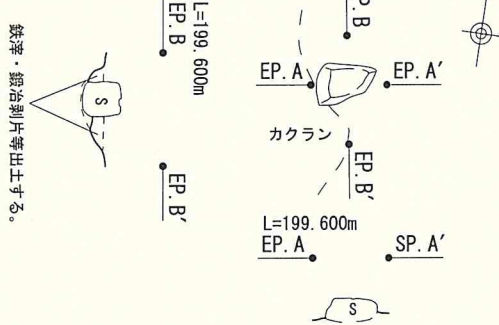


第56図 12号竪穴住居跡貯蔵穴・ピット・床下土坑 平面図・断面図

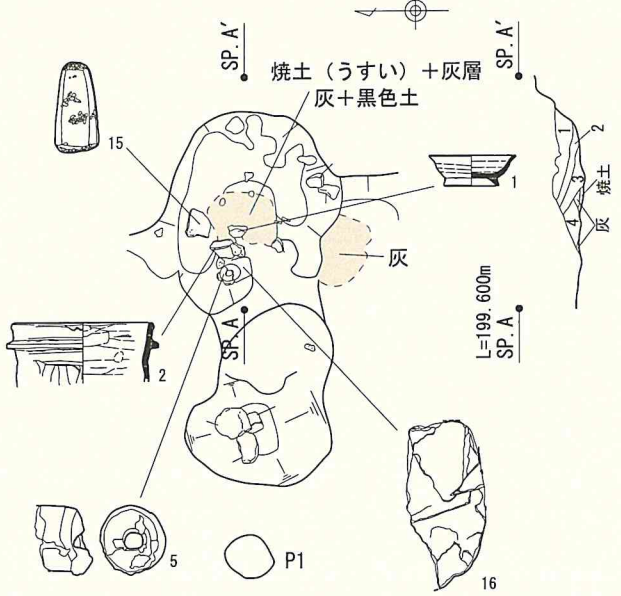
鍛冶遺構



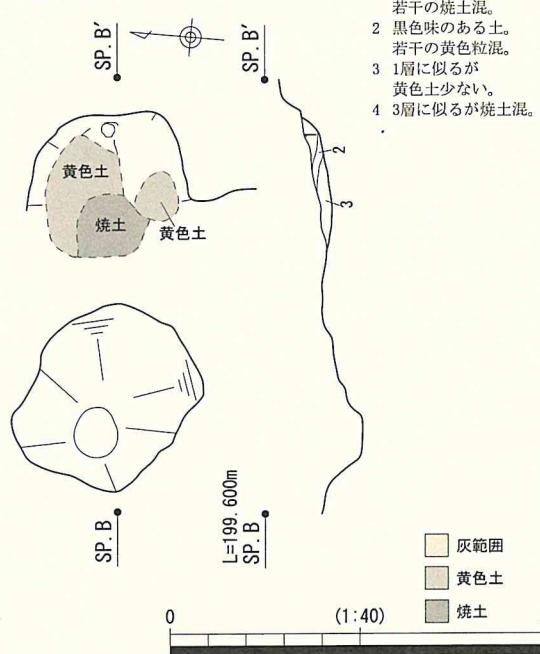
金床石



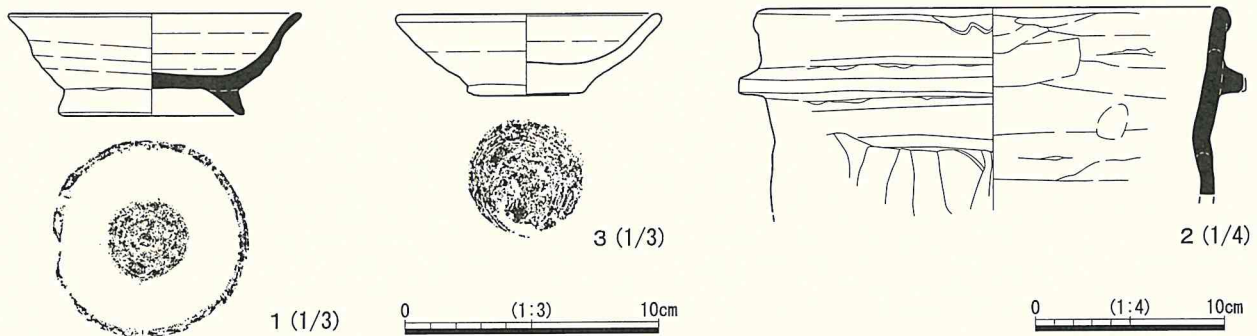
鍛冶遺構遺物出土



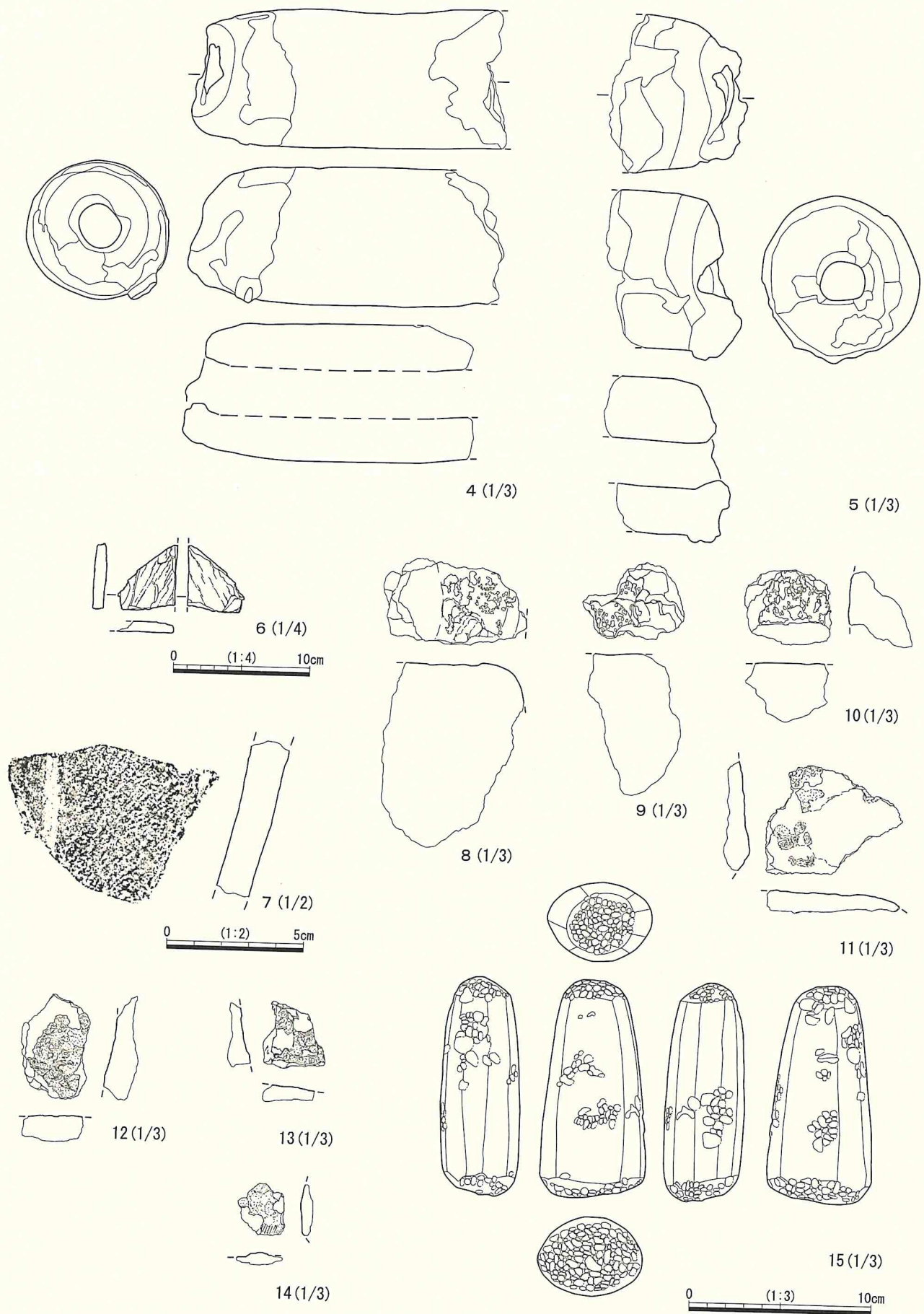
鍛冶遺構掘り方



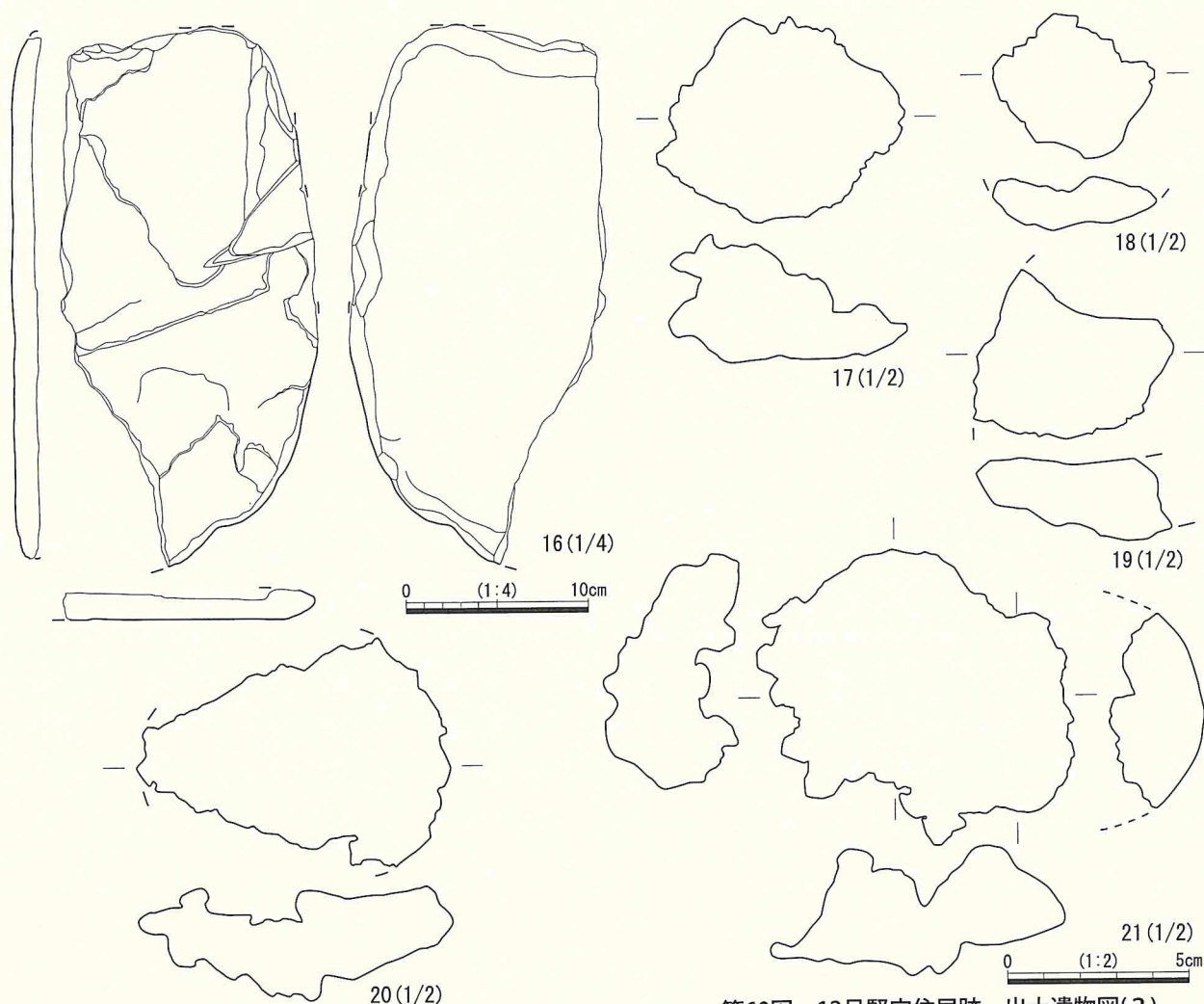
第57図 12号竪穴住居跡鍛冶遺構 平面図・断面図



第58図 12号竪穴住居跡 出土遺物図(1)



第59図 12号竪穴住居跡 出土遺物図(2)



第60図 12号竪穴住居跡 出土遺物図(3)

第15表 12号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量(cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第58図 PL. 35	S I-12 No.50	1	須恵器 埴	【11.4】	7	【4.1】	ロクロ整形 外：高台部貼付 外面底部糸切り痕 なし	①酸化・やや不良 ②にぶい褐色 ③白色粒、小礫	口縁部10% 体部25% 底部～高台部 完存	
第58図 PL. 35	S I-12 No.45	2	羽釜	【23.7】	—	【10.7】	内：口縁部ヘラナデ・体上部ナデ 外：口縁部ヨコナデ・体上部ヘラ削 り後鈐貼付	①酸化・やや不良 ②明褐色 ③石英、小礫	口縁部～体上 部20%	
第58図 PL. 35	S I-12 3区フク 土	3	かわら け	【10.2】	4.0	【3.8】	ロクロ整形 外：底部回転糸切り	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒、橙色粒、小礫	口縁部～体部 20% 底部完存	
第59図 PL. 35	S I-12 No.49	4	羽口	長さ 【17.3】	幅 【7.6】	厚さ 【7.6】	通風孔径2.6cm 外：ナデ	①普通②にぶい黄褐色 ③スサ、小礫	先端側60%	重さ 【951.7】 g
第59図 PL. 35	S I-12 No.42	5	羽口	長さ 【7.5】	幅 8.7	厚さ 8.7	通風孔径2.5cm 外：ナデ	①普通 ②にぶい黄褐色 ③スサ、小礫	先端側30%	重さ 【367.4】 g
第59図 PL. 35	S I-12 No.6	7	縄文 深鉢	—	—	【5.8】	無節R縄文 垂下する沈線間を擦り消し縄文する	①良好 ②橙色 ③砂粒	体部破片	縄文中期 加曾利E Ⅲ式

図版	出土地	番号	種類 種別	法量(cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第59図 PL. 35	S I-12 フク土	6	片岩	10.1	2.3	1.8	【21.5】	片岩	暗灰黄色	破片	
第59図 PL. 35	S I-12 1区フク土	8	金床石	4.7	7.9	9.9	【401.3】	—	にぶい黄褐色	—	金床石は同 一物体
第59図 PL. 35	S I-12 1区フク土	9	金床石	3.3	5.6	7.4	【149.6】	—	にぶい黄褐色	—	金床石は同 一物体
第59図 PL. 35	S I-12 1区フク土	10	金床石	402	4.8	3.6	【69.9】	—	にぶい黄褐色	—	金床石は同 一物体

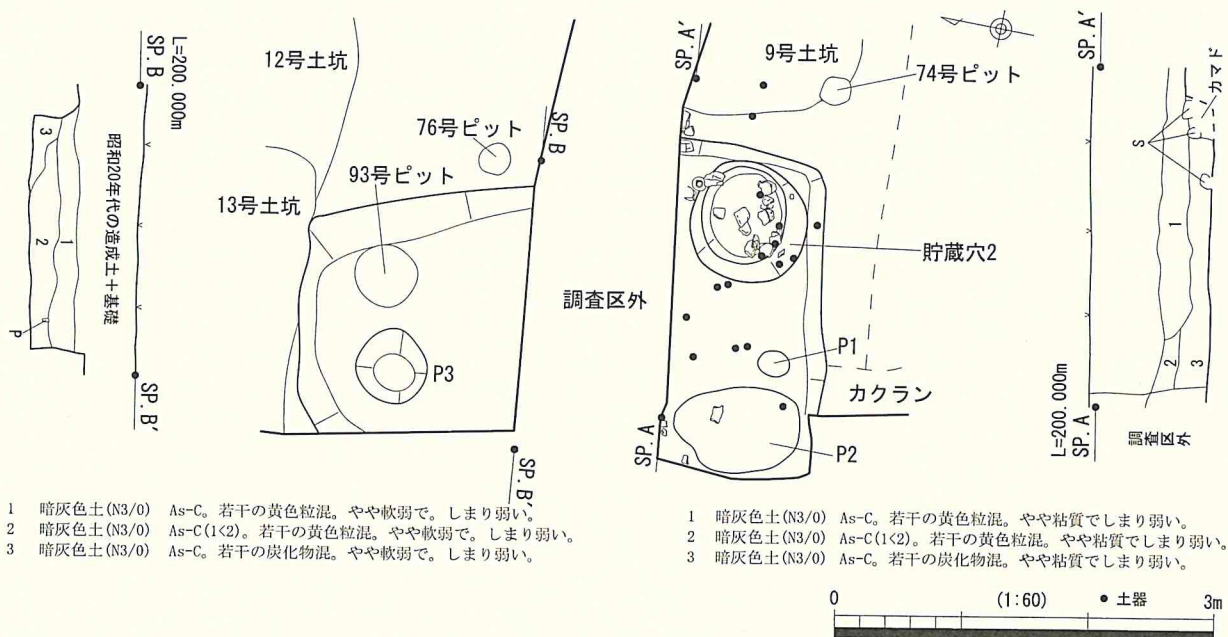
第16表 12号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第59図 PL. 35	S I-12 1区フク土	11	金床石	6.0	7.5	1.3	【49.4】	—	褐灰色	火受け剥落 片	金床石は同 一個体
第59図 PL. 35	S I-12 1区フク土	12	金床石	5.7	3.7	1.5	【37.9】	—	にぶい黄橙色	火受け剥落 片	金床石は同 一個体
第59図 PL. 35	S I-12 1区フク土	13	金床石	3.7	3.4	1.2	【3.7】	—	にぶい黄橙色	火受け剥落 片	金床石は同 一個体
第59図 PL. 35	S I-12 1区フク土	14	金床石	2.9	2.6	0.7	【4.7】	—	にぶい黄橙色	火受け剥落 片	金床石は同 一個体
第59図 PL. 35	S I-12 No.43	15	敲石	12.0	5.7	4.3	【504.5】	—	オリーブ灰色	敲き石とし ては完形品	
第60図 PL. 35	S I-12 No.44 S I-17 No.58	16	板石	【29.6】	【14.0】	1.7	【967.4】	片岩	明褐色 正面が剥離しており、種子は不明	破片	
第60図 PL. 35	S I-12 No.10	17	埴形 鍛冶滓	5.7	6.8	3.5	110.7	—	—	—	
第60図 PL. 35	S I-12 No.25	18	埴形 鍛冶滓	4.0	4.5	1.5	19.5	—	—	—	
第60図 PL. 35	S I-12 フク土	19	埴形 鍛冶滓	4.7	5.5	2.2	65.2	—	—	—	
第60図 PL. 35	S I-12 No.23	20	埴形 鍛冶滓	6.7	8.6	3.1	153.9	—	—	—	
第60図 PL. 36	S I-12 No.34	21	鉄滓付 羽口	8.1	8.7	3.7	136.2	—	明褐色	—	

13号竪穴住居跡(第61～65図 PL. 36)

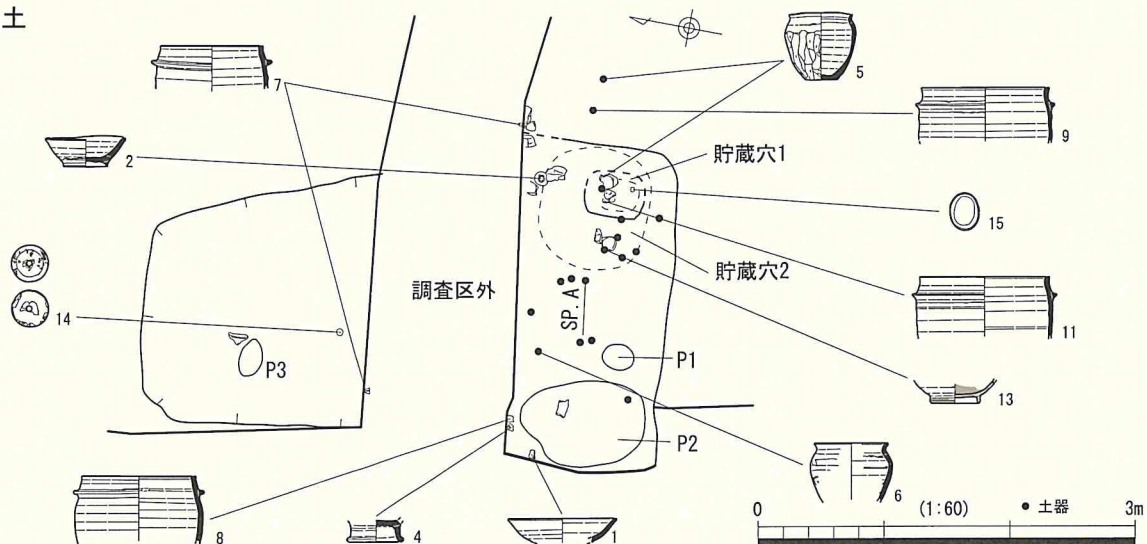
規模 東西4.15m、南北2.6mを測り、長方形を呈す。**方位** N-79.3°-E **重複** 13号土坑、93号ピットと重複する。**壁** 残存壁高は21cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。**床面** 黄白色土の混じる褐色土である。**柱穴** 3基の柱穴を検出した。P1は径25×20cm、深さ12cm、P2は径98×68cm、深さ30cm、P3は径58×56cm、深さ30cm。**貯蔵穴** 南東隅に2基の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴2のなかに、貯蔵穴1を検出した。貯蔵穴1 径47cm×45cm、深さ45cmを測り、方形を呈す。貯蔵穴2 径95×92cm、深さ55cmを測り、楕円形を呈す。**カマド** 東に位置し、壁外に造り出される。

遺物出土状態 須恵器坏・埴・小壺・羽釜、灰釉陶器皿、カワラケ、紡錘車が出土。



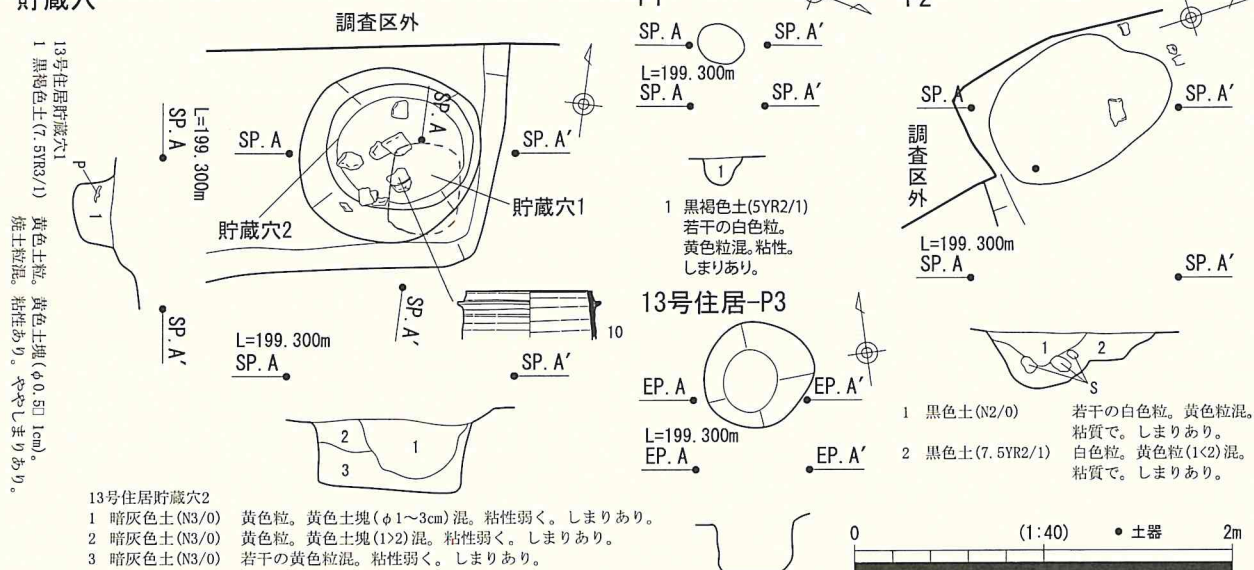
第61図 13号竪穴住居跡 平面図・断面図

遺物出土

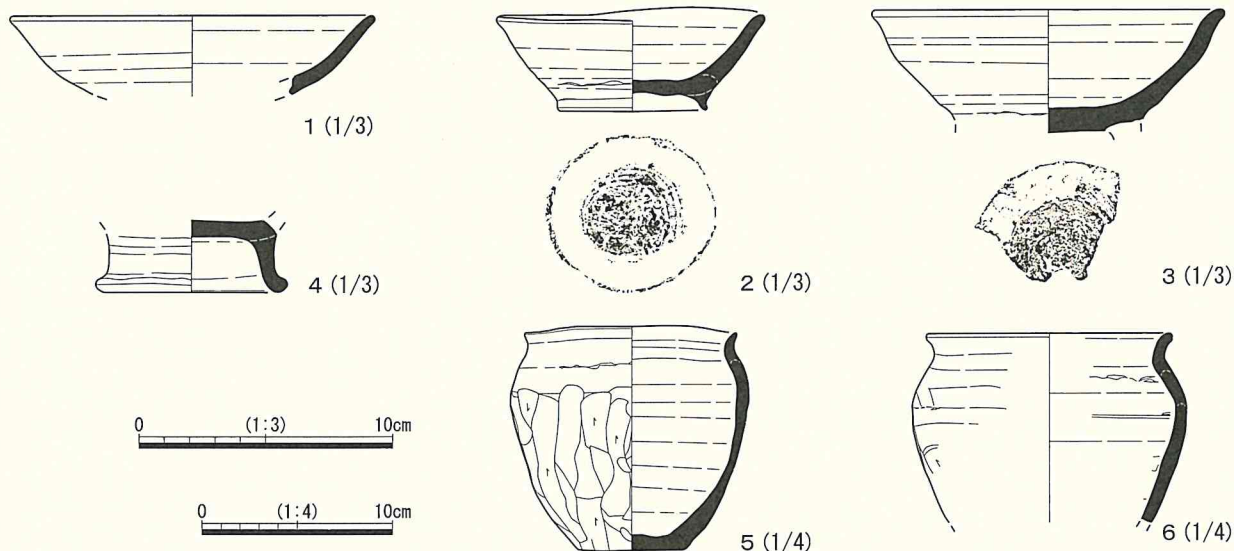


第62図 13号竪穴住居跡 遺物出土状況図

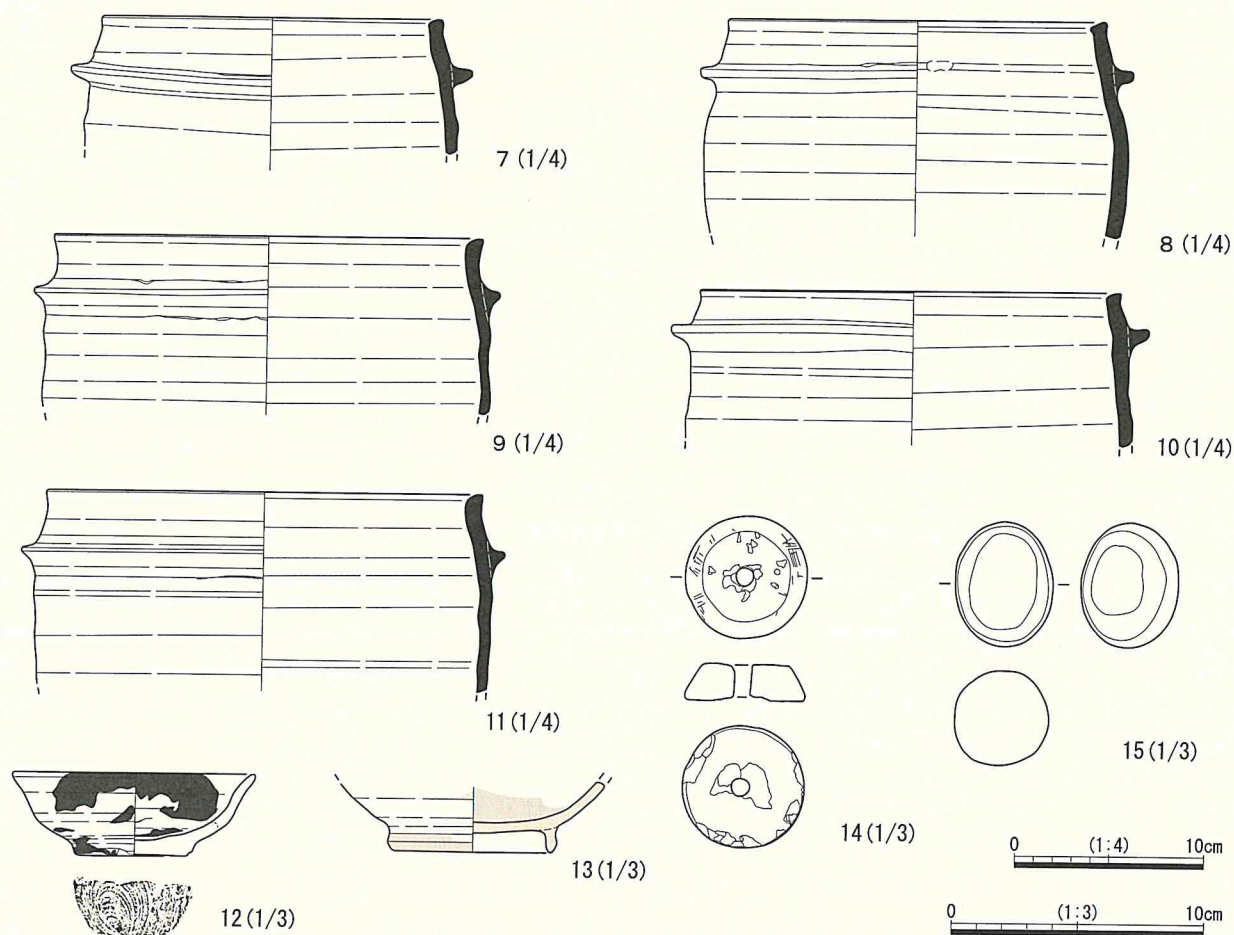
貯蔵穴



第63図 13号竪穴住居跡貯蔵穴・ピット 平面図・断面図



第64図 13号竪穴住居跡 出土遺物図(1)



第65図 13号竪穴住居跡 出土遺物図(2)

第17表 13号竪穴住居跡 出土遺物観察表(1)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第64図 PL. 36	S I-13 No.25、 フク土	1	須恵器 坏	【14.2】	—	【3.2】	ロクロ整形	①酸化・やや不良 ②にぶい黄褐色 ③白色粒、小礫	口縁部～体上 部25%	
第64図 PL. 36	S I-13 No.1	2	須恵器 碗	10.3	5.8	4.1	ロクロ整形 外：底部切り離し(技法不明)後高台 貼付	①還元・やや不良 ②灰黄色 ③小礫	完形	
第64図 PL. 36	S I-13 フク土	3	須恵器 碗	【13.7】	—	【4.9】	ロクロ整形 外：底部回転ヘラ切り後高台貼付	①酸化・やや不良 ②灰黄褐色 ③橙色粒、小礫	口縁部～底部 20% 高台部欠損	
第64図 PL. 36	S I-13 No.24	4	須恵器 碗	—	【6.9】	【2.9】	ロクロ整形 外：高台貼付	①酸化・やや不良 ②橙色 ③白色粒、石英、小礫	底部～高台部 40%	
第64図 PL. 36	S I-13 No.2、20、 東フク土	5	須恵器 小壺	【11.1】	5.5	11.9	ロクロ整形 外：体中部～体下部ヘラ削り	①酸化・普通 ②褐灰色 ③白色粒、黒色粒、小礫	口縁部30% 体上部60% 体下部～底部 完存	
第64図 PL. 36	S I-13 No.12	6	須恵器 小壺	【12.7】	—	【10.0】	ロクロ整形 外：体中部ヘラ削り	①酸化・普通 ②黒褐色 ③雲母、石英、小礫	口縁部～体中 部20%	
第65図 PL. 36	S I-13 No.23, 28	7	羽釜	【17.6】	—	【8.1】	鐳貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①還元・やや不良 ②にぶい黄橙色 ③橙色粒、小礫	口縁部～体中 部30%	吉井型羽 釜
第65図 PL. 36	S I-13 No.27	8	羽釜	【19.6】	—	【11.4】	鐳貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①還元・普通 ②灰黄色 ③小礫	口縁部～体中 部20%	吉井型羽 釜
第65図 PL. 36	S I-13 No.17	9	羽釜	【22.4】	—	【9.4】	鐳貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①還元・普通 ②灰白色 ③白色粒、小礫	口縁部～体上 部20%	吉井型羽 釜

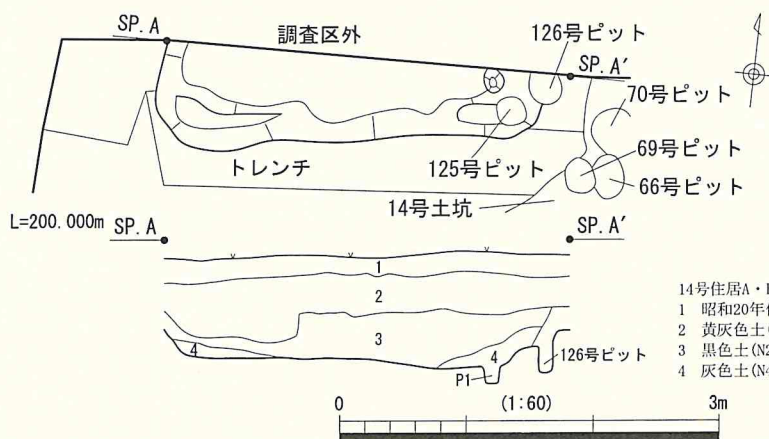
第18表 13号竪穴住居跡 出土遺物観察表(2)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第65図 PL. 36	S I -13 貯穴No.5	10	羽釜	【22.1】	—	【8.2】	罫貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①還元・普通 ②灰黄色 ③小礫	口縁部～体上 部20%	吉井型羽 釜
第65図 PL. 36	S I -13 No.21	11	羽釜	【22.8】	—	【9.5】	罫貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①酸化・普通 ②褐灰色 ③小礫	口縁部～体上 部15%	吉井型羽 釜
第65図 PL. 36	S I -13 1区フク土	12	かわら け	【9.4】	4.2	【3.3】	ロクロ整形 外：底部回転糸切り	①普通 ②明黄褐色 ③白色粒	口縁部～体部 20% 底部 50%	外内面に 漆付着
第65図 PL. 36	S I -13 No.9	13	灰釉 皿?	—	【6.2】	【2.6】	ロクロ整形 灰釉 内：釉葉厚く不明瞭 外：三日月高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③黒色粒、白色粒	体下部～高台 部30%	

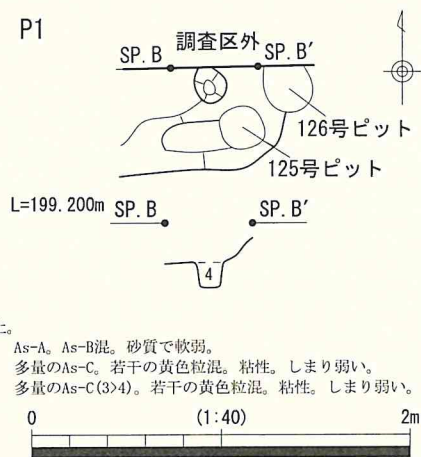
図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第65図 PL. 36	S I -13 No.22	14	紡錘車	外径 4.9	内径 3.5	1.5	57.0	滑石	黒色 側面に縦方向の擦痕あり 孔径0.7cm	完形	
第65図 PL. 36	S I -13 No.1	15	丸石	5.0	3.9	3.8	100.6	—	灰色 卵形の丸石、使途不明	完形	

14号竪穴住居跡(第66～68図 PL. 36)

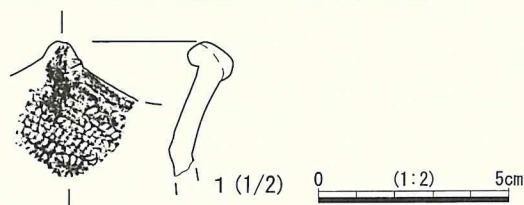
規模 東西3.1m、南北0.84mを測る。方位 N -6.2° -W 重複 125・126号ピットと重複する。
125・126号ピット→14号竪穴住居と新しい。壁 残存壁高は47cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。
床面 黄白色土の混じる褐色土である。柱穴 1基の柱穴を検出した。P1は径19×17cm、深さ19cm
遺物出土状態 縄文土器深鉢が出土した。14号竪穴住居に伴わない、流れ込みの遺物と考えられる。



第66図 14号竪穴住居跡 平面図・断面図



第67図 14号竪穴住居跡ピット 平面図・断面図



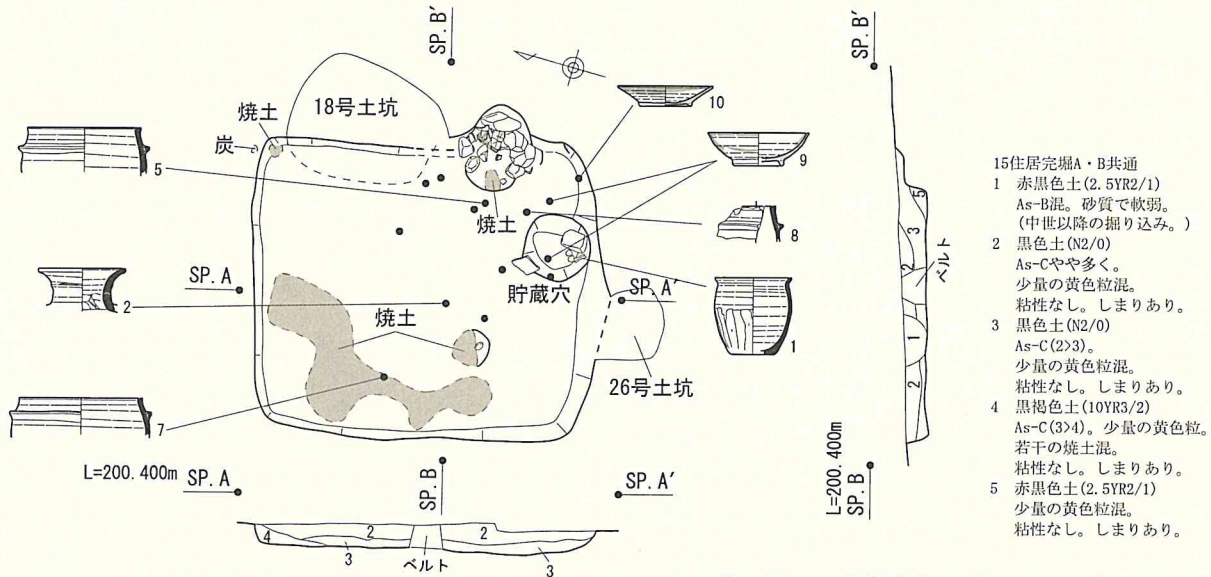
第68図 14号竪穴住居跡 出土遺物図

第19表 14号竪穴住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第68図 PL. 36	S I -14 掘方	1	縄文 深鉢	—	—	【3.6】	車轆R L 縄文 波状口縁の先端に小突起を持つ	①良好 ②褐色 ③砂粒	波状口縁部 破片	縄文前期 諸磯式

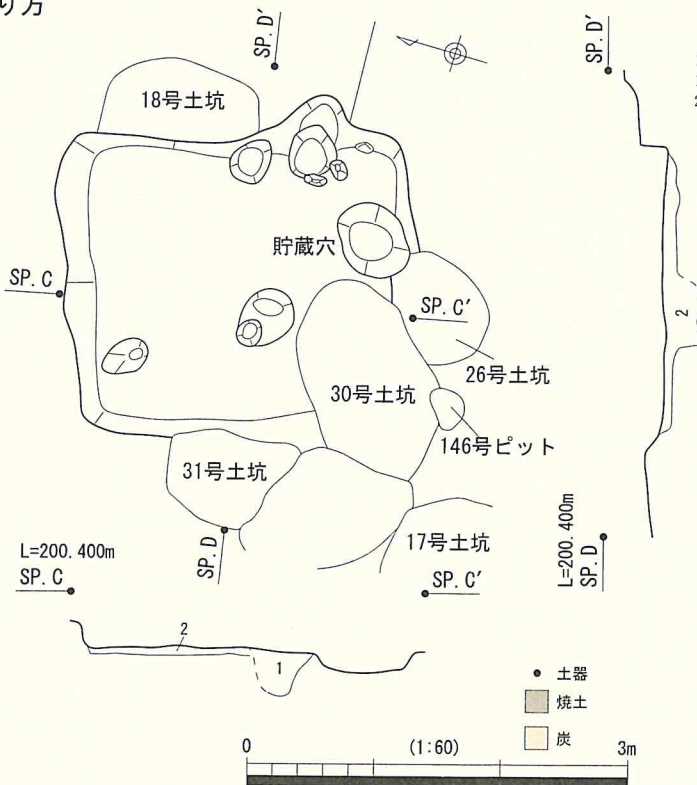
15号竪穴住居跡(第69~77図 PL.29・36)

規模 東西2.4m、南北2.8mを測り、方形を呈す。 **方位** N-74.0° -E **重複** 18・26・30・31号土坑と重複する。また、中世以降の掘り込みを確認している。 **壁** 残存壁高は23cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。 **床面** 黄白色土の混じる褐色土である。北西から焼土を検出した。 **柱穴** 確認できず。 **貯蔵穴** 南東に径63cm×50cm、深さ26cmを測り、楕円形を呈す。 **カマド** 東に位置する。焚き口幅47cm、奥行き65cmを測り、袖石A～Dの4石使用。壁外に造り出される。火床面に焼土を検出した。 **遺物出土状態** 須恵器小型甕・壺・羽釜、灰釉陶器碗・皿が出土。

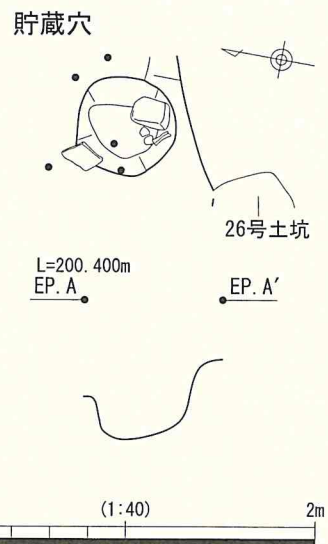


第69図 15号竪穴住居跡 平面図・断面図

掘り方

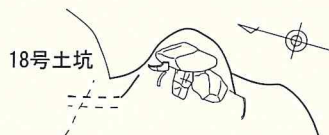


第70図 15号竪穴住居跡掘り方 平面図・断面図



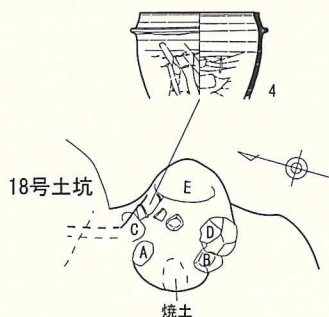
第71図 15号竪穴住居跡貯蔵穴 平面図・断面図

1 面



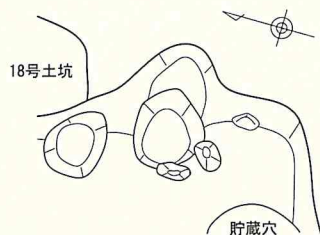
第72図 15号竪穴住居跡 1 面 平面図

3 面



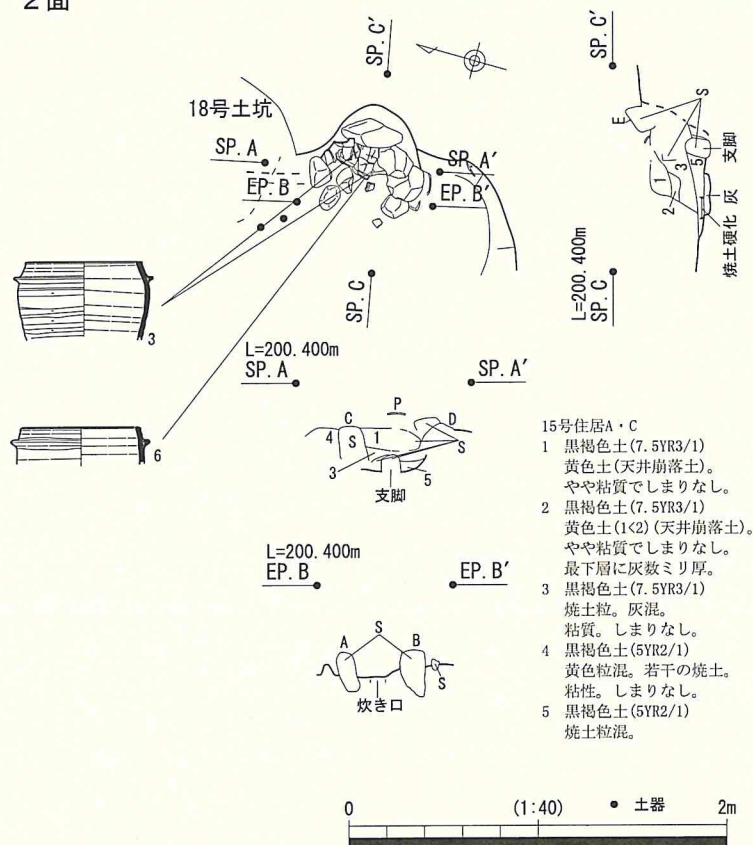
第74図 15号竪穴住居跡 3 面 平面図

4 面

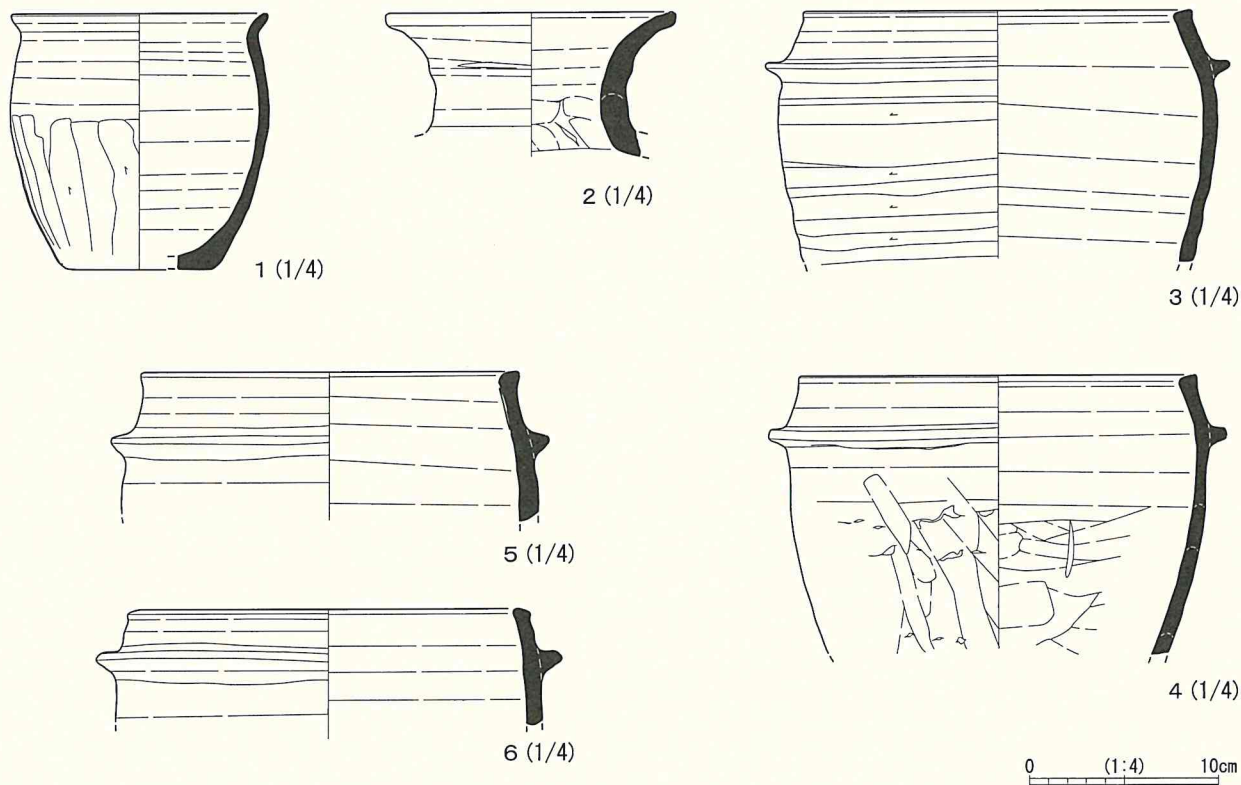


第75図 15号竪穴住居跡 4 面 平面図

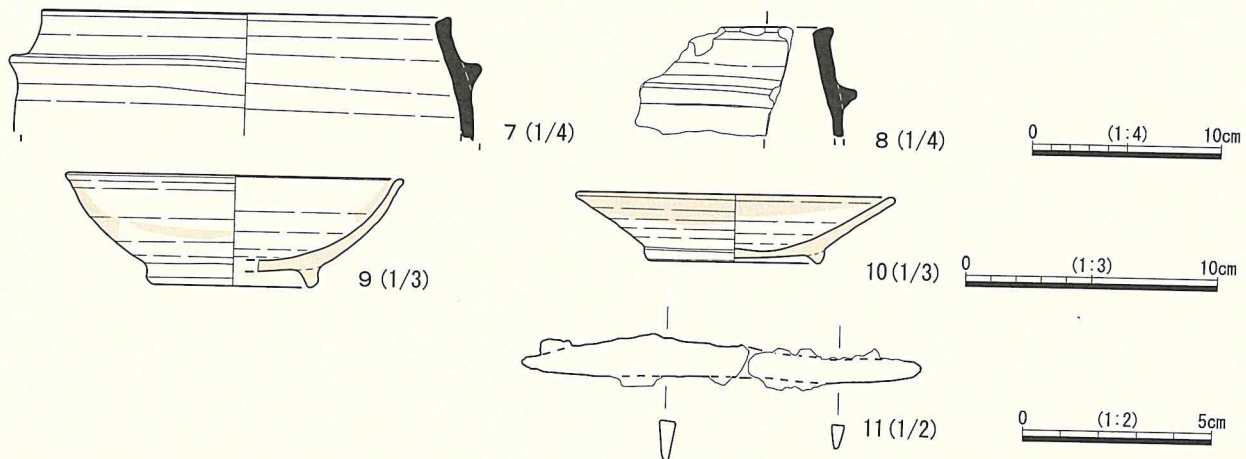
2 面



第73図 15号竪穴住居跡 2 面 平面図・断面図



第76図 15号竪穴住居跡 出土遺物図(1)



第20表 15号竪穴住居跡 出土遺物観察表

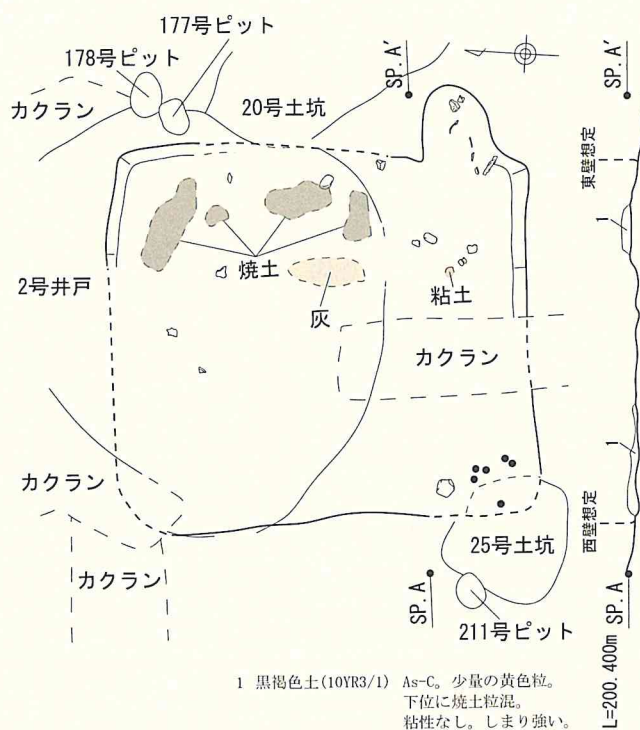
第77図 15号竪穴住居 出土遺物図(2)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第76図 PL. 36	S I-15 No. 8、 2区フク土	1	須恵器 小甕	【13.3】	【7.8】	17.6	ロクロ整形 外：体中部～体下部ヘラ削り	①酸化・普通 ②黒褐色 ③白色粒、小礫	口縁部～体下 部40% 底部20%	土師器ロ クロ甕か
第76図 PL. 36	S I-15 No. 10	2	須恵器 壺	【14.9】	—	【7.6】	ロクロ整形 内：頸部ヘラナデ	①還元・良好 ②浅黄色 ③黒色粒、小礫	口縁部～頸部 20%	
第76図 PL. 36	S I-15 カマド No. 18、21	3	羽釜	【20.3】	—	【13.1】	鋳貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①還元・普通 ②浅黄色 ③雲母、小礫	口縁部～体中 部30%	吉井型羽 釜
第76図 PL. 36	S I-15 カマド No. 25	4	羽釜	【19.8】	—	【14.4】	鋳貼付後ロクロ整形 体中部ヘラナデ 口唇部面取り	①還元・普通 ②灰黄色 ③白色粒、小礫	口縁部～体中 部20%	吉井型羽 釜
第76図 PL. 36	S I-15 No. 5	5	羽釜	【19.6】	—	【7.8】	鋳貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①酸化・やや不良 ②橙色 ③白色粒、小礫	口縁部～体上 部25%	吉井型羽 釜
第76図 PL. 36	S I-15 カマド No. 23	6	羽釜	【20.3】	—	【6.8】	鋳貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①酸化・やや不良 ②橙色 ③白色粒、雲母、小礫	口縁部～体上 部20%	吉井型羽 釜
第77図 PL. 36	S I-15 No. 11	7	羽釜	【21.3】	—	【6.5】	鋳貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①還元・普通 ②黒褐色 ③小礫	口縁部～体上 部20%	吉井型羽 釜
第77図 PL. 36	S I-15 No. 3	8	羽釜	—	—	【5.8】	鋳貼付後ロクロ整形 口唇部面取り	①還元・普通 ②灰白色 ③白色粒、石英	口縁部破片	吉井型羽 釜
第77図 PL. 36	S I-15 No. 2、7	9	灰釉 碗	【13.1】	【6.2】	4.4	ロクロ整形 灰釉掛け 外：三日月高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③黒色粒	口縁部5% 体部～高台部 30%	
第77図 PL. 36	S I-15 No. 1	10	灰釉 皿	【22.4】	【6.7】	2.7	ロクロ整形 灰釉掛け 外：三日月高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒、黒色粒	30%	

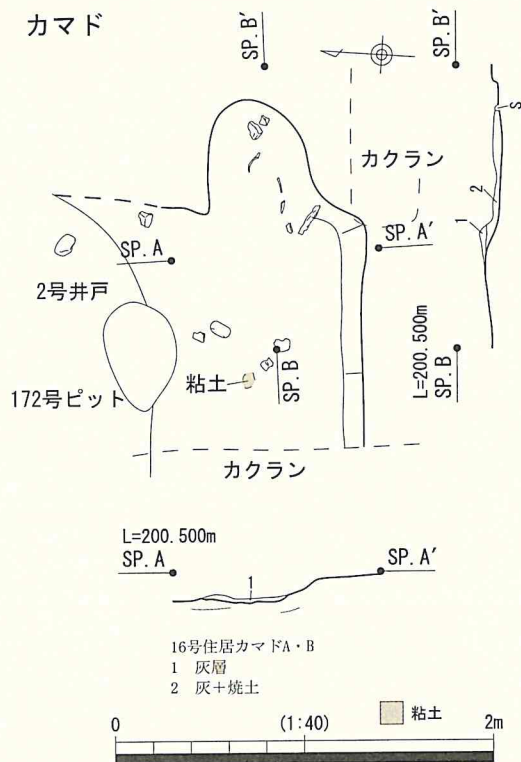
図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第77図 PL. 36	S I-15 No. 16	11	刀子	10.1	0.7～ 1.4	0.4～ 0.6	11.1	鉄	断面逆三角形	—	

16号竪穴住居跡(第78～81図 PL. 36)

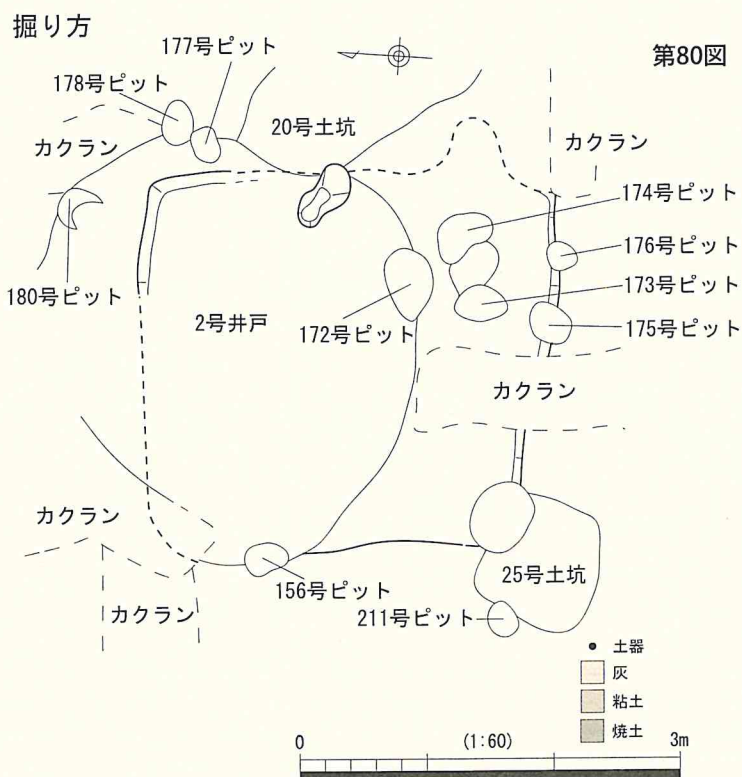
規模 東西3.1m、南北3.2mを測り、正方形を呈す。 **方位** N-85.9° -E **重複** 20・25号土坑、156・172～176号ピット、2号井戸と重複する。172～176号ピット、2号井戸→16号竪穴住居→20・25号土坑、と新しい。 **壁** 残存壁高は12cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。 **床面** 黄白色土の混じる褐色土である。北東から焼土・灰を、カマドの西から粘土を官出した。 **柱穴** 確認できず。 **カマド** 東に位置する。焚き口幅60cm、奥行き60cmを測る。壁外に造り出される。火床面に焼土を検出した。 **遺物出土状態** 須恵器坏片、灰釉陶器碗片が出土。



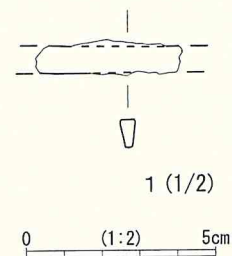
第78図 16号竪穴住居跡 平面図・断面図



第80図 16号竪穴住居跡カマド 平面図・断面図



第79図 16号竪穴住居跡掘り方 平面図



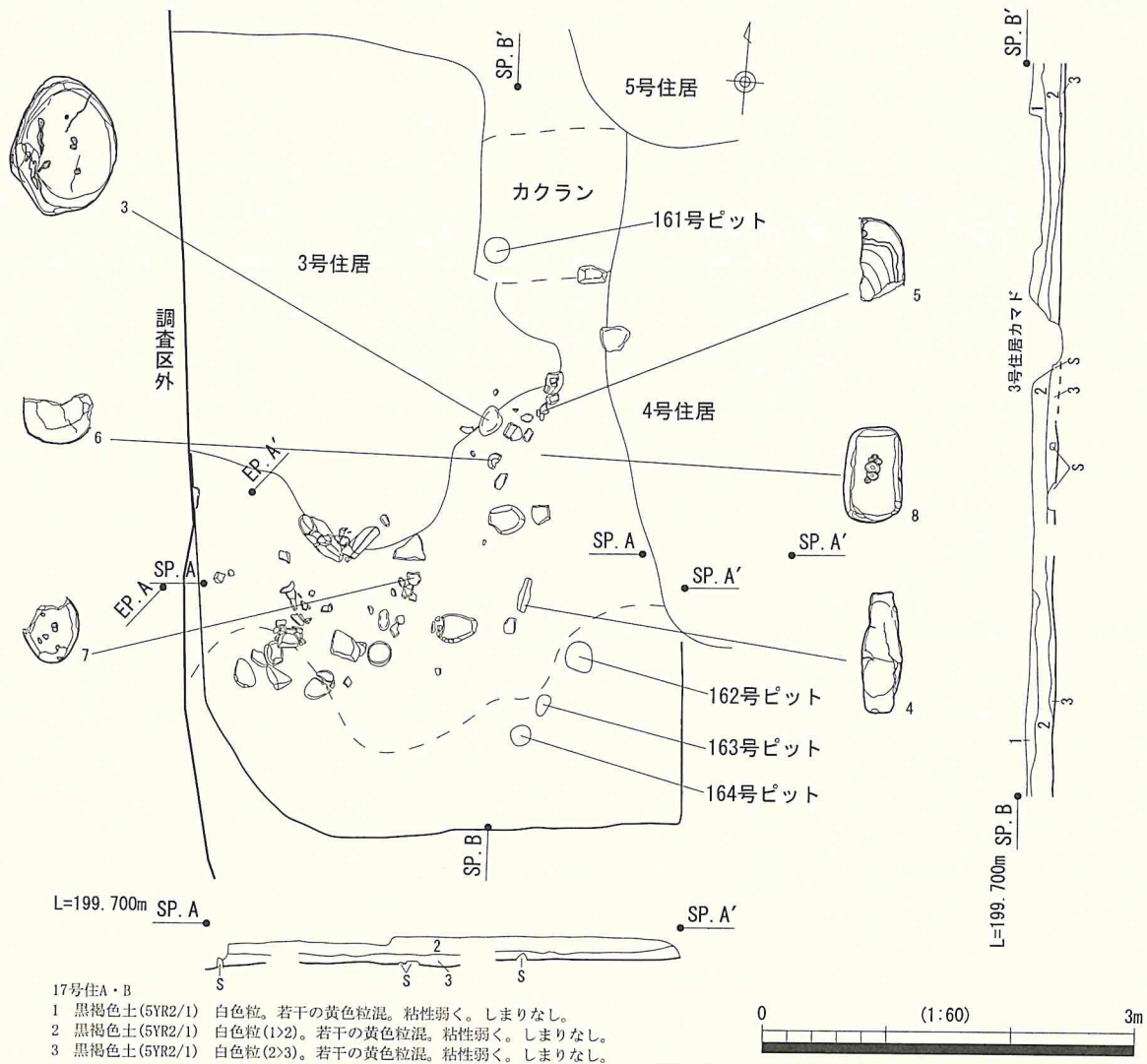
第81図 16号竪穴住居跡 出土遺物図

第21表 16号竪穴住居跡 出土遺物観察表

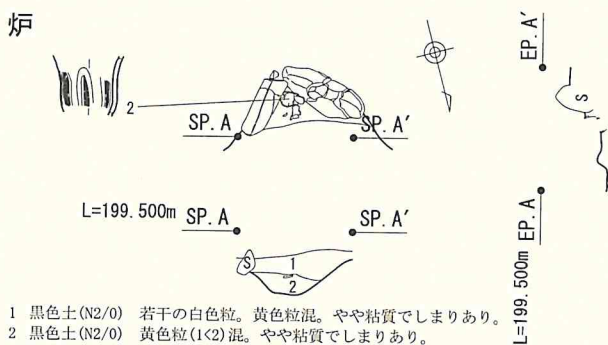
図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第81図 PL. 36	S I - 16 フク土	1	鉄製品	3.9	0.7	0.4	3.8	鉄	刃子か、断面逆台形	-	

17号竪穴住居跡(第82~85図 PL. 29・30・37)

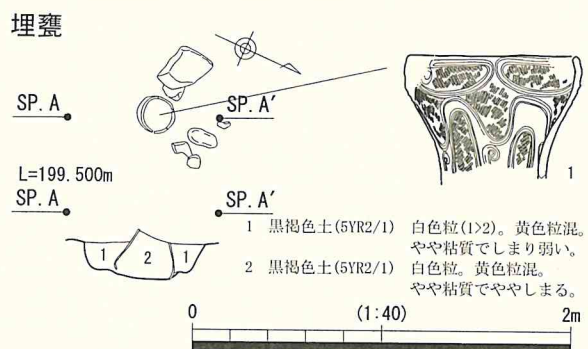
規模 東西3.86m、南北5.9mを測り、長方形を呈す。**方位** N-4.07° -W **重複** 3・4・5号竪穴住居、3号土坑、161~164号ピットと重複する。17号竪穴住居→4・5号竪穴住居、3号土坑→3号竪穴住居、161~164号ピットと新しい。**壁** 残存壁高は23cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。**床面** 黄白色土の混じる褐色土である。**柱穴** 確認できず。**埋嚢** 炉の南に、遺物No. 1の口縁部を下にした状態で検出した。深鉢胴部下位は、ほぼ水平に切断。**炉** 西に位置する。炉の北半分は、3号土坑によって壊されている。長辺54cm、短辺46cmを測る。**遺物出土状態** 縄文土器深鉢、多孔石、凹石、石皿が出土した。



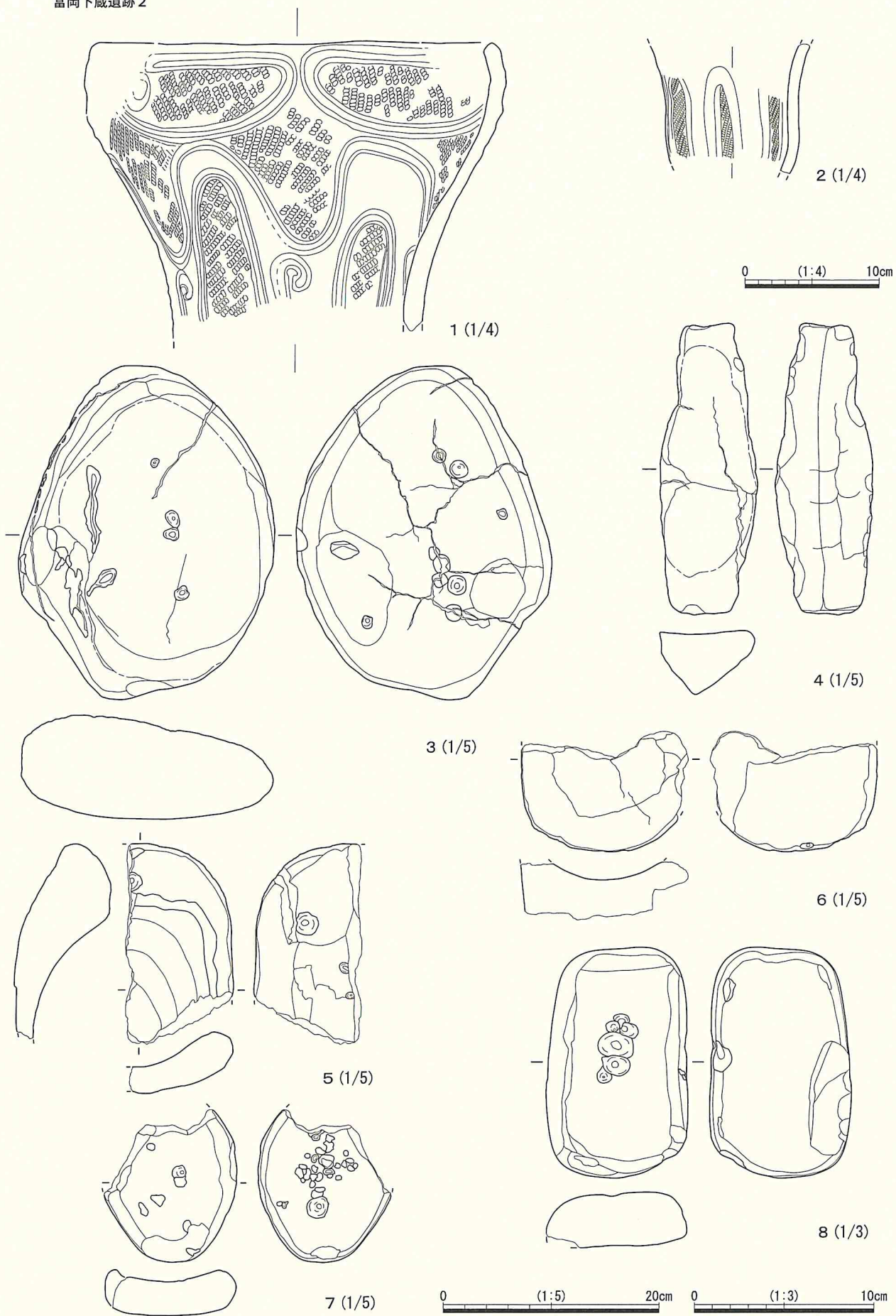
第82図 17号竪穴住居跡 平面図・断面図



第83図 17号竪穴住居跡炉 平面図・断面図



第84図 17号竪穴住居跡埋嚢 平面図・断面図



第85図 17号竪穴住居跡 出土遺物図

第22表 17号竪穴住居跡 出土遺物観察表

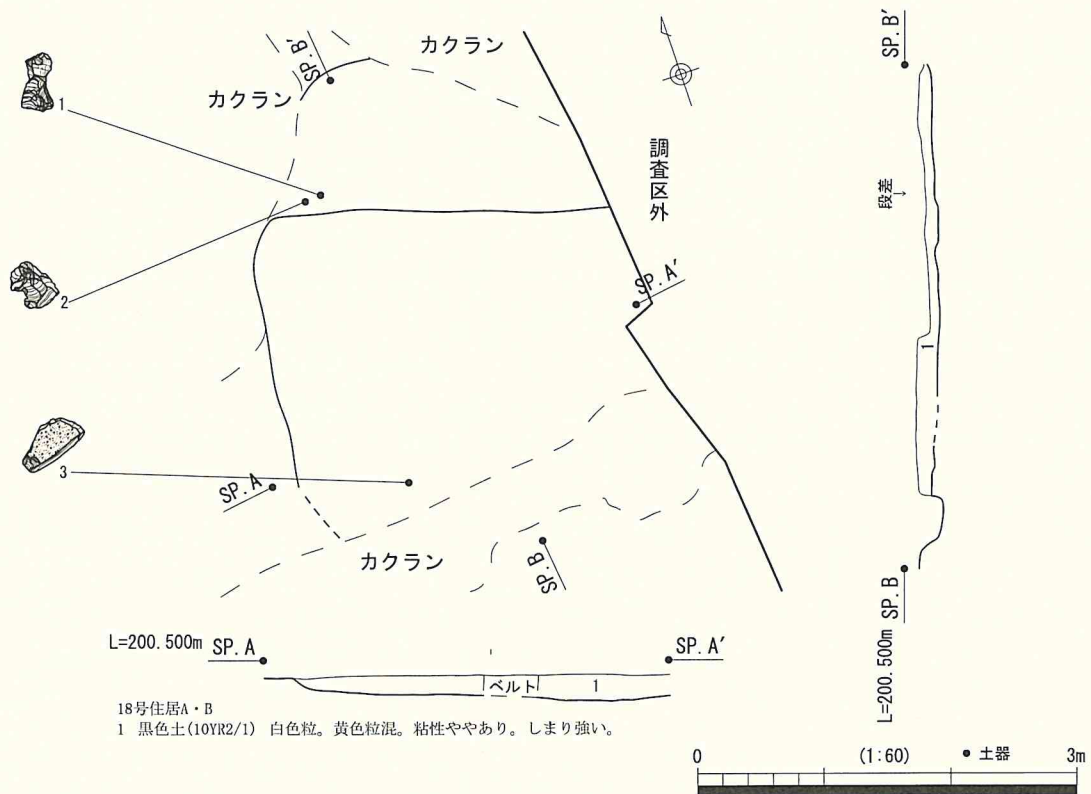
図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第85図 PL. 37	S I - 17	1	縄文 深鉢	【29.0】	—	【22.2】	単節RL縄文施文後、棒状工具による 沈線及び磨消縄文を施す	①普通 ②にぶい黄橙色 黒斑 ③白色粒、石英、小礫	口縁部～体中 部75%	
第85図 PL. 37	S I - 17 炉No. 5	2	縄文 深鉢	—	—	【9.5】	単節RL縄文を施文後、棒状工具に よる沈線及び磨消縄文を施す	①普通 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、雲母、小礫	口縁部及び底 部欠損	縄文中期加 曾利EⅢ式

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第85図 PL. 37	S I - 17 No. 53	3	多孔石	31.1	23.8	9.4	9,060	—	黄橙色 被熱していると思われる、一部は変色する	完形	
第85図 PL. 37	S I - 17 No. 43	4	石	27.1	9.1	5.7	1,648	—	にぶい橙色 被熱していると思われる	完形	
第85図 PL. 37	S I - 17 No. 1	5	石皿	【18.7】	【9.9】	端部7.6 中央部1.5	【1795.4】	—	灰色	25%	
第85図 PL. 37	S I - 17 No. 47	6	石皿	【11.3】	【15.5】	端部 【4.8】 中央部 【3.4】	【50.3】	—	にぶい橙色	50%	
第85図 PL. 37	S I - 17 No. 38	7	石皿	【14.4】	【12.3】	3.6	【781.5】	—	黒褐色	70%	
第85図 PL. 37	S I - 17 No. 55	8	凹石	12.9	7.9	3.0	【516.2】	—	黄灰色	ほぼ完形	

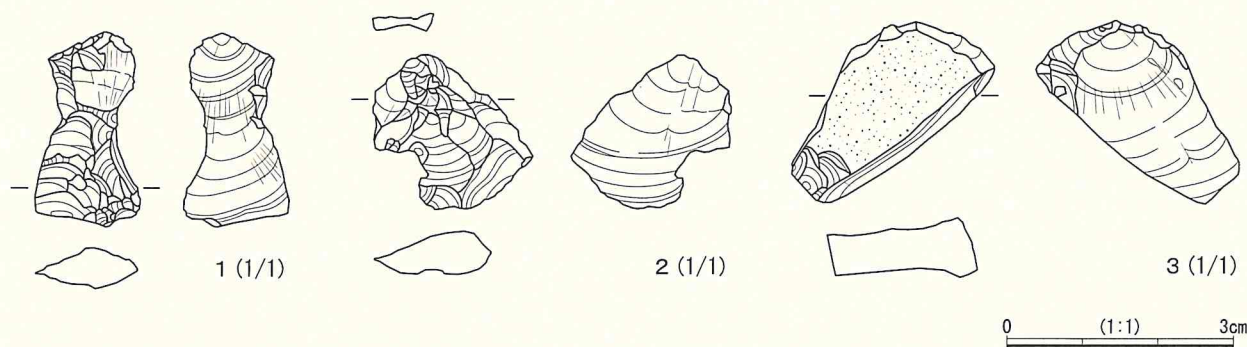
18号竪穴住居跡(第86・87図 PL. 37)

規模 東西3.0m、南北3.8mを測る。方位 N-18.6°-E 重複 なし。壁 残存壁高は20cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。床面 黄白色土の混じる褐色土である。柱穴 確認できず。

炉 確認できず。遺物出土状態 黒曜石剥片が出土。住居の大半を攪乱で壊されており、剥片以外の遺物が出土していない。



第86図 18号竪穴住居跡 平面図・断面図



第87図 18号竪穴住居跡 出土遺物図

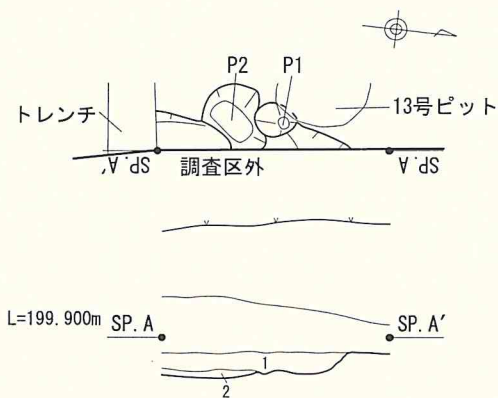
第23表 18号竪穴住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第87図 Pl. 37	S I-18 No. 1	13	剥片	2.5	1.4	0.5	1.1	黒曜石	—	—	
第87図 Pl. 37	S I-18 No. 2	14	剥片	2.1	2.1	0.6	1.4	黒曜石	—	—	
第87図 Pl. 37	S I-18 No. 3	15	剥片	2.5	2.7	0.8	4.5	黒曜石	—	—	

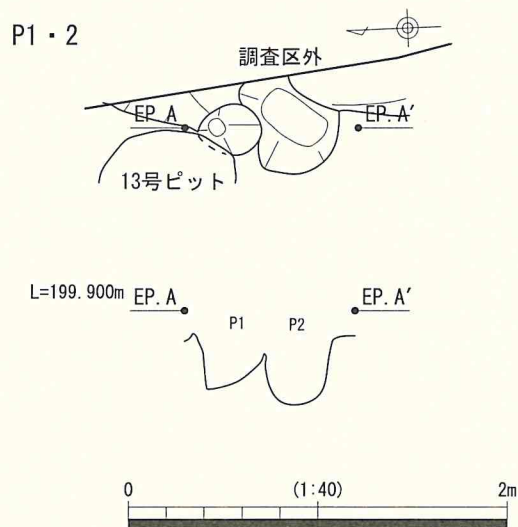
19 号竪穴住居跡 (第88・89図 PL. 30)

規模 東西0.3m、南北1.5mを測る。 **方位** N-93.5° -E **重複** 13号ピットと重複する。13号ピット→ 19号竪穴住居と新しい。 **壁** 残存壁高は20cmを測り、垂直に近く掘り込まれる。

床面 全体が硬化し、黄白色土の混じる褐色土である。 **柱穴** 2基の柱穴を検出した。P1は径32×27cm、深さ32cm、P2は径109×43cm、深さ35cm **遺物出土状態** 土師器片が出土。



第88図 19号竪穴住居跡 平面図・断面図



第89図 19号竪穴住居跡ピット 平面図・断面図

- 1 黒色土(10YR2/1) As-C。若干の黄色粒混。粘質でないが、しまりあり。
2 黒色土(10YR2/1) 黄色粒。黄色土塊(φ0.5~1.0cm)混。粘性ややあり。しまり強い。

(2) 土坑

土坑跡は、36基検出した。3号土坑は、土師器甕を出土している。20号土坑からは、須恵器埴、灰釉陶器皿、釘が出土している。これら遺物は北側に集中して出土しており、20号土坑は墓坑と考えられる。(第90～94図 PL. 30・38)

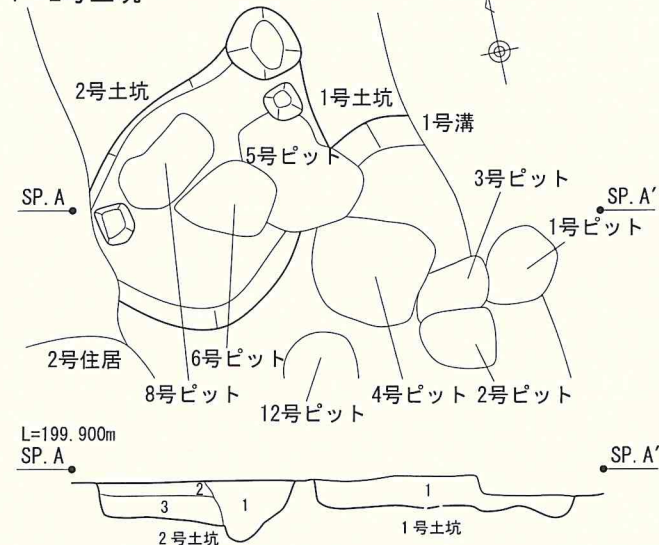
第24表 土坑跡計測一覧表(1)

SK 1	確認長 (m)	—	幅 (m)	—	深さ (m)	0.18	重複関係	SP3～5
	所見							
SK 2	確認長 (m)	1.77	幅 (m)	1.10	深さ (m)	0.31	重複関係	SP3・6・8
	所見							
SK 3	確認長 (m)	1.4	幅 (m)	—	深さ (m)	0.65	重複関係	SI3
	所見	土師器甕出土。						
SK 4	確認長 (m)	1.74	幅 (m)	1.58	深さ (m)	0.50	重複関係	SP13・33・SD1
	所見	黒色土器坏出土。						
SK 5	確認長 (m)	1.24	幅 (m)	1.02	深さ (m)	0.10	重複関係	SK6・SP49・50
	所見							
SK 6	確認長 (m)	0.86	幅 (m)	0.82	深さ (m)	0.08	重複関係	SK5・SP83・84
	所見							
SK 7	確認長 (m)	0.41	幅 (m)	(0.28)	深さ (m)	0.27	重複関係	SP16・19・62～64・66
	所見							
SK 8	欠番							
SK 9	確認長 (m)	2.14	幅 (m)	(1.20)	深さ (m)	0.48	重複関係	SP27・28・73・74
	所見							
SK10	確認長 (m)	(1.32)	幅 (m)	0.82	深さ (m)	0.10	重複関係	SK11
	所見							
SK11	確認長 (m)	(1.35)	幅 (m)	0.97	深さ (m)	0.28	重複関係	SK10・12
	所見							
SK12	確認長 (m)	(0.66)	幅 (m)	0.78	深さ (m)	0.16	重複関係	SK11・13
	所見							
SK13	確認長 (m)	(2.24)	幅 (m)	1.26	深さ (m)	0.46	重複関係	SI13・SK12・SP80
	所見	羽釜出土。						
SK14	確認長 (m)	(2.99)	幅 (m)	2.08	深さ (m)	0.40	重複関係	
	所見							
SK15	確認長 (m)	0.84	幅 (m)	0.84	深さ (m)	0.13	重複関係	
	所見							
SK16	確認長 (m)	0.68	幅 (m)	0.68	深さ (m)	0.22	重複関係	SP34
	所見							
SK17	確認長 (m)	1.32	幅 (m)	1.22	深さ (m)	0.38	重複関係	
	所見							
SK18	確認長 (m)	1.27	幅 (m)	0.66	深さ (m)	0.20	重複関係	SI15
	所見							
SK19	確認長 (m)	0.50	幅 (m)	0.45	深さ (m)	0.08	重複関係	
	所見							
SK20	確認長 (m)	2.13	幅 (m)	1.00	深さ (m)	0.32	重複関係	SI16・SP214・SE2
	所見	土坑墓。須恵器埴、灰釉陶器皿、鉄製釘出土。						
SK21	確認長 (m)	0.94	幅 (m)	(0.80)	深さ (m)	0.10	重複関係	SK22
	所見							
SK22	確認長 (m)	1.00	幅 (m)	0.90	深さ (m)	0.26	重複関係	SK21
	所見							
SK23	確認長 (m)	0.76	幅 (m)	0.68	深さ (m)	0.20	重複関係	SP165
	所見							
SK24	欠番							
SK25	確認長 (m)	0.98	幅 (m)	0.91	深さ (m)	0.17	重複関係	SK32・SP165
	所見							
SK26	確認長 (m)	0.85	幅 (m)	0.72	深さ (m)	0.18	重複関係	SI15・SK30
	所見							
SK27	確認長 (m)	0.42	幅 (m)	0.32	深さ (m)	0.16	重複関係	
	所見							

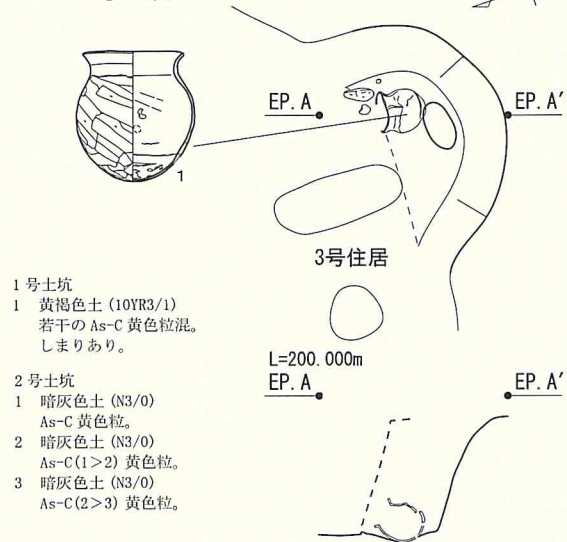
第25表 土坑跡計測一覧表(2)

SK28	確認長 (m)	1.05	幅 (m)	(0.6)	深さ (m)	0.15	重複関係	
	所見							
SK29	確認長 (m)	0.9	幅 (m)	0.63	深さ (m)	0.07	重複関係	
	所見							
SK30	確認長 (m)	(1.46)	幅 (m)	1.04	深さ (m)	0.27	重複関係	SK26・SP146
	所見							
SK31	確認長 (m)	1.08	幅 (m)	0.82	深さ (m)	0.30	重複関係	SI15
	所見							
SK32	確認長 (m)	0.56	幅 (m)	0.46	深さ (m)	0.14	重複関係	SI16・SK25
	所見							
SK33	欠番							
SK34	確認長 (m)	0.64	幅 (m)	0.48	深さ (m)	0.29	重複関係	
	所見							
SK35	確認長 (m)	0.50	幅 (m)	0.34	深さ (m)	0.20	重複関係	
	所見							
SK36	確認長 (m)	2.70	幅 (m)	(0.44)	深さ (m)	0.72	重複関係	SP70
	所見							

1・2号土坑



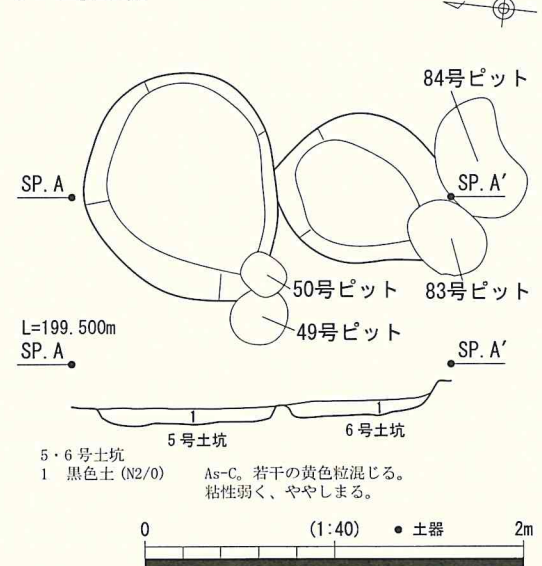
3号土坑



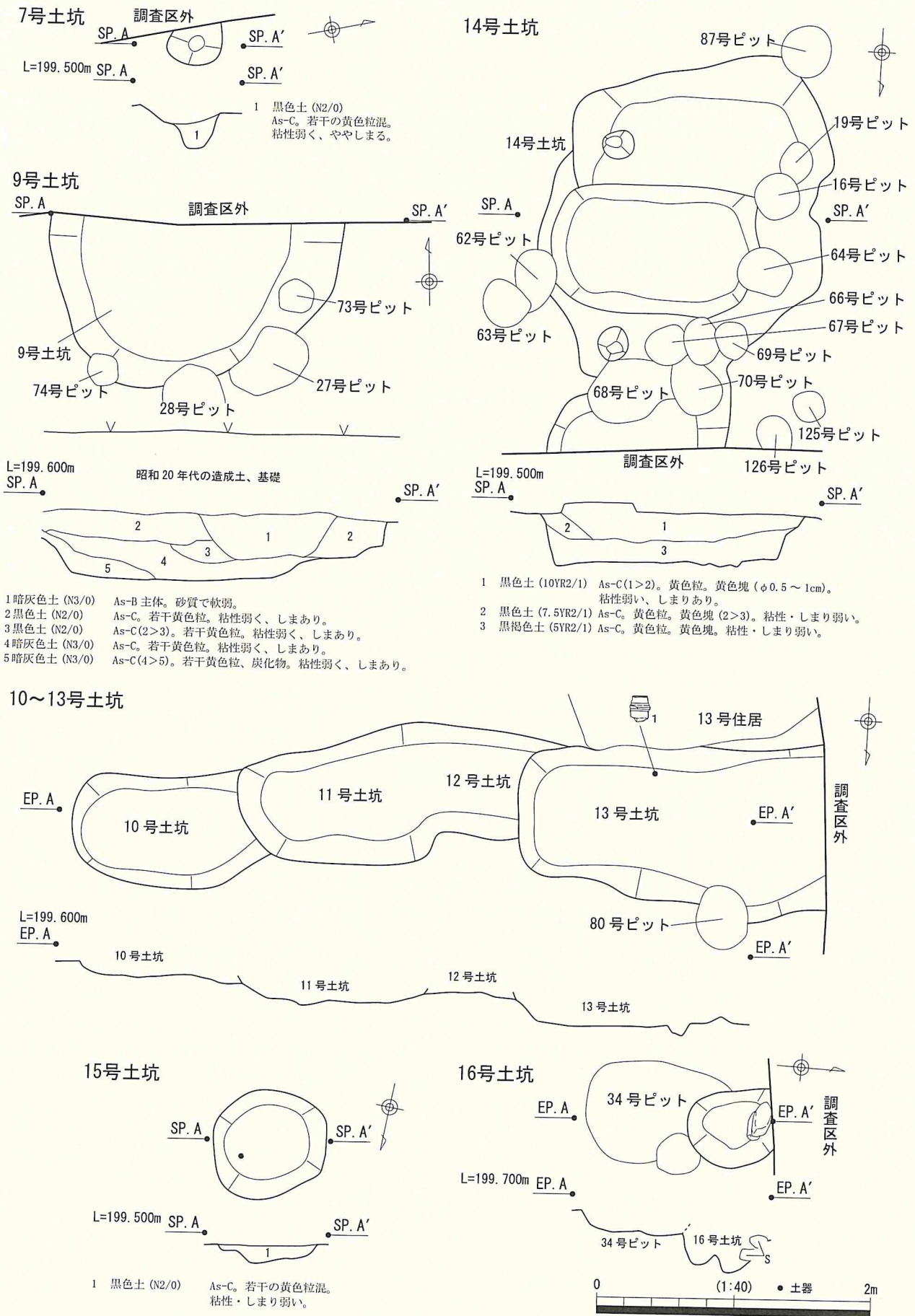
4号土坑



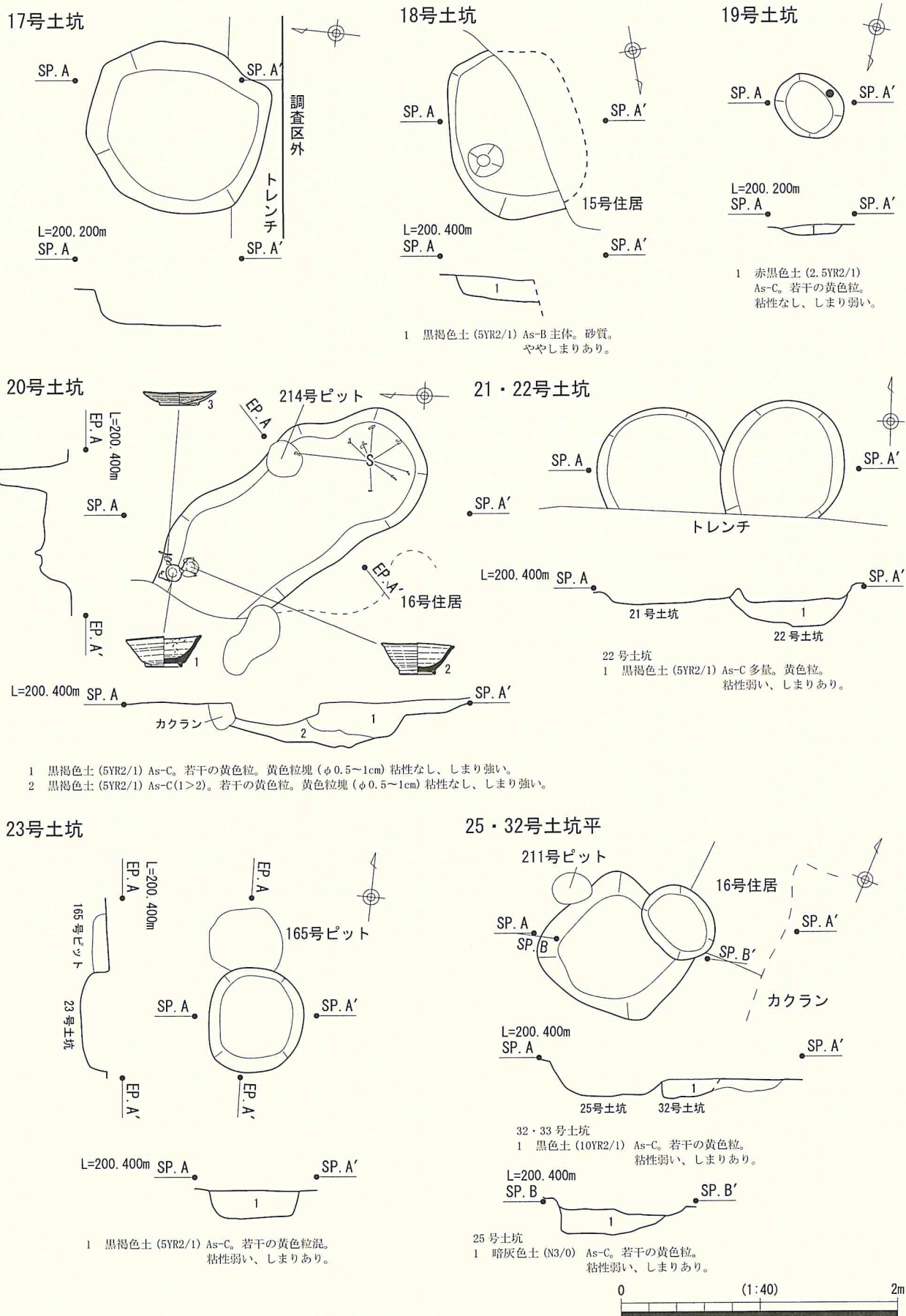
5・6号土坑



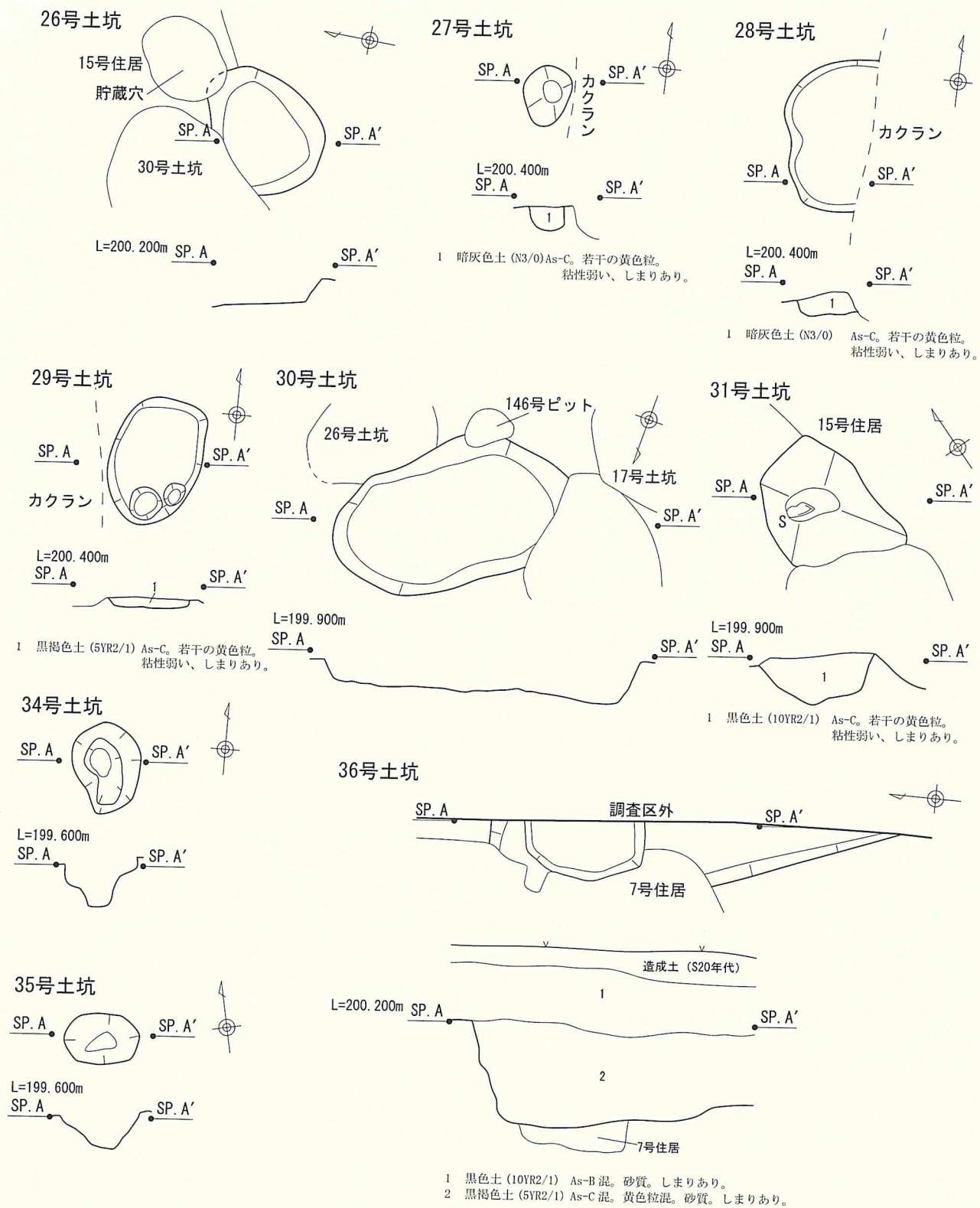
第90図 1～6号土坑跡 平面図・断面図



第91図 7・9～14号土坑跡 平面図・断面図

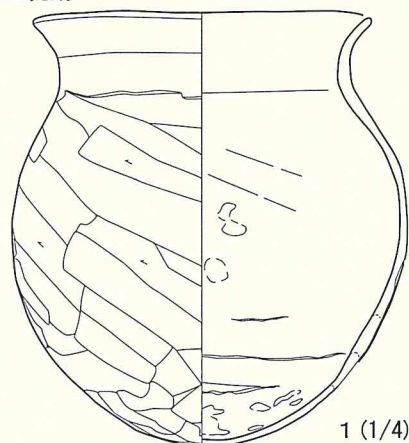


第92図 17～23・25・32号土坑跡 平面図・断面図

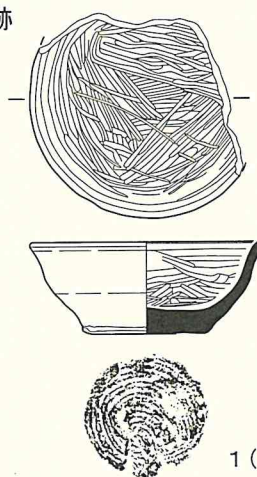


第93図 26～31・34～36号土坑跡 平面図・断面図

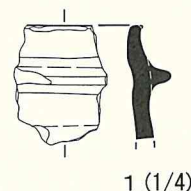
3号土坑跡



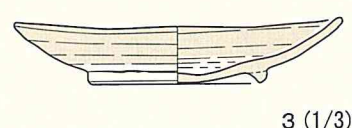
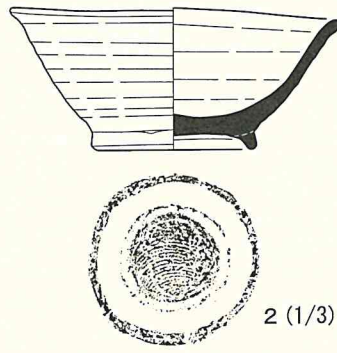
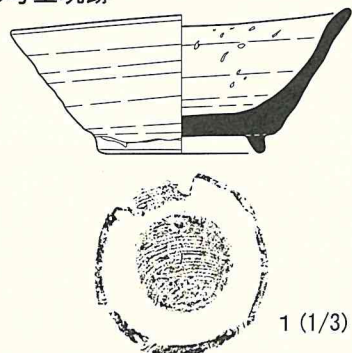
4号土坑跡



13号土坑跡



20号土坑跡



0 (1:4) 10cm

0 (1:3) 10cm

第94図 3・4・13・20号土坑跡 出土遺物図

第26表 3号土坑跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第93図 PL. 38	S K-3 No. 1	1	土師器 甕	17.6	丸底	23.0	口縁部ヨコナデ 内：ナデ、ヘラナ 外：体部～底部ヘラ削り	①普通 ②暗褐色 ③小礫	ほぼ完形	内面に剥 離痕あり

第27表 4号土坑跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第93図 PL. 38	S K-4 No. 6	1	黒色 土器	[9.5]	4.5	3.7	内：ヘラミガキ 底部回転系切り 外：口縁部～体上部ヨコナデ (ミガ キに近い)・体下部ナデ	①良好 (燻し焼成) ②黒色 ③白色粒、小礫	口縁部～体部 45%底部完存	外内面黒 色処理

第28表 13号土坑跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第93図 PL. 38	S K-13 No. 1	1	羽釜	—	—	[6.3]	鐳貼付後ロクロ整形	①還元・やや不良 ②にぶい黄橙色 ③小礫	口縁部破片	

第29表 20号土坑跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第93図 PL. 38	S K-20 No. 5	1	須恵器 碗	13.3	6.0	5.8	ロクロ整形 外：底部回転系切り後高台貼付	①還元・普通 ②灰黄色 ③石英、小礫	ほぼ完形	
第93図 PL. 38	S K-20 No. 1	2	須恵器 碗	5.9	6.1	4.4	ロクロ整形 外：底部回転系切り後高台貼付	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒、小礫	ほぼ完形	
第93図 PL. 38	S K-20 No. 3	3	灰釉 皿	12.9	6.7	2.5	ロクロ整形 灰釉掛け掛け 外：三角高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③黒色粒、白色粒	75%	

(3) ピット

ピット跡は、249基検出した。157号ピットから黒曜石の剥片、189号ピットからチャートの剥片が出土している。明確な掘立柱建物は確認出来なかったが、16・17・26・247号ピットは掘立柱建物の柱穴と考えられる。また、多くのピットからは遺物が出土しなかったため時期の特定は出来なかった。

以下、表30～35で一覧する。(第95～106図 PL. 30・38)

第30表 ピット跡計測一覧表(1)

番号	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
SP 1	楕円形	44.0	37.0	48.0	SP3と重複する。
SP 2	台形	45.0	37.0	10.0	SP3と重複する。
SP 3	長方形	40.0	(24.0)	10.0	SK1・SP1・4と重複する。
SP 4	四角形	60.0	55.0	48.0	SK1・SP3・5と重複する。
SP 5	不定形	68.0	54.0	56.0	SK1・2・SP4・6と重複する。
SP 6	楕円形	50.0	40.0	50.0	
SP 7	欠番	—	—	—	
SP 8	楕円形	55.0	31.0	66.0	SK2と重複する。
SP 9	欠番	—	—	—	
SP10	楕円形	28.0	23.0	23.0	
SP11	円形	35.0	29.0	38.0	
SP12	円形	44.0	40.0	39.0	
SP13	楕円形?	36.0	(18.0)	42.0	SK4・SP14と重複する。
SP14	楕円形	76.0	(60.0)	40.0	SP13と重複する。
SP15	円形	29.0	26.0	10.0	
SP16	円形	44.0	42.0	18.0	
SP17	楕円形	62.0	50.0	45.0	SI11と重複する。
SP18	円形	47.0	46.0	40.0	SI7・SD1と重複する。
SP19	楕円形	30.0	24.0	37.0	SK14・SP16と重複する。
SP20	欠番	—	—	—	
SP21	欠番	—	—	—	
SP22	楕円形	44.0	37.0	53.0	
SP23	楕円形?	26.0	18.0	34.0	
SP24	楕円形	34.0	25.0	30.0	
SP25	楕円形	28.0	23.0	28.0	
SP26	円形	36.0	35.0	38.0	
SP27	不定形	60.0	46.0	49.0	SK9と重複する。
SP28	楕円形	(50.0)	45.0	49.0	SK9と重複する。
SP29	円形	30.0	28.0	28.0	SD1と重複する。
SP30	楕円形	32.0	26.0	18.0	SD1と重複する。
SP31	不定形	40.0	20.0	55.0	SD1と重複する。
SP32	楕円形	30.0	20.0	15.0	SK4と重複する。
SP33	楕円形	38.0	32.0	54.0	SK4と重複する。
SP34	楕円形	106.0	76.0	14.0	SK16と重複する。
SP35	楕円形	74.0	62.0	60.0	
SP36	円形	82.0	75.0	35.0	
SP37	楕円形	44.0	35.0	12.0	SD2と重複する。
SP38	円形	38.0	38.0	34.0	SP115・116と重複する。
SP39	楕円形	75.0	40.0	42.0	SP114・115・229と重複する。
SP40	円形	20.0	18.0	28.0	
SP41	楕円形	48.0	25.0	67.0	
SP42	円形?	(60.0)	(58.0)	46.0	SP43・108・SD2と重複する。
SP43	楕円形?	55.0	—	42.0	SP42・108・SD2と重複する。
SP44	円形	30.0	26.0	30.0	
SP45	円形	30.0	26.0	22.0	
SP46	楕円形?	55.0	(30.0)	32.0	SP47・121と重複する。
SP47	円形?	46.0	—	13.0	SP46・117・121と重複する。
SP48	円形	26.0	24.0	18.0	

第31表 ピット跡計測一覧表(2)

番号	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
SP49	円形	32.0	30.0	16.0	SK5・SP50と重複する。
SP50	四角形	25.0	20.0	34.0	SK5・SP49と重複する。
SP51	楕円形	60.0	52.0	14.0	SP52と重複する。
SP52	楕円形	42.0	36.0	26.0	SP51と重複する。
SP53	円形?	36.0	(22.0)	18.0	
SP54	楕円形	53.0	30.0	44.0	
SP55	楕円形	39.0	30.0	34.0	SP56と重複する。
SP56	楕円形	44.0	35.0	40.0	SP55・57と重複する。
SP57	楕円形	40.0	34.0	18.0	SP56・133と重複する。
SP58	円形	30.0	28.0	12.0	
SP59	円形	34.0	30.0	26.0	
SP60	円形	26.0	26.0	24.0	
SP61	円形	22.0	20.0	22.0	
SP62	楕円形	45.0	30.0	20.0	SK4・SP63と重複する。
SP63	台形	35.0	35.0	20.0	SP62と重複する。
SP64	楕円形	38.0	34.0	34.0	SK14と重複する。
SP65	欠番	—	—	—	
SP66	楕円形	35.0	(22.0)	23.0	SK14・SP67・69・70と重複する。
SP67	円形	30.0	30.0	12.0	SK14・SP66・68・70と重複する。
SP68	不定形	60.0	46.0	50.0	SK14・SP67・70と重複する。
SP69	楕円形	28.0	23.0	26.0	SK14・SP66と重複する。
SP70	楕円形	42.0	24.0	35.0	SK14・SP66～68と重複する。
SP71	欠番	—	—	—	
SP72	欠番	—	—	—	
SP73	円形	26.0	24.0	42.0	SK9と重複する。
SP74	円形	26.0	22.0	28.0	SK9と重複する。
SP75	円形	24.0	24.0	16.0	
SP76	円形	26.0	24.0	6.0	
SP77	円形	40.0	35.0	18.0	
SP78	楕円形	44.0	38.0	22.0	
SP79	楕円形	32.0	24.0	4.0	
SP80	楕円形	46.0	38.0	40.0	SK8と重複する。
SP81	円形	33.0	30.0	22.0	SP82・83と重複する。
SP82	円形	29.0	27.0	20.0	SP81・83と重複する。
SP83	楕円形	45.0	36.0	37.0	SK6・SP81・82・84と重複する。
SP84	楕円形	60.0	38.0	16.0	SK6・SP81・82・83と重複する。
SP85	楕円形	56.0	34.0	58.0	
SP86	円形	32.0	30.0	9.0	
SP87	円形	38.0	36.0	42.0	
SP88	四角形	38.0	35.0	7.0	
SP89	円形	32.0	28.0	30.0	SP90と重複する。
SP90	楕円形	28.0	22.0	16.0	SP89と重複する。
SP91	円形	32.0	26.0	24.0	
SP92	円形	30.0	27.0	44.0	
SP93	円形	48.0	48.0	42.0	SI13と重複する。
SP94	楕円形	40.0	35.0	28.0	
SP95	楕円形	80.0	50.0	56.0	SP96・SD1と重複する。
SP96	楕円形?	(22.0)	22.0	20.0	SP95・SD1と重複する。
SP97	楕円形	25.0	18.0	27.0	
SP98	円形	25.0	20.0	38.0	SD1と重複する。
SP99	円形	20.0	20.0	30.0	
SP100	円形	22.0	17.0	20.0	
SP101	不定形	54.0	36.0	25.0	
SP102	楕円形	32.0	28.0	8.0	
SP103	台形	38.0	32.0	47.0	
SP104	—	40.0	18.0	25.0	

第32表 ピット跡計測一覧表(3)

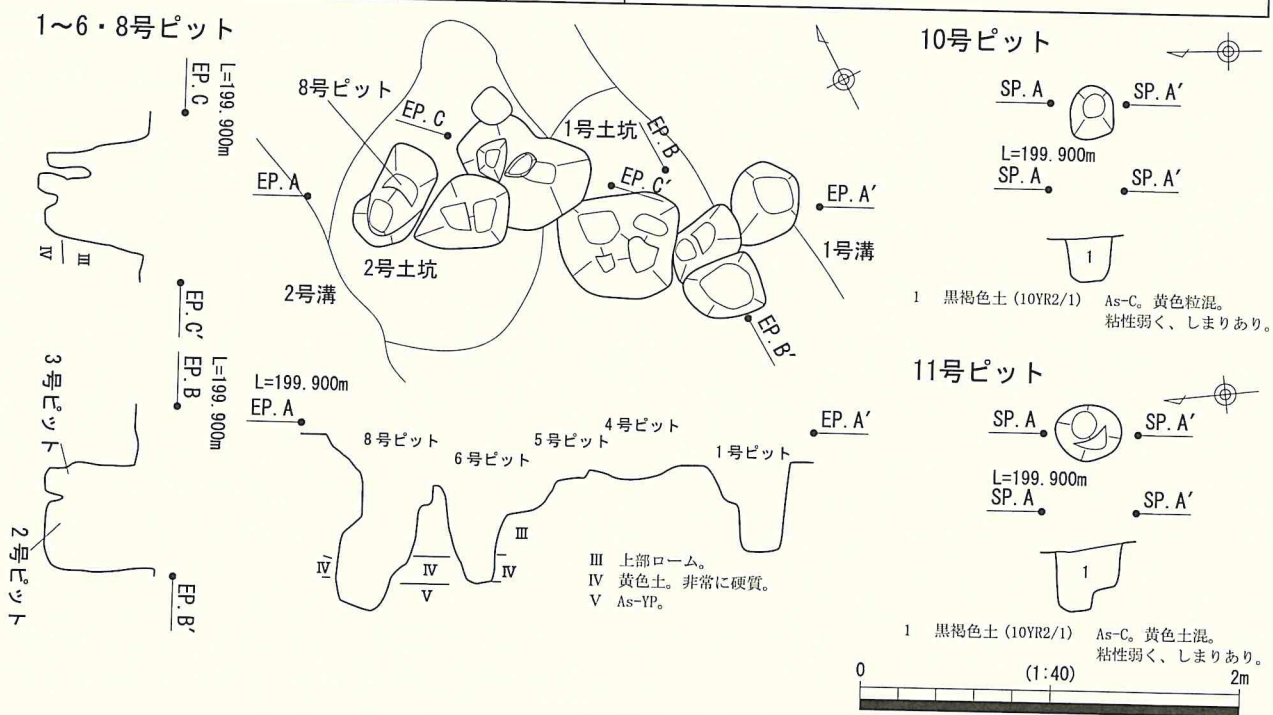
番号	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
SP105	—	27.0	3.0	23.0	SP106と重複する。
SP106	四角形	40.0	34.0	18.0	SP105・107と重複する。
SP107	楕円形?	46.0	18.0	26.0	SP106と重複する。
SP108	円形	25.0	22.0	46.0	97図の所、SP42・43・SD2と重複する。
SP109	楕円形	45.0	36.0	84.0	97図の所、SD2と重複する。
SP110	楕円形	18.0	12.0	50.0	SP113と重複する。
SP111	三角形	24.0	17.0	37.0	SP113と重複する。
SP112	楕円形	46.0	30.0	46.0	
SP113	不定形	80.0	56.0	72.0	SP110・111と重複する。
SP114	円形?	50.0	48.0	60.0	SP115と重複する。
SP115	不定形	46.0	40.0	38.0	
SP116	円形	28.0	26.0	19.0	SP38と重複する。
SP117	不定形	56.0	45.0	44.0	SP113と重複する。
SP118	楕円形	(56.0)	34.0	44.0	
SP119	四角形	50.0	44.0	28.0	
SP120	楕円形	45.0	35.0	40.0	
SP121	不定形	85.0	47.0	70.0	SP46・47と重複する。
SP122	円形	26.0	20.0	24.0	
SP123	円形	27.0	26.0	16.0	
SP124	円形	20.0	16.0	13.0	
SP125	円形	25.0	22.0	26.0	SI14と重複する。
SP126	楕円形?	26.0	(24.0)	34.0	SI14と重複する。
SP127	楕円形?	(28.0)	16.0	18.0	
SP128	円形?	26.0	(17.0)	60.0	SI7と重複する。
SP129	円形	28.0	26.0	20.0	SD1と重複する。
SP130	円形	24.0	22.0	—	第7図のみ。
SP131	四角形	48.0	28.0	20.0	
SP132	円形	28.0	26.0	16.0	
SP133	楕円形	44.0	33.0	66.0	SP57と重複する。
SP134	楕円形	36.0	30.0	36.0	SI2と重複する。
SP135	円形	30.0	28.0	30.0	SI2と重複する。
SP136	楕円形	38.0	20.0	55.0	SI2と重複する。
SP137	楕円形	36.0	28.0	72.0	SI1と重複する。
SP138	円形	40.0	34.0	28.0	SP139と重複する。
SP139	円形	34.0	30.0	44.0	SI1・SP138と重複する。
SP140	楕円形	34.0	22.0	18.0	SD1と重複する。
SP141	円形	32.0	30.0	40.0	SD1と重複する。
SP142	円形	25.0	25.0	38.0	SI8・SP143・SD1と重複する。
SP143	楕円形	60.0	37.0	42.0	SI8・SP142・SD1と重複する。
SP144	楕円形	46.0	28.0	60.0	SP145と重複する。
SP145	楕円形	49.0	42.0	26.0	SP144と重複する。
SP146	三角形	34.0	22.0	37.0	焼土を含む。SK130と重複する。
SP147	楕円形	35.0	26.0	22.0	
SP148	円形	14.0	14.0	46.0	
SP149	四角形	27.0	24.0	18.0	
SP150	楕円形	29.0	22.0	22.0	
SP151	楕円形	(50.0)	(46.0)	12.0	
SP152	円形	22.0	20.0	30.0	
SP153	楕円形	27.0	22.0	12.0	SP154と重複する。
SP154	円形	20.0	(16.0)	15.0	SP153と重複する。
SP155	楕円形	62.0	34.0	42.0	
SP156	楕円形	35.0	25.0	8.0	SE2と重複する。
SP157	円形	26.0	22.0	16.0	黒曜石剥片出土。
SP158	楕円形	62.0	35.0	61.0	SP200と重複する。
SP159	円形	(31.0)	27.0	29.0	SP200と重複する。
SP160	不定形	60.0	31.0	43.0	

第33表 ピット跡計測一覧表(4)

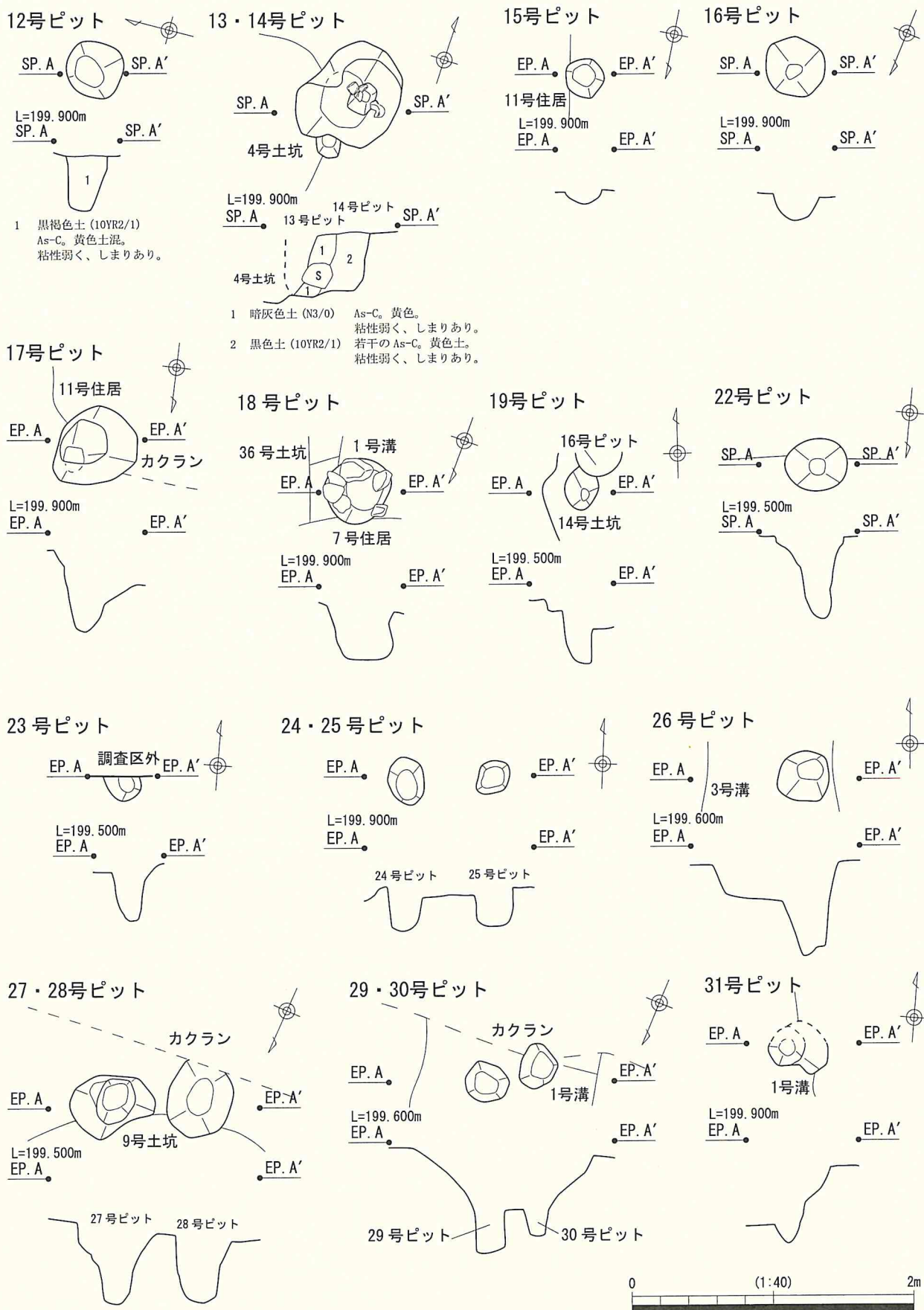
番号	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
SP161	円形	20.0	20.0	9.0	
SP162	円形	26.0	23.0	10.0	
SP163	楕円形	18.0	10.0	4.0	
SP164	円形	18.0	16.0	4.0	
SP165	円形	56.0	52.0	13.0	SK23と重複する。
SP166	円形	35.0	31.0	12.0	
SP167	円形	24.0	22.0	16.0	
SP168	円形	82.0	(39.0)	11.0	
SP169	円形	20.0	20.0	17.0	
SP170	楕円形	64.0	(52.0)	32.0	
SP171	楕円形	48.0	38.0	21.0	
SP172	楕円形	58.0	38.0	43.0	SE2と重複する。
SP173	楕円形	43.0	29.0	10.0	SP174と重複する。
SP174	不定形	67.0	46.0	31.0	SP173と重複する。
SP175	円形	26.0	23.0	24.0	SI16と重複する。
SP176	楕円形	38.0	30.0	35.0	SI16と重複する。
SP177	楕円形	29.0	21.0	17.0	SP178・SE2と重複する。
SP178	楕円形	36.0	25.0	18.0	SP177・SE2と重複する。
SP179	円形	29.0	26.0	18.0	
SP180	円形	36.0	32.0	44.0	SE2と重複する。
SP181	円形	31.0	28.0	16.0	
SP182	楕円形	29.0	23.0	15.0	
SP183	不定形	46.0	38.0	31.0	SE2と重複する。
SP184	楕円形	58.0	32.0	20.0	
SP185	円形	35.0	27.0	20.0	
SP186	円形	24.0	23.0	20.0	SP187と重複する。
SP187	楕円形	35.0	27.0	11.0	SP186と重複する。
SP188	楕円形	51.0	31.0	28.0	SP189と重複する。
SP189	円形	25.0	(21.0)	17.0	チャート剥片出土。SP188と重複する。
SP190	不定形	55.0	34.0	27.0	
SP191	円形	74.0	67.0	12.0	
SP192	円形	33.0	32.0	15.0	
SP193	円形	26.0	23.0	10.0	
SP194	円形	40.0	35.0	11.0	
SP195	楕円形	29.0	20.0	17.0	
SP196	楕円形	40.0	31.0	9.0	
SP197	楕円形	50.0	34.0	31.0	
SP198	不定形	66.0	47.0	40.0	SE2と重複する。
SP199	円形	25.0	(16.0)	16.0	SP159・200と重複する。
SP200	円形	42.0	(30.0)	17.0	SP158・159・199と重複する。
SP201	欠番	—	—	—	
SP202	円形	26.0	21.0	19.0	
SP203	楕円形	36.0	25.0	29.0	
SP204	楕円形	50.0	(29.0)	35.0	
SP205	円形	21.0	20.0	17.0	
SP206	—	(19.0)	(16.0)	55.0	SP207と重複する。
SP207	楕円形	(26.0)	(24.0)	40.0	SP206と重複する。
SP208	楕円形	(56.0)	48.0	57.0	
SP209	円形	41.0	38.0	28.0	
SP210	楕円形	43.0	27.0	23.0	
SP211	楕円形	29.0	24.0	13.0	SK25と重複する。
SP212	楕円形	22.0	17.0	12.0	
SP213	円形	26.0	22.0	15.0	
SP214	円形	28.0	25.0	52.0	SK20と重複する。
SP215	円形	18.0	18.0	14.0	
SP216	楕円形	23.0	18.0	14.0	

第34表 ピット跡計測一覧表(5)

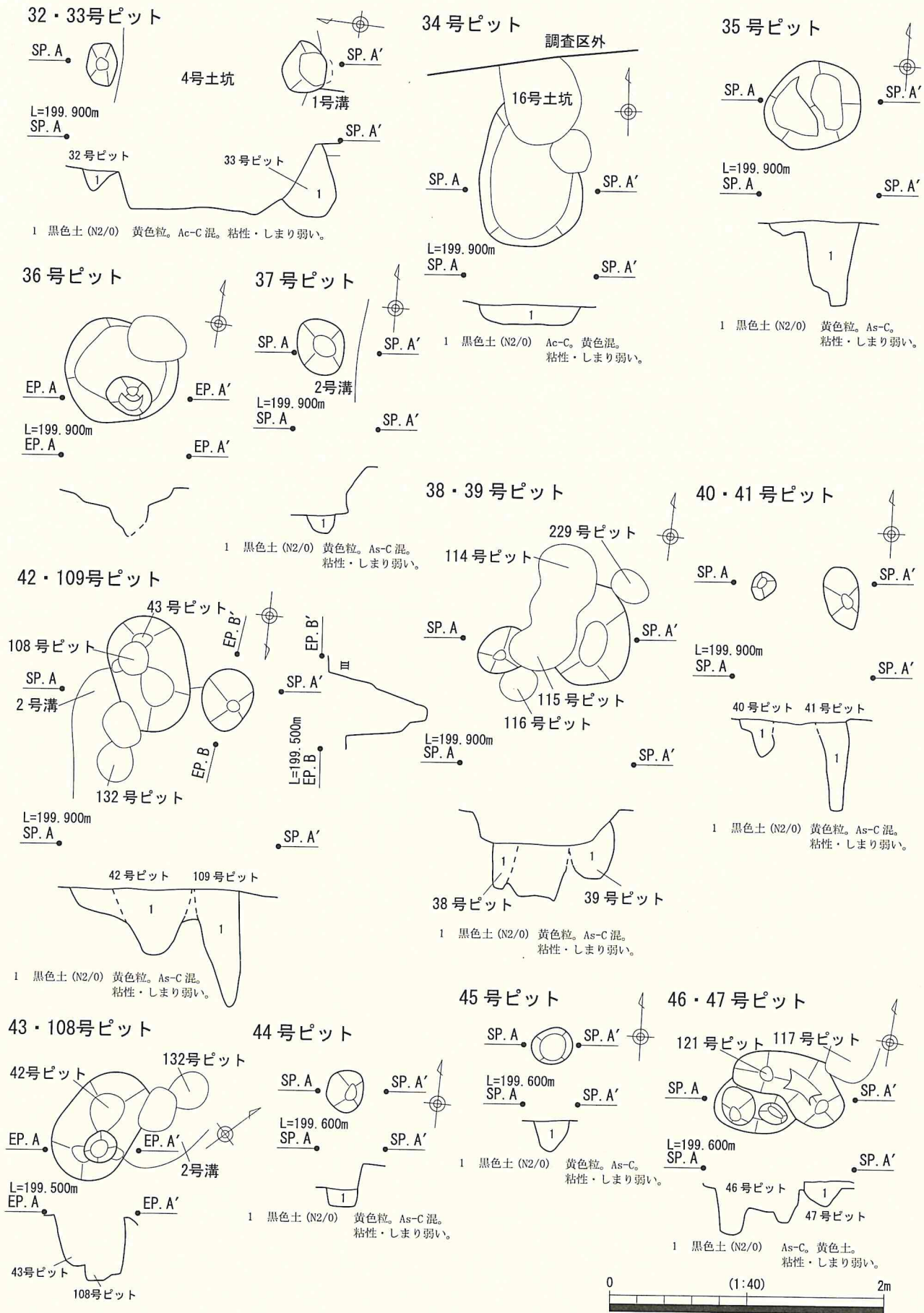
番号	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
SP217	楕円形	22.0	14.0	10.0	
SP218	四角形	32.0	32.0	20.0	
SP219	楕円形	55.0	14.0	20.0	
SP220	円形	32.0	(22.0)	18.0	
SP221	四角形	26.0	23.0	17.0	
SP222	楕円形	30.0	26.0	21.0	
SP223	楕円形	30.0	27.0	24.0	
SP224	楕円形	25.0	21.0	28.0	
SP225	円形	20.0	16.0	11.0	
SP226	楕円形	15.0	12.0	14.0	
SP227	楕円形	18.0	15.0	15.0	
SP228	円形	28.0	25.0	30.0	
SP229	楕円形	30.0	22.0	25.0	SD2と重複する。
SP230	円形	23.0	20.0	23.0	
SP231	楕円形	36.0	32.0	37.0	
SP232	楕円形	40.0	33.0	23.0	
SP233	円形	34.0	29.0	12.0	
SP234	台形	23.0	21.0	23.0	
SP235	三角形	23.0	21.0	11.0	
SP236	円形	28.0	(22.0)	29.0	
SP237	円形	18.0	(13.0)	19.0	
SP238	楕円形	23.0	(13.0)	20.0	
SP239	楕円形	37.0	30.0	26.0	
SP240	円形	35.0	31.0	30.0	
SP241	円形	32.0	29.0	23.0	
SP242	円形	36.0	32.0	48.0	
SP243	四角形	41.0	34.0	30.0	
SP244	台形	28.0	24.0	10.0	
SP245	円形	30.0	28.0	20.0	
SP246	楕円形	30.0	25.0	10.0	
SP247	楕円形	40.0	(30.0)	9.0	
SP248	楕円形	44.0	34.0	11.0	
SP249	円形	40.0	36.0	42.0	



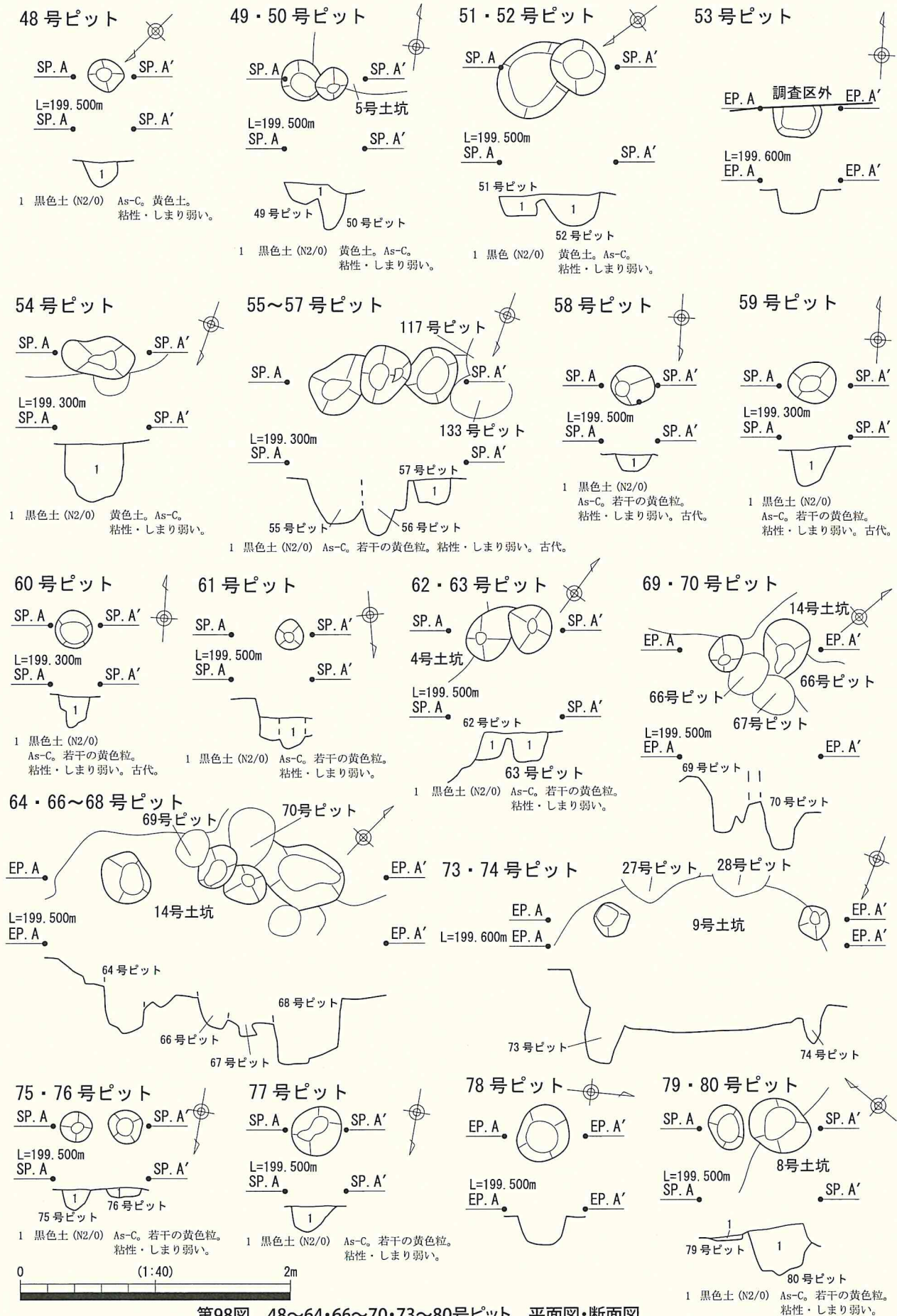
第95図 1～6・8・10・11号ピット 平面図・断面図

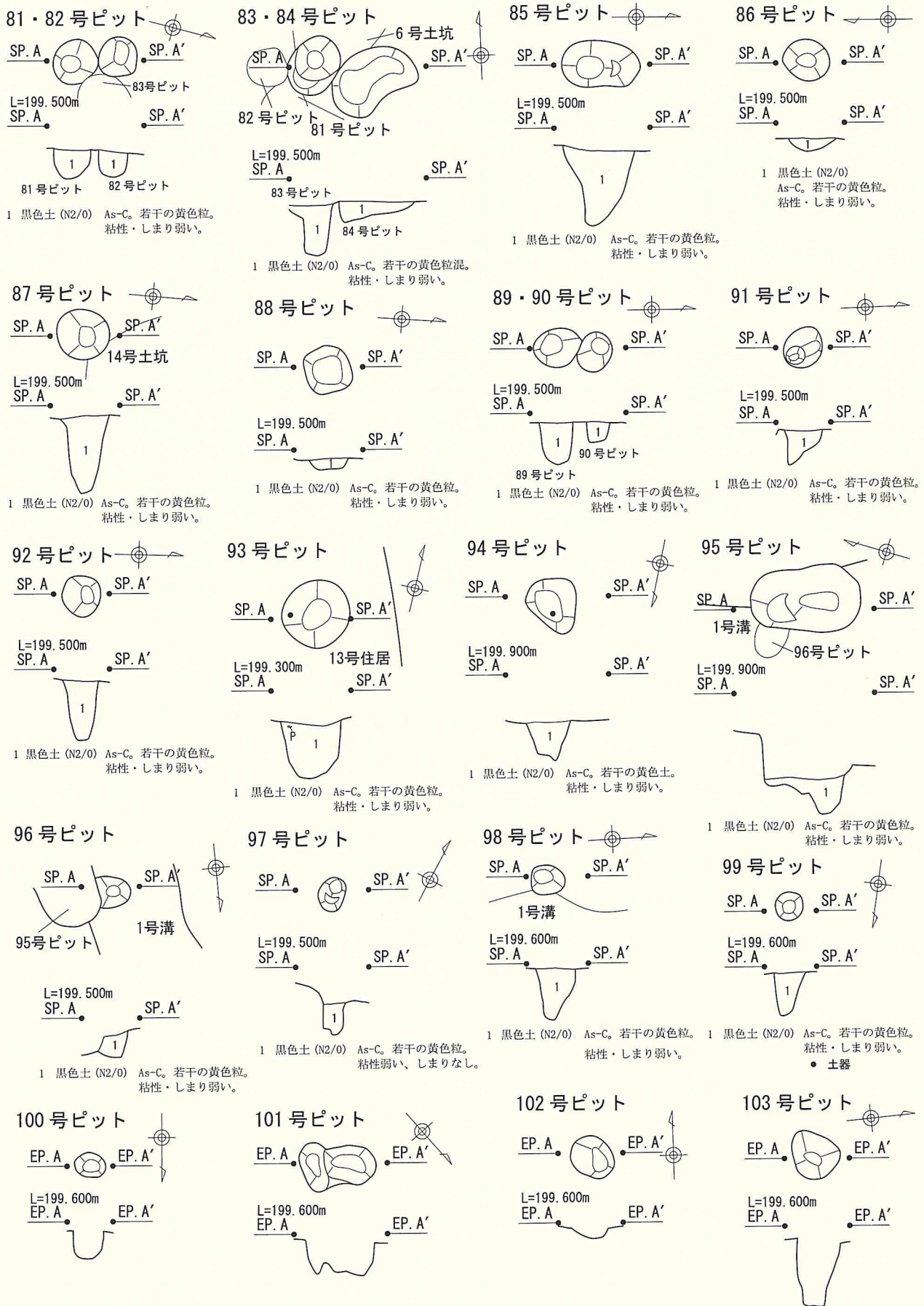


第96図 12～19・22～31号ピット 平面図・断面図

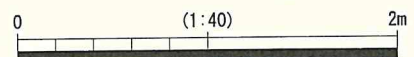


第97図 32～47・108・109号ピット 平面図・断面図

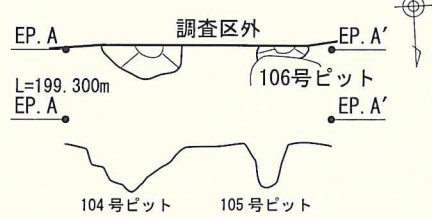




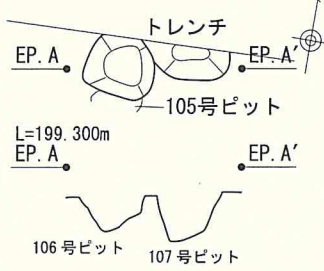
第99図 81～103号ピット 平面図・断面図



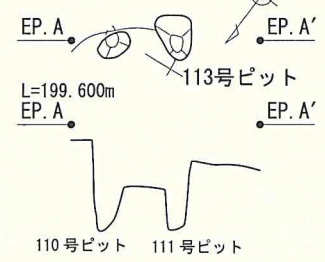
104・105号ピット



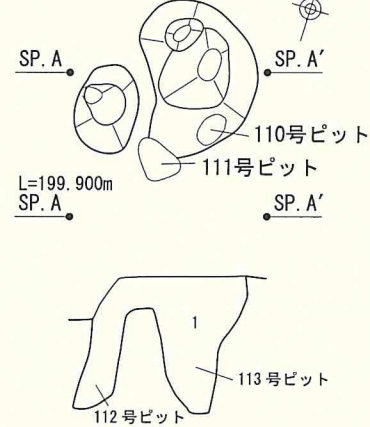
106・107号ピット



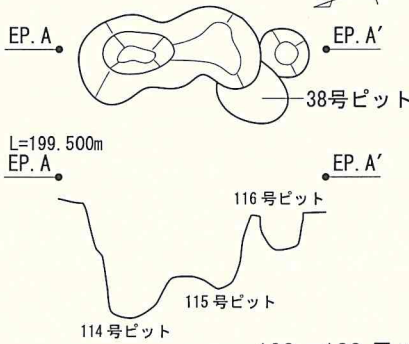
110・111号ピット



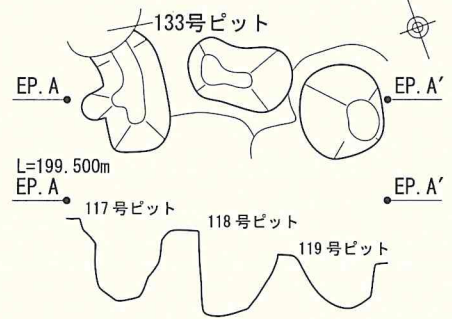
112・113号ピット



114～116号ピット

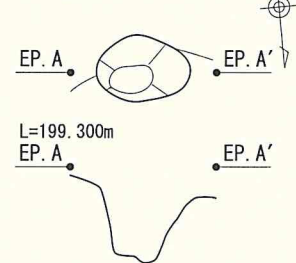


117～119号ピット



1 黒色土 (N2/0) As-C。若干の黄色土。
粘性・しまり弱い。

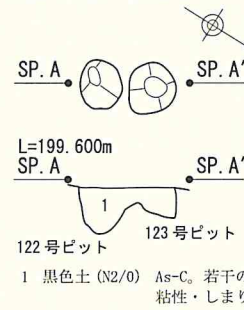
120号ピット



121号ピット

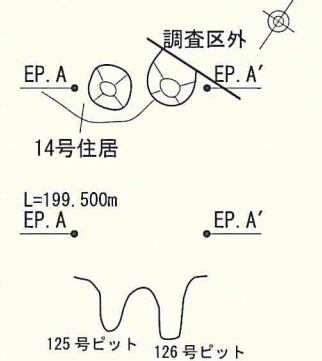


122・123号ピット



1 黒色土 (N2/0) As-C。若干の黄色粒。
粘性・しまり弱い。

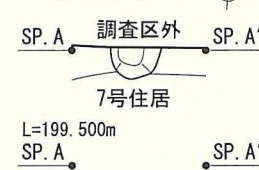
125・126号ピット



127号ピット



128号ピット

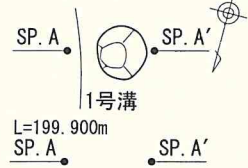


128号ピット

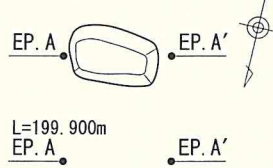
1 黒色土 (N2/0)

As-C。若干の黄色粒混。粘性弱い、しまりあり。
7号住居存在時の地表か。
2 赤黒色土 (2.5YR2/1) As-C (3<4)。若干の黄色粒混。粘性弱い、しまりあり。
3 黒褐色土 (5YR2/1) As-C (4>5)。黄色粒。黄色鬼 (φ0.5~1cm) やや多い。人為的な埋土。4・5層、柱痕はみられない。

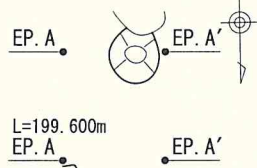
129号ピット



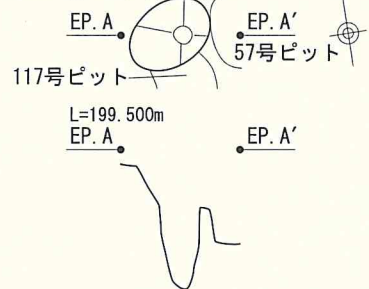
131号ピット



132号ピット

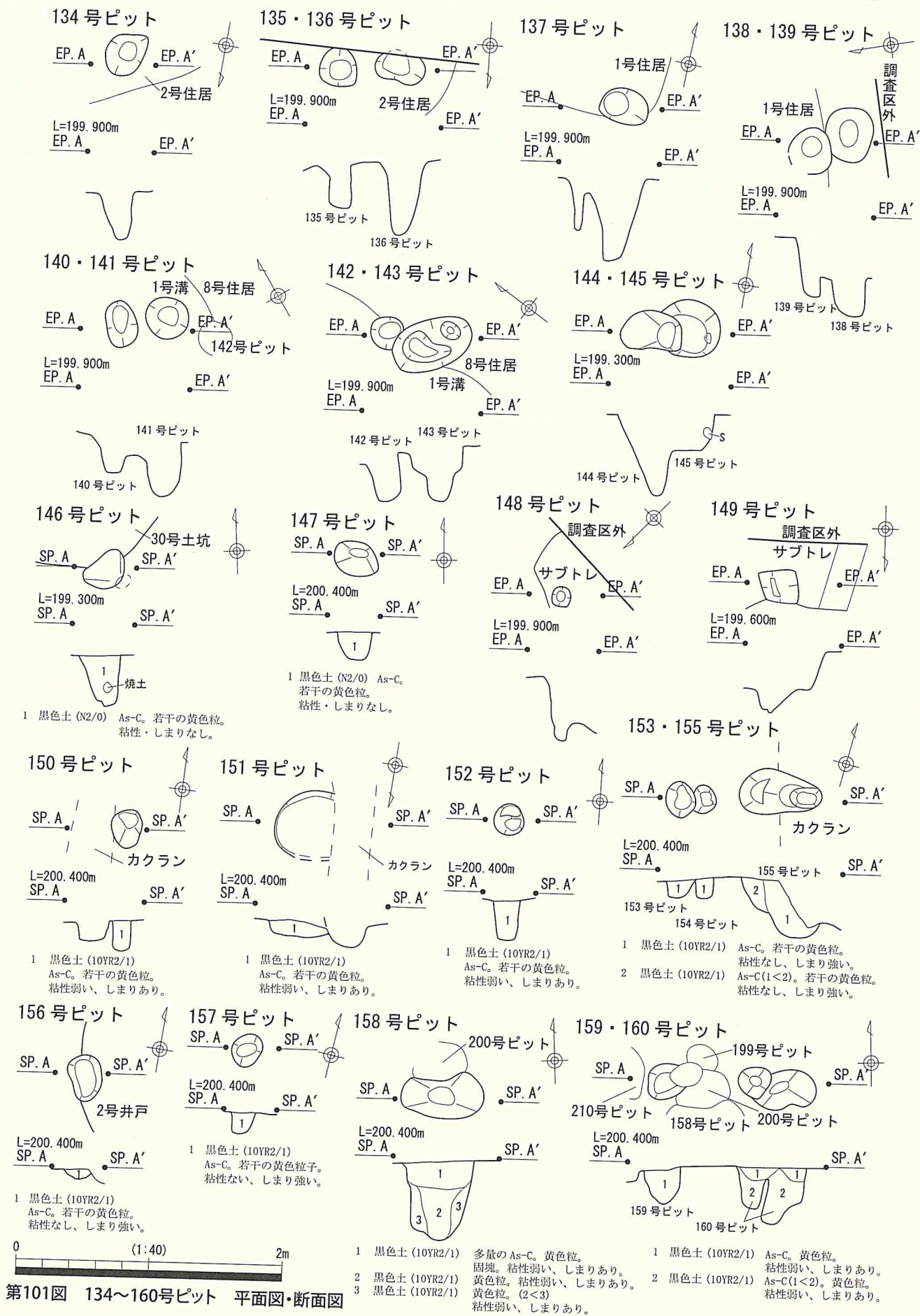


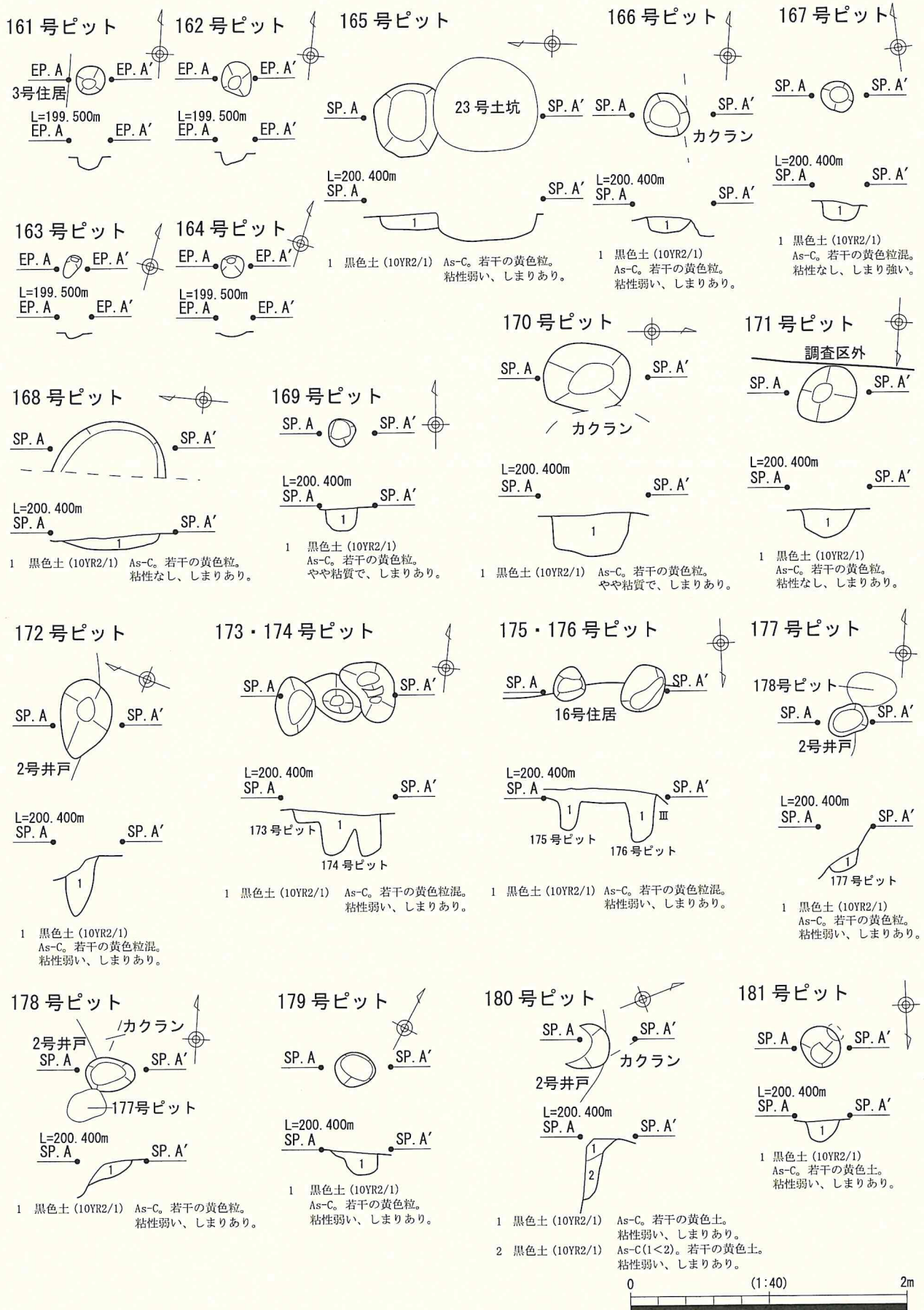
133号ピット



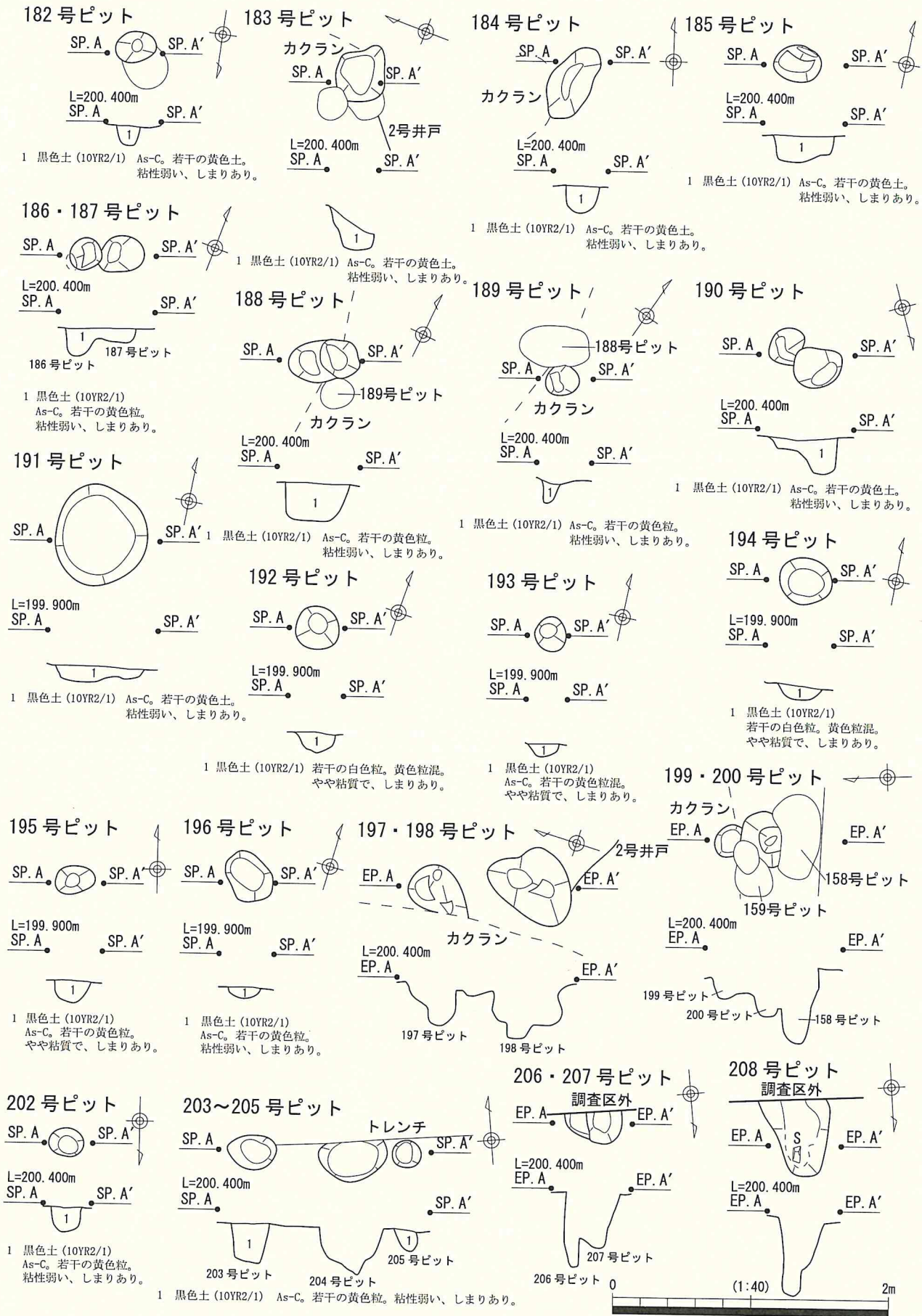
1 黒色土 (N2/0) As-C。若干の黄色粒。
粘性・しまりなし。

第100図 104～107・110～123・125～129・131～133号ピット 平面図・断面図



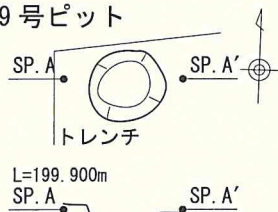


第102図 161～181号ピット 平面図・断面図

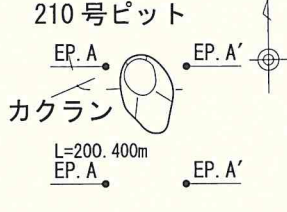


第103図 182～200・202・203～208号ピット 平面図・断面図

209 号ピット



210 号ピット



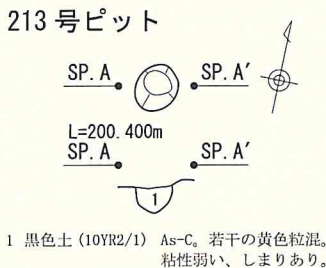
211 号ピット



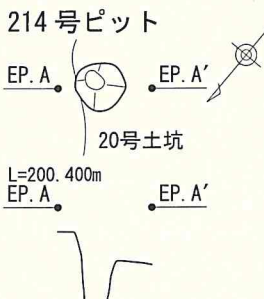
212 号ピット



213 号ピット



214 号ピット



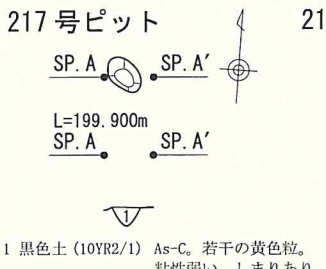
215 号ピット



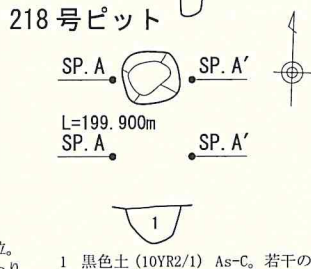
216 号ピット



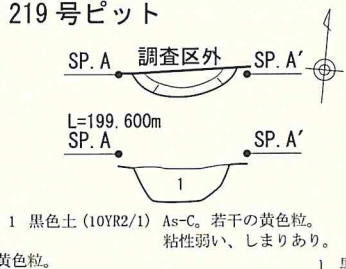
217 号ピット



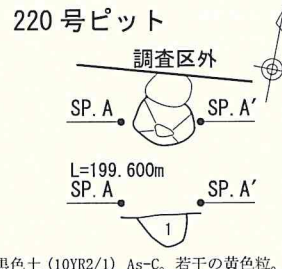
218 号ピット



219 号ピット



220 号ピット



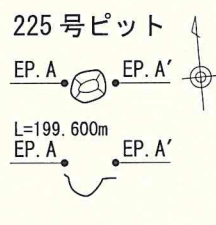
221・222 号ピット



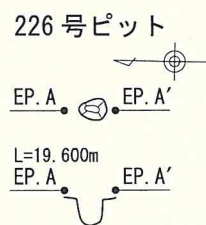
223・224 号ピット



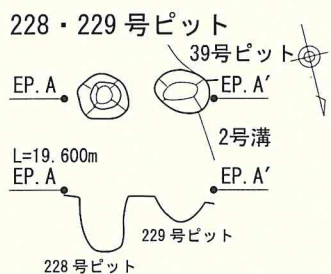
225 号ピット



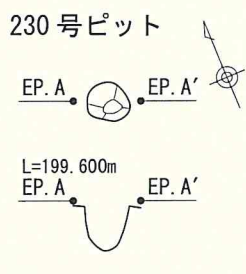
226 号ピット



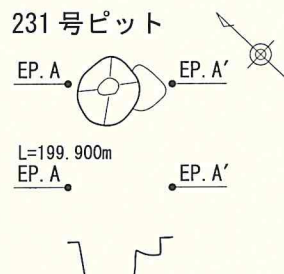
228・229 号ピット



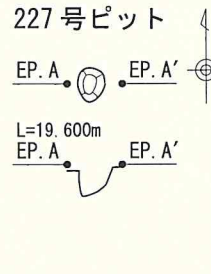
230 号ピット



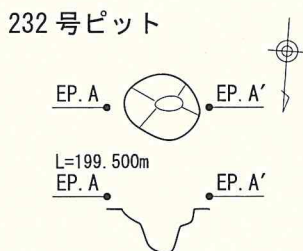
231 号ピット



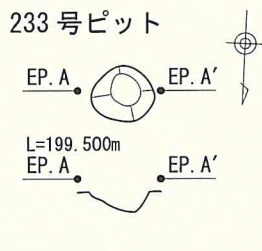
227 号ピット



232 号ピット



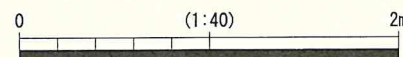
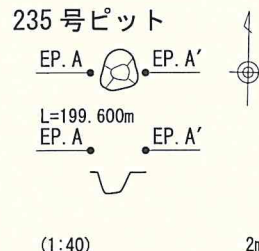
233 号ピット



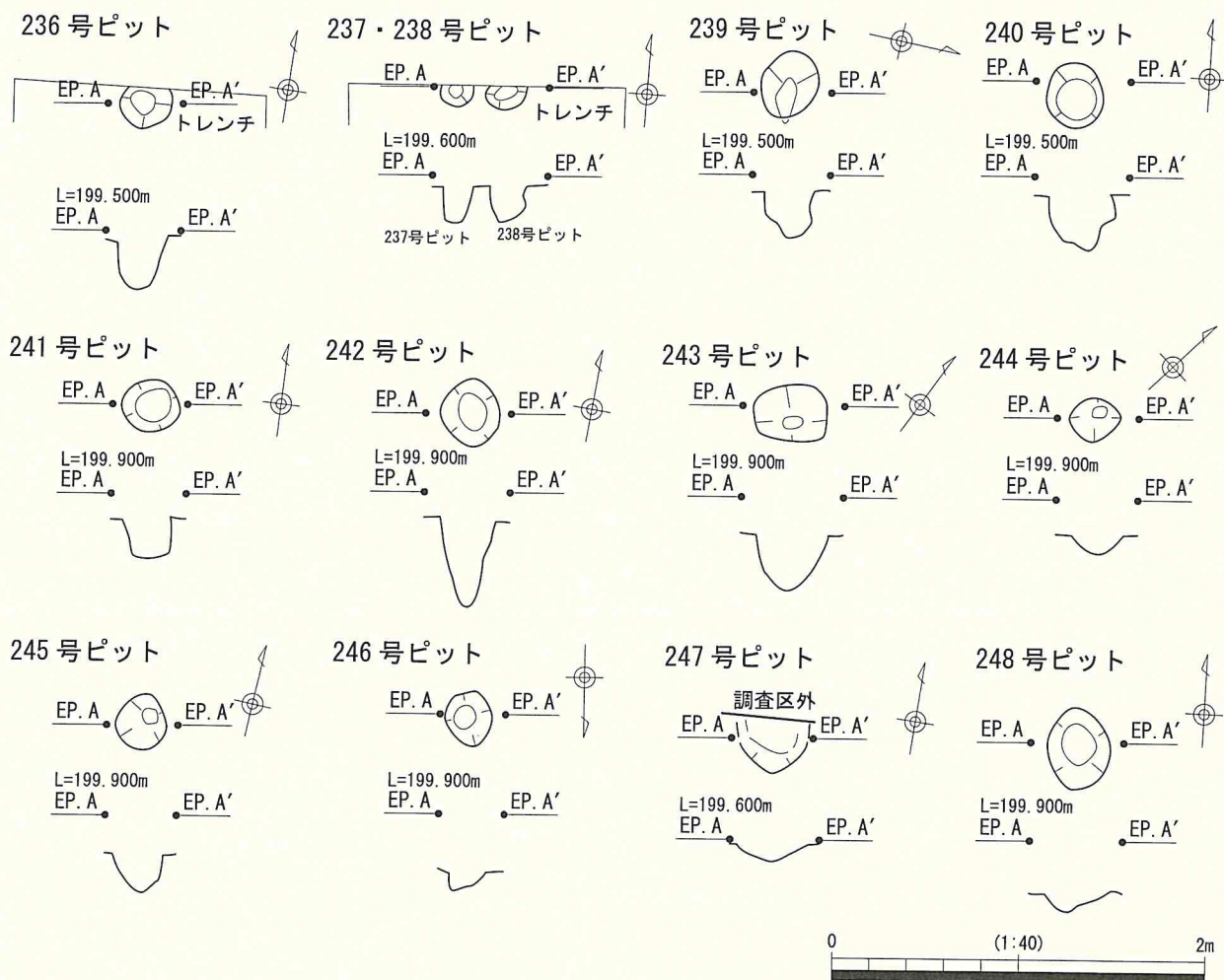
234 号ピット



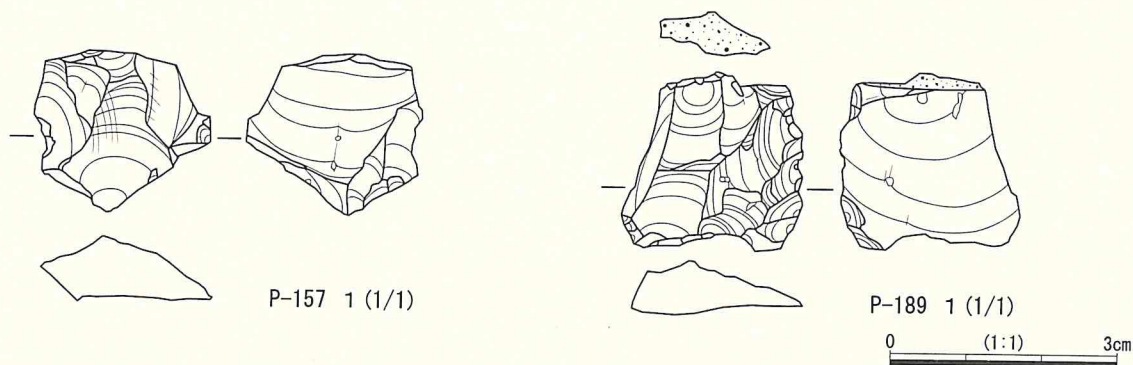
235 号ピット



第104図 209～235号ピット 平面図・断面図



第105図 236～248号ピット 平面図・断面図



第106図 157・189号ピット 出土遺物図

第35表 157号ピット跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第106図 PL. 38	Pit-157 フク土	1	剥片	2.1	2.3	0.8	3.3	黒曜石	—	—	

第36表 189号ピット跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第106図 PL. 38	Pit-189 フク土	1	剥片	2.3	2.4	0.7	3.9	チャート	—	—	

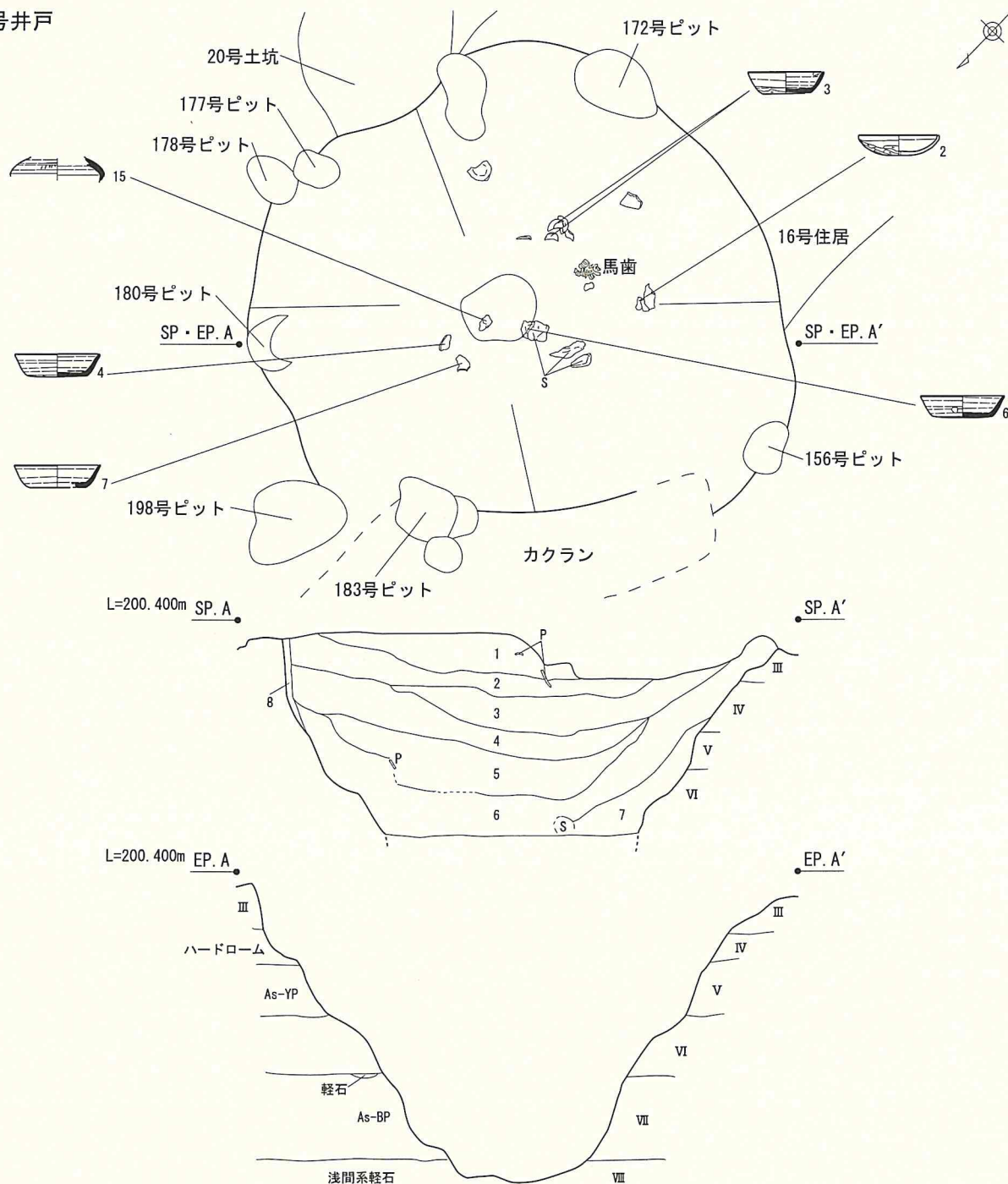
(4) 井戸

井戸跡は、1基検出した。検出した井戸は古代に掘削されて、20号土坑に一部壊されている。

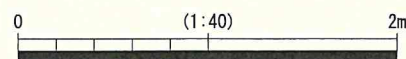
2号井戸(第107・108図 PL. 30・38)

規模 東西3.3 m、南北3.1 m、深さ1.81 mを測る。 **重複** 16号竪穴住居・20号土坑と重複する。16号竪穴住居・20号土坑→2号井戸と新しい。 **遺物出土状態** 土師器坏、須恵器坏・瓶類、馬歯が出土。

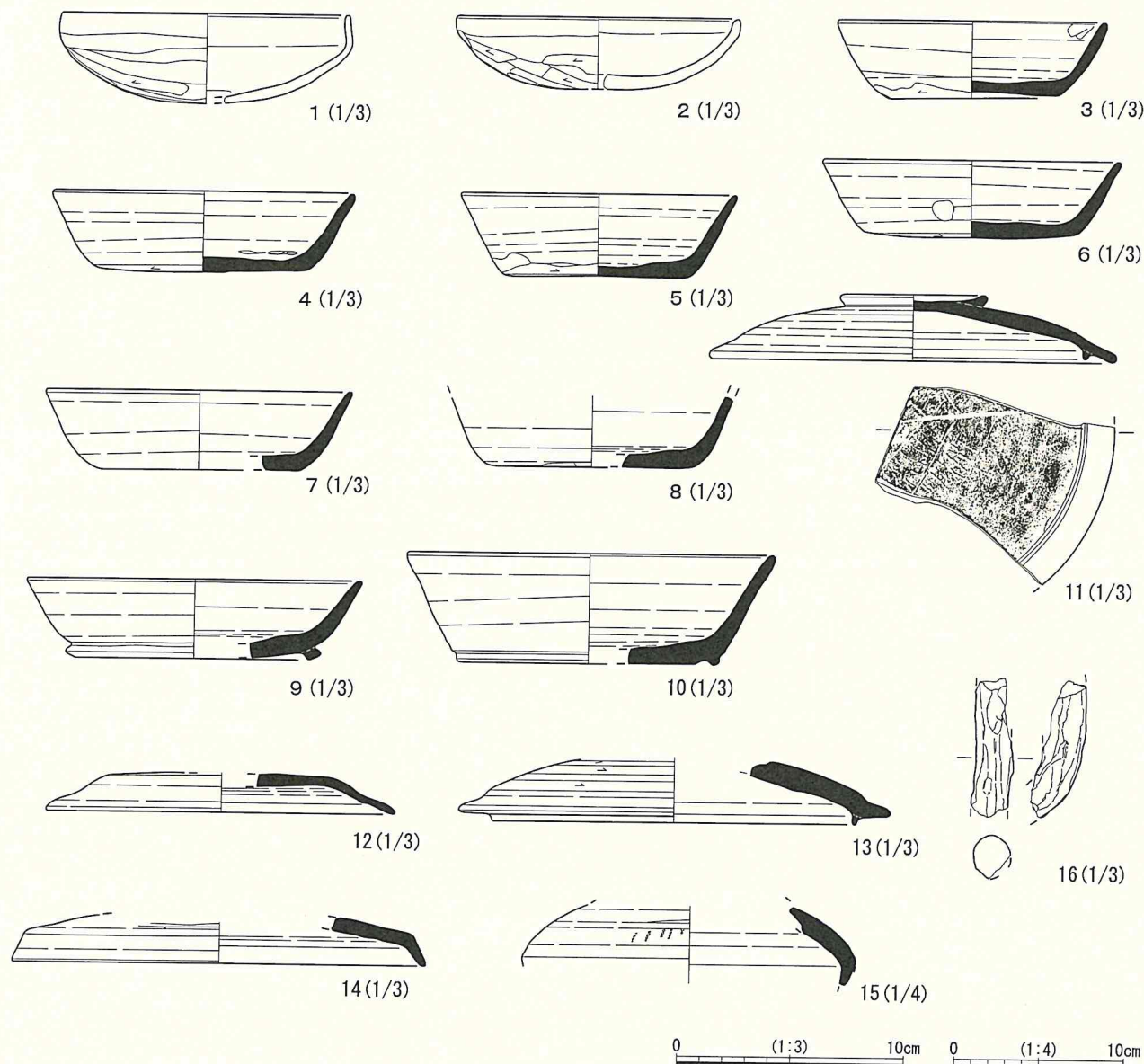
2号井戸



- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色土 (7.5YR3/1) | 多量の As-C。若干の黄色粒。若干の炭化物。粘性弱い、しまり強い。 |
| 2 黒褐色土 (5YR2/1) | As-C(1>2)。若干の黄色粒。粘性弱い、しまり強い。 |
| 3 黒褐色土 (5YR2/1) | As-C(2>3)。若干の黄色粒。粘性弱い、しまり強い。 |
| 4 黒褐色土 (5YR2/1) | As-C(3>4)。若干の黄色粒。粘性弱い、しまり強い。 |
| 5 黒褐色土 (5YR2/1) | As-C(4>5)。若干の黄色粒。やや粘質、軟弱。 |
| 6 黒褐色土 (5YR2/1) | As-C。As-YP 混。やや粘質、軟弱。 |
| 7 黒褐色土 (5YR2/1) | As-YP 混。やや粘質、軟弱。 |
| 8 黒色土 (10YR2/1) | IV層塊 (φ0.5~2cm) 混。粘性弱い、しまり強い。 |



第107図 2号井戸 平面図・断面図



第37表 2号井戸跡 出土遺物観察表(1)

第108図 2号井戸 出土遺物図

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第108図 PL. 30	SE-2 フク土、 -50	1	土師器 坏	12.5	丸底	4.0	内：ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ・体部へラ削り	①普通 ②橙色 黒斑 ③雲母、小礫	50%	
第108図 PL. 30	SE-2 No. 8	2	土師器 坏	【12.3】	【3.0】	3.2	内：ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ 体部へラ削り	①普通 ②橙色 ③黒色粒、石英	20%	
第108図 PL. 30	SE-2 No. 11, 12, -50-100	3	須恵器 坏	11.7	7.4	3.5	ロクロ整形 内：自然釉付着 外：底部へラ削り	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒、礫 (φ 3 cm)	ほぼ完形	
第108図 PL. 30	SE-2 No. 14	4	須恵器 坏	13.0	9.0	3.6	ロクロ整形 内：重ね焼き痕あり 外：底部へラ削り	①還元・普通 ②灰白色 ③黒色粒	90%	
第108図 PL. 30	SE-2 カマド	5	須恵器 坏	12.0	7.6	3.2	ロクロ整形 外：底部へラ削り	①還元・良好 ②灰色 ③黒色粒、小礫	70%	
第108図 PL. 30	SE-2 No. 16	6	須恵器 坏	【13.0】	9.4	3.4	ロクロ整形 外：底部へラ削り	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒、黒色粒	口縁部へ体部 25% 底部75%	

第38表 2号井戸跡 出土遺物観察表(2)

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第108図 PL. 30	SE-2 No.5	7	須恵器 坏	【13.3】	【8.6】	3.5	ロクロ整形 外：底部ヘラ削り	①還元・普通 ②灰白色 ③黒色粒、小礫	25%	
第108図 PL. 30	SE-2 -50-100	8	須恵器 坏	—	【8.2】	【3.2】	ロクロ整形 外：底部ヘラ削り	①還元・良好 ②灰黄色 ③白色粒、黒色粒	体下部～底部 25%	
第108図 PL. 30	SE-2 -50	9	須恵器 壺	【14.6】	【10.2】	3.5	ロクロ整形 外：底部ヘラ削り 高台貼付	①還元・良好 ②灰色 ③黒色粒、小礫	20%	外面に自然釉多量 付着
第108図 PL. 30	SE-2 -50、フ ク土	10	須恵器 壺	【16.0】	【11.2】	4.9	ロクロ整形 外：底部ヘラ削り 高台削り出し	①還元・普通 ②橙色 ③白色粒、黒色粒、小礫	口縁部10% 体部～高台部 25%	
第108図 PL. 30	SE-2 -50	11	須恵器 蓋	【17.7】	天井部 径 【6.1】	【3.0】	ロクロ整形 かえし有り 内：頂部に木炭痕あり	①還元・良好 ②灰黄色 ③白色粒、黒色粒	20%	
第108図 PL. 30	SE-2 -50	12	須恵器 蓋	【15.2】	—	【1.8】	ロクロ整形	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒、小礫	20% 頂部欠損	
第108図 PL. 30	SE-2 -50	13	須恵器 蓋	【15.4】	—	【2.9】	ロクロ整形 内：体上部ナデ	①還元・良好 ②灰色 ③黒色粒、小礫	体部～口唇部 15%	
第108図 PL. 30	SE-2 フク土	14	須恵器 蓋	【18.0】	—	【1.8】	ロクロ整形 外：体部ヘラナデ	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒、小礫	体下部～口唇 部10%	
第108図 PL. 30	SE-2 No.10	15	須恵器 瓶類	—	—	【4.6】	ロクロ整形 外：肩部4本以上1単位の櫛状工具 刺突痕	①酸化・やや不良 ②灰白色 ③小礫	肩部破片	
第108図 PL. 30	SE-2 フク土	16	須恵器 瓶類	【6.1】	1.9	1.7	ヘラナデ	①還元・やや不良 ②灰黄色 ③黒色粒、白色粒	把手破片	

(5) 溝跡

溝跡は3条検出している。ともに調査区西側に位置し、南北方向に走行している。1号溝は、南側で流路が蛇行しており、礫などの遺物が出土している。2号溝は42号ピット付近から一部確認出来なくなるが、一部は3号溝に続くと考えられる。3号溝は、攪乱や溝の深さが浅いことから一部しか確認出来なかった。

1号溝 (第109・110・112・113図 PL. 30・38・39)

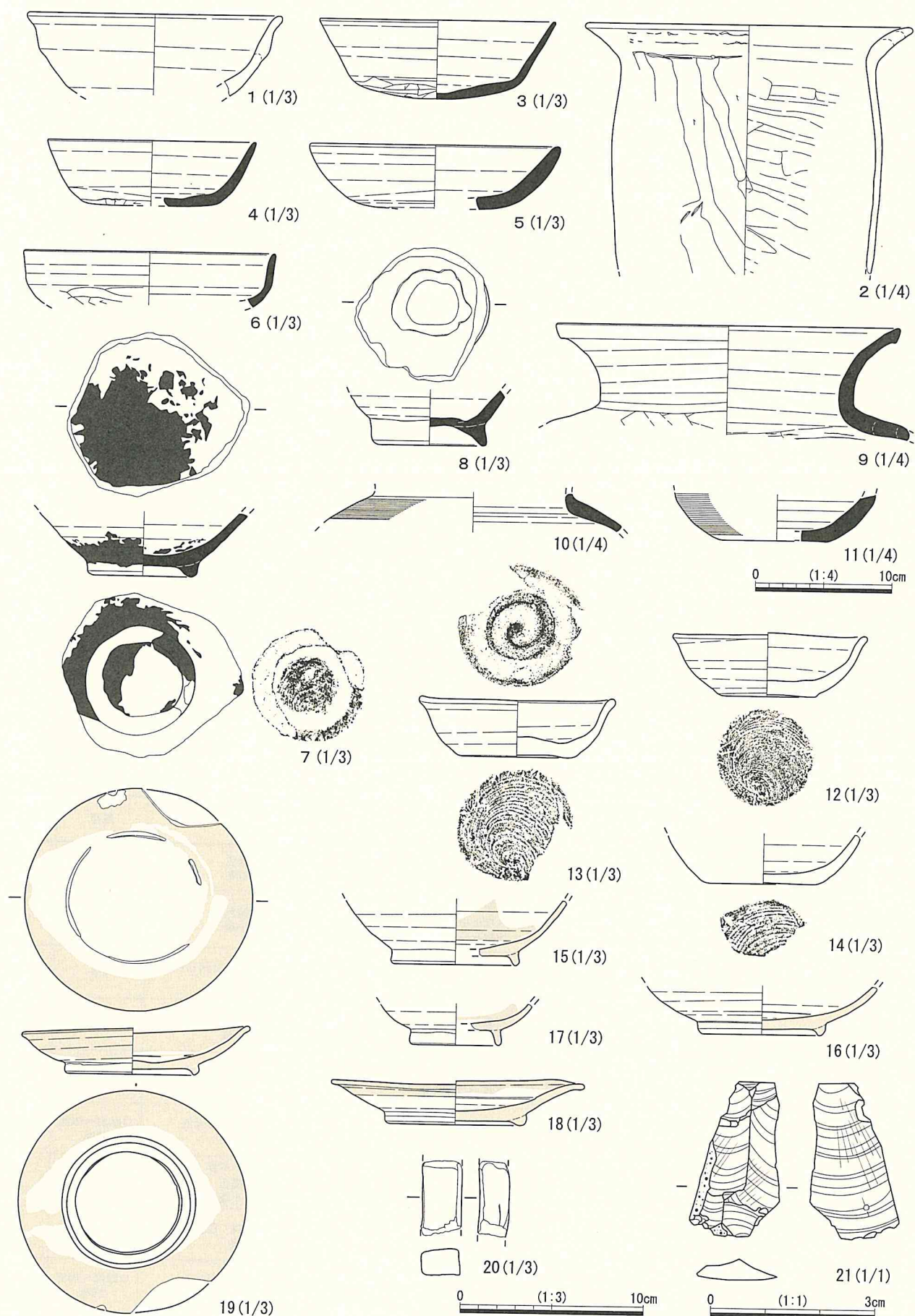
規模 調査区西に位置し、北から南への直線的な走行である。調査長31.0m、幅1.3～2.5m、深さ45cmを測る。断面形状U字状を呈す。 **遺物** 土師器坏・甕、須恵器坏・壺・壺・瓶類、灰釉陶器壺・皿、カワラケ、砥石、剥片石器、鉄製品が出土。 **重複** 1・6～8号堅穴住居、1・4土坑、1～3・18・95～98・129・130・140～143号ピットと重複する。6・7・8号堅穴住居→1号溝→1号堅穴住居溝と新しい。

2号溝 (第111～113図 PL. 39)

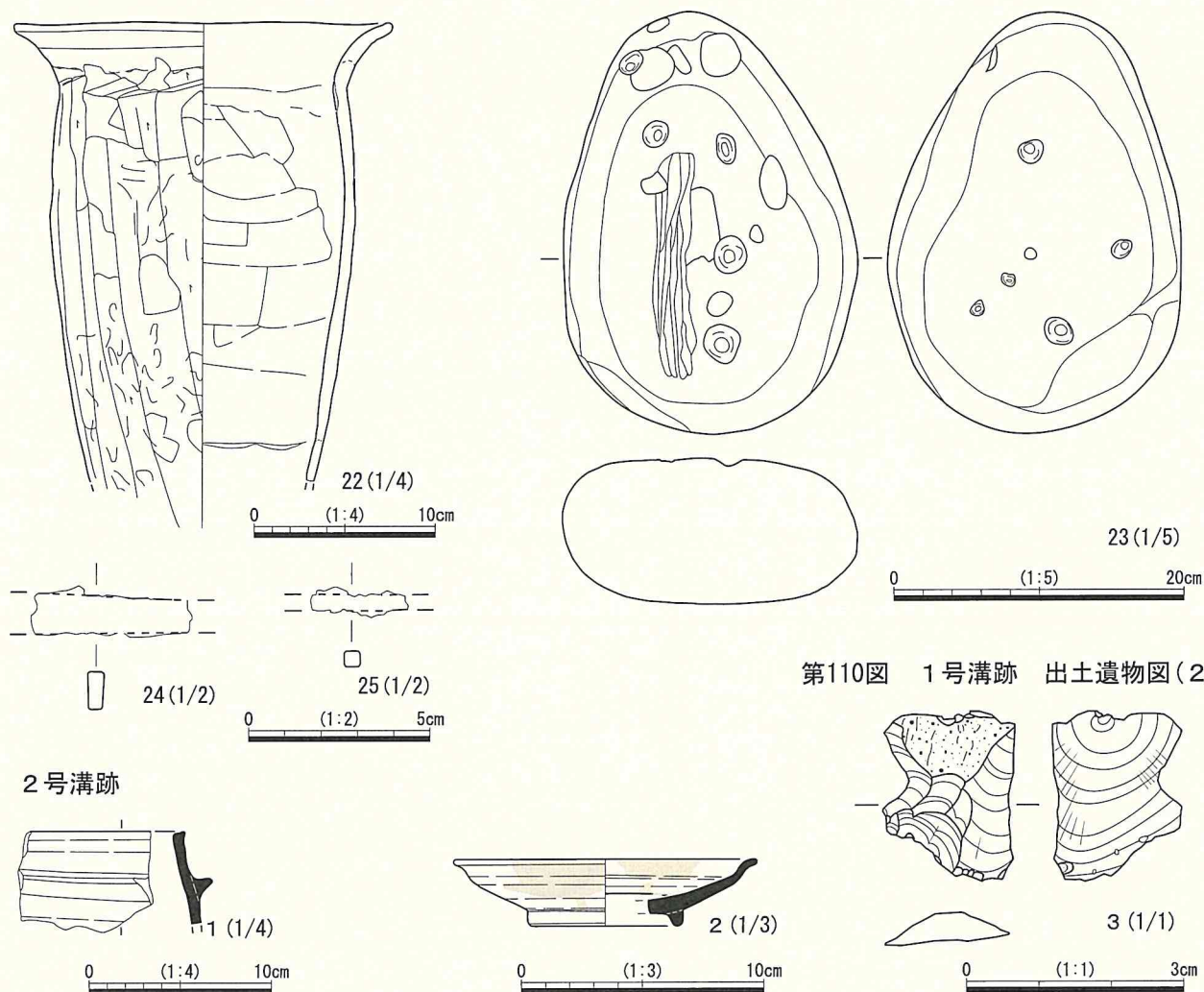
規模 調査区に西に位置し、北から北南へ緩やかに曲がる。調査長30.8m、幅0.5～1.6m、深さ30～50cmを測る。断面形状はU字状を呈す。 **遺物** 羽釜、灰釉陶器蓋、剥片石器、青磁片が出土。他の遺構からの流れ込みと考えられる。 **重複** 2・4・5・10・11号堅穴住居、37～39・42・43・55・56・108・109・112・114～116・119・132・229・249号ピットと重複する。4・5・10・11号堅穴住居→2号溝→2号堅穴住居と新しい。

3号溝 (第112図)

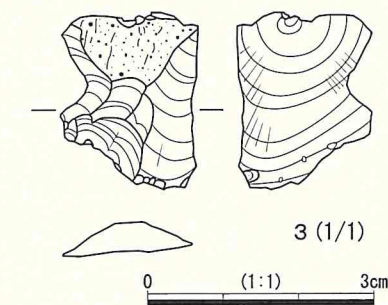
規模 調査区に西に位置し、北から南への直線的な走行である。調査長1.4m、幅0.9m、深さ12cmを測る。断面形状は浅いU字状を呈す。 **遺物** 掲載遺物なし。 **重複** 26号ピットと重複する。



第109図 1号溝跡 出土遺物図(1)



第110図 1号溝跡 出土遺物図(2)



第39表 1号溝跡 出土遺物観察表(1)

第111図 2号溝跡 出土遺物図

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第109図 PL. 38	SD-1 フク土	1	土師器 杯	【13.6】	—	【4.5】	ロクロ整形	①普通 ②橙色 ③白色粒、石英	口縁部～体部 25%	
第109図 PL. 38	SD-1 Na.38	2	土師器 甕	【23.3】	—	【18.3】	口縁部ヨコナデ 内：ヘラナデ 外：体部ヘラ削り	①普通 ②橙色 ③赤色粒、小礫	口縁部～体中 部20%	
第109図 PL. 38	SD-1 Na.36	3	須恵器 杯	【12.8】	【2.0】	【4.3】	ロクロ整形 外：体下部～底部ヘラ削り	①還元・普通 ②灰白色 ③小礫	25%	
第109図 PL. 38	SD-1 Na.21	4	須恵器 杯	【11.2】	【5.0】	3.6	ロクロ整形 外：体下部～底部ヘラ削り	①還元・良好 ②灰黄色 ③黒色粒、小礫	25%	
第109図 PL. 38	SD-1 Na.6	5	須恵器 杯	【13.5】	—	【3.5】	ロクロ整形 外：底部ヘラ削りか	①還元・良好 ②灰色 ③黒色粒、小礫	口縁部～体部 25%	
第109図 PL. 38	SD-1 フク土	6	須恵器 杯	【13.6】	—	【3.0】	ロクロ整形 外：体下部ヘラ削り	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒、小礫	口縁部～体部 25%	
第109図 PL. 38	SD-1 Na.3	7	須恵器 壺	—	【5.4】	【3.6】	ロクロ整形 高台貼付 内、外：漆付着	①酸化・やや不良 ②にぶい黄褐色 ③白色粒、小礫	体下部～底部 完存 高台部25%	
第109図 PL. 38	SD-1 Na.20	8	須恵器 壺	—	【5.7】	【3.1】	ロクロ整形 高台貼付 内：底部に粘土充填	①酸化・不良 ②橙色 ③雲母、小礫	体下部30% 底部～高台部 完存	
第109図 PL. 39	SD-1 Na.23	9	須恵器 壺	【24.8】	—	【8.7】	ロクロ整形 外：肩部ヘラナデ	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒、黒色粒、小礫	口縁部～肩部 25%	

第40表 1号溝跡 出土遺物観察表(2)

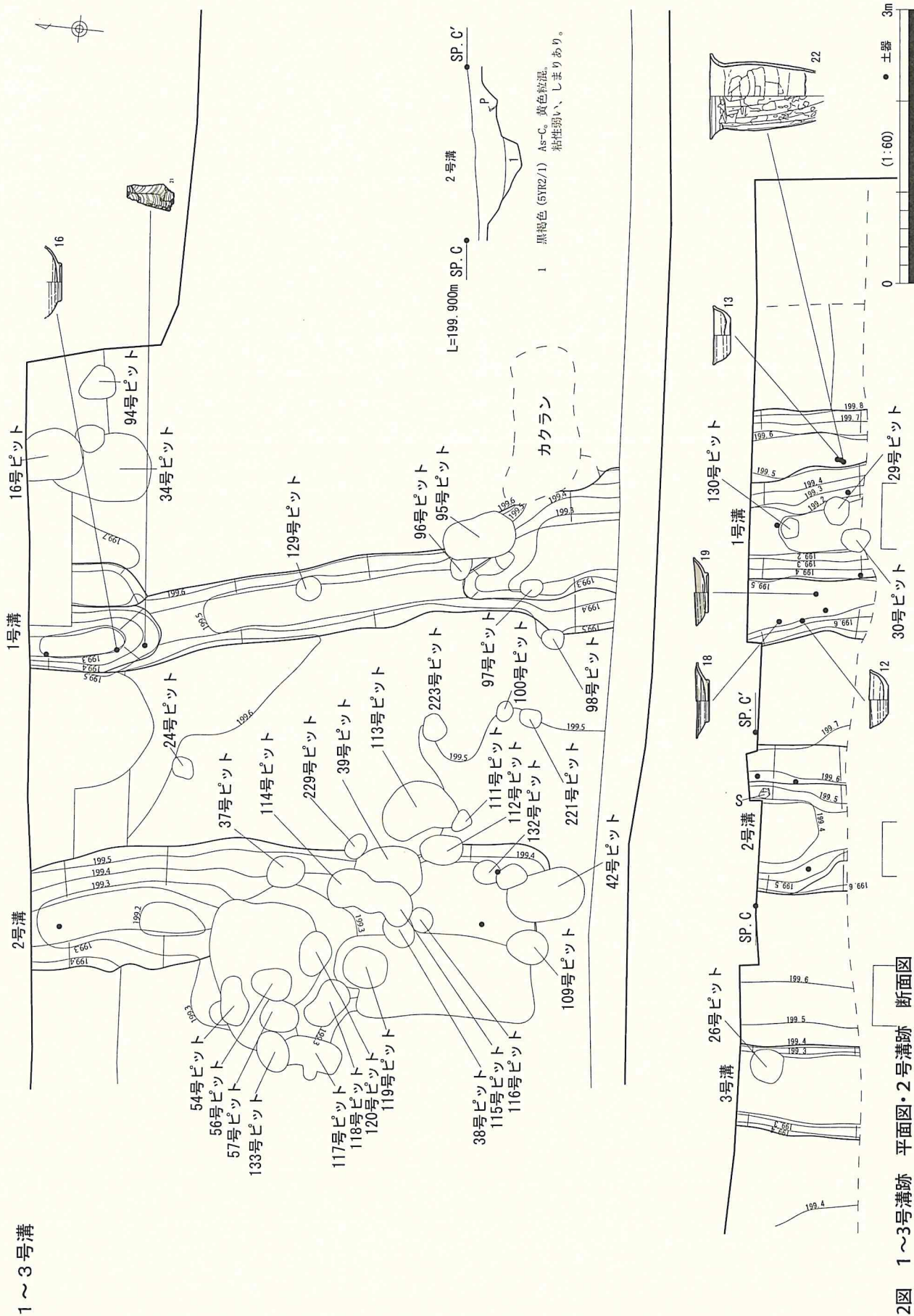
図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第109図 PL. 39	SD-1 フク土	10	須恵器 壺	—	—	【3.0】	ロクロ整形 外：カキ目	①還元・やや不良 ②灰白色 ③小礫	肩部25%	
第109図 PL. 39	SD-1 No.50	11	須恵器 瓶類	—	【7.6】	【3.7】	ロクロ整形 外：体部カキ目・底部回転糸切り	①還元・良好 ②灰色 ③白色粒、小礫	体下部～底部 20%	
第109図 PL. 39	SD-1 No.30	12	かわら け	10.4	5.0	3.5	ロクロ整形 外：底部回転糸切り	①普通 ②橙色 ③白色粒、石英、小礫	完形	
第109図 PL. 39	SD-1 No.55	13	かわら け	【10.4】	5.8	【3.4】	ロクロ整形 外：底部回転糸切り	①普通 ②橙色 ③黒色粒、赤色粒、小礫	口縁部～体部 30% 底部80%	
第109図 PL. 39	SD-1 フク土	14	かわら け	—	【5.8】	【2.8】	ロクロ整形 外：不明瞭 底部回転糸切り	①普通 ②にぶい黄橙色 ③石英、小礫	体下部～底部 25%	
第109図 PL. 39	SD-1 No.49	15	灰釉 碗	—	【6.6】	【3.6】	ロクロ整形 灰釉 外：三角高台貼付 底部回転糸切り 痕残る	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒	体中部～高台 部30%	
第109図 PL. 39	SD-1 No.58	16	灰釉 碗	—	6.4	【2.7】	ロクロ整形 灰釉 外：三日月高台貼付 底部回転糸切り 痕残る	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒	体下部10% 底部～高台部 50%	
第109図 PL. 39	SD-1 フク土	17	灰釉 碗	—	【4.6】	【2.3】	ロクロ整形 灰釉 外：三角高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③黒色粒	体下部～高台 部25%	
第109図 PL. 39	SD-1 No.31	18	灰釉 皿	13.6	7.2	2.5	ロクロ整形 灰釉 外：三角高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒、小礫	完形	
第109図 PL. 39	SD-1 No.29	19	灰釉 皿	12.1	6.9	2.5	ロクロ整形 灰釉 外：三日月高台貼付	①還元・良好 ②灰色 ③黒色粒、白色粒	ほぼ完形	内面に重 ね焼き痕 あり
第110図 PL. 39	SD-1 No.32	22	土師器 甕	19.9	—	【27.8】	口縁部ヨコナデ 内：ヘラナデ、ナデ 外：体部ヘラ削り	①普通 ②橙色 ③雲母、小礫	口縁部50% 体上部～体中 部80%	外面体中 部～下部 に粘土付

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第109図 PL. 39	SD-1 フク土	20	砥石	【4.1】	【2.2】	1.4	【23.7】	—	灰白色 4面とも良く擦られ、表面滑らか	30%	
第109図 PL. 39	SD-1 No.57	21	剥片	2.8	1.7	0.4	1.3	黒曜石	—	—	
第110図 PL. 39	SD-1 No.47	23	多孔石	29.1	20.2	10.0	8,300	—	表面に幅4～5mm、長さ15cmの擦痕あり、 砥石として使用したと思われる	完形	
第110図 PL. 39	SD-1 フク土	24	鉄製品	4.4	1.0	0.4	9.9	鉄	断面四角形	—	
第110図 PL. 39	SD-1 フク土	25	鉄製品	2.7	0.4	0.4	1.4	鉄	断面四角形	—	

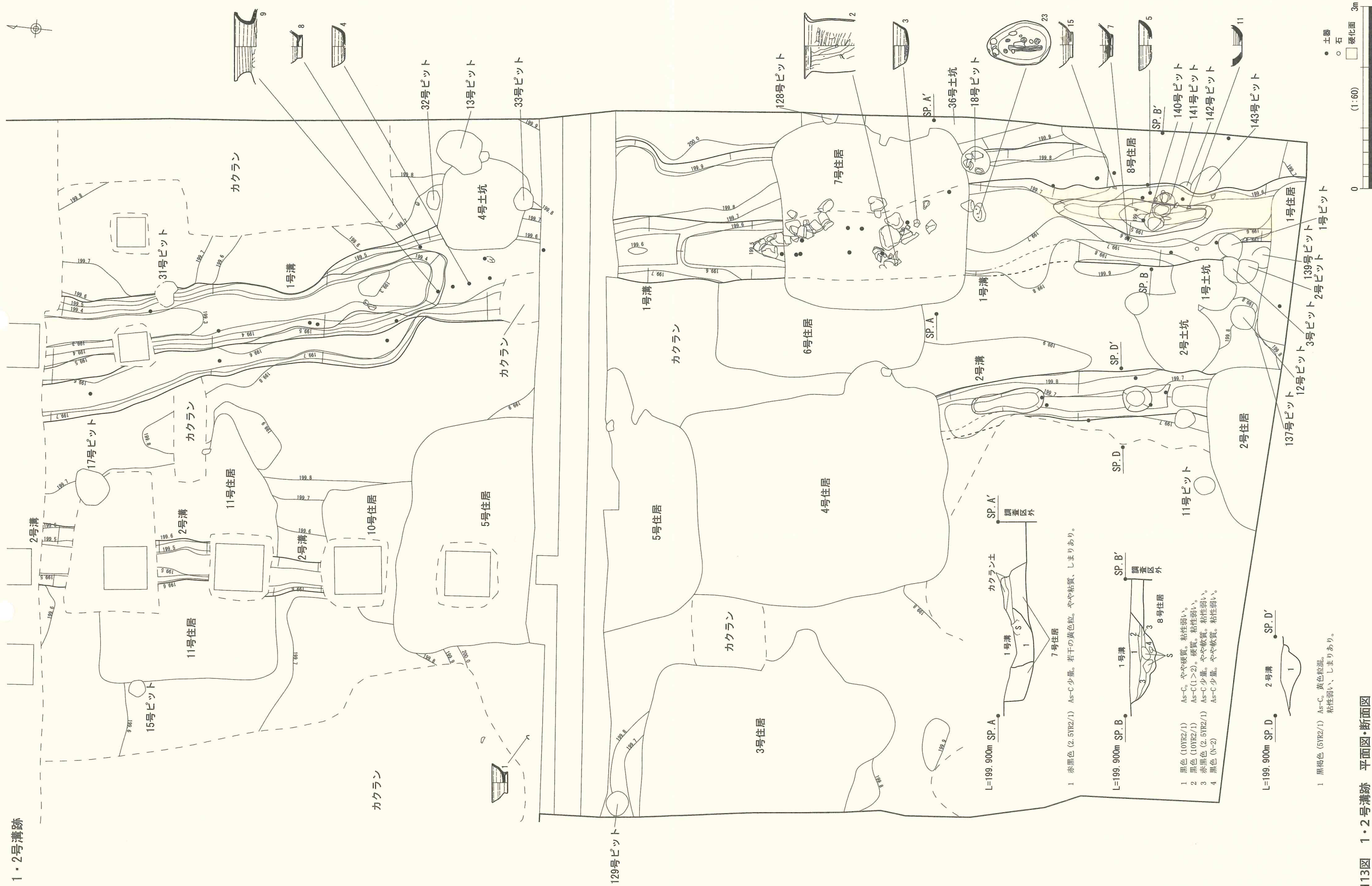
第41表 2号溝跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第110図 PL. 16	SD-2 フク土	1	羽釜	—	—	【5.6】	鋳貼付後ロクロ整形	①還元・やや不良 ②黄褐色 ③小礫	口縁部破片	
第110図 PL. 16	SD-2 フク土	2	灰釉 蓋	【12.3】	【5.0】	2.8	ロクロ整形 灰釉 外：三角高台貼付	①還元・良好 ②灰白色 ③白色粒	口縁部20%体部 ～高台部30%	

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第110図 PL. 16	SD-2 フク土	3	剥片	2.3	1.8	0.4	1.3	黒曜石	—	—	



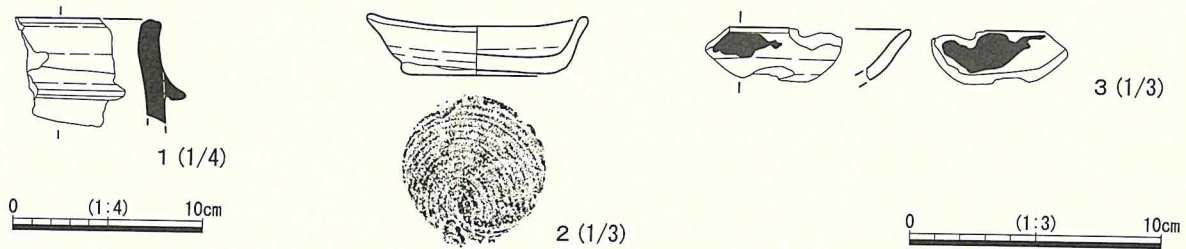
第112図 1~3号溝跡 平面図・2号溝跡 断面図



第113图 1·2号薄迹平面图·断面图

(6) グリッド・遺構外 (第113~116図 PL.16)

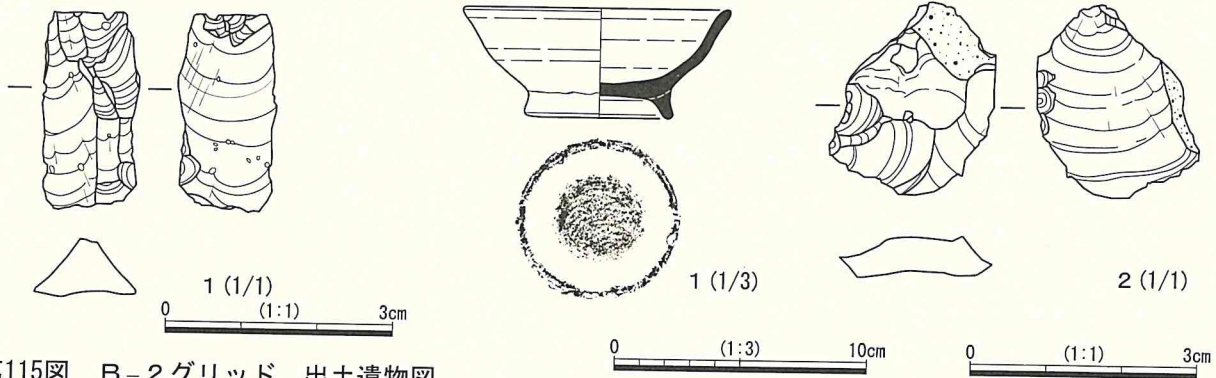
A-1 グリッド



第114図 A-1 グリッド 出土遺物図

B-2 グリッド

遺構外



第115図 B-2 グリッド 出土遺物図

第116図 遺構外 出土遺物図

第42表 A-1 グリッド 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第114図 PL. 39	A-1 G フク土	1	羽釜	【6.0】	—	—	鋳貼付後ロクロ整形	①還元・やや不良 ②淡黄色 ③雲母	口縁部破片	
第114図 PL. 39	A-1 G フク土	2	かわらけ	【8.5】	5.4	3.4	ロクロ整形 外：底部回転糸切り	①普通 ②橙色 ③赤色粒、小礫	口縁部～体部 30% 底部完存	
第114図 PL. 39	A-1 G フク土	3	かわらけ	—	—	【2.2】	ロクロ整形 内・外：漆付着	①普通 ②黒色 ③小礫	口縁部破片	外内面黒色処理か

第43表 B-2 グリッド 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第115図 PL. 39	B-2 G フク土	1	剥片	2.6	1.3	0.7	2.0	黒曜石	—	—	

第44表 遺構外 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第116図 PL. 39	遺構外 No.3	1	須恵器 埴	【10.3】	5.4	4.4	ロクロ整形 外：底部回転糸切り後高台貼付	①還元・やや不良 ②褐色 ③雲母、小礫	口縁部～体部 20% 底部～高台部 完存	

図版	出土地	番号	種類 種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	作成技法の特徴	残存	備考
				長さ	幅	厚さ					
第116図 PL. 39	遺構外	2	剥片	2.6	2.2	0.5	3.4	黒曜石	—	—	

第4章 成果と問題点

第1節 縄文時代

調査区南西から17号竪穴住居跡を確認した。時期は縄文中期で加曾利E式土器が出土している。この他、5・14号竪穴住居跡から縄文前期諸磯式土器片が、3・18号竪穴住居跡や調査区北側中央付近のグリッド(B-2)から黒曜石の石鏃・剥片が出土している。これらのことから、集落域は北に広がると考えられ、隣接する上ノ原遺跡からも縄文前期から中期の遺物が確認されている。十文字平から鳴沢湖周辺にかけて、十三坊遺跡や原山向遺跡、富岡・稲荷山遺跡など縄文時代前期から中期の集落がつくられ、白川傘松遺跡から翡翠製大珠が出土している。

第2節 弥生時代

弥生時代の遺構は今回確認できなかったが、弥生土器片数点が出土している。どれも小片のため時期の確定には至らなかった。富岡下蔵遺跡や本遺跡地から鳴沢湖を挟んだ北にある鴨入遺跡から弥生後期の遺物が散布している。また、中尾根遺跡から弥生前期の土器が採取されていることから、周辺に集落域があったと想定される。

第3節 古墳時代

この時期の遺構は、7世紀前半の3号竪穴住居跡が確認されている。本遺跡地周辺には鴨入古墳群、原山古墳群、京塚古墳、車持古墳などの古墳が造営され、弥生時代に比べて遺跡数が増加する。

第4節 古代

古墳時代以降の遺構は、7世紀前半に3号竪穴住居跡がつくられ、出土遺物から8世紀と考えられる2号井戸跡を確認した。その埋土から炭化物に混じって馬歯が出土している。なんらかの祭祀儀礼が行われたと考えられる。竪穴住居跡の下層から掘立柱建物跡と考えられる柱穴を検出した。これらの竪穴住居跡下層に9世紀後半以前の掘立柱建物跡があったと想定される。11号竪穴住居跡など9世紀後半の住居がつくられる。以後10世紀後半にかけて竪穴住居跡が増加する。8号竪穴住居跡など焼失家屋を確認している。10世紀以降焼失家屋の割合が増加する傾向にある。また、10世紀前半の12号竪穴住居内で、小鍛冶遺構を確認した。このほか、10世紀前半の土器類を副葬する20号土坑(木棺墓)がある。その規格から「伸展葬」と考えられる。富岡下蔵遺跡、千福遺跡、竹之内遺跡にかけて遺物が散布していることから本遺跡地南側に集落域が広がっていたと想定される。

第5節 中世

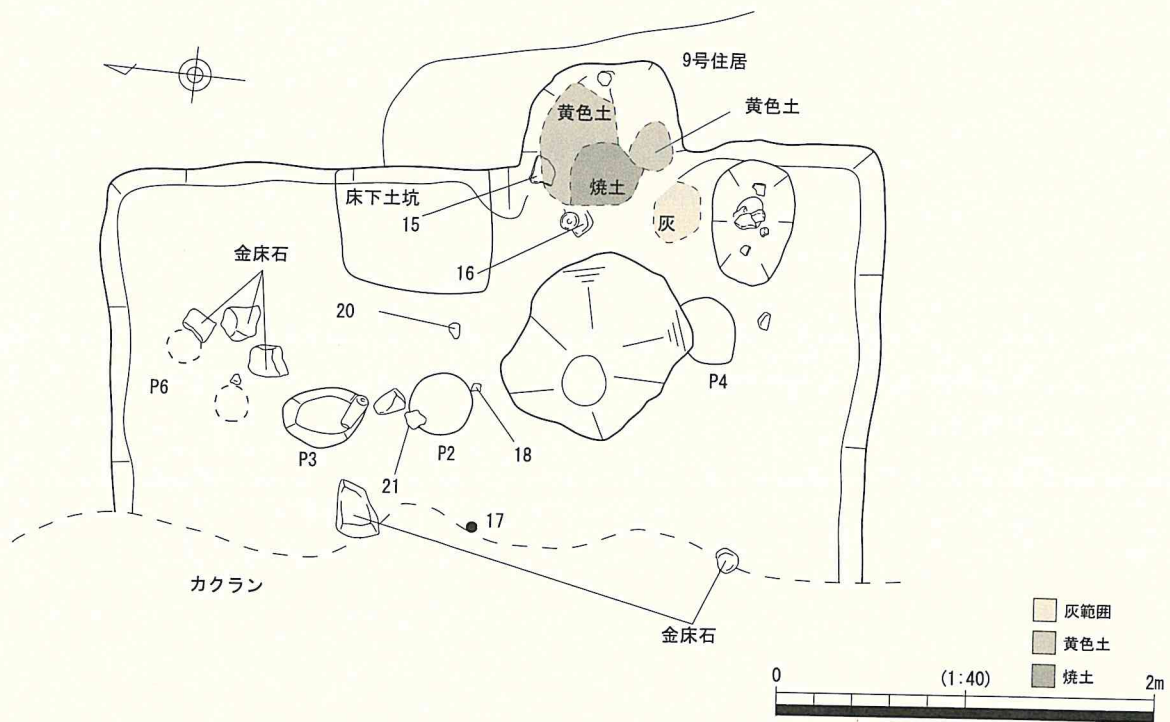
中世以降の遺構は、土坑跡が数基確認できている。出土遺物は、流れ込みと考えられるカワラケや2号溝から青磁片が出土している。

第6節 本遺跡における鍛冶遺構について

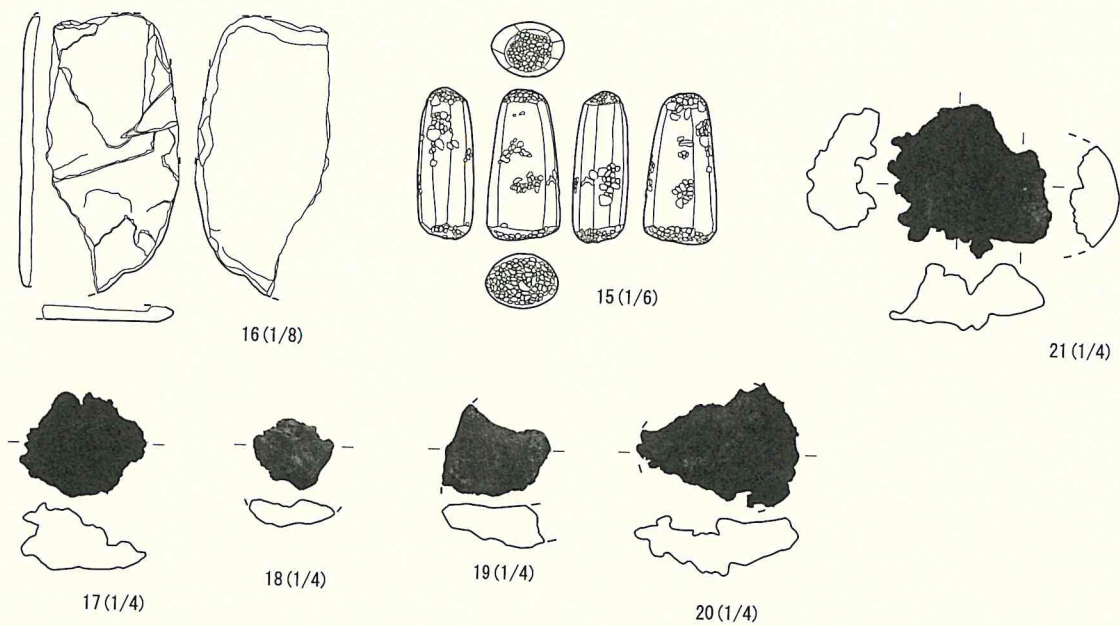
12号竪穴住居(竪穴建物)跡の鍛冶遺構、P2・P3、P4の3箇所では鍛冶遺構を確認した。検出状況から、鍛冶遺構→P4→P2・P3の順に鍛冶炉(火床炉)をつくり変えながら小鍛冶作業を行っていたと考えられる。鍛冶遺構は炉を東壁面につくり、壁外に煙道がつづく。送風口を西側につくり床面を掘りこんで鞆を設置している。P4は鍛冶遺構の掘り込みを利用して、炉を南側につくる。P2・P3は、P3に鞆を設置しP2を炉にしている。

今回確認された鍛冶遺構は、集落内に持ち込まれた小鉄塊(生成鉄塊)を鉄製品に加工する鍛冶炉と、

鉄製品を加工した火床炉があり、鍛冶遺構は小鉄塊から製品をつくり P2・3、P4は火床炉と考えられる。



第117図 鍛冶炉 平面図



第118図 鍛冶炉 出土遺物図

金床石(8～14)、敲石(15)は表面の打痕などから金床として使用されていた可能性が考えられる。

本遺跡から出土した鉄製品・鉄滓は、第45表に記した。9号竪穴住居出土の塊型鍛冶滓は、12号竪穴住居(竪穴建物)に伴うものである。3・4・5・12号竪穴住居から金床石が、6号竪穴住居から板石が出土している。遺構や出土遺物の傾向から、生成鉄塊を鉄製品に加工する鍛冶炉は、12号竪穴住居鍛冶遺構のみで、3・4・5号竪穴住居や12号竪穴住居内P2・3、P4はある程度形のできた鉄製品の加工に使われた火床炉と考えられる。

本遺跡地南旧箕郷町久留馬地区で日輪遺跡、蔵屋敷遺跡B区、蔵屋敷Ⅱ遺跡、道場遺跡(註1)などの鍛冶関連遺跡があり烏川を挟んだ旧榛名町里見地区では鉄・鉄器生産に関係する横口付木炭窯が調査されている(上里見井ノ下遺跡:註2)。遺物から七世紀後半の木炭窯と考えられる。また、中里見中川遺跡から製鉄炉、中里見根岸遺跡から炉跡が調査されている。調査は行われていないが中里見井ノ下遺跡(A:註3)で炉底塊、流動滓、炉壁、炉内滓、流出溝滓などが採集されている。下里見宮谷戸遺跡2(註4)から鉄製金床が出土している。これらの遺跡の時期は、上里見井ノ下遺跡が七世紀後半、中里見中川遺跡・中里見根岸遺跡は平安時代であり、古代における鉄・製鉄関連、木炭業に関する遺跡が烏川流域に多く存在し、時期が下るにつれ小河川沿いに広がっていく。今回の調査により一部ではあるが、この地域の鉄・製鉄関連遺跡を知ることができた。

註

- 1 榛名町誌刊行委員会2011『榛名町誌』資料編1 原始古代
- 2 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本鉄道建設公団2000「中里見遺跡群」『中里見中川遺跡』
- 3 註2 『中里見根岸遺跡』
- 4 高崎市教育委員会2014 「下里見宮谷戸遺跡2・足門東屋敷間遺跡・五霊神社古墳」『下里見宮谷戸遺跡2』

遺構名	鉄滓 (点) (g)	刀子 (点) (g)	鉄製品 (点) (g)	釘 (点) (g)	鉄 (点) (g)	塊形 (点) 鍛冶滓 (g)	鉄滓付 (点) 羽口 (g)	備考
1号住居	1 21.8 g							
3号住居		1 28.8 g	5 11.6 g					
4号住居		1 26.3 g	1 3.9 g		1 2.9 g			
5号住居		2 7.3 g						
9号住居			2 14.2 g			1 45 g		
12号住居	135 628.8 g					18 891.8 g	1 136.2 g	羽口部重さ含む。
15号住居			2 11.2 g					
16号住居			1 3.8 g					
20号土坑				7 12.2 g	2 0.8 g			
1号溝			2 11.3 g					
B-1区			3 4.7 g					
合計	136 650.6 g	4 62.4 g	17 61.8 g	7 12.2 g	3 3.7 g	19 936.8 g	1 136.2 g	187 1863.7 g

第45表 富岡下蔵遺跡 2 鉄製品・鉄滓出土一覧表

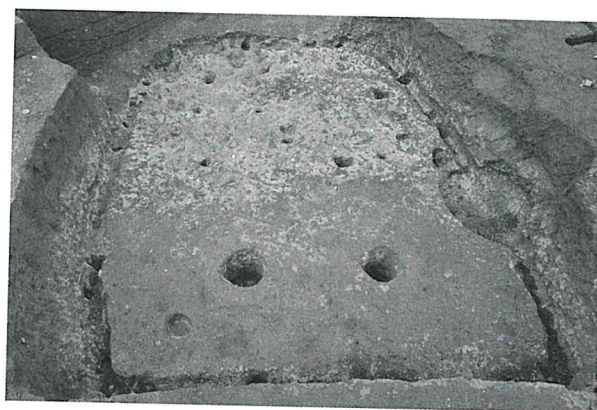
写真図版



調査区全景 (東北から)



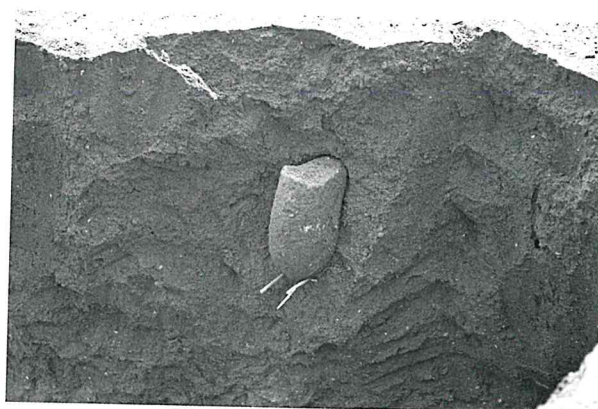
調査風景 (西から)



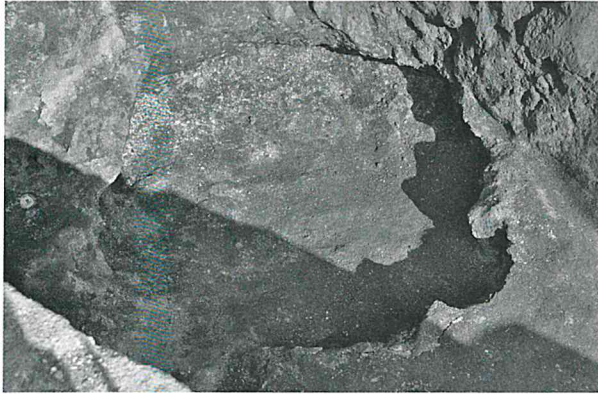
縄文時代 1 号住居跡全景 (南西から)



縄文時代 1 号住居跡遺物出土状況 (西北から)



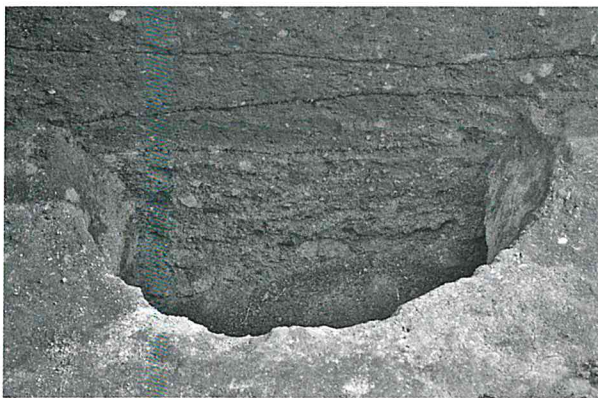
縄文時代 1 号住居跡遺物出土状況(石皿) (西北から)



縄文時代1号土坑全景 (西北から)



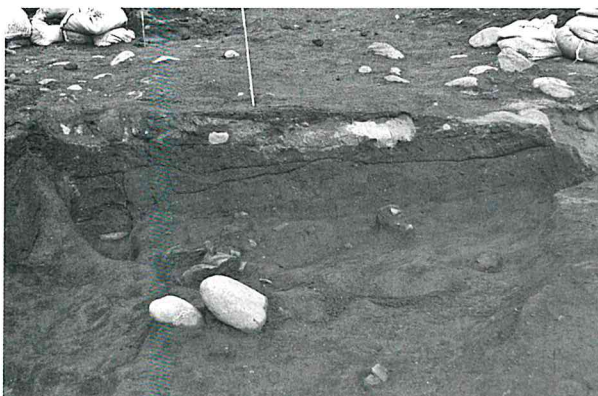
縄文時代1号住居跡+1号土坑 (北から)



縄文時代2号土坑セクション (北から)



縄文時代3号土坑全景 (西から)



縄文時代4号土坑セクション (西から)



縄文時代4号土坑遺物出土状況 (南から)



縄文時代4号土坑遺物出土状況(深鉢) (南から)



縄文時代5号土坑全景 (南から)



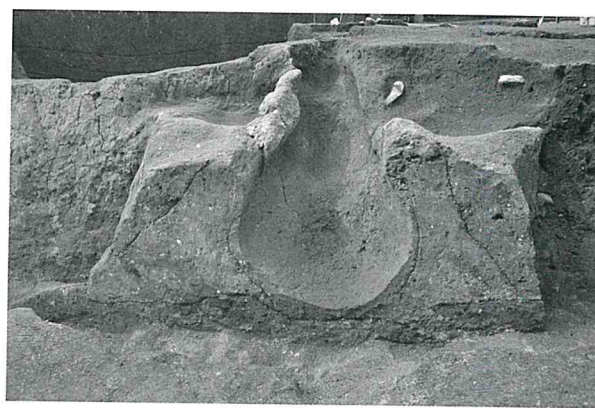
調査風景 (東北から)



1号住居跡調査風景 (西北から)



1号住居跡全景 (南から)



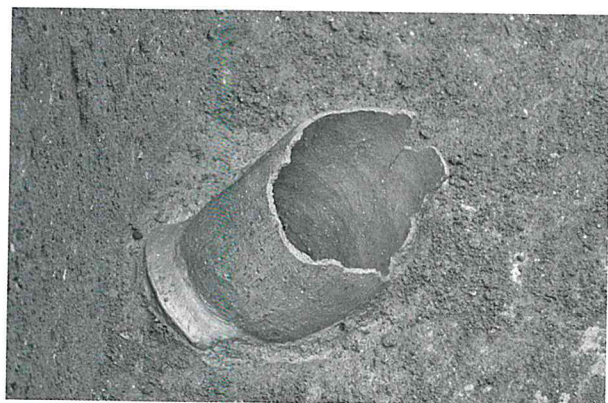
1号住居跡竈断ち割り (南から)



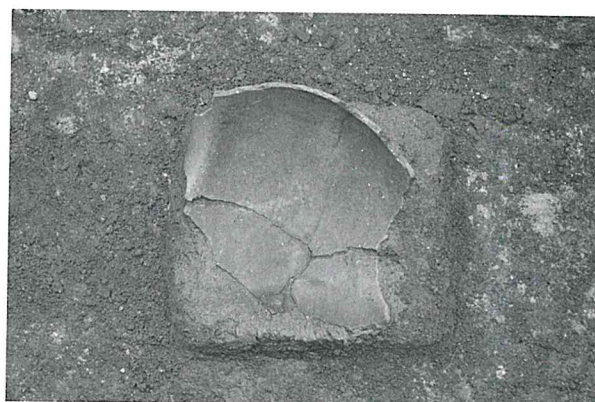
1号住居跡遺物出土状況(坏) (南から)



2号住居跡全景 (東から)



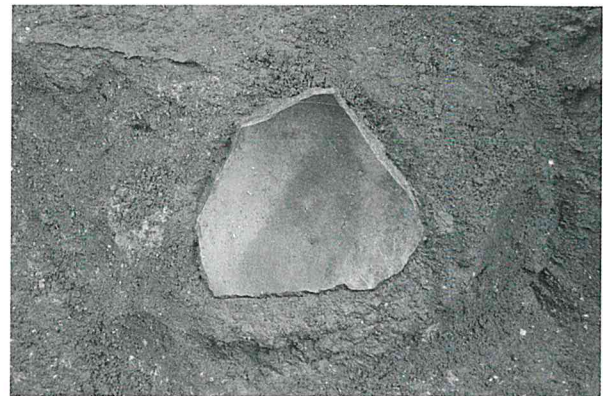
2号住居跡遺物出土状況(甕) (南から)



2号住居跡遺物出土状況(壺片) (西から)



3号住居跡全景 (東北から)



3号住居跡遺物出土状況(甕片) (北西から)



4号住居跡全景 (西から)



4号住居跡竈完掘 (西から)



4号住居跡遺物出土状況 (南から)



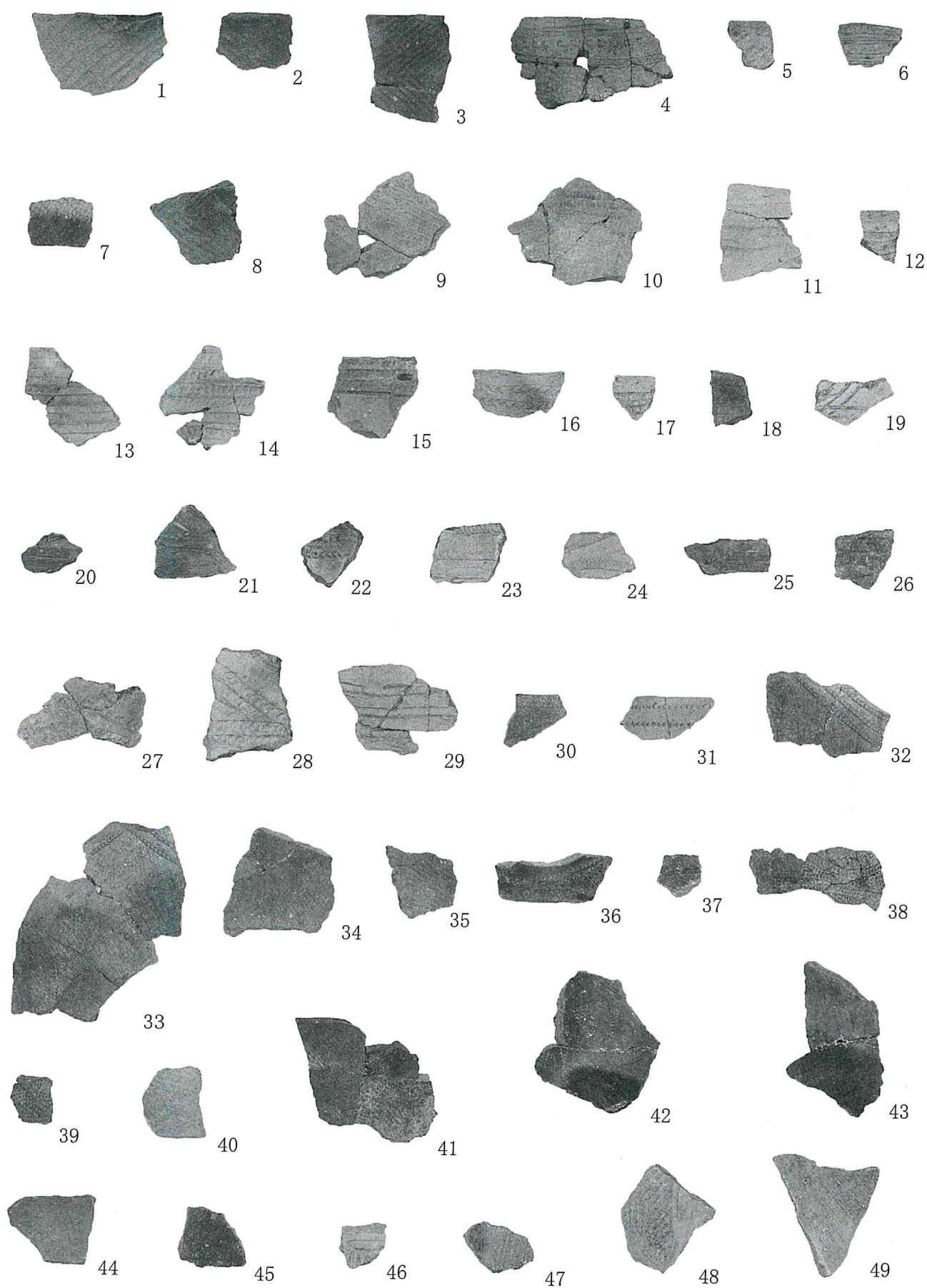
5号住居跡全景 (西から)

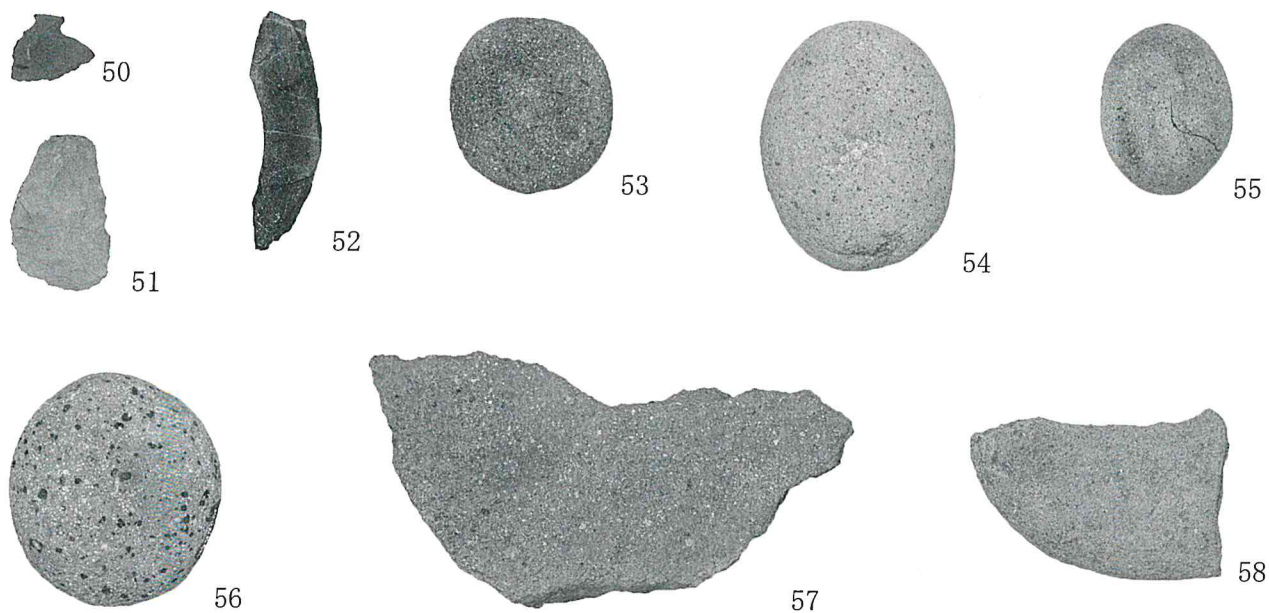


4号住居跡(手前) + 5号住居跡(奥) (西から)



埋め戻し作業 (西南から)





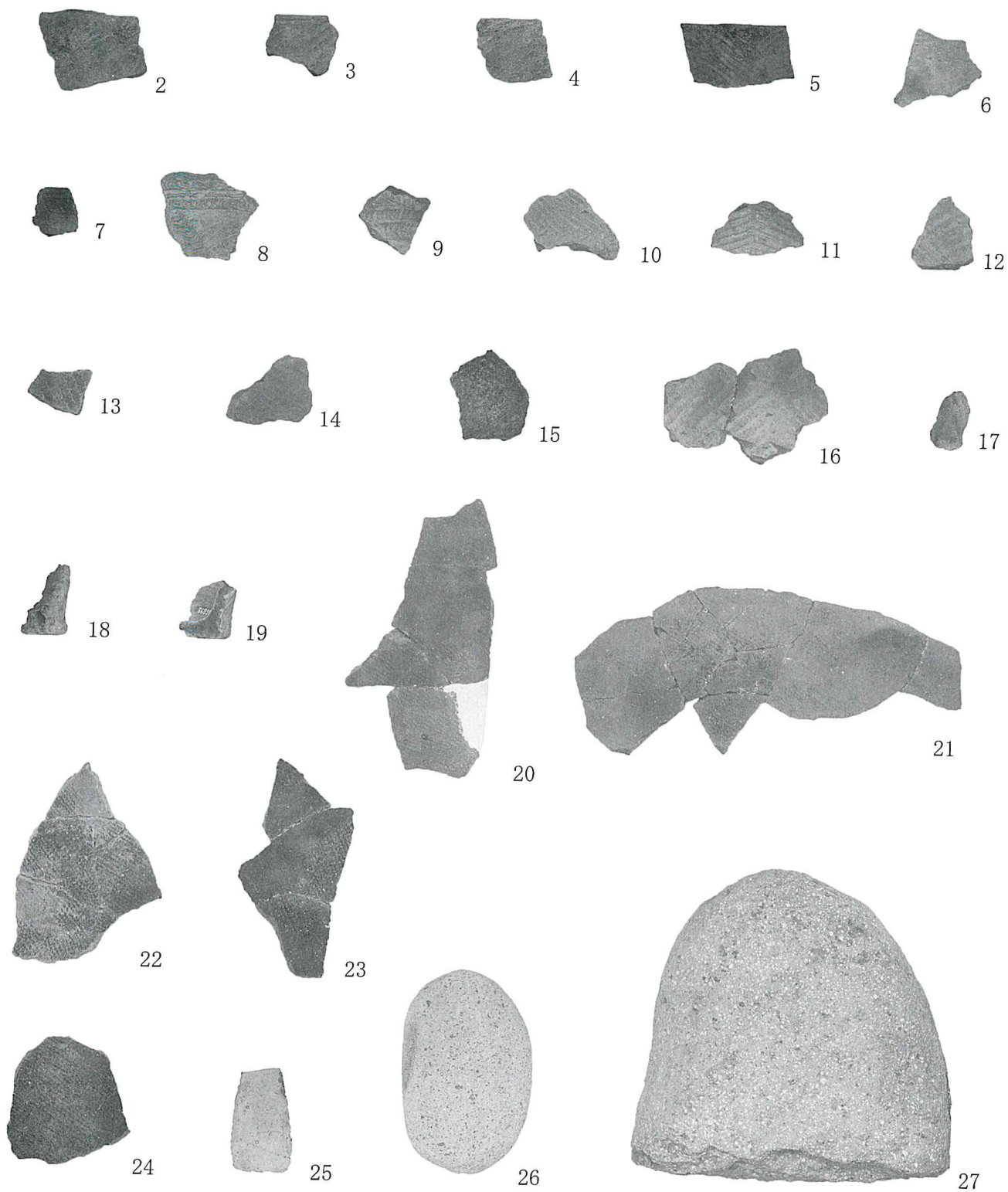
縄文時代1号住居跡出土遺物(2)



縄文時代3号土坑出土遺物



縄文時代4号土坑出土遺物(1)

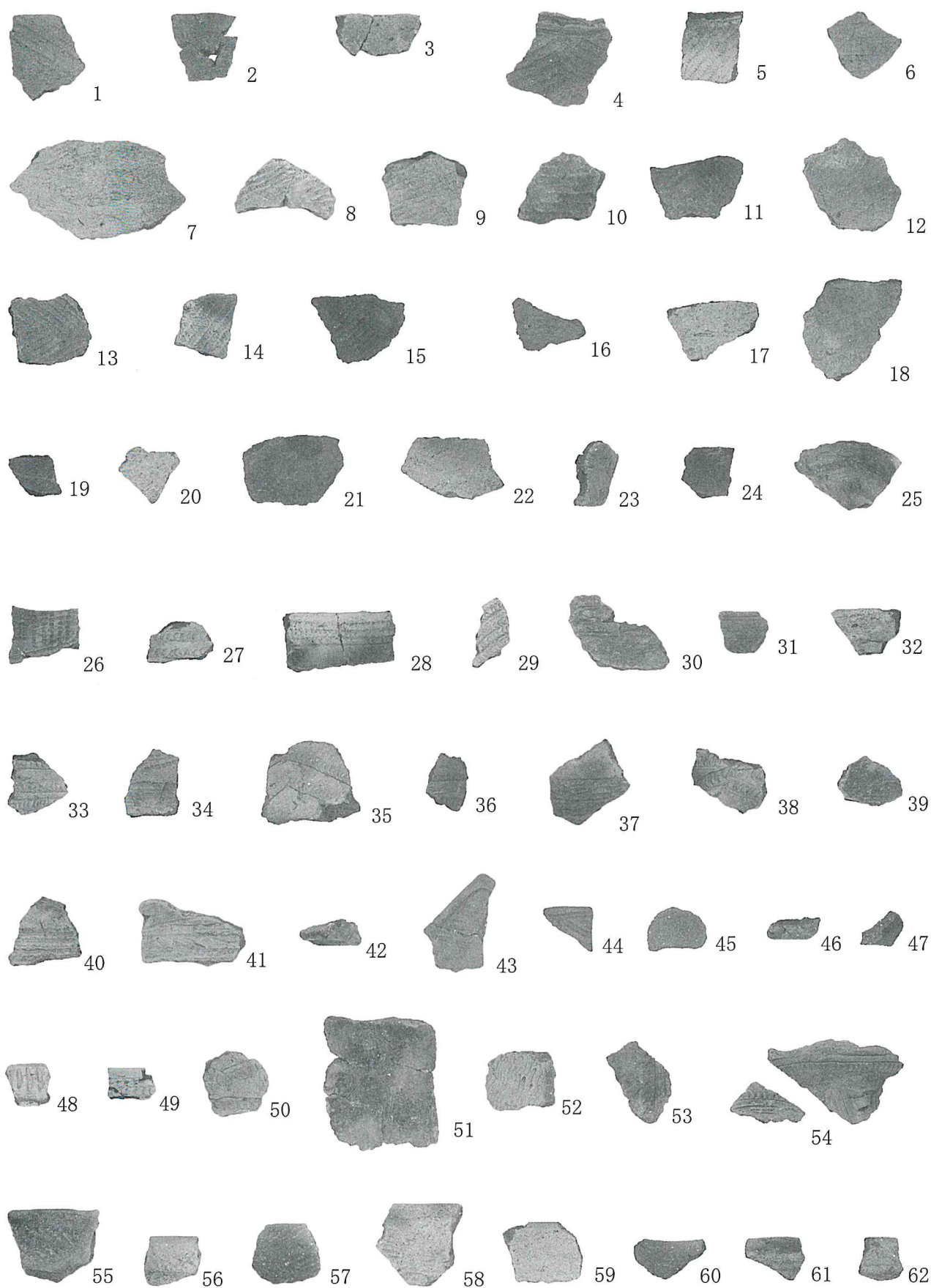


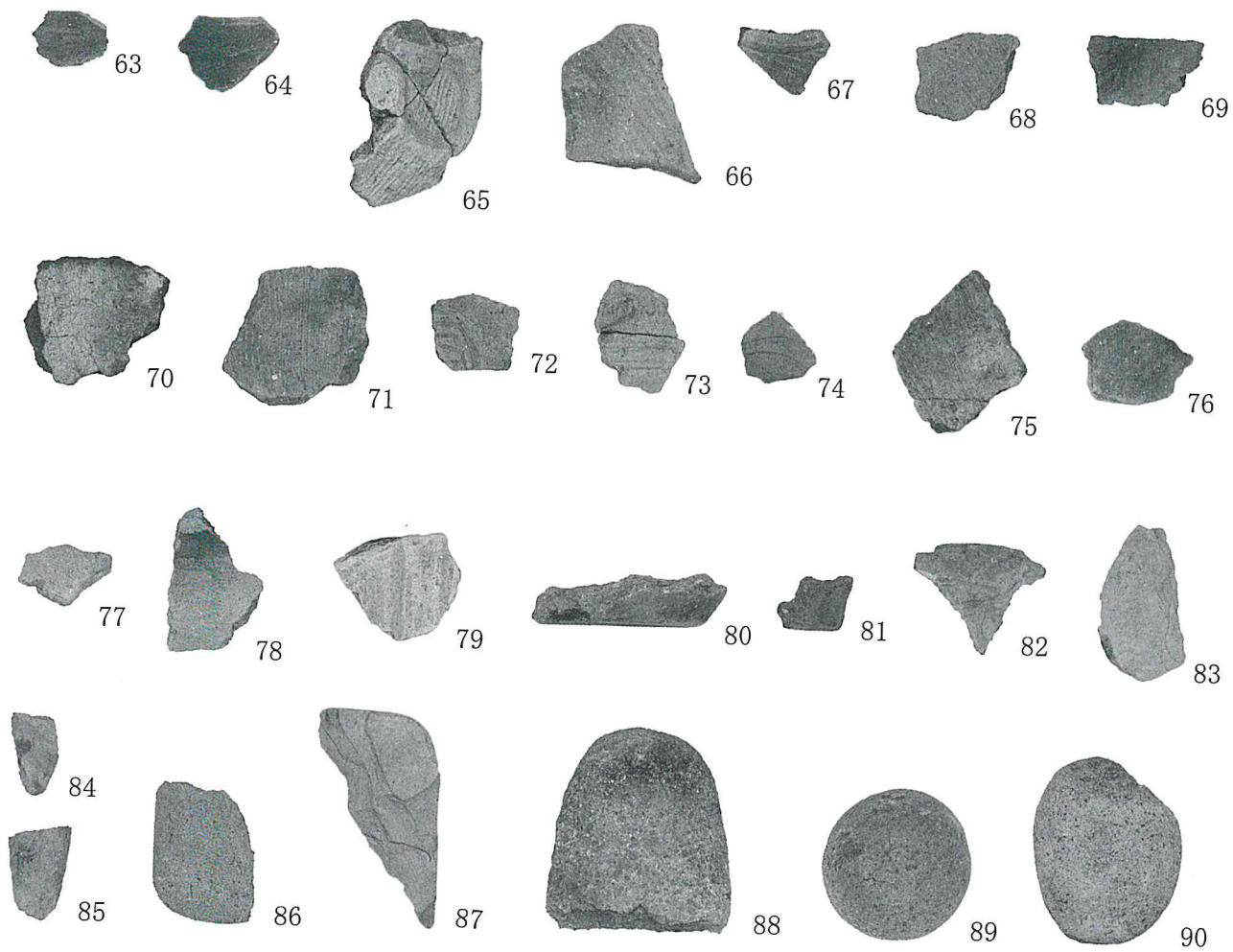
縄文時代4号土坑出土遺物(2)



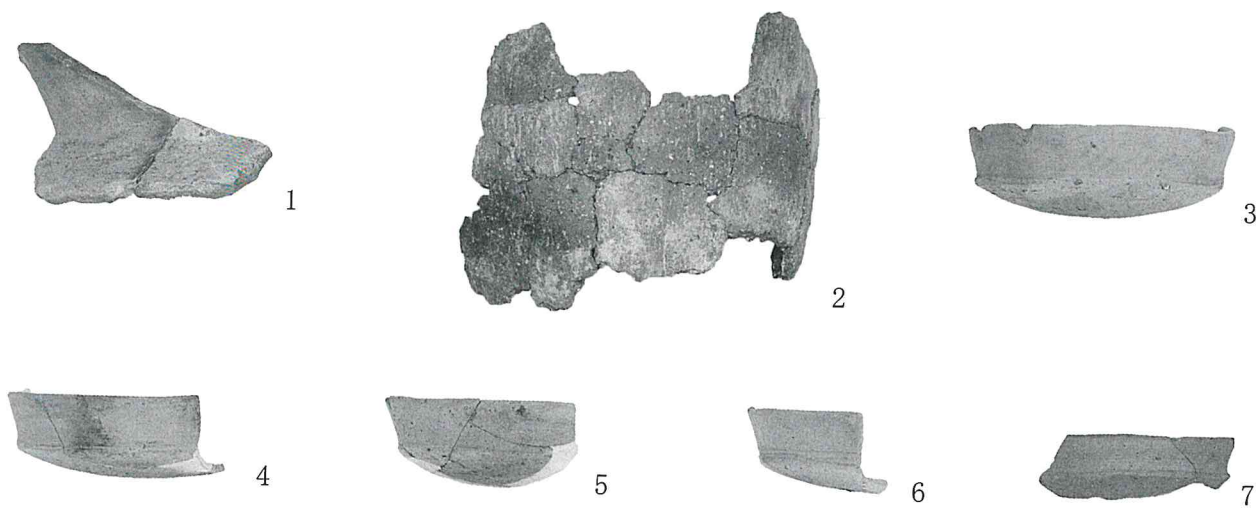
1

縄文時代5号土坑出土遺物

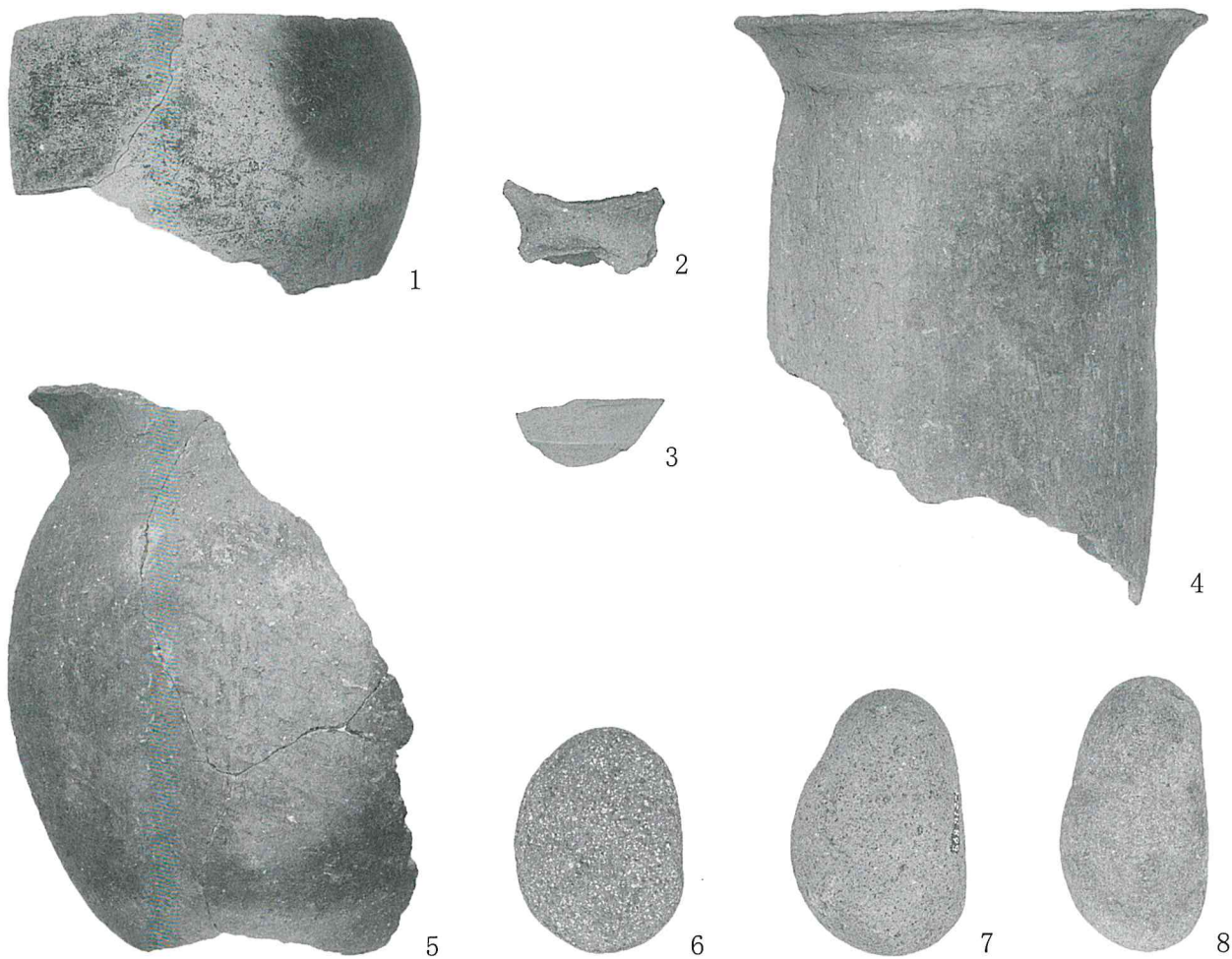




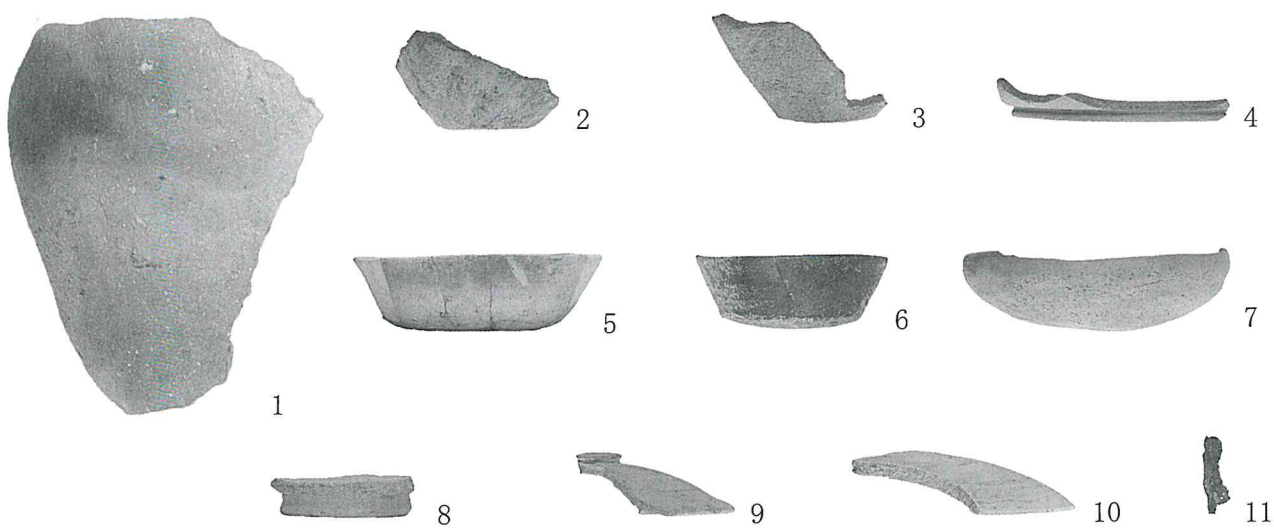
縄文時代遺構外出土遺物 (2)



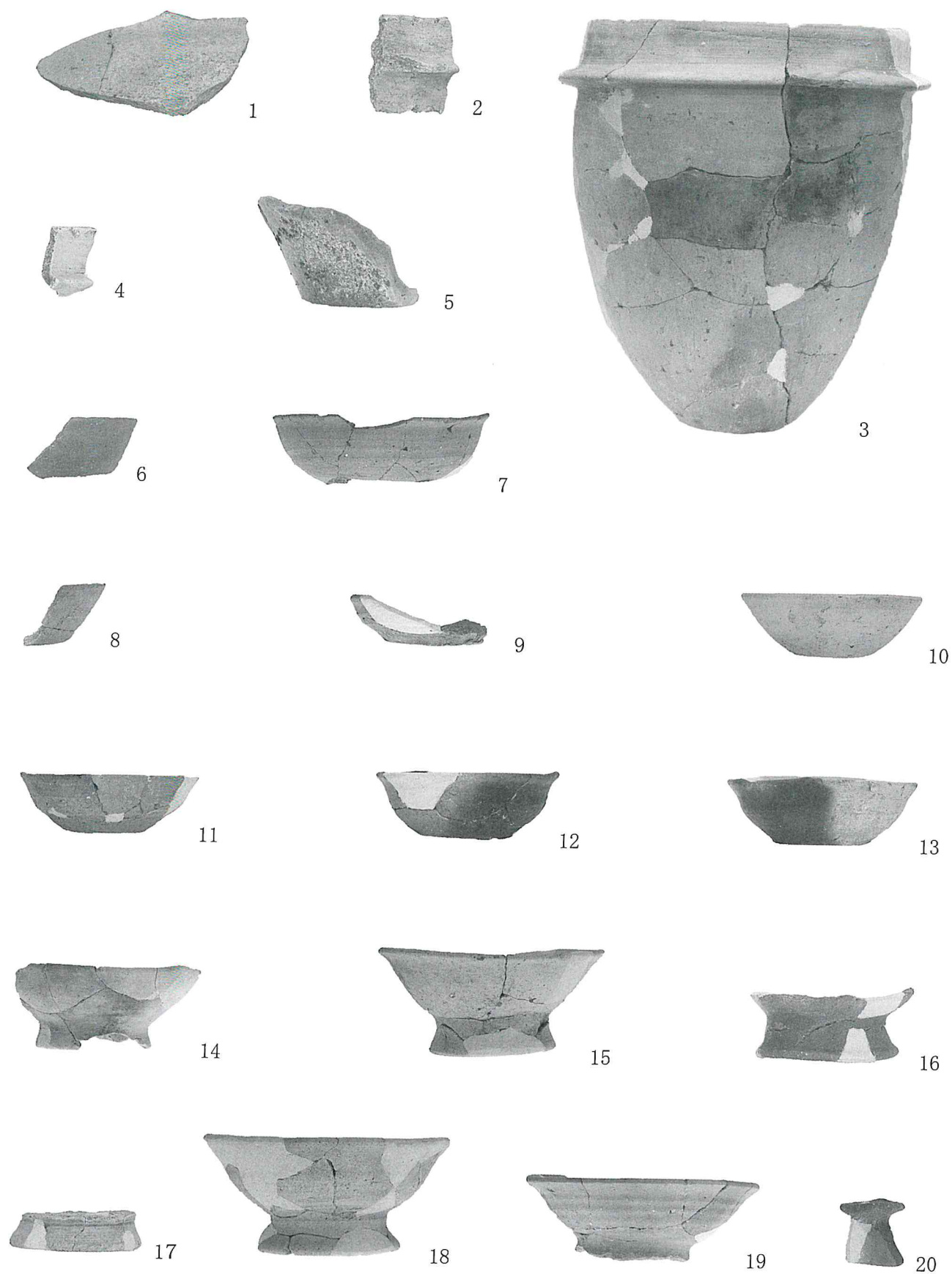
1号住居跡出土遺物



2号住居跡出土遺物



3号住居跡出土遺物





1

5号住居跡出土遺物



1



2

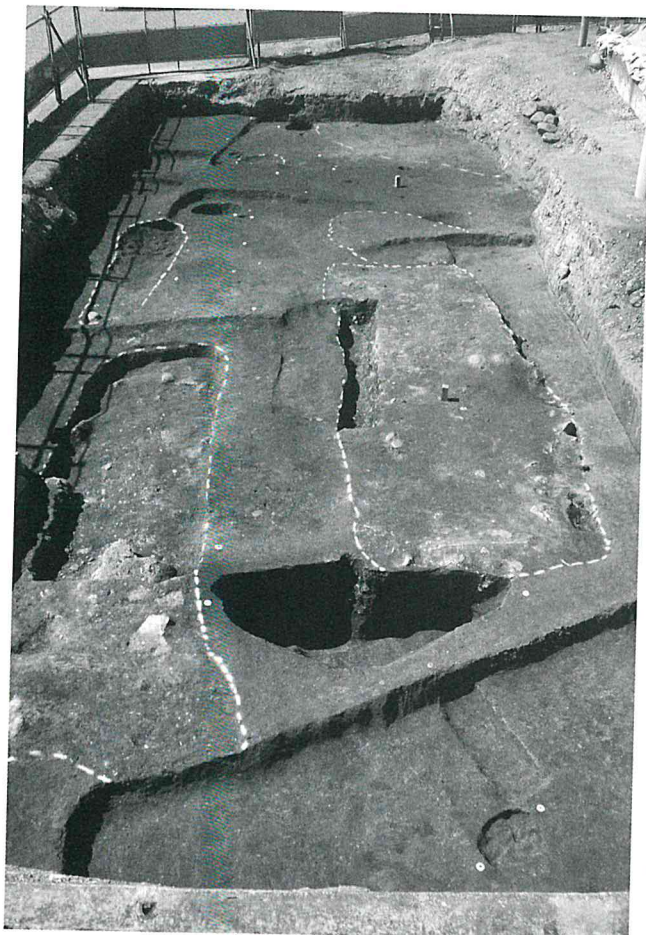


3

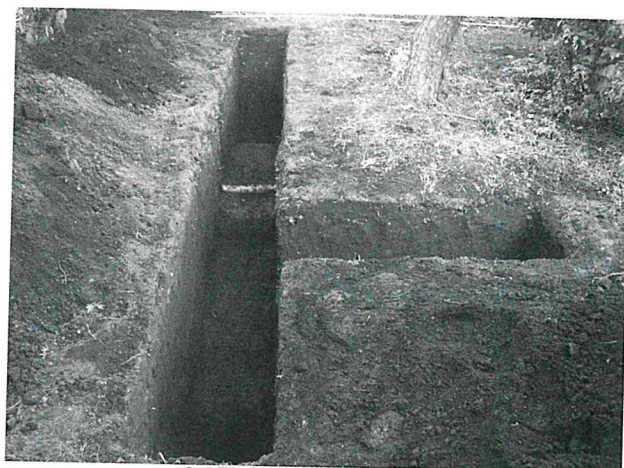
古墳～平安時代遺構外出土遺物



遺跡内出土黒曜石片



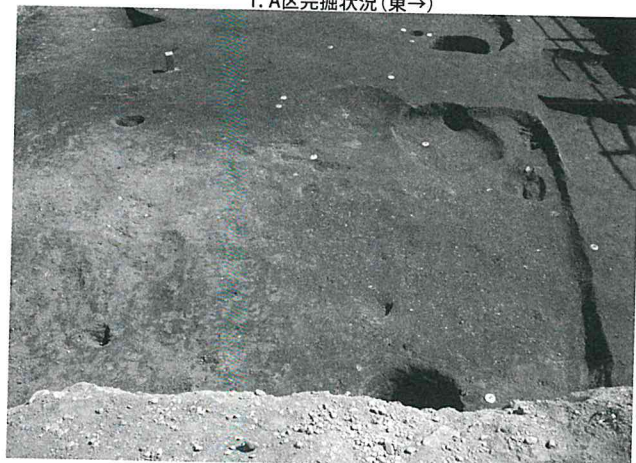
1. A区完掘状況(東→)



2. B区Aトレンチ掘削状況(西→)



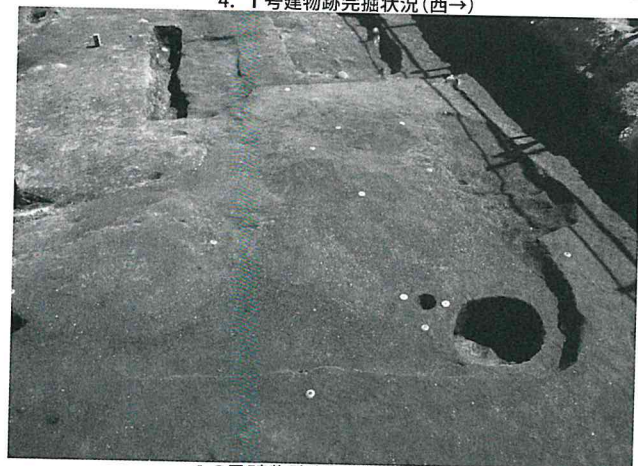
3. C区トレンチ掘削状況(南→)



4. 1号建物跡完掘状況(西→)



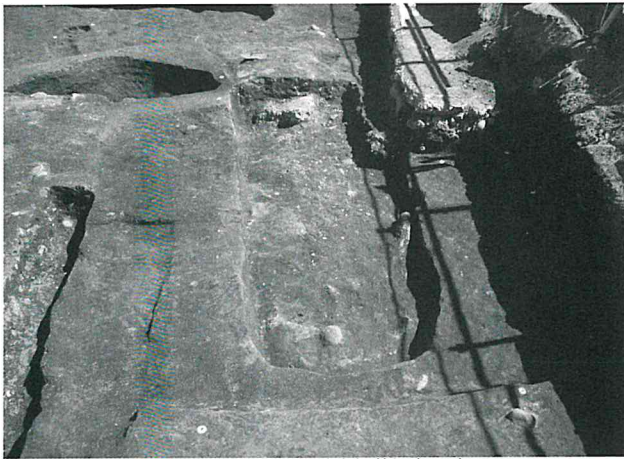
5. 1号建物跡カマド検出状況(北西→)



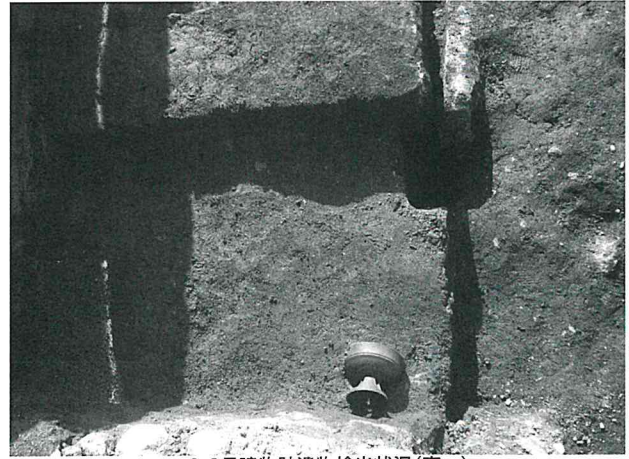
6. 2号建物跡完掘状況(西→)



7. 2号建物跡遺物検出状況(北→)



8. 3号建物跡完掘状況(西→)



9. 3号建物跡遺物検出状況(東→)



10. 3号建物跡Hr-FA検出状況(東→)



11. 43号建物跡完掘状況(北→)



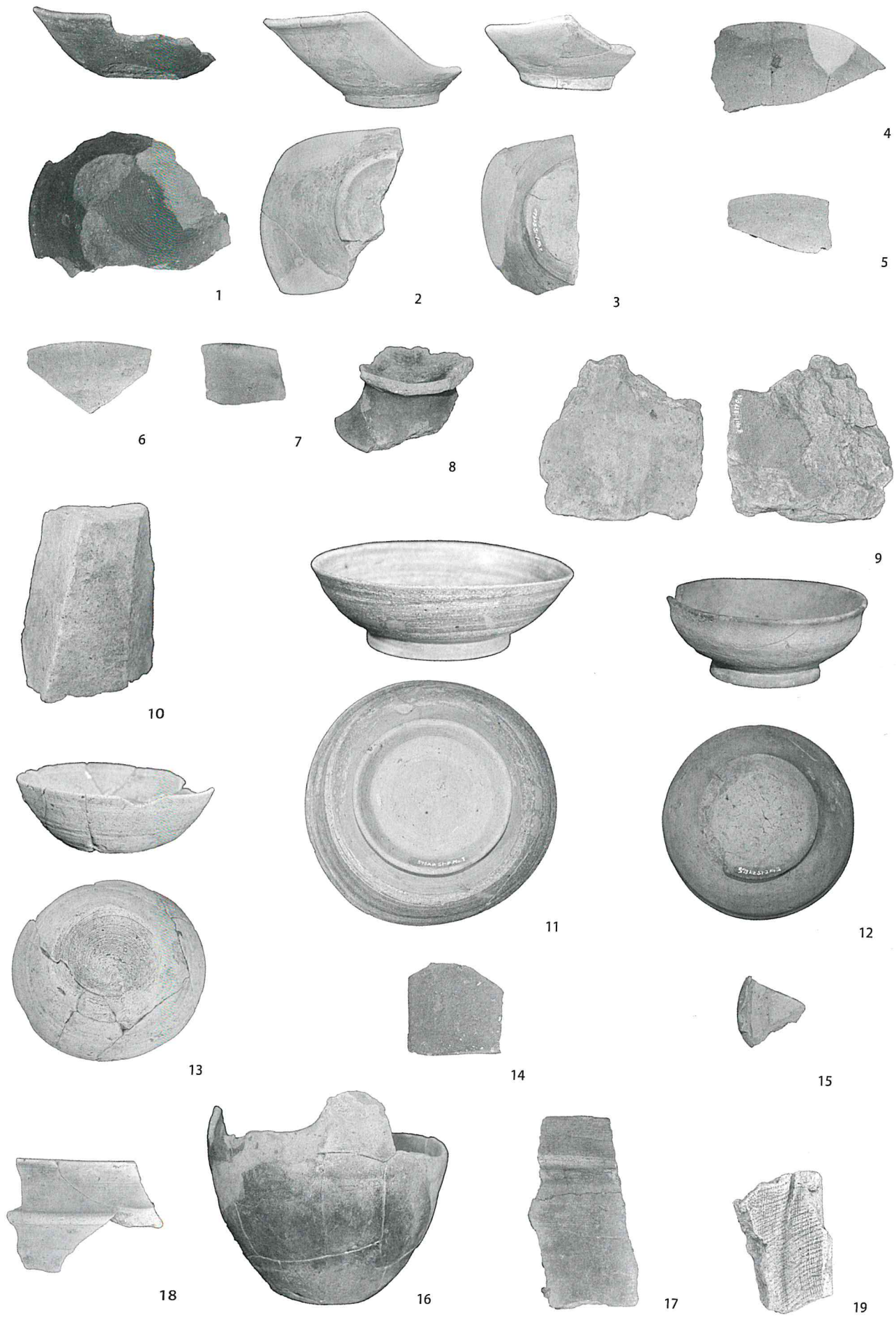
12. 43号建物跡焼土・炭化物検出状況(南→)



13. 2号土坑完掘状況(南西→)



14. 1号ピット完掘状況(北西→)





20



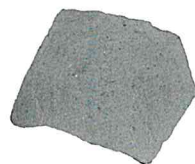
22



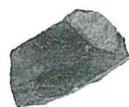
21



23



24



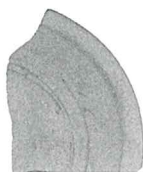
25



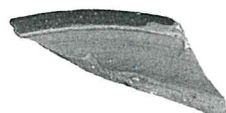
26



27



28



29



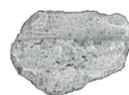
30



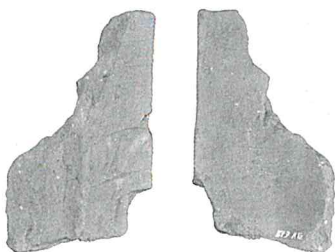
31



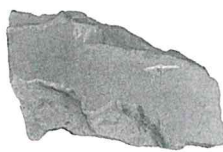
32



33



34



35



37



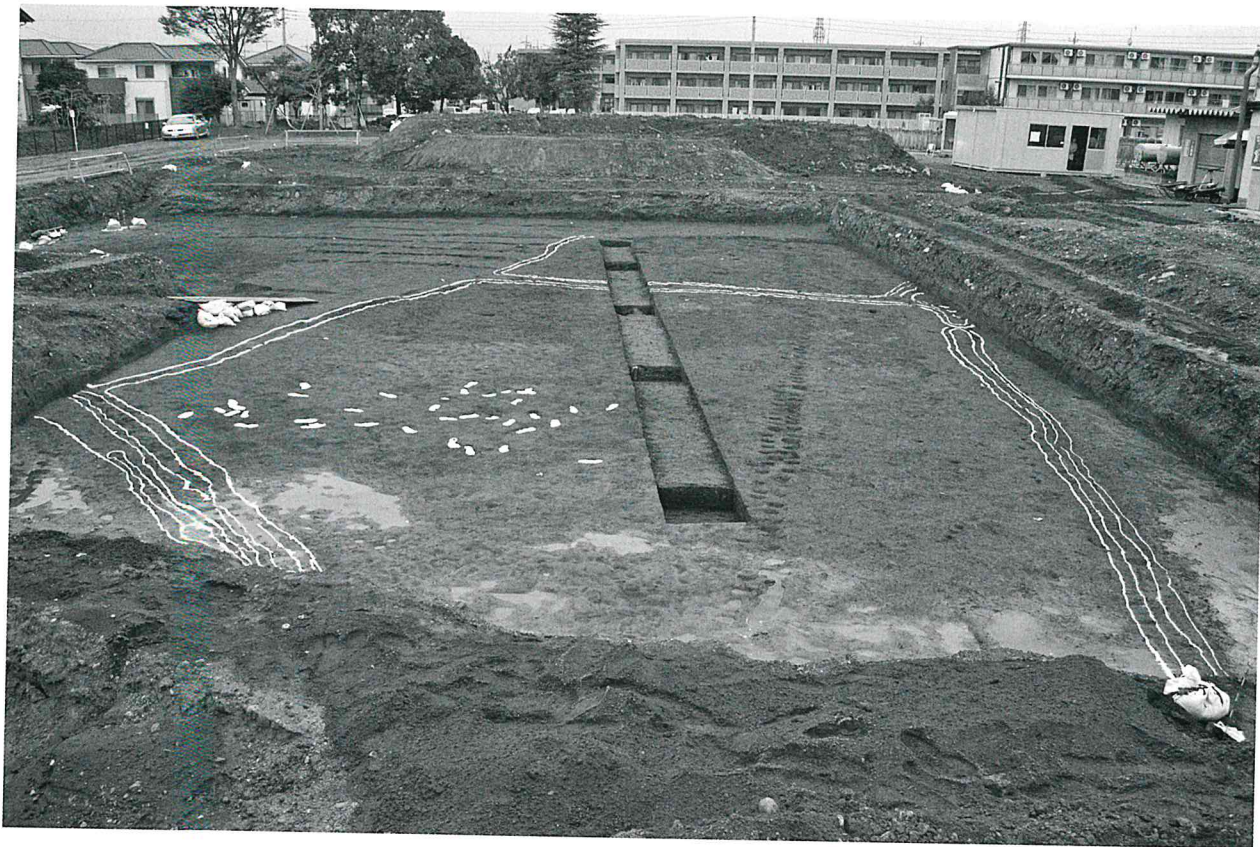
36



38



39



水田面全景 (南から)



調査前全景 (北から)



掘削作業開始状況 (北から)



水田面調査風景 (南東から)



鋤状痕検出状況 (北から)



足跡及び鋤状痕検出状況 (東南から)



水田面近景 (南から)



足跡検出状況(1) (北から)



足跡検出状況(2) (上から)



足跡検出状況(3) (西から)



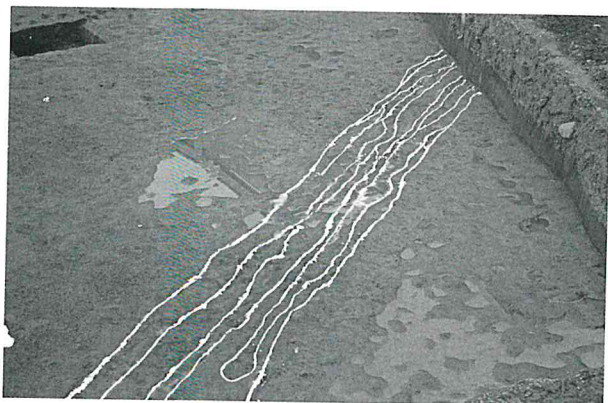
水口検出状況 (西南から)



畦畔検出状況(1) (南西から)



畦畔検出状況(2) (北から)



水路状遺構検出状況 (西北から)



水田面全景 (北から)



遺物包含区調査風景 (南西から)



遺物出土状況(1) (南から)



遺物出土状況(2) (東から)



遺物出土状況(3) (埴輪片、坏片) (北東から)



遺物出土状況(4) (坏片、小型壺片) (北東から)



遺物出土状況(5) (南から)



遺物出土状況(6) (北から)



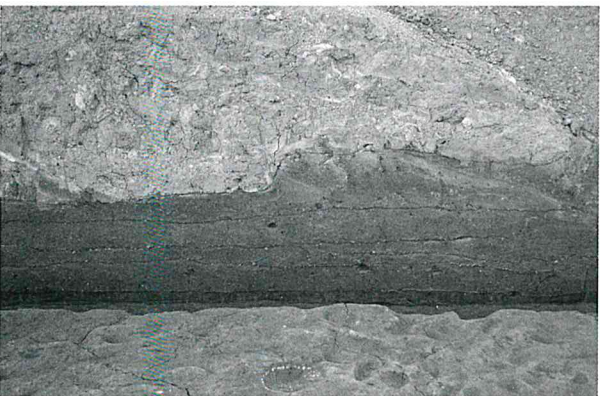
畠状の遺構全景 (北から)



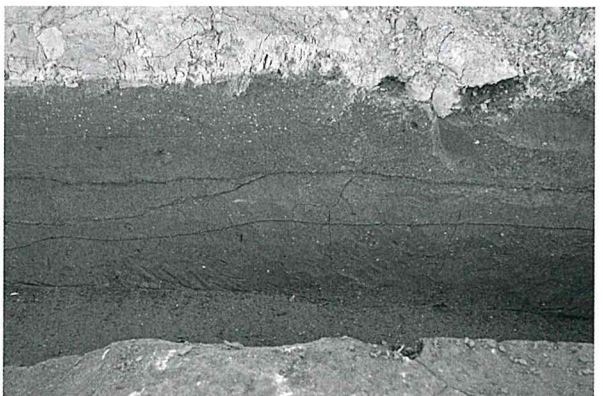
1号溝全景及び断面 (北から)



児童の現場見学 (西から)



断ち割り断面(西壁) (東から)



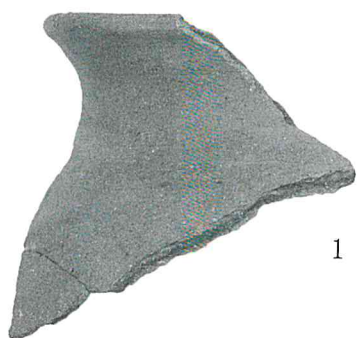
断ち割り断面(南壁) (北から)



埋め戻し作業 (南から)



埋め戻し終了状況 (北から)



1



2



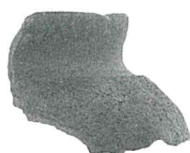
3



4



5



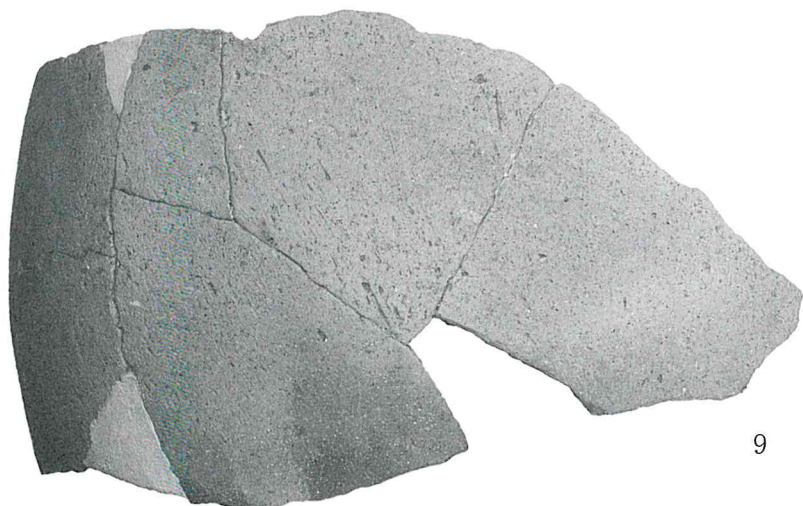
6



7



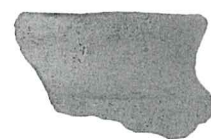
8



9



10



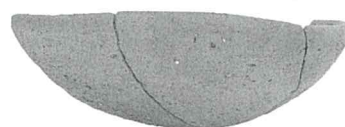
11



12



13



14



15



16



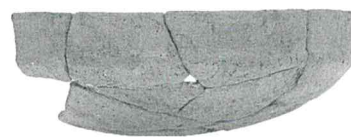
17



18



19



20



21



22



23



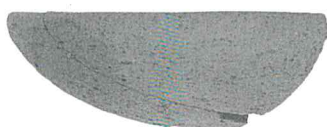
24



25



26



27



28



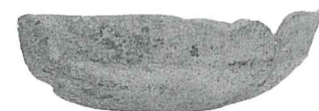
29



30



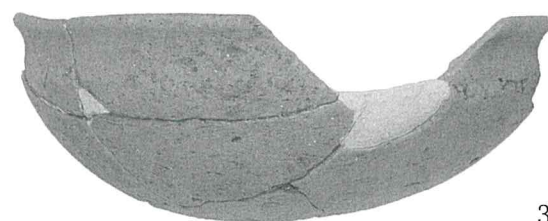
31



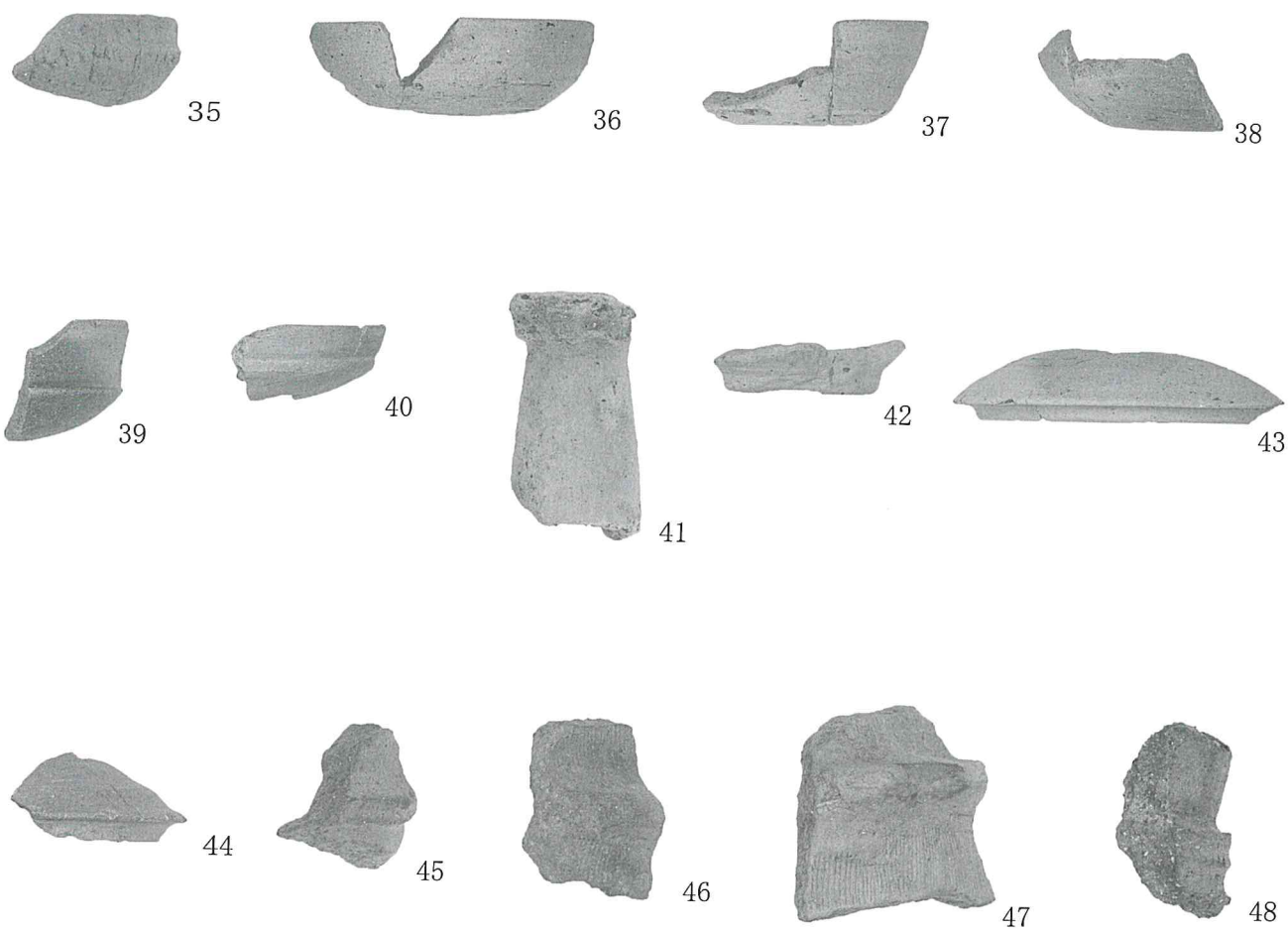
32



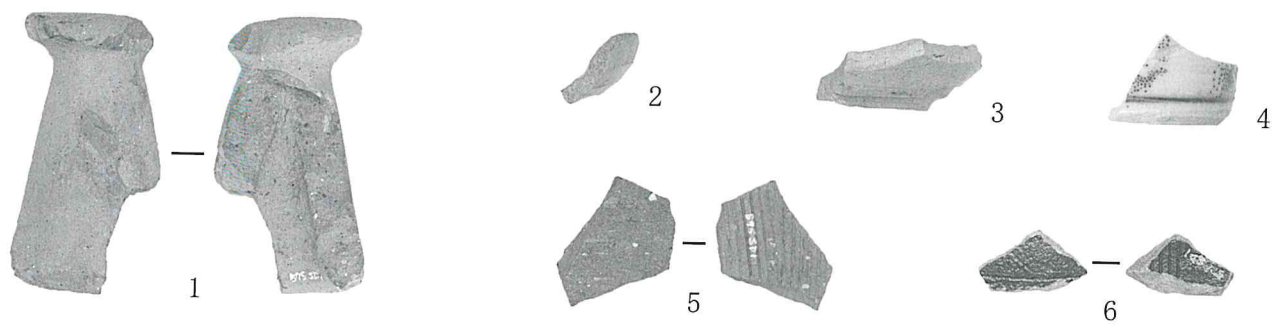
33



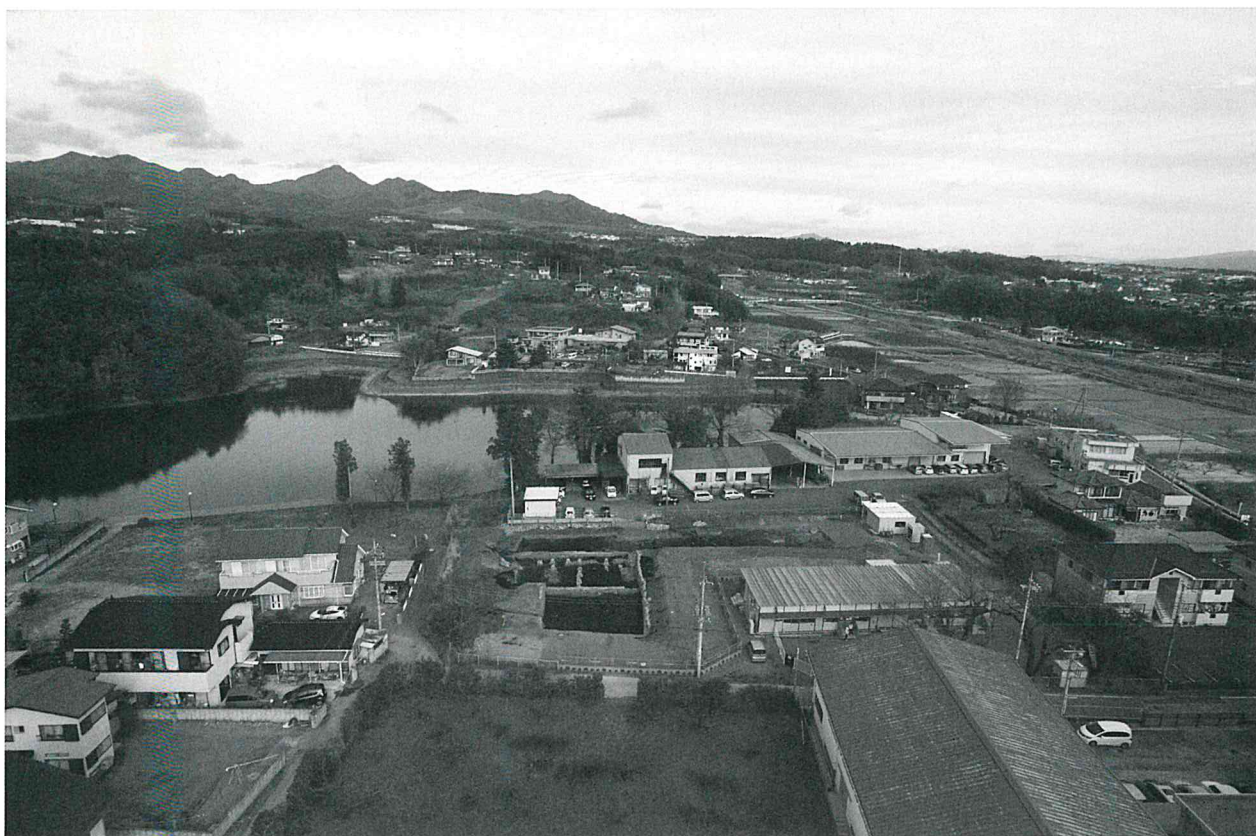
34



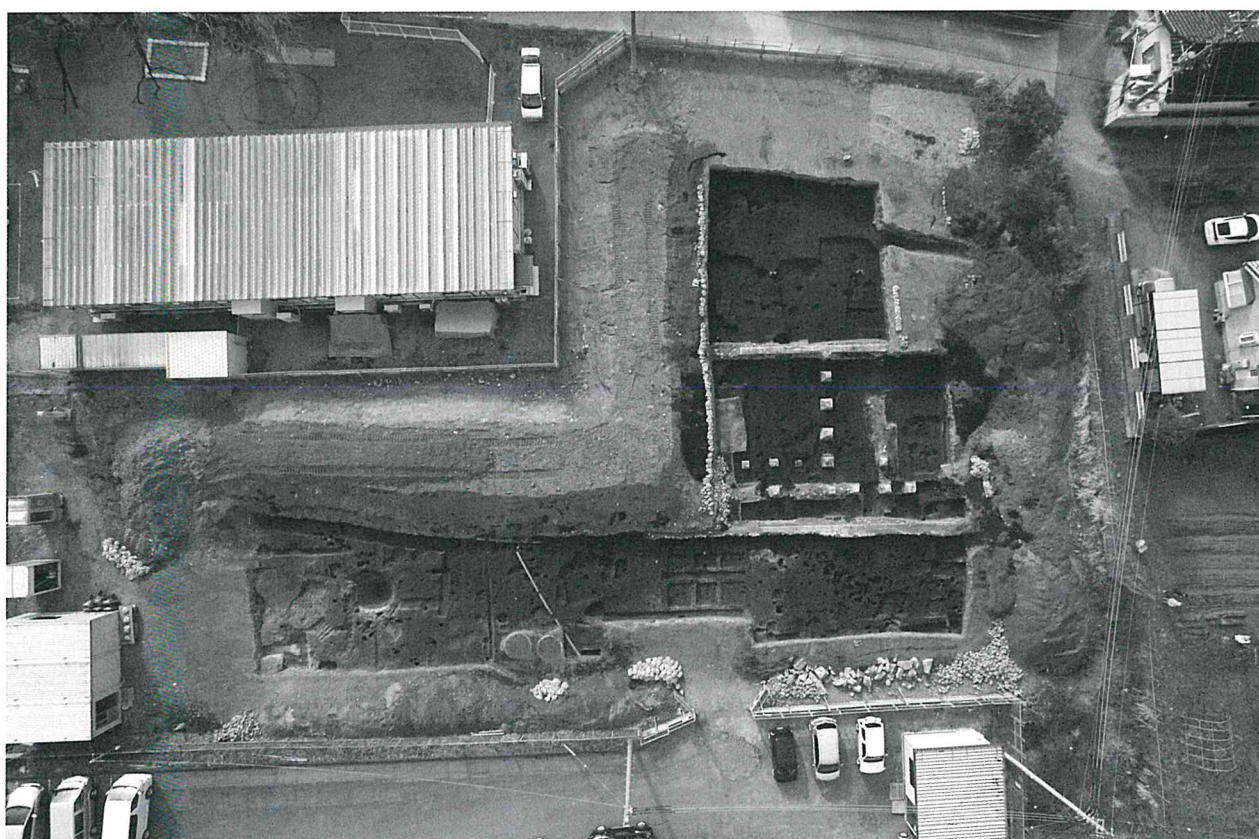
遺物包含区出土遺物 (3)



1号溝出土遺物



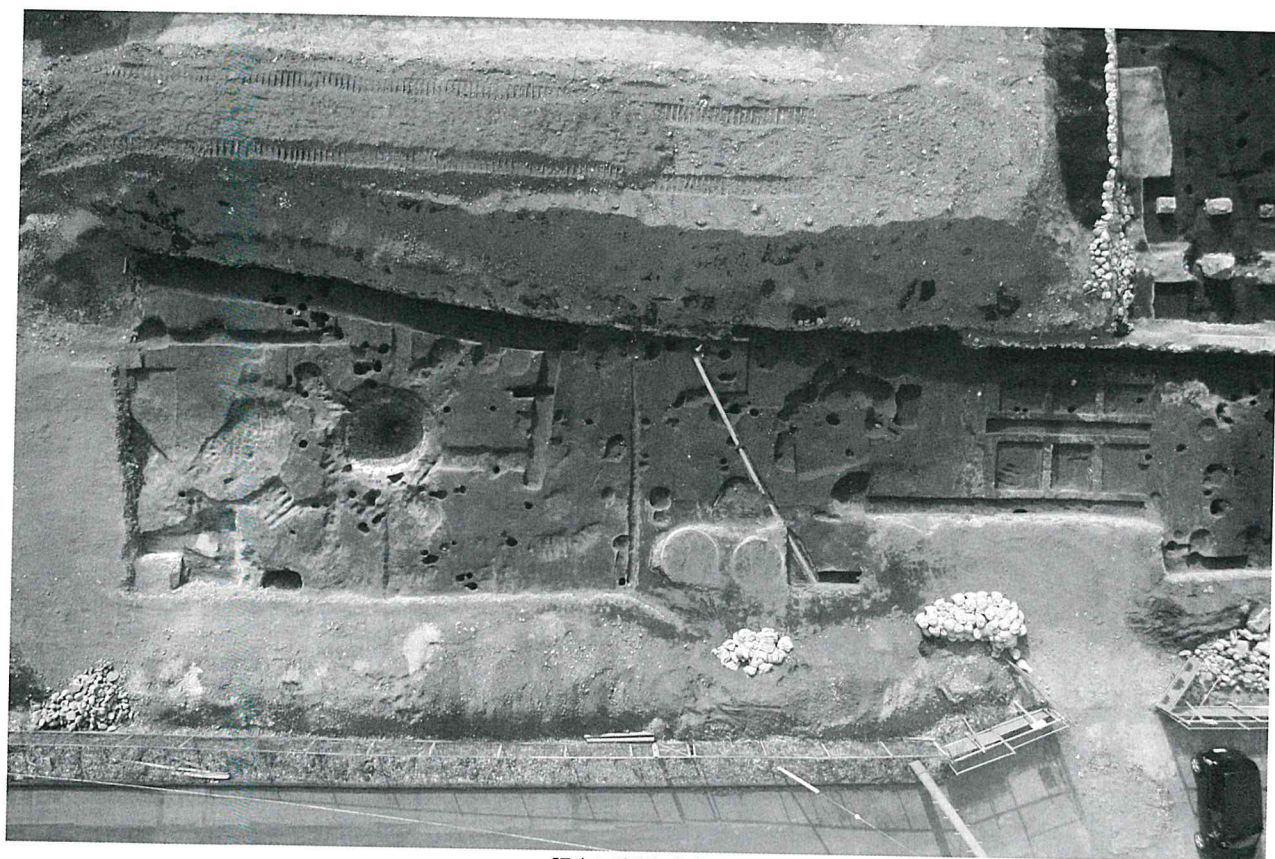
調査区全景 南から榛名山を望む



調査区全景 北から



調査区西側 東から



調査区東側 北から



2号竪穴住居跡全景(南から)



3号竪穴住居カマド跡SP.B-B' (西から)



3号竪穴住居カマド掛口跡(東から)



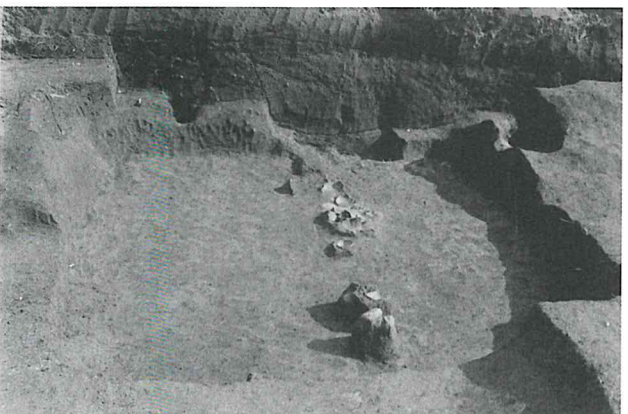
3号竪穴住居カマド跡全景(西から)



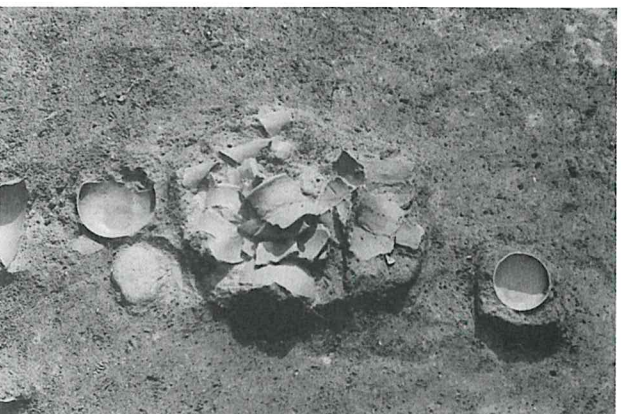
4号竪穴住居カマド跡全景①(西から)



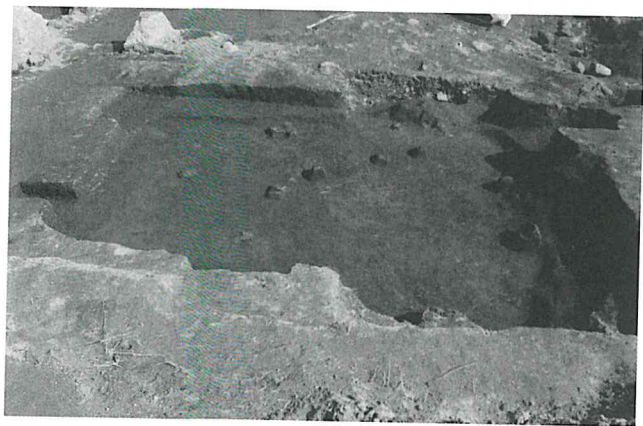
4号竪穴住居カマド跡全景②石取り上げ後(西から)



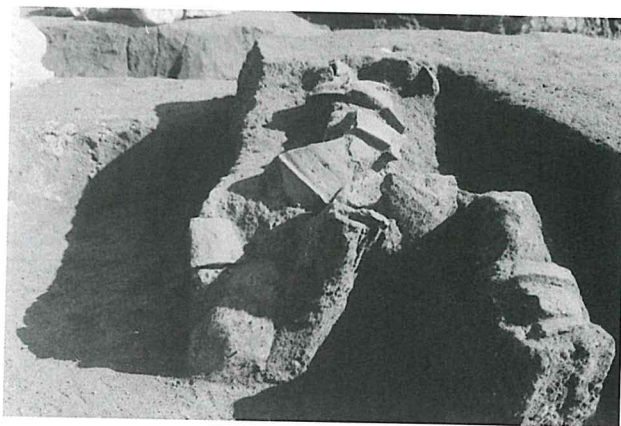
7号竪穴住居跡遺物出土状況①(西から)



7号竪穴住居跡遺物出土状況②(直上から)



9号竪穴住居跡全景(西から)



11号竪穴住居跡遺物出土状況(西から)



12号竪穴住居跡遺物出土状況(東南から)



12号竪穴住居跡1号羽口出土状況(西南から)



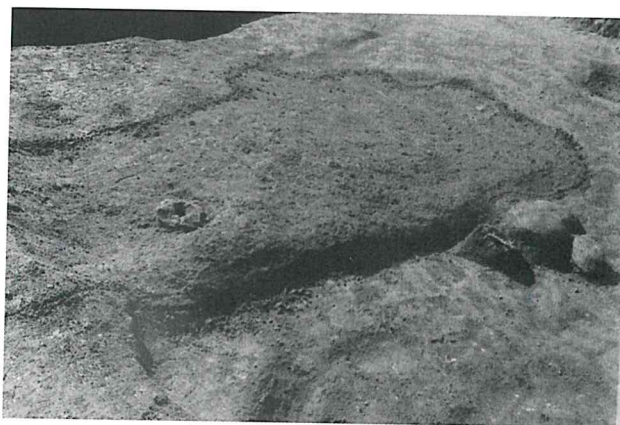
12号竪穴住居跡1号羽口出土状況(南から)



12号竪穴住居跡鍛冶遺構遺物出土状況(東から)



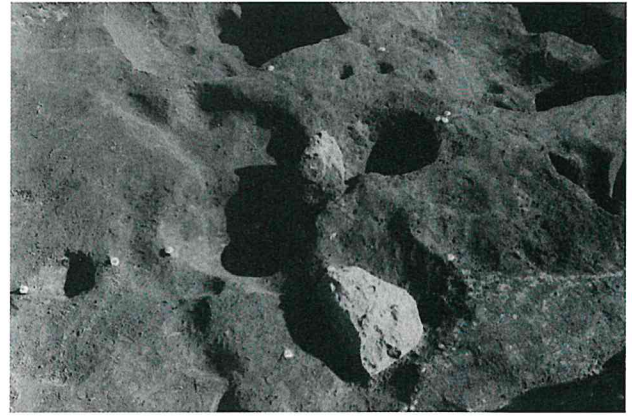
12号竪穴住居鍛冶炉跡①(北西から)



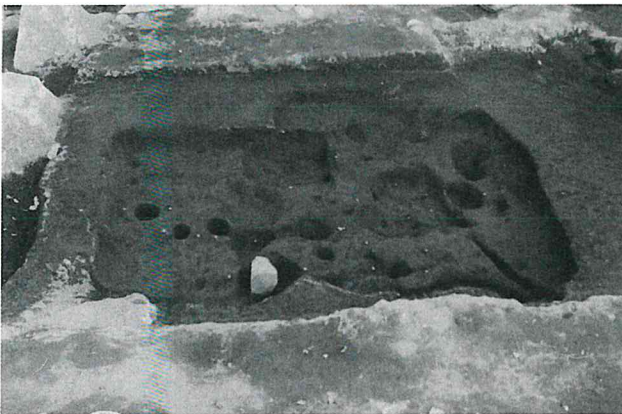
12号竪穴住居鍛冶炉跡②(北東から)



12号竪穴住居鍛冶炉跡③(西から)



12号竪穴住居2号鍛冶炉跡(北から)



12号竪穴住居跡掘り方全景(西から)



12号竪穴住居跡全景(西から)



12号竪穴住居跡全景(西から)



15号竪穴住居跡遺物出土状況(東から)



15号竪穴住居カマド跡遺物出土状況(西から)



15号竪穴住居跡全景(西から)



17号竪穴住居炉跡埋設土器(北から)



17号竪穴住居跡遺物出土状況(西から)



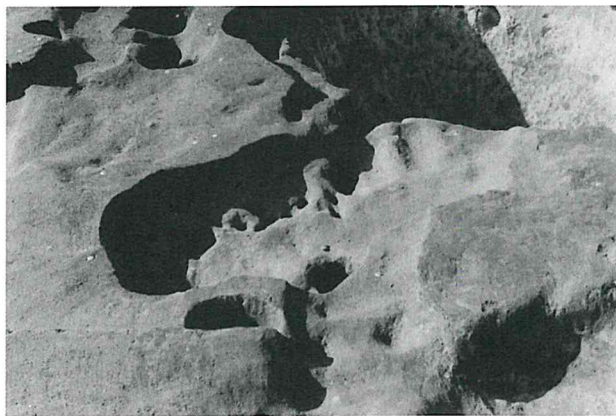
17号竪穴住居跡埋甕(東から)



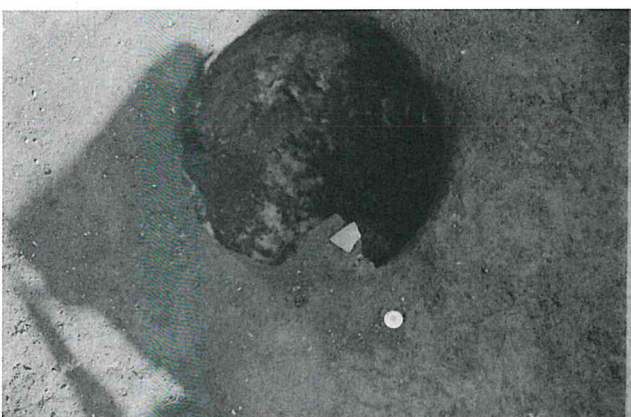
19号竪穴住居跡全景(西から)



20号土坑跡遺物出土状況(直上から)



20号土坑跡全景(東から)



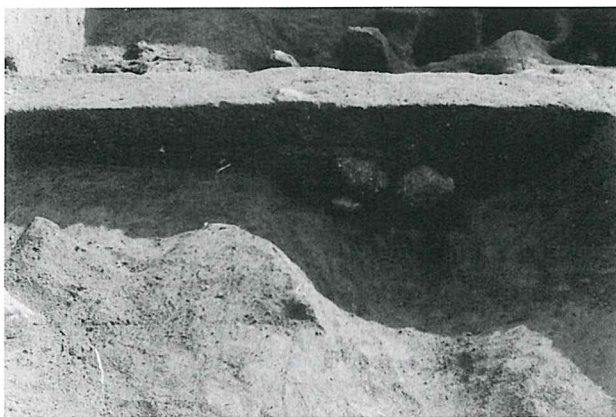
93号ピット跡緑釉出土状況(西から)



2号井戸跡全景(北から)

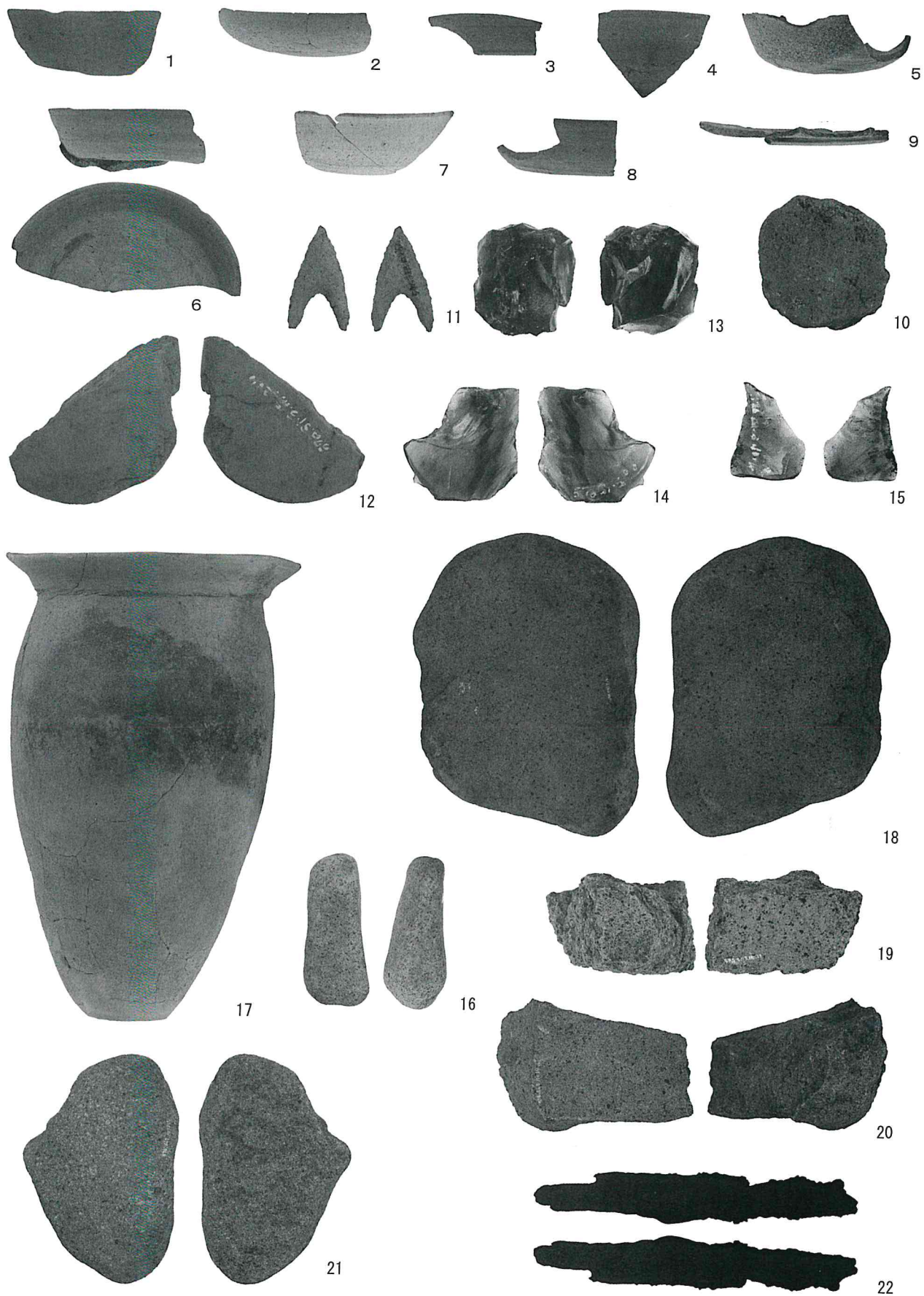


1号溝跡遺物出土状況(南から)

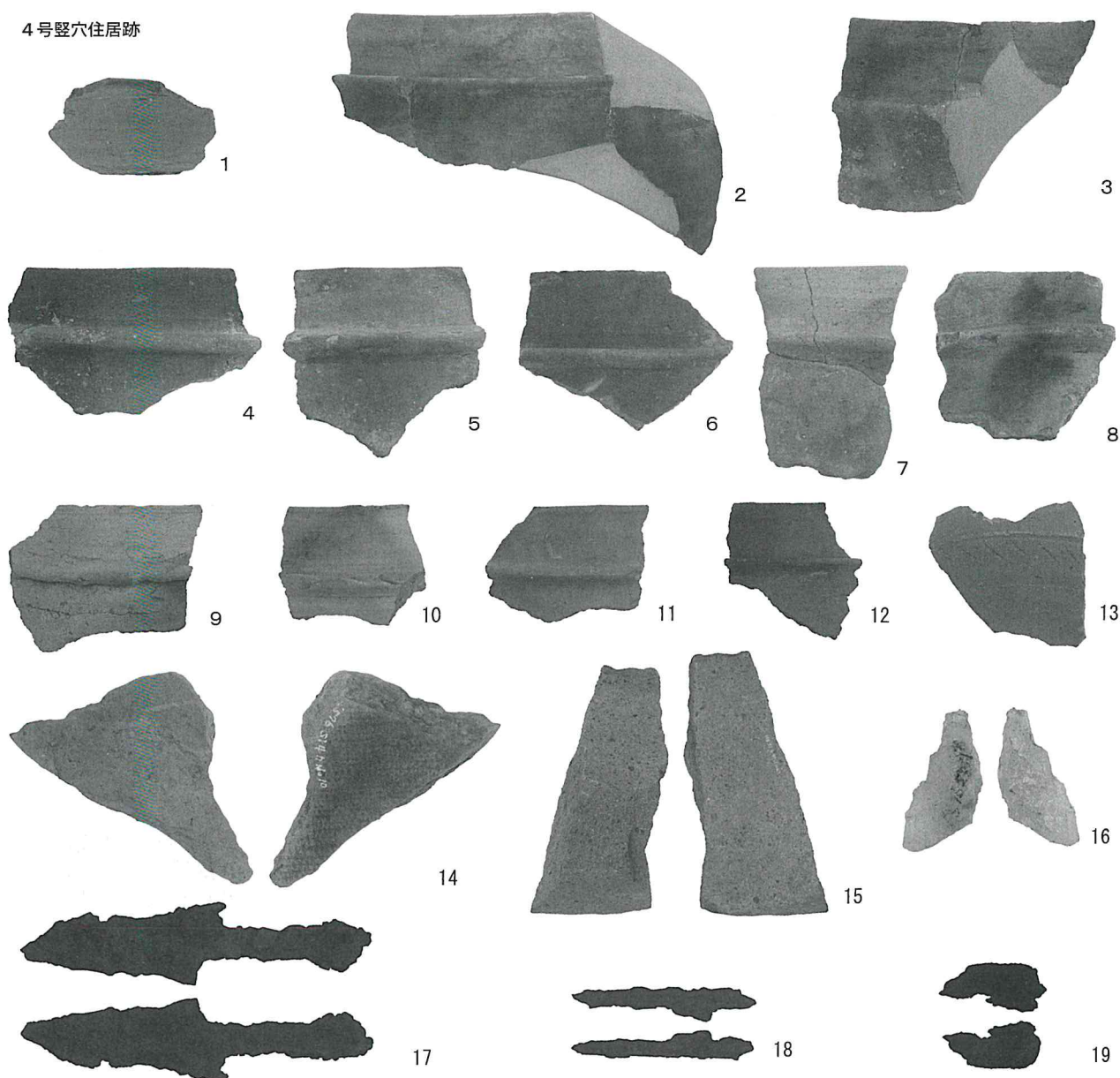


1号溝跡・8号竪穴住居跡セクション(北から)

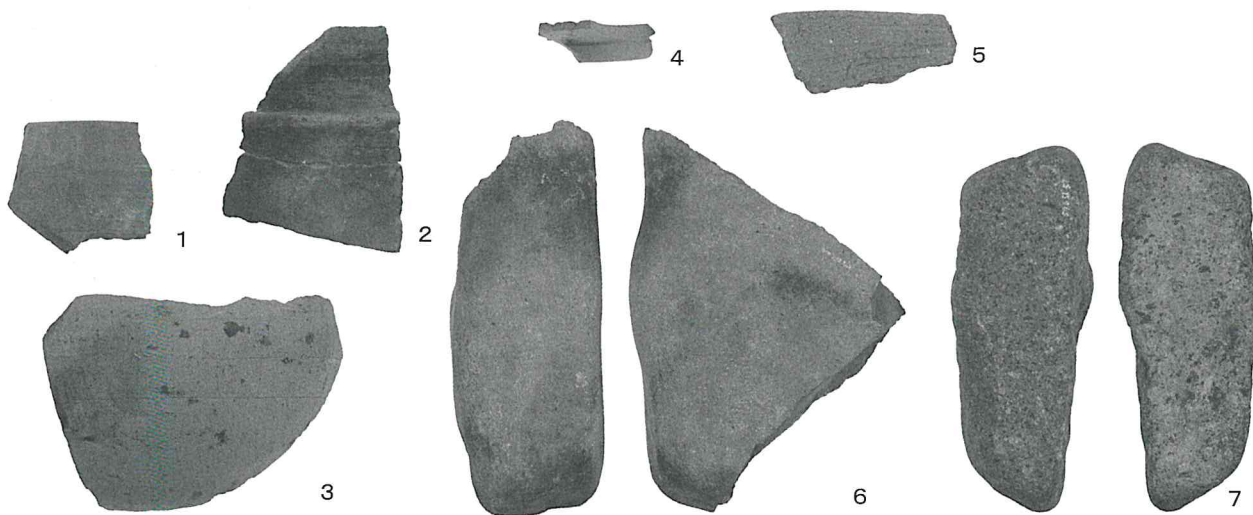
3号竖穴住居跡



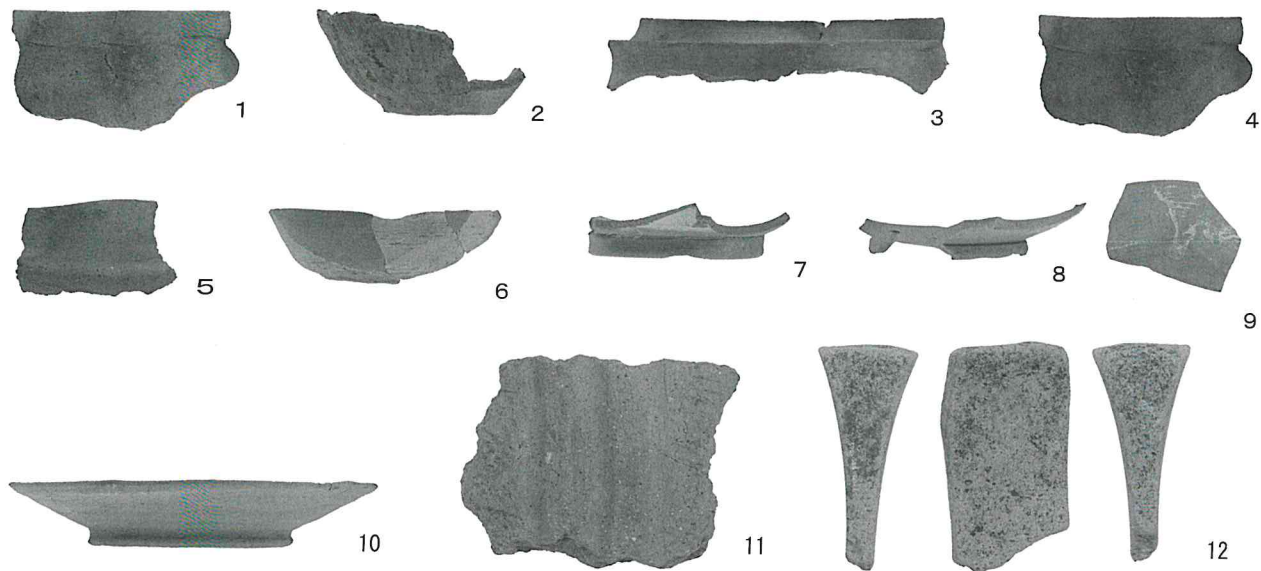
4号竪穴住居跡



5号竪穴住居跡



6号竪穴住居跡



7号竪穴住居跡



8号竪穴住居跡



1

9号竪穴住居跡



1



2



3



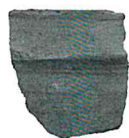
4



5



6



7



8



9



10



11

10号竪穴住居跡



1



2

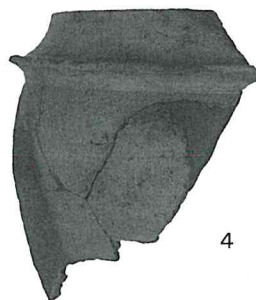
11号竪穴住居跡



1



2



4



5



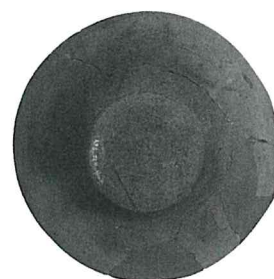
6



3



7



8



9

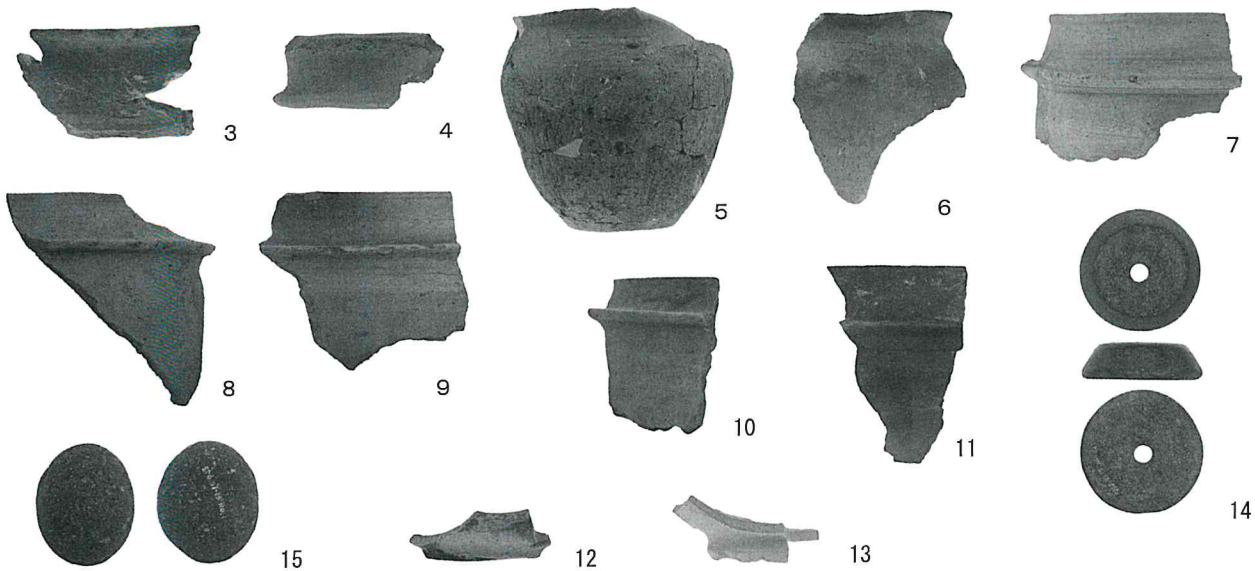
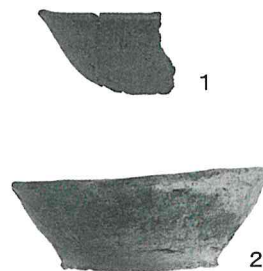
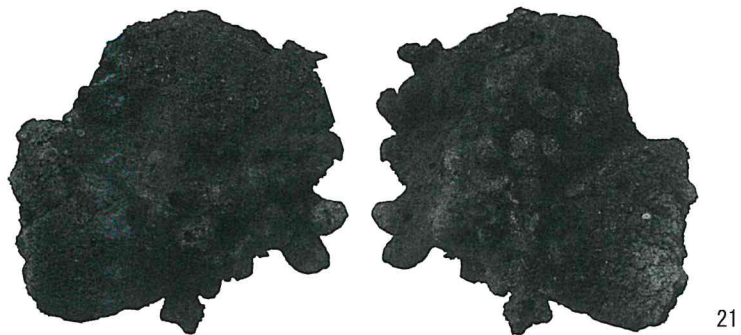


10

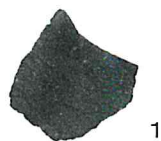
12号竪穴住居跡



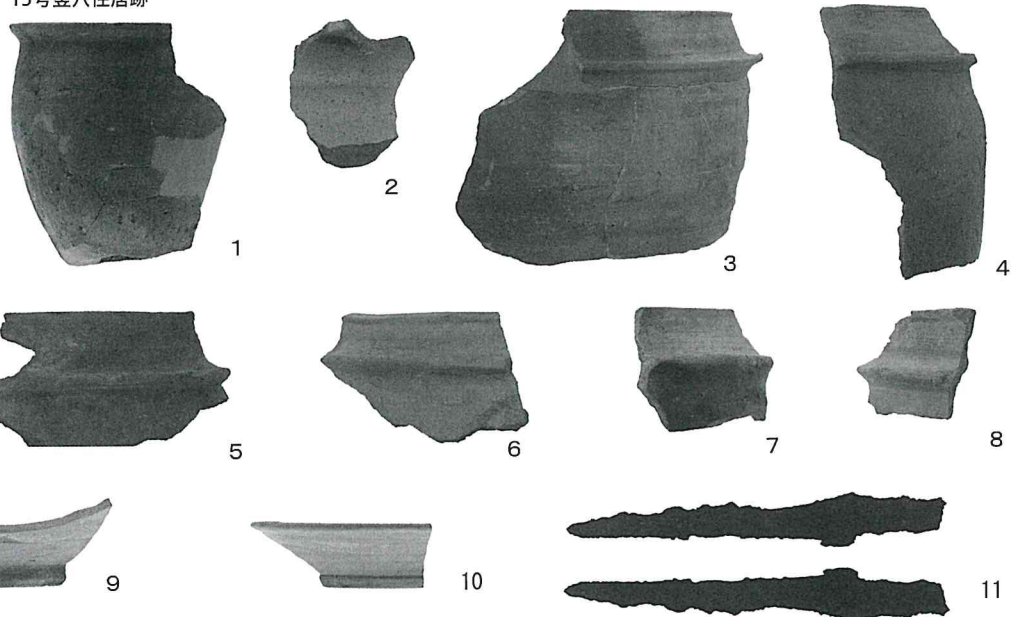
13号竖穴住居跡



14号竖穴住居跡



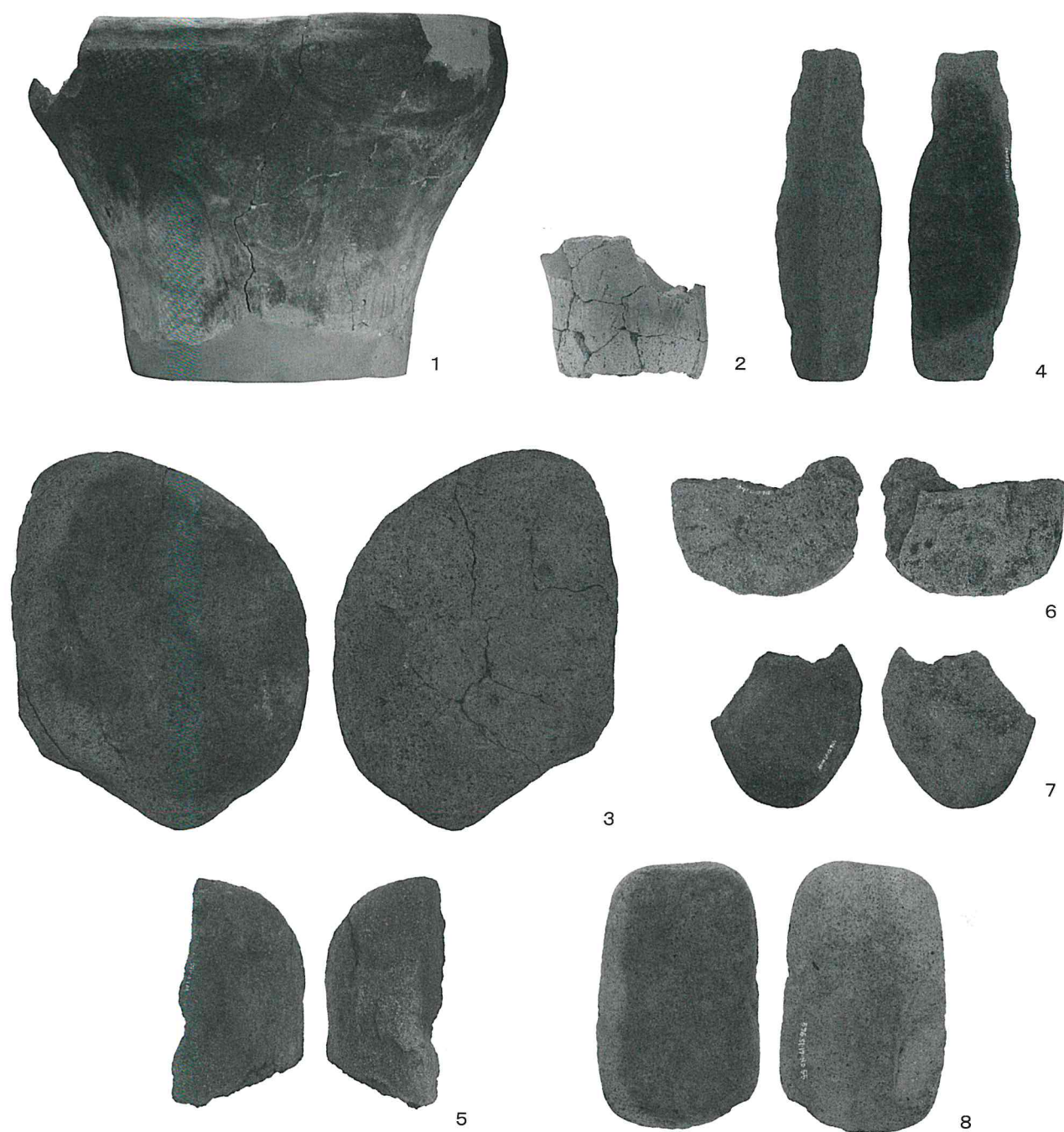
15号竖穴住居跡



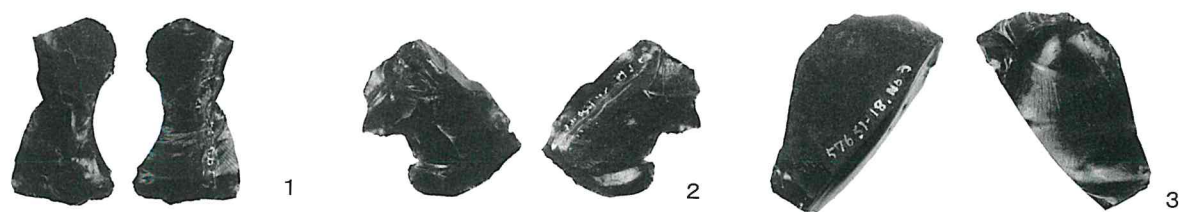
16号竖穴住居跡



17号竪穴住居跡



18号竪穴住居跡



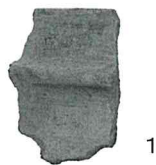
3号土坑跡



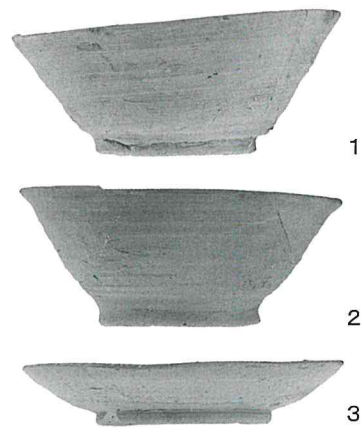
4号土坑跡



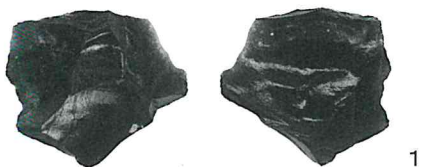
13号土坑跡



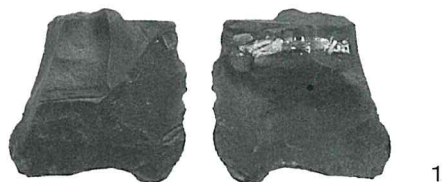
20号土坑跡



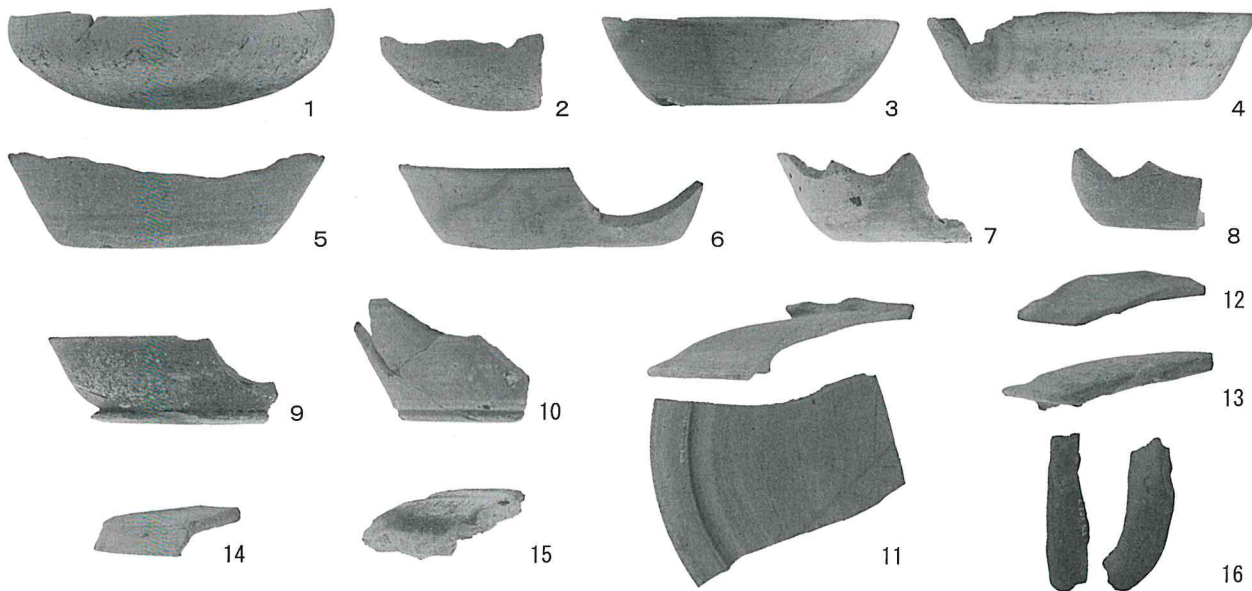
157号ビット跡



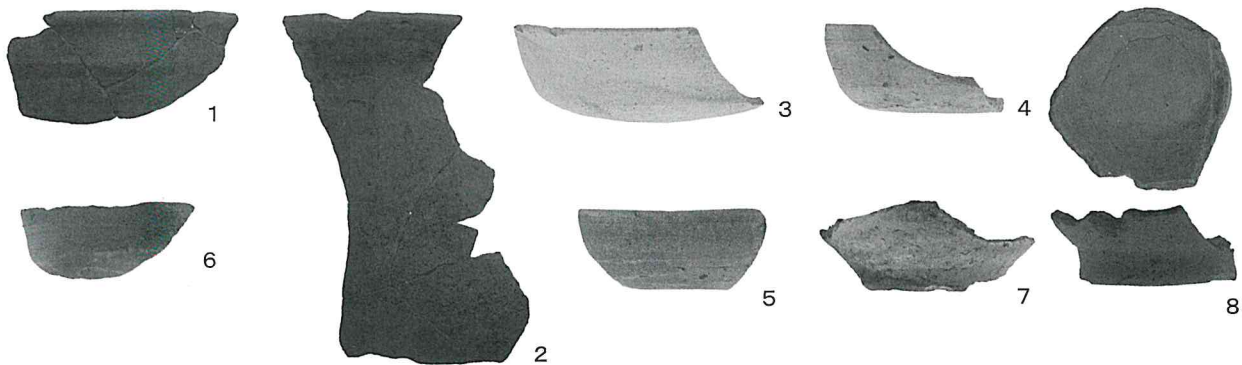
189号ビット跡

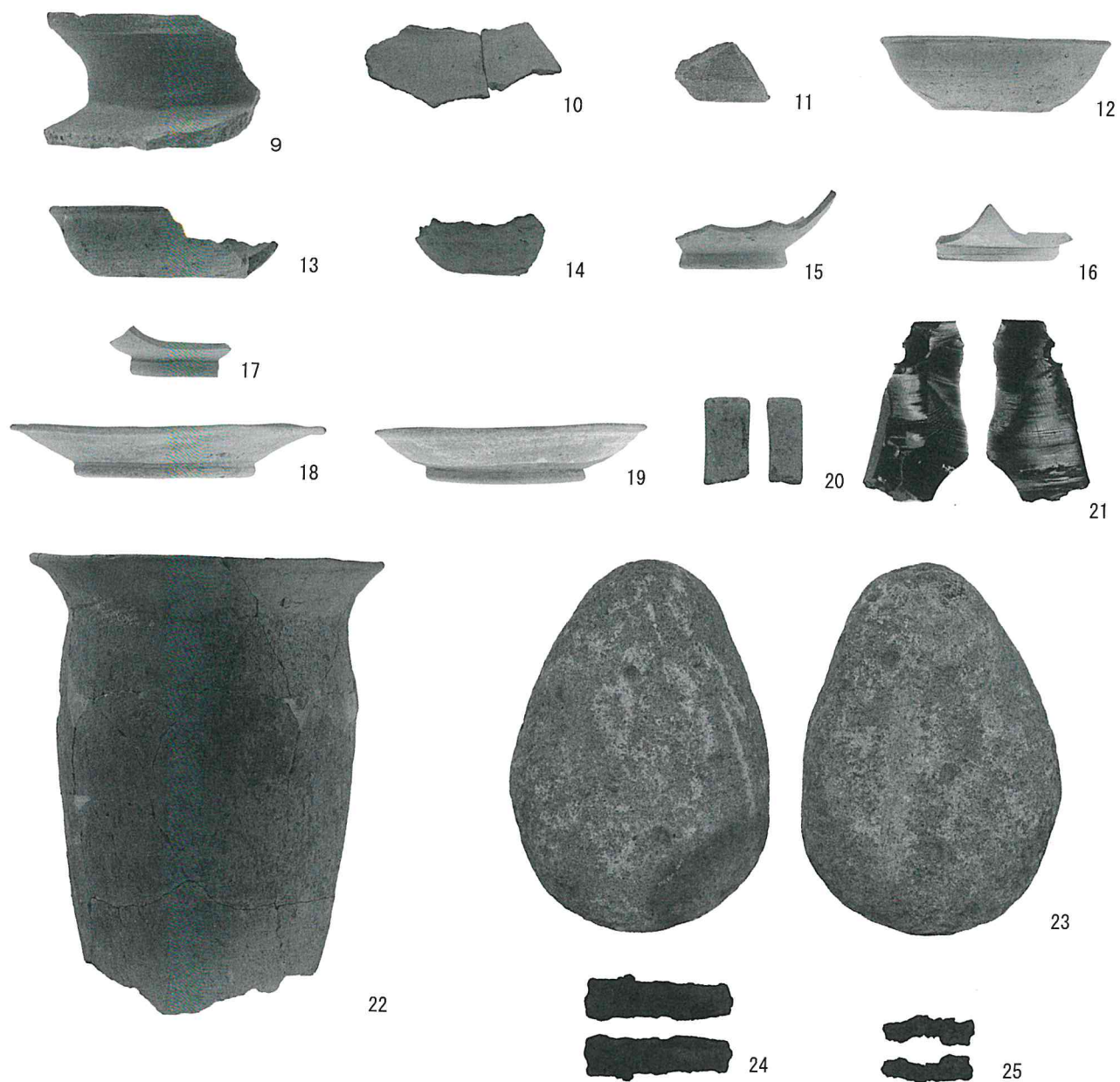


2号井戸跡

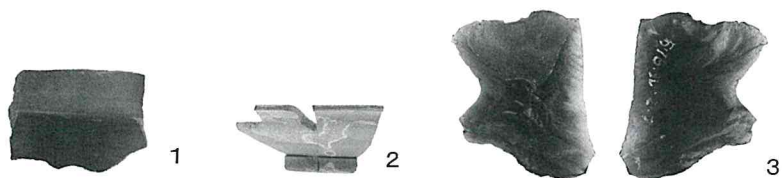


1号溝跡

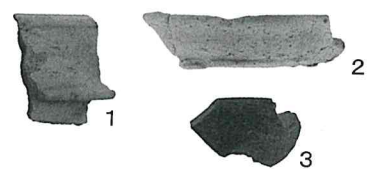




2号溝跡



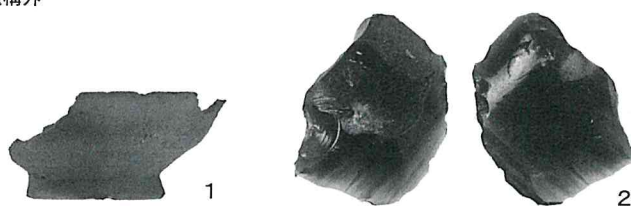
A-1グリッド



B-2グリッド



遺構外



報告書抄録

ふりがな	たかはまにつばいせき・うしろひきまもとやしきいせき・かみおおるいきただいせき・とみおかしくらいせき 2							
書名	高浜日輪遺跡・後疋間元屋敷遺跡・上大類北田遺跡・富岡下蔵遺跡 2							
副書名	学校施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第364集							
編著者名	山本 ジェームズ・神戸 聖語・飯塚 光生							
編集機関	高崎市教育委員会							
所在地	群馬県高崎市高松町35番地1							
発行年月日	平成28年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
たかはまにつばいせき 高浜日輪遺跡	ぐんまけんたかさきしたかはまにちにつば 群馬県高崎市高浜町日輪 2321-1	102024	568	36° 22' 08"	140° 44' 06"	2013. 07. 22 ～ 2013. 08. 29	200㎡	児童館 建設
うしろひきまもとやしきいせき 後疋間元屋敷遺跡	ぐんまけんたかさきうしろひきまにち 群馬県高崎市後疋間町184-1	102024	573	36° 23' 41"	139° 01' 01"	2013. 09. 12 ～ 2013. 10. 04	240㎡	プール 建設
かみおおるいきただいせき 上大類北田遺跡	ぐんまけんたかさきかみおおるにち 群馬県高崎市上大類町1372	102024	575	36° 20' 38"	139° 01' 45"	2013. 10. 01 ～ 2013. 11. 27	600㎡	体育館 建設
とみおかしくらいせき 富岡下蔵遺跡 2	ぐんまけんたかさきしみさとまちとみおか 群馬県高崎市箕郷町富岡281	102024	576	36° 23' 26"	138° 56' 54"	2013. 10. 08 ～ 2013. 12. 20	1, 300㎡	園舎 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
高浜日輪遺跡	集落	縄文時代	住居跡・土坑		前期土器・石器			
		奈良・平安時代	住居跡		土師器・須恵器			
後疋間元屋敷遺跡	集落	古墳～平安時代	住居跡 4 軒		土師器・須恵器・紡錘車 羽釜			
上大類北田遺跡	生産	平安時代	水田跡		土師器・須恵器			
富岡下蔵遺跡 2	集落	縄文時代	住居跡		加曾利E式土器			
		古墳～平安時代	住居跡・土坑・溝		土師器・須恵器・鉄製品		鍛冶遺構	

高崎市文化財調査報告書 第364集

高浜日輪遺跡・後疋間元屋敷遺跡
上大類北田遺跡・富岡下蔵遺跡 2

－学校施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

印刷・発行日 平成28年 3 月31日
編集・発行 高崎市教育委員会
群馬県高崎市高松町35番地 1

印刷 野島印刷株式会社